

二 満蒙政況関係

143

昭和4年1月(5)日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

付属地地方行政を満鉄から関東庁に移管させ
る同庁の活動に反対されたき旨要請

付記 一月十二日付

満鉄付属地地方行政の関東庁への移管問題の
可否について

奉天 発

本省 1月5日前着

第六号(極秘)

最近聞込ミニ依レハ関東庁ハ多年ノ懸案タル附属地地方行政ヲ満鉄ヨリ同庁ヘ移管セシムル為具体案ヲ中央ニ提出シ今回ハ山本社長モ異議ナキ筈故実現ノ好時機ナリトシテ折角努力中ナル趣ノ処事実トセハ本件ハ客年往電第七二三号ニモ関聯シ満蒙政策遂行上当方トシテハ絶対反対ナリ委細郵報スヘキモ外務省トシテ此ノ際強硬ニ反対セラレン事ヲ

希望ス

(付記)

(昭和4年1月12日)

満鉄附属地地方行政移管問題

関東庁へ移管ノ可否

(イ) 満鉄附属地地方行政ヲ満鉄ヨリ関東庁ニ移管スヘシトスル理由ヲ察スルニ満洲ニ於ケル帝国権力ノ分裂ヲ出来ルダケ統一セントスルコト、関東庁ヲシテ全満洲ニ対スル拓殖指導機関タラシメムトスルコト、関東州ト州外地域トノ間ニ行政ノ統一ヲ実現セシメムトスルコト等其ノ主ナルモノナルヘシ今此等ノ理由ヲ考察スルニ

(一) 満洲ノ所謂三頭至乃四頭政治ノ弊ヲ匡正スルノ見地ヨリセバ附属地地方行政ヲ関東庁ニ移管スルトモ唯附属地内ニ於ケル満鉄ト関東庁トノ合同ニ過キササルノミナラズ之ニ依リ附属地ノ内外ニ於ケル関東庁ト領事館

ノ対立ヲ大ナラシムベク何等数頭政治ノ弊ヲ匡正スルノ結果ヲ生セサルヘシ故ニ寧ロ附属地行政ヲ外務省ニ移管シテ領事官^(廳)ヲシテ之ニ当タラシメ更ニ附属地ノ警察権ヲモ外務省ニ移管スル方真ニ統一ノ実ヲ挙グル所以ナルヘシ

(二) 満洲拓殖指導ニ付テハ満洲ノ一隅タル関東州ニ位スル関東庁ヲシテ之ニ当ラシメ外務省側ト対立セシムルガ如キハ決シテ策ノ得タルモノニアラズ寧ロ奉天ヲ中心トシタル外務機関ヲシテ附属地ノ内外ヲ問ハズ満洲全般ニ着目シテ之ガ指導ヲ為サシムルヲ可トス

(三) 附属地ト関東州トノ行政統一ハ固ヨリ可ナルヘシト雖統一ノ必要アルハ寧ロ州外地域ニ於ケル附属地ノ内
外間ニ在リ從テ此レガ為ニハ附属地ノ行政ヲ外務機関ニ委シ関東州ト州外地域トノ関係ニ付テハ外務機関ト
関東庁トノ間ニ適宜聯絡セシムルヲ以テ足ルヘシ

(四) 加之對外関係ニ付テ見ルニ鉄道ノ附属タル地域ノ行政ヲ鉄道ト関係ナキ租借地官憲ヲシテ行ハシムルハ恰モ日本ガ附属地ノ性質ヲ無視シ租借地ト同一視シ此ノ地域ヲ根拠トシテ満洲ニ対シ帝國主義ヲ行ハントスル

モノナリトノ印象ヲ与フヘク他方附属地ナルモノノ存在ニ対スル反対ノ声ヲ強ムルノ結果ヲ生スヘシ外務機関ト雖鉄道ト関係ナキハ同様ナガラ外国ニ於ケル帝国権力ノ行使ヲ其ノ一任務トナスモノナルガ故ニ之ヲシテ附属地行政ニ当ラシムルトキハ前記ノ如キ印象ヲ与フルコト比較的少ナルヘシ

(ロ) 以上ノ如キ理由ニテ附属地行政ノ移管ハ寧ロ之ヲ外務機関ニ為スヲ可トスヘク何レニスルモ関東庁ニ移スコトハ甚ダ面白カラズト認メラル

(ハ) 移管ノ要否

然レトモ更ニ考慮ヲ要スルハ附属地ノ地方行政ヲ満鉄ヨリ関東庁又ハ外務機関ニ移管スルノ要アリヤ否ヤナリトス

(一) 附属地ノ地方行政ガ満鉄ニ属スルハ明治三十九年ノ三大臣命令書第五条ニ「其ノ社ハ政府ノ認可ヲ受ケ鉄道及附帯事業ノ用地内ニ於ケル土木、教育、衛生等ニ関シ必要ナル施設ヲ為スヘシ」トアルニ基クモノニシテ警察権ハ現在関東庁ニ属スルヲ以テ満鉄ニ属スル地方行政ト云フモ其ノ主ナルモノハ土木、教育、衛生等

新任東三省官銀号総弁魯繼清ハ奉票整理問題ニ関シ過般張學良ニ長文ノ東三省財政整理案ヲ建議セル由ナルカ右ニ依レハ現在東三省官銀号ヲ東三省總行トシ漸次現大洋制ニ改メ従前濫発シ来レル奉票八億元ヲ今後十年間ニ回収シ東三省ノ幣制ヲ奉天現大洋票、哈大洋ノ二種ニ限定セントスルモノニシテ既ニ米國鈔票公司ニ現大洋票三千万元ノ印刷ヲ注文シ最初約五百萬元ヲ発行スヘシト云ヘルモノナルカ右ニ関シ銀行家ノ語ル処ニ依レハ魯ノ整理案ハ南北妥協成立ヲ見越シ絶対兵禍ヲ見込マサル計画ニシテ杜撰極マルモノナリ現支那ノ実情ハ十年ハ愚カ三年モ平和ヲ夢ミルコト難

外務大臣男爵 田中 義一殿
奉票整理問題ニ関スル件
新任東三省官銀号総弁魯繼清ハ奉票整理問題ニ関シ過般張學良ニ長文ノ東三省財政整理案ヲ建議セル由ナルカ右ニ依レハ現在東三省官銀号ヲ東三省總行トシ漸次現大洋制ニ改メ従前濫発シ来レル奉票八億元ヲ今後十年間ニ回収シ東三省ノ幣制ヲ奉天現大洋票、哈大洋ノ二種ニ限定セントスルモノニシテ既ニ米國鈔票公司ニ現大洋票三千万元ノ印刷ヲ注文シ最初約五百萬元ヲ発行スヘシト云ヘルモノナルカ右ニ関シ銀行家ノ語ル処ニ依レハ魯ノ整理案ハ南北妥協成立ヲ見越シ絶対兵禍ヲ見込マサル計画ニシテ杜撰極マルモノナリ現支那ノ実情ハ十年ハ愚カ三年モ平和ヲ夢ミルコト難

公第六号
東三省官銀号総弁による奉天票整理案について
(1月14日接受)

昭和四年一月八日

在奉天

総領事 林 久治郎〔印〕

144
昭和4年1月8日
在奉天林總領事より
田中外務大臣宛

ノ施設ナリト云フベシ然ルニ滿鉄ハ元来單純ナル営利会社ニハアラズシテ実ニ滿洲拓殖經營ノ機關タルベキ重大ナル使命ヲ有スルモノナルカ故ニ滿鉄ガ其ノ收入ノ一部ヲ以テ滿洲拓殖事業ノ一部ト見ルベキ此等ノ施設ヲ実行スルコトハ滿鉄当然ノ使命ナリトモ云フベク附屬地ナルモノノ存スル所以モ亦実ニ会社ヲシテ此ノ種ノ施設ヲ為サシメ以テ地方ノ開發ヲ助長セシメムトスルニ在リト思考ス而シテ斯クノ如クシテ沿線ノ發達ヲ招来スルコトハ結局会社ノ利益ヲ増ス所以ナルコト言ヲ俟タズ

(二) 經費ノ点ニ付キテ見ルニ滿鉄ハ近年地方事業費トシテ年額千數百万円ヲ支出シツ、アリ(内主ナルモノハ医院費、学校費、地方補給費等ナリ)之ヨリ此等地方事業ノ收入年額四五百万円ヲ引クモ毎年千万円以上ヲ会社ノ他ノ收入ヨリ負担シツ、アル次第ナリ(例ヘバ昭和元年度地方事業支出一七、八〇七、六九〇円同收入五、二四〇、五二七円差額一二、五六七、一六三円)右ハ会社ニトリ相当ノ負担タルニハ相違ナキモ滿鉄ガ特殊ノ使命ヲ有スルコト前述ノ通りナルノミナラ

ズ其ノ會計ニ於テモ政府持株ニ対スル配当等ニ関シ特遇ヲ受ケ居ル次第ナルヲ以テ右經費ノ負担ハ不当ニアラズ然ルニ今附屬地地方行政ヲ他ノ機關ニ移管ストセバ仮令右經費ノ全額ヲ引継クモノニアラズトスルモ又滿鉄ヨリ多少ノ分担金ヲ納入ストスルモ移管ヲ受ケタル機關(關東庁又ハ外務省)ニトリテハ相當豫算ノ膨脹タルヲ免レズコハ移管ニ対スル實際上ノ困難ナルヘシ又仮リニ相當豫算ノ膨脹認メラレタリトスルモ國家豫算タル關係上滿鉄ノ行フガ如ク思フ存分ノ施設ヲ期待シ難カルヘシ

(三) 右ノ如キ經費ノ關係アル外滿鉄ノ如ク事業機關ニアラサル關東庁乃至外務省ガ此等行政ヲ引受ケタル場合果シテ滿鉄ノ如キ成績ヲ挙げ得ルヤ否ヤ疑問ナリト云ハサルベカラズ

以上ノ諸点ヲ考慮ニ入ル、トキハ特別重大ナル理由ナキ限り此ノ際強テ附屬地地方行政ヲ滿鉄ヨリ他ニ移管スルノ要ナキヤニ思考セラル

事ニシテ全ク兎戯ニ等シキモノナリ然モ現官銀号ノ準備金ハ約三百萬元見込ト見ラレ仮令五百萬元ヲ發行スルトシテモ總テ哈大洋同様ノ不換紙幣トナルコト想像ニ難カラサルヘク官銀号總弁カスノ如キ計画ヲ以テ奉票ヲ回収セントスルモ實際奉票ニハ何等ノ反響ナク現在官銀号カ奥地ニ於テ特産物買占メヲナシツアルヲ以テ来三月頃ニハ例年ノ如ク奉票ハ市場ニ掃出サルルヲ以テ奉票ノ前途ハ決シテ安定ノ地位ニ置カサルヘシ云々

右聞込ノ儘報告申進ス

本信写送付先 在支公使

145
昭和4年1月12日
藤岡(兵一)關東庁警察局長より
吉田外務次官他宛

七種差等税の導入に関する東三省側の態度について

関機高収第五八〇号ノ二
昭和四年一月十二日
(1月17日接受)

内閣 拓殖局長 殿
關東庁警察局長

内閣書記官長 殿
外務次官 殿
内務省警保局長 殿
警視總監 殿
大阪・兵庫・神奈川各府県長官 殿
北海道・長崎・静岡 殿
朝鮮總督府警務局長 殿
関東軍參謀長 殿
關東憲兵隊長 殿
關東州駐在軍武官 殿
各駐在事務官 殿
滿鐵情報課長 殿

新関税実施ト東三省ノ態度

支那側ニ於テハ新税率実施期タル本年二月一日迄テニハ日支協定成立セサル場合ト雖モ同日ヨリ一方の公布ニ依リ新税率ヲ實施セントスル意嚮ナルモノノ如ク既ニ大連、營口、安東等ノ税関ニ對シ本月四日新税率法ヲ送付シ来リ二月一日ヨリ新税率ノ實施断行ヲ命シ且ツ国民政府ハ新税率實施ニ関シ既ニ日本ヲ除ク諸外国トハ完全ナル諒解ヲ遂ケ居レハ若シ日本カ反對セハ無条約国ト看做シ日本ノ態度ヲ

顧慮スル事ナク断行スヘキ旨ヲ命令シ居レル処ヨリ營口商業會議所等ニ於テハ若シ實施期日内ニ日支協定成立セス一方的ニ之ヲ實施セラルル場合ニ於テハ喩ヘ之ヲ拒否シ得ルトハ云ヘ斯クテハ日本貨物ノ入国拒絶トナルハ当然ニシテ国家的大問題ヲ惹起スルニ至ルヘシ若シ現在實施中ノ二分五厘附加税ノ如ク安東、大連ヲ除外シ營口ノミ實施セラルルコトナレハ地方ノ繁榮上甚大ナル影響アリト目下之カ対策講究中ナリト云ヘルカ尚ホ日支商人等ニ於テハ新税實施ヲ考慮シ二月以降受渡取引ハ全然見合セ居レル狀況ニアリ

尚ホ奉天財政庁ニ於テハ二五附加税問題ニ関シ今般省長公署ニ對シ『東三省ハ二五附加税ヲ實施シテ以來既ニ二年ニ及ヒ各國ハ均シク之ヲ承認セルモ独リ日本ハ之ニ反對シ無道ナル抗議ヲ提出シテ応セス財政庁ノ歳入ニ影響スル処甚大ナリ我交渉当局ハ屢々折衝セルモ円満ナル解決ヲ見ス之カ唯一ノ対策ハ各県ニ對シ嚴重ナル訓令ヲ發シ管下各商民ニ對シ爾後二五附加税未納ノ日本品ハ絶対購入セシメス將來日本側カ附加税ヲ承認シタル上始メテ解禁セシムヘシ願クハ至急各県ニ訓令アリタシ』云々トノ申請ヲ為シタル趣

ヲ以テ省長翟文選ハ八日午后二時ヨリ財政厅长其他各關係首腦者ヲ招致シ密議ノ上各県ニ對シ日本品不買密令ヲ發シタリト云フ（一月十日附関機高収第五九五号参照）
東三省モ既ニ易幟ヲ断行シ事實上南方政府ニ隸屬セル關係上七種差等税實施期間切迫セル今日猶日支関税交渉停頓ノ狀態ニアル処ヨリ二五附加税問題ヲ理由トシ南北呼応シ日貨排斥不買同盟ヲ以テ抗争シ有利ニ問題ヲ解決セントスルモノノ如ク嚴重注意中

146 昭和4年1月13日 田中外務大臣より
在奉天林總領事宛（電報）

張學良に対する我が方針不變更を通告し併せて
吉会鉄道問題の解決慈惠方訓令

本省 1月13日後11時発

第七号

楊宇霆常陸槐銃殺事件ノ真因及影響等ハ未ダ必スシモ明瞭ナラズト雖兎ニ角本事件ガ東三省ノ政情ニ激動ヲ生ゼシメ

居ルハ疑ナク而シテ斯カル際ニ乗ジ南方勢力ガ東三省ニ圧迫ヲ加ヘ又ハ張學良ヨリ南方ニ接近セムト努メ遂ニハ南方

勢力ヲ一層東三省ニ侵入セシメテ益々人心ヲ動揺セシメ引テハ治安秩序ヲ脅カスカ如キコトナントモ限ラサルニ付テハ貴官ハ成ルベク速カニ張學良ニ面会シ帝國政府ガ張作霖死亡直後貴官ヲ通ジテ學良ニ表明セル同情的ノ態度及方針ハ今日ト雖毫モ變更ナキ旨ヲ告ゲ學良ニ於テモ右篤ト諒解ノ上固キ決心ヲ以テ此ノ難局ニ善処スル様充分激励シ置カレ度シ尚貴官トシテハ此機會ニ於テ更ニ吉会線問題ノ解決ヲ迫ルコト緊要ト考ヘラル、ニ付一方ニ於テ學良ニ支援ヲ約スルト同時ニ他方ニ於テハ適宜圧迫ヲモ加エ機宜ノ措置ヲ諺ラレサル様致度
上海ニ転電セリ 参考トシテ北京ニ転電アリ度シ

（欄外記入）

陸軍省軍務局長參謀本部第二部長へ写送付スミ（一月二十六日）

147 昭和4年1月14日 田中外務大臣より
在米国出淵大使宛（電報）

楊宇霆、常陸槐銃殺事件につき通報

第一七号

本省 1月14日後7時発

楊宇霆及常蔭槐（過般南北妥協迄黑龍江省長爾来同省政府首席）ハ一月十日夜奉天ニ於テ張學良ノ命ニ依リ銃殺セラレタル処支那側ノ我方ニ対スル説明ニ依レバ十日夜首脳者會議ノ席上楊及常ノ陰謀ニ関スル証拠曝露セラレ直ニ刑ニ処セラレタルモノナリト称スレトモ真相判明セス從テ種々ノ情報アリ大要左ノ如シ即チ從來張學良ト楊宇霆トハ表面極メテ親密ニ見エタルモ宇霆ハ學良ヲ輕蔑シ之ヲ言外ニ出スコトモ少カラス學良甚ダ快ヨカラザリシモ宇霆ノ勢力ハ各方面ニ扶殖シアリ之ヲ抑ヘ得ザリシノミナラズ却テ楊ハ内々學良ヲ陥レ自分一派ニ於テ之ニ代ラムトスル意思アリ最近ノ青天白日旗掲揚問題乃至ハ鐵道問題ニ対スル宇霆ノ言動ノ如キハ其ノ現レナリトモ伝ヘラレ、兩者ノ關係益々面白カラザリシ一方、楊派對張作相、張景惠等所謂旧派軍閥ノ内訌アリ殊ニ過般吉林ニ於ケル鐵道敷設反對運動發生當時作相ハ之ヲ以テ楊一派ノ學良及自分ヲ陥レントスル奸策ト睨ミ爾来反楊的旗幟一層露骨トナリタルヤノ感アリ、尙宇霆ハ兵工廠關係ニテ数千萬元ノ私腹ヲ肥シタリトモ称

ルモ軍民兩政ノ實質的變化及國家既定ノ對外取極ヲ破壊スル如キ南方派ノ干渉ハ之ヲ防止スル方針ヲ採リ今回ノ東北政務委員ニハ南方系中ノ穩健家タル方本仁及張學良ノ知合ナル何成濬ノ二名ノミ之ニ参加スルコトヲ承諾シ何成濬ハ病氣ノ為加ハラス結局南方ヨリハ一名参加ヲ見タル始末ナリ又地方党部ノ如キモ東三省人ノミニテ之ヲ組織スルヲ以テ南方勢力ノ侵入カ大局ヲ動カス如キ心配ハ全然無用ナリト称シ居タリ
右何等御参考迄

149 昭和4年1月16日

在奉天林總領事より
田中 外務大臣宛

楊宇霆、常蔭槐処刑に関する張學良の蒋介石宛電報訳文送付について
機密公第四五号
昭和四年一月十六日

在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

セラル、ガ更ニ最近學良ハ楊派ガ武力ヲ用意シ「クーデター」実行ノ疑アリトスラ感シ居タル模様ニテ要スルニ作相一派ノ旧派ト學良等トノ反楊意見一致シタル結果兩者計リテ宇霆一派ノ裏ヲ搔キタルモノノ如シ
英ニ転電シ英ヲシテ在歐各大使ニ暗送セシメ仏ヲシテ聯盟帝國事務局長及杉村公使ニ転報セシメラレタシ

148 昭和4年1月15日

在奉天林總領事より
田中 外務大臣宛（電報）

国民党勢力の東北地域への浸透程度に関する
張作相の談話について

奉天

発

本省 1月15日後着

第五六号

往電第五五号張作相トノ会见ニ於テ本官ハ東三省ニ於ケル国民党勢力ノ浸潤ニ関シ東三省ト直接間接ニ利害ノ關係密接ナル日本及日本人カ深甚ナル注意ヲ払ヒ居ルコトヲ告ケ之ニ対スル作相ノ意見ヲ徴シタル処作相ハ國旗問題ノ如キ形式ニ囚ハレ支那ノ統一阻礙ノ護リヲ受クルハ面白カラサ

外務大臣男爵 田中 義一殿

楊常処刑ニ関シ張學良ノ蒋介石ニ宛タル電報訳文
送付ノ件

張學良ハ楊宇霆常蔭槐二名ノ処刑ニ関シ蒋介石ニ宛テ左記訳文ノ通其諒解ヲ得ヘク發電セル趣ニシテ右電報文入手セルニ依リ右何等御参考迄ニ送付ス

左記

張學良ヨリ蒋介石宛發電訳文

楊宇霆、常蔭槐ハ自己勢力扶植ノ為ニハ國ヲ犠牲ニ供シテ憚ラス殊ニ最近半年以來跋扈甚タシク國ニ危険ヲ及ホスヘキ危急ニ瀕セルヲ以テ已ムナク事前ニ申請スル暇ナク断乎タル措置ニ出テタル次第御諒解乞フ

150 昭和4年1月18日

在奉天林總領事より
田中 外務大臣宛

楊宇霆、常蔭槐死刑に関する高等軍法會審判
決書訳報について

公第五四号

（1月23日接受）

昭和四年一月十八日

在奉天

総領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

楊、常死刑ニ関スル高等軍法会審判決書訳達ノ件

楊宇霆及常蔭槐ノ死刑ニ関シ東三省保安總司令部高等軍法会審判決書別紙ノ通り当地新聞ニ発表アリタルニ付別紙ノ通り茲ニ訳報ス

(別紙)

東三省保安總司令部高等軍法会審判決書

判決

被告人 楊宇霆、常蔭槐

事實

前東三省兵工廠督辦楊宇霆、前黑龍江省省長常蔭槐ハ身ニ重任ヲ受ケナカラ常ニ党ヲ結ヒ共ニ奸ヲ為シ政府顛覆ノ意図ヲ有シ公然命令ニ反抗シ操縦把持シ三省一切ノ政務之レカ牽制ヲ受ケ何等進行スル所ナシ民国十三年來屢次ノ戦禍ハ被告人等ヨリ慫慂伝弄セルニ因ル大元帥佳電ヲ以テ休戦

和平ヲ提倡シ通使往来シ南北協洽ノ場合ニ於テ被告人ハ陽ニ觀望シ陰ニ阻撓セリ近クハ遼東五県ノ返還ヲ肯セサルカ如キ又京奉車輛ニ付テモ張總司令ハ商議ノ上返還ヲ許セシモ只被告人等ハ中ニ在リテ無理ニ之レヲ返還セス其ノ意ハ奉軍ヲ再ヒ戦禍ニ入ラシメ全国ヲ擾乱シ内外人ヲシテ其痛苦ヲ受ケシメタルモノニシテ車輛ヲ廢置破壞セルハ公私ニ甚大ナル損失ヲ与ヘタリ更ニ遼東撤兵ハ時局ニ從ヒ人心ヲ安ニスルモノナルニ被告人等ハ之レニ異議ヲ持セリ又報告ニ依レハ被告人等ハ共產党首〇〇〇等ト結ヒ本年三月中ニ中央ニ代表大会ヲ開ラキ南北同時ニ發動センコトヲ企テ楊ハ奉軍ノ連絡及兵器補充ヲ担任シ常ハ黑龍江省軍ヲ擁シテ交通機關ノ收入ヲ抑留シ失意軍人ヲ利用セント務メ曾テハ独逸及「フランス」ノ其機關ニ巨額ノ金子ヲ送リタリ如此彼等ハ過去ニ於テハ戦禍釀成ノ魁ニシテ現在ニ於テハ和平破壞ノ首ナリ其ノ罪状ヲ論スルニ独リ我東北各省ヲ害スルノミナラス実ニ国家ニ及フ又該被告人等ハ兵工廠及交通事業ヲ個人ノ漁利ノ淵藪トナシテ其ノ收入ヲ省庫ニ送ラサルノミカ却テ省庫ニ對シテ巨額ヲ要求ス其金錢流用ニ就キテ証拠アルモノ已ニ現洋二億餘元ニ達セリ長官ノ許可ナキモ

刑事

新刑律第一〇一条 政府顛覆ノ意図ヲ有シ土地ヲ冒領シ及其他国憲ヲ紊乱シテ暴動ヲ起ス者ハ内乱罪トス左記ノ通り処断ス首魁ハ死刑或ハ無期徒刑トス修正陸軍刑事条例第二十七条第七項、外国人ト結托シ政府顛覆ノ意図ヲ有シ或ハ共產ヲ実施シ而シテ衆ヲ集メ公安ヲ擾害スル者ハ死刑ニ処ス

主 文

楊宇霆、常蔭槐ノ共產党魁ト結托シ及ヒ内乱ヲ謀リタル行為ハ応ニ各死刑ニ処スヘシ

臨時高等軍法会審

審判長	東三省保安總司令	張學良
審判官	吉林保安司令	張作相
審判官	東省特別区行政長官	張景惠
同	東三省保安總司令部軍事厅长	榮臻
同	東北陸軍步兵第一旅長	王以哲
軍法官	東三省保安總司令部軍法処長	顏文海
檢察官	奉天全省警務処長	高紀毅

二 滿蒙政況關係

ノ部署ノ取調ナキモノヲ全部私囊ニ納メ其ノ親屬ヲ任用シ政府モ其ノ操縦ニ歸セリ其ノ門下ニ出ツル者ヲ庇護シ私党ニアラサルモノハ之レヲ摧殘ス王永江ノ擯斥、郭松齡ノ激變ノ如キ近クハ金融ノ擾乱、戦事ノ延長ノ如キハ皆被告人等ニ於テ禍心ヲ包藏シテ然ラシメタルモノナリ以上被告人等ノ罪状ヲ綜合スルニ已ニ取調ノ上確實ナリ、乃チ本月十一日重要會議ヲ召集シ並ニ被告人等ノ列席ヲ求メ衆目ノ前ニ於テ狀ニ按シ取調質問セルニ該被告人等ハ已ニ首ヲ俯シ服罪セリ又被告人等ノ家宅ヲ搜查セルニ多数ノ武器彈藥ヲ藏シ居レリ乃チ臨時高等軍法会審ヲ組織シ法ニ依リ罪状ヲ宣告ス

理 由

前記ノ事實及偵査ニ依リ楊宇霆、常蔭槐ハ党派ノ暗結、内乱ノ企謀共產党ト勾結、国府ノ顛覆、和議ノ阻止、庶政ノ把握、公金横領瀆職ノ行為アルコト明カニシテ是等ノ各行為ハ新刑法第一〇一条第一項ノ内乱罪及修正陸軍刑事条例第二十七条第七項ノ叛乱罪ヲ構成シ餘罪ハ稍々輕キモ刑法總則死刑ヲ執行スルモノハ他刑ヲ執行セストノ規定ニ依リ其重科ヲ免シ茲ニ判決スルコト主文ノ如シ

中華民國十八年一月十一日

151 昭和4年1月19日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛

楊宇霆、常蔭槐銃殺事件に関する袁金鎧の録

田への内話要領について

機密公第五九号

(1月25日接受)

昭和四年一月十九日

在奉天

総領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

袁金鎧ノ楊、常銃殺事件ニ関スル談話要領報告ノ件
過般突発セル楊宇霆、常蔭槐銃殺事件ニ関シ当地支那政界ノ者宿袁金鎧ノ満鉄鎌田ニ内話セル要領左記ノ通りナル処
本件ハ本月十六日附公第四四号拙信報告孫傳芳談話ト对照
多少本件ノ真相ヲ知ル参考ト思料セラレ
右何等御参考迄報告ス

楊常射殺ニ関スル件

今夕午後五時楊宇霆、常蔭槐銃殺事件ニ関シ其真相ヲ確ム
ル為袁金鎧氏ヲ訪問シタルカ袁氏ハ曰ク

余ハ今朝漸ク事件ヲ耳ニシタノテアルカ陳憲兵司令ノ語
ル所ニ拠レハ昨夜十一時過キ打牌ヲヤルト云フテ右ノ両
者ヲ呼出シタ両者カ行クト間モナク學良ハ「モヒ」ノ注
射ヲスルト云フテ他ノ室ニ入ツタ其レト入違ヒニ苑副官
及馬弁カ数名楊常ノ部屋ニ闖入シ即座ニ之ヲ銃殺シタ後
二人ノ死骸ハ軍隊毛布ニ包ミ細引テ柵リ小西門外ニ在ル
姜登選ノ祠堂ノ所ニ運シタト云フコトアル。余ハ取敢
エス総司令部ニ馳付ケテ學良ニ面会シタ學良ハ余ニ對シ
此事件ニ對シテ君ハ何ト考エルカト問ハレタカラ自分ハ
事此ニ至ツテハ何トモ云フ言葉ヲ知ラナイ餘リニ遺方カ
辛辣テハナイカト言ツタ所カ學良ハ外ニ取ルヘキ手段カ
ナカツタカラテアルト答ヘタ、余ハ楊ニシテ若シ君ノ命
ニ服シナイナラ須ク免職シ若シ万一不都合カアリトスレ
ハ查辦ニ附シテモ差支ナイテハナイカト言ツタ所カ自分
カ如何ニ云ツテモ聞入レヌノミナラス彼ヲ免職スルトシ
テモ出来ナイ強イテ免職スル時ハ必ス反逆ヲ図ルニ違ナ

イト答ヘタ、余ハ此ニ於テ反逆ヲ図ル恐レカアルトスレ
ハ自分トシテハ別ニ云フコトハナイ、熟々想フニ楊宇霆
カ今日ノ如キ結果ヲ見ルニ至ツタノハ民国七年徐樹錚ト
謀シテ馮國璋カ買入レタ武器ヲ秦皇島ニ於テ奪取シタニ
基因スル、當時余ハ張作霖氏ノ秘書長テアツタ為ニ極力
之ヲ諫止シタカ楊ハ頑トシテ余ノ言ニ耳ヲ藉サヌノミナ
ラス遂ニ之ヲ決行スルニ至ツタ。果セルカナ第一次第二
次ト次カラ次ヘ内輪ノ戦争カ起ツタ要スルニ此等戦争ノ
種子ヲ播イタノハ其ノ武器ヲ手ニ入レタカラテアル、之
カ原因テ楊ハ暫ク作霖ニ遠サカツテ北京西山ニ流浪シタ
コトカアル、最近ニ至ツテ楊ノ計画テ兵工廠ヲ設立シ今
日迄約二億万円ノ資金ヲ投入シテ居ル之カ為ニ民力ハ
日々ニ疲弊シ戦争ハ年々絶エス彼等一味ハ之ニ依テ私腹
ヲ肥シタノテアル、大元帥爆死後學良ハ幾度モ兵工廠ノ
經費節減ヲ交渉シタカ楊ハ之ヲ承知シナイノミナラス
益々横暴ヲ極メタ、要スルニ今回ノ主因ハ楊力徒ラニ兵
工廠ヲ拡張シ故張作霖ヲシテ野心ヲ抱カシムルニ至ツタ
ノト他日彼カ羽翼成レル時ニ至リ戈ヲ逆ニスルコトハ明
瞭デアルト云フノニ學良カ氣付イテ断乎タル処置ヲ取ツ

タモノト信スル、歴史ヲ繙イテ見ルニ過渡時代ニハ權力
ヲ有スルモノカ慘禍ヲ蒙ムル事カ多イ自分等如キ文治派
ハソナナ時ニハ去就カ極メテ簡單且容易デアリ「合則留
不合則去」ト云ツタ様ナ事テ済ムカ權力ヲ有スル者ハ動
モスレハ野心ニ驅ラレテ事件ヲ惹起スル事実ニ乏シカラ
ヌカラテアル、本日孫傳芳、張景惠、張作相、湯玉麟、
沈鴻烈、劉尙清等ト善後処置ヲ協議シタカ兎モ角今夜中
ニ通電ヲ發シテ銃殺ノ原因ヲ瞭カニスルコトニシタ主ナ
ル理由ハ「再ヒ軍事行動ヲ起サヌコトトシ実業ノ發達ヲ
図ツテ東三省ヲ安定シ人民ヲシテ各業ニ樂マシメ様トス
ルニ對シ事々ニ之カ破壊ヲ企テ兵工廠ト鐵道トヲ以テ私
腹ヲ肥ヤス根本トシ收入ヲ省庫ニ納入セヌノミカ巨款ヲ
強要シ私党外ノモノハ之ヲ排除セネハ止マナイ、王永江
ノ擯斥、郭松齡ノ叛乱、金融ノ擾乱、戦争ノ延宕等皆彼
等ノ罪デアルカ近ク更ニ徒党ヲ結ヒ擾乱ヲ萌サントシテ
居ル」ト云フニ在ル。連年ノ戦争ニ就テ今日迄怨府トナ
ツテ居タノハ楊宇霆ト王永江ノ二人デアツタ、王ハ財政
的ニハ手腕カアツタカ人民トシテハ王カ軍費ヲ貢イタト
云フ事ニ依テ非常ニ不満ヲ抱キ王ニ對シテ萬民怨(王岷

道問題ニ就キ協議シタク恰モ常蔭槐モ来合セ居ルニ依リ至急總司令部ニ參集セラレタシトノ通知ヲナシタル為メ楊宇霆ハ何等意ニ介スル様子モ見ヘス單身總司令部ニ出頭シ夜深ニ及フモ帰宅セス十一日午前二時頃ニ至リ私服軍警ハ楊宇霆ノ居宅ヲ包囲シ続テ其ノ前門ヲ扼シ外部トノ交通ヲ遮断セルニ依リ家人等モ始メテ宇霆ノ身辺ニ危害ノ加ハレルコトヲ豫感シ現ニ宇霆ノ關係者等ニシテ十一日早朝楊宇霆ヲ訪問セルモノハ前門附近ニ至リ軍警ノ警戒ヲ見テ其場ヨリ脱回セルモノモアリシ趣ナリ

右ハ楊宇霆側ヨリノ情報ニシテ常蔭槐側ノ情勢ハ未タ之ヲ聞知セルモノモナキ処他總司令部側ノ情報ヲ綜合スルニ張學良ハ楊宇霆、常蔭槐ノ兩名ヲ總司令部ニ招致シ總司令部階下大応接室ニ於テ会見中張學良ハ注射ヲ行フト称シ室内ヲ出テ其居室ニ還リタル後學良附ノ范副官ハ馬辦數名ヲ率ヒテ楊常兩名坐席ノ応接室ニ闖入シ即時兩名ヲ捕ヘテ頭部ヨリ拳銃ヲ擬シテ之ヲ射殺シ其屍体ハ毛布包トシテ最初之ヲ小南門外ニ搬出シ翌十一日午前中楊宇霆、常蔭槐兩名ノ家人ニ對シ死体受領ヲ通知シタルモノナリト云フ

叙上總司令部側ノ消息ニ依レハ楊常兩名ノ總司令部ニ出頭セルハ十日午後十一時ニシテ楊宇霆家人側消息ノ張學良カ楊宇霆ヲ招致セルハ十日午後七時トアリ其間不突合ノ点アリ楊宇霆側ノ消息ハ其家人ノ所言ニ拠リ甚シキ間違ナキモノト認メラレ又其他ノ方面ヨリノ情報ヲ綜合スルニ總司令部側消息ハ甚シク前後ノ事情ヲ紛飾セルモノ多キモノアリ旁其辺ヲ強ヒテ確カメ居ラサル次第ナルカ正式発表ニハ楊常ノ射殺ハ十一日午前二時ナリト称シ射殺時刻ノ實際ハ今猶ホ疑問ナリ

楊常ノ処分ハ張學良ノ独断專行トシテハ本人平素性向ヨリ見テ甚シキ疑問アリ張作相、孫傳芳等ハ自ラ事件後始メテ聞知セルコトヲ吹聴シ居ルモ当夜總司令部内ニハ張作相、張景惠、湯玉麟、孫傳芳、沈鴻烈及翟文選、劉尙清ノ七名參集シ居タル消息アリ内孫傳芳、沈鴻烈、翟文選、劉尙清等ノ参加ニハ異説アルモ張作相、張景惠、湯玉麟三名ノ參集シ居タルハ諸般ノ情報共ニ一致シ其事實ハ疑ヲ存セス又孫傳芳ハ其閑職ニ在ルニ拘ラス事件後ノ十一日總司令部ニ在リテ清野、町野、江藤等ニ對シ親ク進ミテ日支親善論ヲ唱ヘテ外客ニ応接セシ事情ヨリ見テ

源）ト言フ綽名迄附スルニ至ツタ、自分ハ曾テ王永江ヲ推薦シタ關係カラ其一味ニ數ヘラレテ甚迷惑ヲ蒙ツタ事カアツタ、幸ニシテ王ハ大元帥ニ勸告シ容レラレス故山ニ起臥スルニ至ツタ為始メテ人民モ之ノ真意ヲ知り名譽ノ回復カ出来タ次第テアル

常蔭槐ニ至ツテハ其態度傲慢不遜各方面ト意志ノ疎通ヲ缺キ且徒ラニ私党ヲ集メ各鐵道ヲ斷斷シ其收入ハ悉ク之ヲ押ヘ總司令ニ對シテ一文モ交附セナカツタ而已ナラス諸種ノ事件ニ對シ總司令ノ命令ニ服從シナイ嫌カアツタ之カ為ニ楊ヲ倒ス上ニ於テ唯一ノ乾兒タル彼ヲ生カシ置クコトハ却テ禍根ヲ残スモノテアルカラ同時ニ之ヲ銃殺シタノテアル

其他兵工廠關係ノ者ニテ前材料処長張宣同會辦翁之麟京奉鐵路局長顧振等ハ警察庁ノ手ニテ逮捕シ查辦ニ附スルコトニナツテキル之カ為兵工廠内モ多少動揺シテキルケレトモ事件ヲ醸ストハ信セラレヌ將來學良ニシテ真面目ニ政治ヲ執リ東三省ノ人民ヲシテ各其業ニ樂マシムルコトヲ得ハ今日銃殺サレタ楊、常ノ二人ニ對シ言ヒ詆力立ツ次第テアル云々

152 昭和4年1月24日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛

楊宇霆、常蔭槐処分ノ顛末とその影響に關する報告
(1月29日接受)

機密公第八六号
昭和四年一月二十四日 在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿
楊、常処分ノ顛末ト其ノ影響

本件ニ關シテハ其都度電報及公信ヲ以テ断片的ニ報告シ置キタル処其前後ノ事情及影響等一括別紙ノ通藤村副領事ヲシテ取調ヘシメタルニ依リ右御査閱ヲ請フ

(別紙)

楊宇霆及常蔭槐ノ処刑顛末ト其影響
(藤村副領事調)

一、楊常処刑前後ノ事情
張學良ハ一月十日午後七時頃電話ヲ以テ楊宇霆ニ對シ鉄

全然局外者ナリトハ首肯シ得サル処ナリ
一、楊宇霆、常蔭槐等処刑ノ理由

張學良ハ一月十一日楊常兩名ハ私心ヲ包蔵シ朋党ヲ結ヒ一切ノ政務ヲ制肘セリトシテ張作霖和平提唱ノ佳電、瀋州以東五県ノ撤兵、車輛ノ返還等ニ反対セル事例ヲ挙ケ又王永江ノ排斥郭松齡背反、金融紊亂及兵工廠ノ独占、交通機關ノ壟斷等皆ナ兩人ノ釀成セルモノナリト国民政府其他各方面ニ通電シ居ル処右通電ニ拳ケタル罪跡ハ孰レモ抽象的ノモノニシテ何等事實ヲ指摘セルモノアルヲ見ス又仮令兩人ニ其列挙事項ニ反対ノ言動アリタリトスルモ其ノ收捨ハ張作霖及張學良等ノ責任ニシテ彼等兩名ノ責任ノミニ帰ス可キモノニアラサル可ク從テ之ヲ以テ直チニ今回処刑ノ直接原因トナスハ聊カ失当タルヲ免レヌ又本月十五日当地新聞ニ發表セル一月十一日附楊常兩名処刑ノ判決書ニハ前頭通電ノ意味ニ加ヘ共產党首魁某(本官ヘノ談話ニハ汪精衛ト指示セリ)ト勾結シ本年三月ノ中央代表大会ヲ期シ南北發動シ楊宇霆ハ奉軍ノ連絡、兵器ノ補充ヲ担任シ常蔭槐ハ黑龍江省軍ヲ收攬シ交通部ノ資金ヲ融通シ又失意ノ軍人ヲ利用シ独乙、仏蘭西

數ニ達シ居タルカ張作霖死亡シ張學良ノ新ニ東三省保安總司令ニ就任スルヤ其就任ハ東三省ノ軍民兩政ノ首腦者カ永年張作霖ノ恩顧ヲ受ケタルモノノミナルト共ニ国民党ノ圧迫ニ対スル恐怖心ヨリ衆望一致ノ輿論ニ從ヒタルモノナリト雖モ張學良ハ僅ニ二十八才ノ青年ニ過キス天稟ノ俊敏聰明ナキニシモ非サレ共素養ト經驗ニ欠ケ阿片中毒ニ因ル半病体ノ人物ニシテ到底東三省ノ軍民兩政ヲ綜攬スルハ勿論多數軍隊ノ指揮統御ヲナシ得ル実力ヲ備フルモノニ非ス往年張作霖ノ保有セル実力ハ自然ニ分散スルハ到底免レサル情態ニ陥レリ而シテ張學良ハ其施政ニ於テ楊宇霆トノ從來ノ關係ニ藉リ公私共ニ其助言ヲ求メ昨年七月黑龍江省長ノ更迭ニ際シ張學良ハ最初劉哲ヲ之ニ推挙ノ豫定ナリシニ楊宇霆ハ常蔭槐ノ人物ヲ推奨シテ遂ニ常蔭槐ノ任命ヲ見タルカ如キ事実アリ常蔭槐ハ就任以來同省ノ警備隊三十營約二万ニ達スル軍隊ヲ其經費カ省政府ノ支出ニ係ルヲ口実トシテ自ラ其指揮權ヲ掌握シテ同省ノ軍政長官タル萬福麟ノ干涉ヲ排シ又東三省交通委員會副委員長トシテ京奉、奉海、四洮、洮昂等ノ各鐵道及電信電話、電燈等交通通信機關ヲ監督ノ名義ニ依

等ニ巨額ノ資金ヲ送付セル等和平破壞ノ陰謀ヲ企テ居ル報告アリ被告兩名亦其事實ヲ認メ服罪セル旨ヲ記載シ居ル処是亦極メテ莫然タル抽象的モノナリ又前記軍法會議開催ノ事實カ全然虚構ノモノナルコトハ兩名射殺當時ノ情況ヨリ見テ全然疑ナキ処ニシテ恐ラクハ其暗殺ノ事實ヲ掩ヒ国民政府ノ正式任命ニ係ル黑龍江省政府主席タル常蔭槐ハ勿論国民党一部ニ同情者ヲ有スル楊宇霆等ヲ正当ナル手續ニ依リ処分セサリシ責任回避ノ方便トシテ事後ニ作成セルモノト認メラレ該通電及判決書ナルモノノ内容ハ直接今回ノ処刑ノ理由トシテハ極メテ薄弱ナルモノニシテ之ヲ張學良ノ性向ト同人カ是迄ノ對楊宇霆等ノ關係等ニ徴スル時ハ其処分ノ真因カ他ニ存スルハ想像ニ難カラス張作霖ハ其生前楊宇霆ノ才智ヲ採リ之ヲ總參議ニ任シ且ツ兵工廠督辦トシテ之ヲ重用シ直接軍權ヲ附与セサリシモ張學良ノ第三四方面軍ニ對シテハ張學良ヲ補佐シ其指揮參劃ニ当ラシメ居タルヲ以テ東三省ノ軍民兩政共ニ殆ント楊宇霆ノ關係セサルモノナカリシヲ以テ一面其專權ヲ怨ミ之ヲ疾視スルモノノ勢ヲサリシモ亦他面其鼻息ヲ窺ヒ之ニ迎合シ或ハ權勢ヲ恣ニセルモノ頗ル多

リテ各機關ニ其部下ヲ配置シ最近ニ於テハ一般郵政ニモ其ノ監督權ノ伸張ヲ企テタル等其実力ノ極メテ強大ナルモノアリ既電報告ノ張學良カ本官ニ對スル談話中學良ハ曾テ黑龍江省ノ軍權ヲ楊宇霆ニ委シ同人ト常蔭槐ト共ニ同省ノ軍民兩政權ヲ掌握スヘキヲ說キタルニ拘ラス宇霆ハ全然斯ル希望ナシト云ヒ之ヲ辞退セルコトアリト云ヒシカ如キ學良カ如何ニ楊宇霆ヲ憚リ又常蔭槐等ノ黑龍江省ニ於ケル專斷ノ多カリシヲ窺知スルニ足ルモノアリ尚ホ奉天兵工廠ハ張學良側ノ聲明ニ依レハ既ニ二億餘円ノ資金ヲ投シ居レリト稱ス勿論其資金ハ一般設備ト既製武器ニ流入セルモノ大部分ナルヘキモ兎ニ角東三省唯一ノ武器火藥ノ供給場ニシテ同廠ノ幹部ハ全部楊宇霆ノ親近者等ノ一派ヲ以テ之ヲ占メ殆ト楊宇霆ノ私有財産ニ等シキ觀ヲ呈シタルモノニシテ學良執權後ト雖モ一指ヲ染メ得サリシモノナリ前頭ノ如ク楊宇霆ハ張作霖在世中ニ布殖セル勢力ハ張學良ノ執權後ニ於テモ何等失墜セルモノナキノミナラス其推挙ニ係ル常蔭槐トノ結合ノ実勢力ハ張作霖ノ死亡ニ依リ分散ノ傾向ヲ迎レル東三省ノ軍民兩政界ニ一頭地ヲ拔

クノ觀アリス。楊宇霆ハ表面單ニ兵工廠ノ督辦ノ地位ヲ孤守シ乍ラ其羽翼ヲ張り各方面ニ実力ヲ把持スル一方ニハ張學良執職後ノ東三省重要政務ノ諮議機關タル保安委員等責任ノ地位ニハ殊更ニ其参加ヲ避ケ今次政治機關ノ改組ニモ其委員タルヲ断リタル消息アリ世人此間ノ消息ヲ以テ張學良ノ下風ニ立ツヲ快トセス親ヲ其監督者タル權威ヲ保ツモノト評シ又學良ノ失政ニ責任ヲ分タス親ラ之ニ代ル用意ナリト断定セルハ必シモ酷評ニ非サリシカ如シ

事情叙上ノ通ニシテ張作霖在世中ヨリ常ニ意見衝突感情ノ齟齬アリタル張作相、張景惠、湯玉麟等ノ軍閥及袁金鎧等文治派カ楊宇霆及其一派ノ跋扈ニ不滿ヲ増長セルハ自然ノ成行ナリシモ張學良本人カ急ニ楊宇霆及其一派ヲ压伏スル実力ト決心ヲ缺キタル嫌アリテ荏苒時ヲ經過セルハ事件前迄ノ一般趨勢ニシテ張學良カ楊宇霆及其一派ヲ倒ササレハ張學良ハ楊宇霆ノ傀儡トシテ僅カニ其虚位ヲ擁スルニ甘スル乎其地位ヲ楊宇霆ニ奪ハル乎ノ帰宿ヲ見サレハ止マサル形勢ヲ辿リ居タルナリ

東三省ニ於テハ日本ノ權益擁護ニ正当ノ理解ヲ有セサレ

以テ自分ヨリ張學良ヲ指導シテ漸次解決セシムル様取計フヘシト称シ又国民政府ニ対シテハ反問苦肉ノ策ヲ用ヒ邢士廉ヲ通シ張學良ハ日本ノ傀儡ト誣ヒ盛ニ自己推薦ノ好辭ヲ弄セシメ居タル嫌アリテ這般ノ消息ヲ探リシ張學良ハ王樹翰ヲ派シ邢士廉ノ言動ヲ監視セシメ居タリトノ説スラアリ楊宇霆及其一派カ対内対外ノ情勢ニ応シ常ニ張學良ニ不利ナル言動ヲ採リタルハ隠レナキ事実ナリ斯クテ張學良カ東三省ノ内政ニ於テ楊宇霆一派ノ制肘ヲ受ケ日本關係ニ於テハ鐵道問題ノ不進行ニ依ル疑惑ヲ招キ国民政府ニ於テモ不利ノ立場ニ陥リ居ルコトヲ自覺シ昨年十二月前後ニ至リ漸ク煩悶ヲ始メタルカ如ク陶尙銘、安祥ノ拘禁ニ其端ヲ見タリ陶安事件ハ當時夫レ夫レ詳報セル如ク我援揚、排楊兩派ノ策動ニ発端シ居ル心証ヲ得タルカ果シテ此回陶安兩人ノ釈放ニ依リ兩人共未タ一度モ訊問ヲ受ケタルコトナク拘禁中極メテ優待セラレ居タルコト及楊常問題ノ解決ト共ニ直ニ兩名ヲ釈放シ兩人共ニ従前ノ如ク地位ノ安全ヲ得居ルニ見テ張學良カ楊宇霆及其一派ノ策動ニ依ル中傷ニ応酬スル為メ不本意ナル措置ヲ採リタルヲ証スルヲ得ヘク又昨年末床次氏ハ当

ハ為政者カ其位置ヲ支持スルコト困難ナルハ其局ニ当ルモノノ均シク認識スル処ニシテ楊宇霆ハ素ヨリ張學良ト雖モ或程度ニ之ヲ承知シ居ル等ナル処南方国民政府ノ基礎モ亦漸次其ノ緒ニ就キ南方政府ヲ支配セル國權回復熱モ支那思潮ノ大勢ニシテ殊ニ東三省青年及各法團間ニ侵潤シ居ルハ見逸スヘカラサル事実ニシテ此実情ト思想上ノ矛盾ハ昨秋ヨリ漸次東三省ノ政界ニ反影シ張學良カ日本側ノ諒解ヲ得ント欲セハ楊宇霆一派ハ国民党側ノ國權回復熱ニ藉リテ之ヲ制肘セント欲シタル嫌アリ昨年八月林大使來奉ノ砌リ正閏ノ大義ヨリ張學良ヲ推重シ楊宇霆ニ対シテハ一顧ヲモ与ヘサルノ態度ヲ採リタルハ張學良ニ対シテハ非常ナル強味ヲ加ヘタルモノノ如ク今回楊宇霆等処決後本官カ張學良ニ会见セル際日本ノ張學良ニ対スル態度不変ヲ説キ林男爵ノ昨夏ノ態度ヲ想起セサルヤヲ反問セル場合學良ハ今更ノ如ク林男爵ノ高見ニ敬服セリト云ヒ非常ニ感慨無量ノ情アリシニ徴シ得ルト共ニ楊宇霆カ當時ヨリ失望ニ沈ミ陰ニ常蔭槐等ヲ通シ滿鉄交渉中ノ鐵道問題ニ反対ノ態度ヲ採ラシメ他面日本人側ニ対シテハ鐵道問題解決ノ遷延ハ張學良ニ決心ナキニ因ルヲ

地ニ來遊セル場合同氏カ張學良ノ会見席上ニ殊更楊宇霆ノ同席ヲ希望シテ其会见談ノ初頭ニ張學良ニ対シ楊宇霆重用ヲ説キ楊宇霆モ亦特ニ床次氏等ニ対シ茶会ヲ開キテ長時間ノ会谈接待ヲナシタルハ楊宇霆ヲシテ日本ノ自己ニ依頼スルノ多キヲ直接間接ニ感知セシメタルコト鮮少ナラスト共ニ張學良ヲシテ甚シク不安ヲ醸サシメタルモノ多大ナリシヲ想察シ得ヘク之ニ前後シ張學良對国民政府ノ接近ハ著シク進歩シ国民政府ハ頭初熱河省政府主席湯玉麟ニ極力反対シ当地官辺ニ於テモ其實現困難ヲ知り他ニ之ヲ替ユルノ覚悟ヲモ有シタルニ国民政府側之ヲ讓歩シ急転直下妥協ノ進歩ヲ見タルモノハ張學良側力之ニ依リテ蔣介石側トノ接近ヲ図リテ楊宇霆ノ策動ヲ制スルニ急ニシテ国民政府側亦編遣會議ノ進行等全國統一ノ名ヲ得ルニ銳意セル結果ト認メラル鐵道問題ニ関シ張學良客夏以來ノ態度ハ既報ノ如ク必シモ実行ノ誠意アルモノトハ認メラレサルモ兎モ角既ニ保安委員會ヲ通過シ聯省議會ニ回付スル迄トナリタル処常蔭槐ハ本官ニ対シ黑龍江側議員ハ既ニ同人ヨリ之ヲ疎通シ其通過ヲ保障シ得ルモ當時ノ形勢ヨリ見テ吉林及奉天側ニ反対アリ聯省議會

ノ通過ハ逆睹シ難シト稱シ居タルニ拘ラス昨年十二月二十四日ノ聯省議會ニハ黑龍江省議員全部ノ缺席アリ本件ニ関スル楊宇霆、常蔭槐等ノ表裏制肘ノ多カリシハ窺知ニ難カラス要スルニ昨夏来ノ鐵道交渉力不幸ニシテ張學良、楊宇霆及張作相等相互間ノ勢力争ノ具トナリタル次第ニテ更ニ年末易幟當時ヨリ楊ノ態度漸次鋒銳ヲ現シ本月初六日學良ニ対シ鐵道問題ノ急速實現ヲ縷説セルハ後者ヲシテ頗ル危険ヲ感セシメタル嫌アリ加之本日七日楊宇霆兩親ノ寿宴ニハ曾テ張作霖全盛時代ニモ稀ニ見サル東三省各界有力者ノ鄭重ナル贈物アリテ同邸ニ参集セルモノ殆ト各界ノ人才ヲ網羅シ隠然タル其大勢力ヲ想見セシメ親ク其ニ列シタル張學良一派ヲシテ其身辺ノ寂莫ヲ感シ益々以テ楊宇霆一派ト兩立シ得サルヲ痛感セシメ張作相、張景惠等ノ策動ト相俟チテ今回ノ処決ヲ見タルモノト認メラル尚孫傳芳等ハ楊宇霆ノ南方政府ニ対スル策動ヲ材料トシ張學良ニ其野心ヲ内報シ処決ヲ慫慂セリトノ説アリ其ノ真偽ハ確カナラサルモ孫傳芳ノ性向ト其ノ現境ヨリ見テ必スシモ風評ノミニ止ラサルモノト觀察サル

一、楊常処決ノ影響

近時專断独行ノ傾アリ去日鐵道問題ニ関シ國民政府ニ送リシ電報ノ如キ曾テ之ヲ鄭謙ニ知ラシメス又今回楊常処決ノ通電モ亦自ラ其原稿ヲ認メ僅ニ鄭謙ヲシテ修飾セシメシ消息アリ鄭謙ハ客月二十^(字欠)日當館藤村副領事ニ対シ鐵道問題ノ如キ國民政府ニ請訓セハ必ス反對ノ指示ヲ見ルハ当然ナリト其事実ヲ否定シ居タルコト及今回ノ楊常処決ニ対シ其理由ノ薄弱ナリトノ批難ノ頻出シ新聞紙上ノ消息ニ依レハ孫科ハ楊常ノ反對セル車輛返還問題ハ同人処決ノ為メ無事解決スヘシトテ張學良ニ車輛返還ヲ督促シ又灤河以東軍隊ノ撤退モ亦楊常処決ノ通電ヲ援用シテ其速断ヲ嚴談シ来レルカ如ク張學良左右ニ之ヲ補佐スル人物ヲ缺キ僅々一二ノ通電ニモ内外ヨリ之ニ乗スルノ隙ヲ与ヘ居ルハ張學良カ一定ノ主義方針ヲ缺キ居ルト共ニ其内部ノ缺陷ヲ示スモノニシテ将来益々自縛自縛ノ窮状ヲ暴露スル懸念アリ

楊宇霆、常蔭槐ト声息ヲ通シ吉林系青年ノ牛耳ヲ採レル鄒作華ハ其所部砲兵團ヲ基幹トシ興安一帶ニ屯田兵開墾ヲ企画シ解散兵ヲ糾合シツツアリテ将来張作相ニ代リ吉林人ノ吉林實現ノ野心ヲ包藏スルモノナリトノ説アリ索

楊宇霆、常蔭槐ノ処決ハ兩人ノ野心専恣カ既ニ掩フヘカラサル事実ニシテ張學良ノ地位之カ為メニ危態ニ陥リ居タル実情ニ鑑ミ其癌症ヲ除去セル結果ハ対内的ニ張學良当面ノ危局ヲ打破スルニ有効ナリシハ疑ナキ処ナルモ東三省ノ均勢ハ張學良自体ノ実力ニ依ルモノニ非ス張學良カ楊宇霆、常蔭槐兩名等ト結合勢力ニ依リ他ノ群星ヲ圧シ居タルト張作相ノ如キ先輩カ比較的消極ノ態度ヲ維持シ来レル結果ナルカ楊常ノ処決ニ依リ張學良ノ左右ニ生シタル缺陷ハ当然學良直系ノ青年及張作相、張景惠、萬福麟、韓麟春及湯玉麟等旧派ニ依リテ補ハルヘク此間ニ相當ノ暗闘ヲ生シ楊常一派ハ國民政府側ノ一方ニ奔リ張學良反對ノ態度ヲ来スハ自然ノ成行キニシテ孫傳芳、張宗昌等ノ殘党亦勢力恢復ヲ策スルハ到底免レ得サル処ニシテ張學良將來ノ態度如何ニ依リ東三省ノ政局ハ必シモ樂觀ヲ許サルモノアリ

張學良側近ノ人物中其秘書長鄭謙ハ其素養閱歷共ニ優秀ノ人物ナルモ其思想的ニハ楊宇霆等ト共鳴シ比較的健実ノ態度ヲ有スルモノナルカ近来健康ヲ害シ又従来楊宇霆トノ關係密切ナリシヲ以テ既ニ隱退ノ志アリ張學良モ亦

倫ニ於ケル其司令部ハ地理交通共ニ黑龍江吉林及奉天省ニ跨ル要衝ニシテ楊常処決ニ依リ其殘党ノ頼ムヘキ唯一ノ根拠地ナレハ其行動ハ目下最モ注意ニ値スルモノアリ本人ノ出様ニ依リテハ相當ノ波瀾ヲ免レス

楊宇霆カ國民黨左傾派ノ首領汪精衛等ト幾何ノ關係ヲ有シタルヤハ疑問ナルモ楊カ生前支那本土ニハ蔣介石、馮玉祥及廣西派ノ内訌ハ相互ニ必然来ルヘキ情勢ニシテ現ニ北平政治分会ハ右傾派ニ屬シ其実力派ハ楊子江流域ノ紛擾ニ対シ東三省ト提携スルノ意向アリ現ニ周震麟ノ如キハ其主旨ニ依リ来奉セルニ拘ラス張學良カ蔣介石ニ結托シタルハ策ノ得タルモノニ非スト評シ居タル事実ニ鑑ミ白崇禧方振武等ニ提携ノ意アリシハ想像ニ難カラス是等ノ事情ヲ綜合シ熱河ニ於ケル國民黨指導員等ノ湯玉麟反對ハ張學良ノ爪牙ヲ拔ク方便トシテ北平方面及楊常一派ニ依リテ益々其気声ヲ挙クル恐アリ

孫傳芳一派カ楊常陷甯ノ方便トシテ楊宇霆カ國民政府方面ニ策動セシ反張學良行動アリト建言セル次第ハ前頭ノ通ナル処楊宇霆側ノ消息ニ依レハ孫傳芳ハ吳光新ト結ヒ傳芳カ民国十六年奉天講武學堂ニテ學習セシメタル其部

154

昭和4年2月1日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛

最近奉天省政府ハ国民政府財政部ヨリ別紙通電ヲ受ケタルニ依リ翟主席ハ一月二十六日奉省各税金徴収官署及各海關ニ對シ其旨通電ヲ発シタリト云フ

各省政府主席 殿

国民政府ノ命令ニ十八年二月一日ヨリ中華民國海關新稅則施行後ハ凡有全国各地稅局及煤油特稅局ハ当ニ撤廃スヘク其事務ハ海關ニ歸併シテ弁理シ行政院ノ命ニ依リテ遵照弁理セシメ經費ヲ節約スヘシト故ニ各省ニ於ケル已ニ關係セル各海關内地稅局或ハ同一性質ノ徴収機關ハ何レモ本年二月一日以前ニ弁理結束シ其各該局徴収ノ海關附加稅及五十里内ノ常關附加稅事務ハ各該管轄海關稅務局ニ移管スヘク五十里外ノ各常關―附加稅ノ事務並ニ各該管轄關監督ニ移管スヘキモノハ本部ヨリ各關局ニ電命遵弁セシムル外特ニ電報シテ貴省政府ニ查照ノ上督勵進行シ期限通りニ弁理セシメラレムコトヲ請フ

財政部長 宋子文

下學生八十名ノ奉天軍内ニ位置シ居ルヲ利用シ鮑貴卿一派ノ李維一及李夢庚等ノ旧勢力ヲ併セ奉天ニ於テ獨立ヲ策シ山海關ニ於ケル于學忠及関内ノ国民軍ニ改編サレ居ル鄭俊彦、李寶章、徐源泉軍ヲ外援トシ獨立セル勢力釀成ノ陰謀アリ楊宇霆一派カ之ヲ探知シ居ルヲ知リ孫傳芳カ急ニ張學良ヲ誘ヒツツ楊常ヲ喪リタリトノ說ヲナシツアリ是亦真偽確ナラサルモ孫傳芳、張宗昌、褚玉璞カ其旧勢力ノ挽回、新局面ノ展開ニ腐心シ居ル実情ニ照シ必シモ否定スヘキニ非ス張學良カ楊常ノ智囊ヲ失ヒタル虚隙ニ乘シ孫傳芳等ノ策動ハ其形式ハ別トスルモ当然来ルヘキ運命ト見ラレサルニ非ス

之ヲ要スルニ張學良ノ将来ハ其左右ニ適當ナル補佐ヲ得テ其健康ヲ維持シ得ルヤ否ヤヲ先決問題トシ次ニ幾多内部ノ群雄ヲ駕御シ国民政府ニ応酬シ得ルヤ否ヤニ於テ其運命ヲ決スヘキモノナルカ學良ノ健康ハ其對内外ノ圧迫紛爭ニ応酬スル以前ニ精神的煩悶ト其遊興的不節制ニ依リ倒ルルナキヤヲ懸念セラルルモ幸ヒ彼ニシテ旧派軍閥トノ提携ニ奏効シ對南關係ニ於テモ名ヲ捨テテ実ニ就クヲ得ンカ其健康ノ恢復並經驗ノ蓄積トニ依リ彼ノ将来ニ

相当強キ囑望ヲ置クヲ得可シト思考セラルル次第ナリ

153

昭和4年1月31日

藤岡関東庁警務局長より
吉田外務次官他宛

国民政府の海關新稅則施行後の省内稅局の改編に關する通達について

関機高收第二七一五号ノ二

昭和四年一月三十一日

(2月7日接受)

関東庁警務局長

内閣 拓殖局長 殿
内閣 書記官長 殿
外務 次官 殿
内務省 警保局長 殿
関東軍 參謀長 殿
関東憲兵 隊長 殿
關東州在勤海軍武官殿
滿鉄情報課長 殿
在京 関東長官 殿
稅務徴収機關ノ合併

機密公第一二七号

(2月7日接受)

昭和四年二月一日

在奉天

滿洲取引所は経営不振につき休業すべきとの意見具申

總領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

滿洲取引所善後策ニ關スル件

株式会社滿洲取引所ノ増減資問題特ニ同所増資ノ前提タル第一項減資ノ実行並被合併会社創立準備中ノ次第ハ客年十月二十六日附公第八一八号拙信ニ依リ已ニ御了知ノコトト被存処其後新会社ノ創立ニハ種々曲折アリ于今其實現ヲ見ルニ至ラサル為同所理事者ハ客年十二月機宜ノ措置ヲ以テ營業振作ノ方策ヲ樹テ同月十五日別紙甲号寫ノ通願出ノ次第アリタリ一方同月十六日当館員ノ同所資産並營業狀態検査成績ハ別紙乙号ノ通ニシテ同所ノ前途甚タ憂慮スヘキモノアリタルヲ以テ同所ニ對シ直接間接ニ密接ノ關係アル当地鮮銀、正隆、滿銀ノ三支店(滿取減資後ノ株式二万株ノ内上記三支店ニ流込又ハ流込同様ノ株式一万二千余株アリ

尚滿銀ハ同社ノ主タル債權者ノ各首腦者ヲ召致シ非公式ニ同所ノ善後策ニ付照合シタル処右三者何レモ同所從來ノ業態ニ鑑ミ一時相当期間ノ休業ヲ為サシメ此間若シ増資不能ノ場合ハ一般株主ノ利益擁護ノ為断然解散スルヲ得策トスヘシトノ意見ナリシヲ以テ日ヲ改メ更ニ同所専務理事ヲ召致シ増資問題ノ成行並ニ増資不能ノ場合ニ於ケル善後策ニ付意見ヲ質シタル処同人ハ前者ニ対シテハ少クトモ本年二月中旬迄ニハ新会社ノ創立ヲ見ルヘク又後者ニ対シテハ同所重役全部協議ノ上追テ何分ノ義復申スヘキ旨ヲ述ヘ一応引取り一月二十八日ニ至リ同人ヨリ重役会ノ結果ナリトシテ新会社ノ創立モ近キニアリト確信スヘキ報告(中山代議士ヨリノ来示ナル由)ニ接シ居ルモ若シ万一該創立延引スル場合ニハ一時休業ヲナシ更メテ善後策ヲ講スル方針ナル趣申出アリタル処畢竟同所ノ現状ハ別紙乙号所述ノ如ク休業又ハ解散ノ二途何レカヲ択フヲ要スル次第ニ付近ク適當ノ時機(当方ノ見込ニテ決定)ヲ見計ヒ約六ヶ月間位ノ休業ヲ為サシメ此ノ期間内ニ増資實現セサル場合ニハ断然解散セシムルコトトシ以テ株主ノ利益ヲ擁護致度ニ付右豫シメ御承認相仰度此段稟請ス

外ノ分毫万式千五百円ハ今般別紙ノ通り社礎建直シ資金ノ一部トシテ運用致度候ニ付御下渡シニ預リ度甚タ勝手ノ儀ニハ御座候得共事情御憫察ノ上特別ノ御詮議相煩シ度伏而奉懇願候

營業概況

一、米穀市場

既設ノ期米市場ハ去ル大正十三年開設当初ハ極メテ順調ニ進展セシモ約二ケ年ノ後ヨリ頓ニ退歩状態ヲ辿リ今日ニ及ヘリ依リテ曩ニ正米取引ノ新營業細則ヲ制定シ之カ開市ニヨリ陣容ヲ建直スヘク大ナル自信ヲ以テ準備ノ歩ヲ進メツツアリシニ測ラサリキ昨年来ノ母国ノ外米輸入制限令(事実上ノ禁止)ハ滿洲米界ヲシテ無慘ニモ急転直下のニ昏睡状態ニ陥ラシメ期米市場取引ヲ喚起スルニ由ナキノミナラス惹キテハ前述ノ計画モ水泡ニ帰シタルカ該令ハ尚当分持續セラルヘキヲ以テ之カ撤廃後ニアラサレハ滿洲米界ノ活躍ハ絶対ニ望ムヘクモアラス從テ其ノ間当市場ノ復興ヲ期シ難シ要之暫時見送ルノ外ナシ

二、証券市場

由來斯界ハ人心ノ緊張ヲ必須条件トセルニ啻サヘ積年ノ

追テ同所取締役ハ客年十二月末全部任期満了ノ処増資問題行悩ミノ為尚当分重任スルコトトナリタルニ付為念申添フ

(欄外記入)

浅田君 藤田書記官ト御協議ノ上早目ニ回訓ノコト
從來総領事館ヨリハ増資案等取引所側ノ立案ヲ支持シ来リタルニ顧ミ今回ノ解決案ハヨクノ結果ト思考セララル

(別紙甲号)

昭和三年十二月十五日

奉天十間房第五区

株式会社 滿洲取引所

理事長 手塚安彦

在奉天

日本帝国総領事館 御中

營業保証金御払戻願出ノ件

附營業狀態及増資計画經過報告

曩ニ特別ノ御高配ヲ以テ御保留願上候營業保証金ノ内規定

不況ニ依リ一般財人ノ心理ハ極度ニ萎縮セルニ加ヘテ當所現在ノ如キ不良ナル業績ヲ以テシテハ彌カ上ニ人氣離散シ剩サヘ増資計画ハ一弛ノ状態ニシテ一層市場ノ人氣ヲ銷沈シ遂ニ營業停頓ノ状態ニ陥リタルハ蓋シ当然ナリ要ハ当所ノ社礎ニシテ安定スルニ於テハ自カラ市場心裡モ一変シテ挽回スルハ必然ニシテ之ニ関シテハ相当対策アリ

三、増資計画ノ經過

去ル六月七日附報告書中ニ上申セル増資株式引受者東京辻某ト本春拙者上京ノ砌斡旋者タル中山貞雄ヲ介在シ親シク協議セシニ結果頗ル良好ナリシモ更ニ成否ニ付中山ニ入念セシニ成立確実トノ言明アリ且実行ニ付キテハ不日自分渡滿シテ万事決定スヘキニヨリ一先帰滿セヨトノコトニテ離京セリ而シテ豫定ノ如ク同人ノ來奉アリ実行ニ関スル協定ヲ遂ケ七月二日附ヲ以テ覚書ヲ交換シタルニヨリ其ノ成立ヲ確信シタリ

然ルニ越ヘテ十月中山再ヒ來奉アリ前記辻某ハ出資ニ対シ特別ノ利潤ヲ望ムモノニアラサルト同時ニ其ノ安全ヲ欲スルカ故ニ個人保証セヨトノ要求ヲナシ来リタルカ自

分トシテハ其ノ負担ニ堪ヘ難キニ付此ノ關係ハ一先中止シタルモ更ニ東京及名古屋ニ於ケル有志者ニ交渉セシニ幸ヒ希望ニ滿テルヲ以テ株式引受方法等ヲ協定シ且ツ新設会社ノ名称モ滿洲商品證券取引株式會社ト決定シ定款ヲ作成シ來レリトテ發起人トシテ吾人ノ調印ヲ求メ之ヲ攜帶シテ帰京セリ而シテ其節ノ打合せノ要領ハ創立總會ノ召集ヲ十一月五日頃トシ同月二十日頃總會ヲ開催シ会社設立ノ上更ニ自分來奉ノ上兩社ノ合併ヲ遂行スヘシ云々

於茲吾人ハ愈成立疑ナキモノトシテ大ニ安心シ居リシニ其後母國ニ於ケル金輪解禁問題ノ輿論高潮、証券界ニ一大脅威ヲ与ヘ國債スラ暴落シ以下株式ハ一層激甚ナルモノアリ惹キテハ財界恐怖状態ヲ示シタルニ因リ増資問題モ一時的の見送ラレタシ云々トノ通知アリ其後金解禁問題ハ一時的小康ヲ得タルカ故ニ更ニ実行方ヲ屢々督促ヲ重ネツツアリ其間「急転直下のニハ進捗シ難キモ順調ニ運ヒツツアリ云々」或ハ「絶對安心セヨ云々」等ノ音信アリ更ニ悲觀スヘキ情報ナシ

由來同人ハ極メテ体面ヲ重ンスルノ士ニ付本件ニ對シテ

モ一旦引受タル以上絶對的ノ責任ヲ痛感セルヘク依リテ實現迄ニハ多少ノ時日ヲ要スルモ結果ハ必ス成立スルモノト吾人ハ期待セリ

然リト雖上述ノ如キ経緯ト近時ニ於ケル世相ハ政界ニ或ハ國際ニ若クハ財界ニ絶ヘス動搖ヲ來スカ如キ事件頻發シ財人心理ハ極度ニ恐怖ニ驅ラレツツアリ殊ニ日ヲ逐フテ接近セル金解禁問題横ハレルノ今日容易ニ不安去ラス故ニ本件ノ進捗ヲ阻メル等時甚タ非ナルヲ以テ或ハ之カ實現ハ尚相当ノ時日ヲ要スル哉モ計リ難シ叙上ノ事情ニ鑑ミ現在ノ儘在再トシテ増資實現ノミニ期待シ居ルコトヲ許ササル哉ヲ考慮シ更ニ前述社礎建直ヲナシ徐々ニ時ヲ待ツノ外ナキモノト信シ候

四、建直シ案

要ハ資金ノ缺乏ニ在リ依リテ固定資産ヲ資金化シ拾万円位ノ運轉資金ヲ調達シ資本利潤ノ増加ヲ図ルコト

運用方法

前記ニ因リテ得タル資金ヲ以テ代引機能ヲ拡大シ直接代引日歩ノ增收ヲ図ルコト右ニ伴ヒ売買取引モ亦増加スルハ勿論ニシテ手数料ノ自然增收ヲ期ス資本調達ノ一部トシテ營

業保証金ノ規定以上ノ分ノ御松下ケヲ願フコト

収支豫算 其ノ一

一金拾万円 代引資金調達ノ場合

一金壹千貳百元 代引日歩収入

一金壹千円 売買手数料収入

計金壹千貳百元

内

一金壹千円 營業費支出

差引金壹千貳百元 剩餘金

之レヲ一ケ年ニ引直セハ

金壹万四千四百円ノ純益ヲ生ス

収支豫算 其ノ二

一金五万円 代引資金調達ノ場合

一金六百元 代引日歩収入

一金六百元 売買手数料収入

計金壹千貳百元

内

一金九百元 營業費支出

差引金參百元 剩餘金

之レヲ一ケ年ニ引直セハ

金參千六百元ノ純益金ヲ生ス

(別紙乙号)

滿洲取引所ノ現況ニ就テ(三、一一、一六、現在)

一 資産状態

二 營業状態

三 増資問題ノ成否

四 卑 見

一、資産状態 昭和三年七月減資後資産状態ハ著シク其面目ヲ改メタリト雖別紙諸勘定明細表ニ明カナルカ如ク会社純資産ト目シ得ヘキハ地所及建物並有価証券合計約十四万円アルノミニシテ整理勘定ノ如キハ当分回収ノ見込アルモノ甚タ寥々タリ畢竟資産トシテハ前記固定資本及有価証券(大部分營業保証金)ヲ餘スノミ

二、營業状態 逐年窘縮ノ状態ニアリ即チ最近二年間ノ業態ヲ示セハ左ノ如シ

昭和二年
証券部

出 来 高 一一三、八四〇株
 収入手数料 一、五八二、五二〇
 米穀部
 出 来 高 五五、八八〇石
 収入手数料 四一五、五七〇
 収入手数料計 一、九九八、〇九〇
 昭和三年度

証券部

出 来 高 七一、八八〇株
 収入手数料 一、〇四六、〇七〇

米穀部

出 来 高 一一、二四〇石
 収入手数料 一六四、七二〇

収入手数料計

即チ三年度ハ二年度ノ四割減ニシテ、将来取引高ノ増加ニ対シ（但シ米ハ未知数）何等好材料ナキノミナラス一方営業費ハ昭和二年度三万六千餘円同三年度三万餘円ニシテ会社収入ノ大宗タル収入手数料ハ僅ニ営業費ノ六、七%ヲ補足スルニ過キス到底收支相償ハサルコト縷説ヲ

須エス
 三、増資問題ノ成否
 会社側ノ報告ニ依レハ

(イ)本春政界ノ動揺並初夏ヨリ引続ク支那政局混乱等ニ依リ在東京金主辻某ニ於テ時局ノ推移ヲ顧慮シ大勢觀望ノ態度ニ出テ急速ニ増資決行ノ機ニ達セサルモ遅クモ十月迄ニハ何分ノ目鼻ツクヘシ云々（六月七日附報告）

(ロ)前記辻某ハ保証人ノ点ニテ投資ヲ肯ンセサルニ至リタルヲ以テ中山代議士ハ更ニ東京及名古屋方面ノ有志者ニ交渉シ大体成功シタルヲ以テ十一月中旬頃新会社ノ創立總會ヲ開ク豫定ナリシモ其後金輪解禁問題ヲ骨子トスル經濟界ノ動揺アリ從ツテ其ノ促進ヲ礙ケラレタルモ最近ノ機會ニ於テ必ス成功セシムヘシ云々ト同代議士ヨリ通知アリタルヲ以テ会社ハ全然之ヲ信シ居レリ云々（十二月十五日附報告）

ナルモ從來ノ経緯ヨリ見テ増資ハ可能性ヲ有スルモノトシテモ極メテ近キ将来ニ其ノ実現ヲ期待スルコト蓋シ不可能ナラム

四、卑見 前述營業狀態其他ヨリ推シ会社ノ前途ハ悲觀材料ノミナルヲ以テ株主ノ利益ヲ計ル見地ヨリ増資完成迄一時休業ヲナスカ（休業期間約六ヶ月間ト仮定シ此間ノ經費節約ハ査定困難ナルモ少クトモ六、七千円ヲ節約シ得ヘシ）又ハ此ノ際断然解散スルカ二者何レカヲ擇フヲ妥当トスヘシ

尚会社ノ建直案ノ如キハ其出発点ニ齟齬アリト思惟セラ
 ルルニ付目下研討中（別紙甲号参照）

155 昭和4年2月7日

在奉天林總領事より
 田中外務大臣宛

張學良の東北边防司令長官就任式の実施状況
 について

公第一四六号

（2月12日接受）

昭和四年二月七日

在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

張學良等ノ就職宣誓式ニ関スル件

本月四日当地省政府ニ於テ挙行セラレタル東北边防司令長官以下就職宣誓式ノ概況ハ往電第一一二号報告通ナル処右ノ宣誓文、方本仁ノ訓旨、張學良ノ答詞及市内ノ光景等左記ノ通追報ス

左 記

一、東北边防司令長官張學良、同副司令張作相、萬福麟等軍人ノ誓詞ハ次ノ如シ

余ハ至誠ヲ以テ三民主義ヲ実行シ長官ノ命令ニ服從シ
 国家ヲ捍衛シ人民ヲ愛護シ克ク軍人ノ天職ヲ尽スコト
 ヲ宣誓ス

二、奉天、吉林、黑龍江及熱河各省政府主席並省政府委員等文官ノ誓詞ハ次ノ如シ

余ハ總理ノ遺囑ヲ恪守遵奉シ黨義ニ服從シ国家ノ法令ヲ奉行シ忠心本職ニ努力シ並ニ經費ヲ節省シ余ハ決シテ無用ノ人員ヲ雇用セス又營私舞弊及賄賂ノ授受ヲナサス若シ誓言ニ違反セハ本黨嚴勵ノ処罰ヲ受クルモ辞セサルヲ宣誓ス

三、国民政府ノ代表監督員方本仁ノ訓詞ハ次ノ如シ

本日東北边防司令長官、兩副司令、奉吉黑熱四省政

五、

市内一般ノ光景其他
宣誓式ノ当日当地各官衙及公団ハ其門前ニ国旗及党旗

府主席厅长委員ノ宣誓就職ノ儀式ヲ舉行セラル是レ我國統一ノ一大紀念ニシテ又奉吉黑熱四省ノ新紀元ナリ本仁ハ學識淺陋ナルニ拘ラス令ヲ奉シテ來リ監督スルハ光榮ノ至ナリ我國ハ辛亥革命以來戰亂相繼キ今ニ至ル迄寧歲ナシ其然ル所以ハ当局ハ必スシモ一人ノ權利ノ為メニミ尽スモノニアラサルモ概ネ只統一ノ急務ナルヲ知リテ統一ノ方法ヲ知ラス故ニ適々相反スル結果ヲ來スコトアルハ浩嘆ニ堪ヘス先ニ總理孫先生ハ革命ニ奔走スルコト四十余年中外ノ歴史、圖書近代ノ科學文化ヨリ農工商業ヨリ地方ノ習慣ニ至ル迄専心研究シ遂ニ至公至當ノ理ヲ発見シテ現代ノ潮流ニ適合スル三民主義建國方略建國大綱等ノ著述ヲナシ且ツ實施ノ程序ヲ規定セラレタルハ同志諸君既ニ相當研究シ居ラルルコトト思惟セラルルニ付予ノ贅述ヲ要セス茲ニ全國統一シ已ニ軍政ヨリ轉シテ訓政時期ニ入レリ此時期ニ在リテハ軍事ハ一段落ヲ告ケ憲政ノ基礎ヲ確立セサル可カラス各種ノ建國經緯万端ハ訓政ノ基礎ニシテ不良ナランカ憲政一切ノ事業ハ到底完備ヲ期シ難シ總理在世ノ時辛亥革命ノ失敗ヲ追懷シテ政治ノ不良ハ民国

民國十八年來戰禍絶ヘス民衆ハ全テ和平ノ一日モ早カラシコトヲ渴望シ居レリ今ヤ革命成功ヲ告ケ南北統一ノ實現ヲ見タルハ誠ニ四海同慶ノコトナリ我等ハ中央ノ委任ト東北民衆ノ付託トヲ受ケタリ今後ハ此訓政時期ニ當リ建設ヲ謀リ三民主義ヲ實現シ中國々民党ヲ擁護シ鞏固ナル中央政府ノ建設ニ努力シタルヲ以テ現在ニ於テハ強國ノ班ニ列セリ我中國ハ土地人民物產ヲ以テ日本ニ比スレハ國家ヲ富強ナラシムルコト日本ヨリハ遙カニ容易ナルヲ想フ今後我等同志事ヲ為スニ當リテハ自私自利ノ念ヲ除去シ自己ノ利益ヲ犠牲ニスルモ國家ノ為メ人民ノ為幸福ヲ謀ラサルヘカラス仏語ニ曰ク「我地獄ニ入ラスンハ誰カ地獄ニ入ランヤト」吾人ハ自己ノ事ヲ後ニシ國家ヲ念トシテ他人ノ如何ニ関セス自己ノ良心ニ照シテ克ク其職ヲ尽シ党國ニ違背セス民衆ニ棄テラレサル様ニスレハ足レリ本日ノ吾等ノ宣誓ハ全ク良心ノ発露ニシテ諸同志ト慎重遵守センコトヲ誓フモノナリ

元年ノ党人カ訓政ノ程序ヲ遵守スル能ハサリシニヨルトセラレシハ誠ニ所以アルナリ東北四省ハ辺陲ニ在リ物產豊富ニシテ人民ハ敦樸ナリ而シテ其美ハ年來破壞セラレス秩序ハ安寧ニシテ一切ノ訓政施設ハ之レヲ他ノ各省ニ比スレハ容易ナリ唯タ党務方面ニハ一段ノ進歩ヲ望ンテ已マサルナリ中央ニ於テモ何レ方法ヲ講スヘシ党ニ寄生シ擾亂ヲ陰謀スルノ徒ハ嚴重ニ防止シ湖南湖北各省ノ覆轍ヲ踏マサランコトヲ要ス幸ニシテ現任ノ軍政各領袖各委員ハ或ハ軍ヲ治ムルニ規律正シク或ハ老成持重或ハ政治ニ通曉シ或ハ輿論ニ愜ヘリ宣誓就職後ハ必ス本党係先總理ノ三民主義ニ遵從シ訓政時期ヲ為スヘキ各事業ヲ完成スルニ同心同德边防ヲ鞏固ニシ以テ中央ノ期待ト地方ノ翹望ニ背カサルヲ得ヘシ是レ本仁カ国民政府ヲ代表スルト共ニ又本仁個人トシテモ申上クル次第ナリ

四、

如シ
本日我等東北边防軍司令長官及四省政府主席委員宣誓ノ典禮ヲ舉行セラル余ハ諸君ノ代表トシテ一言申上ル

ヲ揭揚シ居タルカ一般商民ハ拳式ニ関シ豫メ何等通知ヲ受ケス又新聞ニモ拳式ノ豫告等掲載サレ居ラサリシ關係モアリ殆ント全部国旗及党旗ヲ掲揚セス又市内ニハ南方ニ於テ見ル如キ革命謳歌ノ宣伝「ビラ」等絶無ニシテ一般市民ハ政府改組、及地方官ノ就職宣誓等ニハ殆ト無関心ニ見受ケラレタリ

尚ホ式場ニ參列セル軍人官吏ハ勿論宣誓者ノ態度ハ嚴肅ヲ缺キ殊ニ萬福麟ハ其宣誓ニ屢々渋滞ヲ來シ纔ニ傍人ノ助言ヲ受ケテ誓詞ヲ述ヘ又湯玉麟ハ他ノ熱河省政府委員四名ト共ニ同声ニ誓詞ヲ述ヘタル為メ甚シキ醜態ヲ顯ハササリシモ本人ハ半ハ無言ニ宣誓セシ如キハ東三省ニハ依然旧式人物勢力ヲ占メ國民革命ニ幾何理解ヲ有スルヤ頗ル疑多キ反影ト見ルヘシ

哈爾濱各總領事並領事

本信写送付先 在支公使 齊々哈爾、熱河(赤峰)、吉林、

156

昭和4年2月8日

田中外務大臣より
在奉天林總領事宛(電報)

滿鉄付屬地内の司法、警察權の運用実態查報

方訓令

本省 2月8日後6時発

第二六号

左記事項ニ付貴地並ニ関係各地ノ實際ノ取扱振御取調ノ上詳細回電アリ度シ

一、鉄道附属地内ニ於ケル司法警察権ハ関東長官ニ於テ行ヒ居ルヤ(若シ然リトセハ其根拠)又ハ領事之ヲ行ヒ居レルヤ(即チ警察官ハ附属地内ニ於テモ外務省巡査トシテ司法警察ヲ行フヤ又ハ関東庁巡査ノ資格ノママ之ヲ行フヤ)

二、附属地内ニ於ケル外国人又ハ支那人ニ対スル司法警察ハ外国領事又ハ支那官憲ニ於テ之ヲ行フヤ

三、外国領事又ハ支那官憲ニ於テ右司法警察ヲ行フトスレハ其場合我方トシテ之ニ共助ヲ与フルヤ又ハ全ク之ニ関与セサルヤ

157 昭和4年2月18日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

満鉄付属地内の司法、警察権の運用実態に關

メス且ツ互ニ共助規定ナキ限り支人及無国籍人ノ犯罪ニ対シテハ我方ハ自発的ニ之ヲ検挙シ逮捕シタルモノハ其ノ処罰ノ為支那官憲ニ身柄ヲ引渡シ居レリ又支那官憲カ之等ノ犯人カ附属地内ニ潜伏シ又ハ附属地ニ居住スルニ依リテ我方ニ其ノ検挙逮捕又ハ引渡ヲ求メ来リタル時ハ成ルヘク支那側ノ要求ニ応シ我方ニテ一応取調ヲ為シ我刑法ニ照シ処罰ヲ要スル者ト認メタル時ハ情状ノ如何ニ依リ任意支那官庁ニ出頭方勧告シ又ハ附属地外ニ連行ノ上支那官憲ヲシテ逮捕セシメ若ハ直接支那官憲ニ引渡ヲ為シ居レリ

尚治外法権ヲ有スル外国人ニ付テハ(二)末段参照アリタシ

158 昭和4年2月19日

在局子街田中副領事より
田中外務大臣宛

間島地域中国人有力者による日本侵出への対

抗策について

機密第六五号

(2月28日接受)

昭和四年二月十九日

在局子街

する報告

奉天 本省 2月18日後着

第一三四号

貴電第二六号ニ関シ

(一)鉄道附属地ニ於ケル司法警察権ハ領事ニ專屬シ警察官吏ハ外務省警察官ノ資格ヲ以テ行動シ居レリ

(二)附属地内ニ於ケル外国人又ハ支那人(無国籍人タル白系露人モ含ム)ニ対スル我方警察権ハ行政警察権ニ限定セラルルモノト一般ニ解釈セラレ居レリ從テ外国領事又ハ支那官憲ニ於テ各自国人ニ対スル司法警察権ヲ行ヒ得ヘキ筋合ナルモ實際上ニ於テハ我方ハ從來支那官憲ノ司法

警察権行使ヲ全然排除シ我方警察側ニ於テ支那人ニ対スル捜査逮捕等ヲ為シ居レリ支那人ニ対シ領事裁判権ヲ有スル外国人ノ犯罪ニ対シテハ從來外国領事ニ於テ司法警察権ヲ行ヒタル実例ナキモ我方ニ於テハ外国人ノ犯罪発生ノ際ニハ当該国領事ニ犯人ヲ引渡ス方針ニシテ領事裁判権ヲ有セサル外国籍人モ亦便宜同一ノ方針ニ依ル筈ナリ

(三)ノ通り附属地内ニテハ支那官憲ノ司法警察権行使ヲ認

外務大臣男爵 田中 義一殿
副領事 田中 作(印)

延辺特別区設置運動ニ関スル件

延邊農商工学聯合公民會幹部ハ二月十四日当地商務會ニ集合シ省政府特派視察員魯陝民臨席ノ下ニ延辺特別区設置問題ニ関シ協議ノ結果省政府ニ対シ左記事項ヲ請願セリト

記

一、延、琿、和、汪四県ヲ以テ特別区ヲ設定スルコト
一、延辺未開放地日本警察ノ撤廃ヲ要求スルコト
一、日本側ノ軍事及經濟的行動ニ對抗スヘキ特殊政策ヲ実行スルコト

一、一般鮮人ヲ懷柔シ前記目的遂行上ニ利用スルコト
右報告ス

本信写送付先 奉天、間島、吉林各總領事

159 昭和4年2月21日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

長春、安東の各領事館管内の満鉄付属地内の
司法、警察権の運用実態は奉天総領事館管内

と大差ない旨報告

奉天 発

本省 2月21日後着

第一三八号

往電第一三四号ニ関シ

当館司法領事兼務ニ関スル管内ニ於ケル取扱振ハ往電所報
当地ニ於ケルト異ナルコトナシ尚長春安東各領事ニ対シテ
ハ同領事管内ニ於ケル領事裁判権ヲ有スル国籍人ノ犯罪取
扱振ニ付問合せ置キタル処何レモ実例ナキ趣ニシテ爾餘ノ
諸点ニ関シテハ当館ニ於ケルト同様ノコトト御諒解相成度
シ

160 昭和4年2月23日

藤岡関東庁警務局長より
吉田外務次官他宛

朝鮮人に対する水田租借を禁止する遼寧省政
府令について

関機高収第五一三四号ノ二

(2月28日接受)

昭和四年二月二十三日

関東庁警務局長

内閣拓殖局長殿
外務次官殿
朝鮮総督府警務局長殿
州外各警察官署長殿

鮮人水田租借制止ニ関スル省令ノ件

奉天省政府ハ各県知事ニ対シ鮮人水田租借制止ニ関シ左ノ
省令ヲ発セリト云ヘハ相当鮮支人間ニ於ケル此ノ種交渉事
故ノ統廃スルコトト思料セラルレハ管内各署ニ於テハ駐在
領事ト聯絡注意相成度候也

記

從來各県下ニ於ケル我カ農民等ハ往々自己ノ良田ヲ鮮人ニ
租借シテ水田ニ耕種セシメ即チ一時ノ小利ヲ貪テ永久ノ禍
患ヲ遺留セルカ原来朝鮮人等ハ日本ノ殖民政策ニ従ヒ日本
国民ノ食ニ供給セムトスル為メ我カ良田ヲ経営シツツ長久
的ノ發展事業ヲ為サムトスル目的テアルカ現在ノ南北統一
裡ニ於テ全国一致シテ排日排貨ヲ断行シ当政府ハ南京政府
ノ指令ニ依リ今後所有各県下ノ水田ヲ悉ク收回スヘキ豫定
ニテ回收方法ハ二月ヨリ向フ三ヶ月間内ニ於テ期限トシ二
月以前ヨリ鮮人ニ租与シタル水田ハ止ムヲ得サルカ二月以

後ヨリ鮮人ニ租与シタル水田ハ全部解約セシム其ノ損害賠
償ハ各該管県ヨリ負担シ奉天全省計六十県ノ内ニ水田アル
県ハ三十七県ナリ毎県ニ対シ損失賠償費トシテ当政府ヨリ
奉大洋五百万円ヲ与フ故ニ訓令ヲ受クルト同時ニ水田收回
ニ努ムヘシ

「以上」

161 昭和4年2月28日

在間島鈴木総領事より
田中外務大臣宛

間島地方朝鮮人の自主的教育機関を撤廃する

旨の国民政府訓令について

機密第二〇六号

(3月6日接受)

昭和四年二月二十八日

在間島

総領事 鈴木 要太郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

支那側ノ在満鮮人ノ教育機関撤廃方訓令ニ関スル件

(琿春頭道溝分署長報告)

本件ニ関シ吉林省政府主席張作相ハ国民政府ノ訓令ニ基キ
在満鮮人ノ自主的教育機関撤廃方二月十六日附省内各地方

長官ニ対シ左記要旨ノ訓令ヲ発シタル趣キニテ琿春県知事
ハ更ニ管下所属機関ニ之ヲ転令シタリト

記

中央政府ノ訓令ヲ奉スルニ曰ク從來東北各省々長、道尹、
県知事等ニ於テ公認シタル朝鮮人ノ自主的教育機関多数ニ
上レルモノノ如クナルカ之ハ自ラ我カ主権ヲ抛棄スルモノ
ナリ我カ国ノ革命的統一已ニ完成シ全国民ヲ挙ケテ諸外国
ニ対スル諸般ノ利権回収ニ献身的奮闘ヲ継続シツツアル今
日当然我カ国法ニ帰服スヘキ彼ノ在在鮮人ニ其自主的教育
ヲ公認スルカ如キハ革命ノ精神ヲ没却スルモノナリ就テハ
各省政府ハ中央政府ノ意図ニ随ヒ東北延辺地方ニ於ケル朝
鮮人ノ教育機関ニ対シテハ縦ヘ如何ナル形式ニ依レルモノ
タルヲ問ハス一切之ヲ撤廃シ我カ教育制度ニ依ラシムヘシ
トアリ

右ハ国権擁護ノ趣旨ヨリ出テタルモノニシテ当然其ノ撤廃
ヲ断行スヘキモノナルモ一時ニ之ヲ行フ時ハ日本側ノ注目
ヲ惹クノミナラス一般在在鮮人ノ輿論ヲ惹起スル虞レアル
ニ依リ各地方長官ハ漸進的ニ撤廃ノ実ヲ挙クル様配慮セラ
ルヘシ

右訓令ノ趣旨ヲ奉シ各所屬機関ニ於テモ其遂行上遺憾ナキヲ期スヘシ

本信写送付先

北京公使、奉天、吉林、哈爾濱各総領事、

長春、安東各領事、通化主任

朝鮮総督、咸北知事

朝鮮軍参謀長、第十九師団参謀長、羅南憲

兵隊長

間島派遣員

管内各分館主任、各署長、分署長

162 昭和4年3月6日

在奉天林総領事より

田中外務大臣宛

奉天省の遼寧省への改称について

公第二二八号

(3月12日接受)

昭和四年三月六日

在奉天

総領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

奉天省ヲ遼寧省ト改称方ニ関スル件

163 昭和4年3月7日

田中外務大臣より
在奉天林総領事宛

三月一日ヨリ奉天省ヲ遼寧省ト改称スル旨当地交渉員ヨリ公式通知アリタル次第ハ本月一日附拙電第一五〇号所報ノ通りニシテ其後右交渉員来信ニハ自身ノ肩書ヲ「外交部特派遼寧交渉員」ト書シ又本官ノ肩書ヲ「大日本駐遼寧総領事」トナシ居ルトコロ右ハ支那側カ総領事ハ都市ニ駐在スルニアラスシテ省ニ駐在スルモノト解シ居ルニ依ルモノト察セラレ尚ホ又支那側ノ謂フトコロニ依レハ当市ハ由来奉天省ノ省城ナリシカ故ニ往々「奉天」ト呼フモノアリシト雖元々「瀋陽」ト称スルモノナレハ市名ニ就キテハ特ニ改称ノ命ナカリシ所以ナリトノコトナルカ本官トシテハ支那側官吏ノ呼称又ハ單ナル地名ノ用語ニ関スル限りハ右ニ從フヘキモ在奉天総領事ノ職名ハ支那側ニ對シテモ依然用イ居レリ

右為念報告ス

本信写送付先 在支公使、上海総領事、南京領事

在滿各領事

滿州取引所の休業了承について

通二機密第七一号

昭和四年三月七日

外務大臣男爵 田中 義一

在奉天

総領事 林 久治郎殿

滿州取引所善後策ニ関スル件

本件ニ関シ昭和四年二月一日附機密公第一二七号貴信御稟請ノ趣了承右ハ貴見ノ通取計ハレ差支ナシ

164 昭和4年3月18日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛

関東州外警察権を関東庁から外務省に移管することにより「三頭行政」の弊を是正すべき

旨の意見具申

機密公第二八三号

昭和四年三月十八日

(3月25日接受)

在奉天

総領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

関東庁州外(滿鉄附屬地)警察権ヲ外務省ニ移管スル件

州外附屬地警察権ヲ始メ其他各種附屬地内行政権カ事実上関東長官ニ帰屬シ一方滿鉄及領事官亦夫々一定事務ヲ管掌シ居ル為茲ニ所謂三頭行政ヲ生シ之カ弊害尠カラサル次第ハ多年識者ノ均シク痛感シ来レル処ニシテ之カ改革ニ付テハ外務省ヲ始メ關係各機關乃至在滿邦人間ニ屢唱ヘラレ殊ニ近年我滿蒙ニ於ケル發展ノ要愈益重大トナレルニ連レ在滿我機關ノ整理統一亦益緊要ヲ告クルニ至レルモ對滿政策ニ對スル為政当局ノ伝統的謬見及永年ニ亘ル歴史的事実ヲ遽ニ變更スルコトノ困難ナルコト殊ニ関東長官ノ權限論縮少ハ屢次論議セラレタルニ不拘内政的關係ヨリ其実行ヲ期スルコトノ困難ナリシ事等ヨリ遺憾ナカラ遂ニ今日迄何等之カ改革ヲ實現セラルルニ至ラサリシナリ從來本改革ニ反對セル論者ノ主張スル要点ヲ見ルニ概ネ次ノ如シ

一、現在滿鉄附屬地行政權分掌制度ハ帝國ノ滿洲ニ對スル内地延長主義ニ基キ編ミ出サレタル制度ニシテ換言スレハ植民地行政機關タル関東長官ノ權限ヲシテ附屬地ハ勿

即チ此理想實現ノ為ニハ少クモ此地方全体ニ内外關係ヨリ省ミテ正当ニ權限ヲ主張シ得可キモノヲシテ職權全部ヲ管掌セシムル要アリ之レカ為ニハ對支並對國際關係ヨリ顧ミ外交機關ノ名ヲ藉リ之ヲ充實シテ特別ノ對滿施設ヲ攻究實施セシムルコト尤モ得策ナル可シト認ム現在ノ如ク關東庁ハ僅カニ附屬地内ノ施設ニ力ヲ注キ為ニ附屬地外施設ハ其權限外ナル為同様に施設ヲ及ホス能ハス為ニ等シク同一經濟圈内ニ於テ在留邦人ニ對スル取扱ヲ異ニシ其結果ハ附屬地外在留邦人ノ發展ヲ阻害シ自然附屬地ニ膠着セシムル事トナルノミナラス附屬地外邦人發展ノ萎微ハヤカテ附屬地邦人ノ發展ヲスラ期シ得サル現狀トナリツツアリ近年附屬地内邦人ノ經營カ兎角支那人ノ夫レニ凌駕セラレ恰モ支那人安住ノ為ニ高費ヲ投シテ附屬地警備ヲ為シ居ルカ如キ感アルハ我政府年來ノ所期ヲ全ク裏切ルモノト云フ可シ然ラハ附屬地外施設ヲシテ現在外交機關タル領事館側ヲシテ當ラシメ得可キヤト云フニ現在沿線各領事館ハ其内容日常支那側トノ接衝ヲ為ス上ニ於テスラ不十分ナルモノアリ況ンヤ諸般ノ經濟施設ヲ積極的ニ攻究シ對奧地邦人ノ發展ニ銳意努力セシムル

論延テ附屬地外ニ對スル滿洲一帯ニ對シ右植民地行政機關ヲシテ施設經營セシムルコト對滿經營ノ骨子ナルカ故ニ機會アル毎ニ同機關ノ權限ヲシテ附屬地及奧地ニ進出セシムルコト必要ナリ從テ右方針ノ下ニ生スルコトアル可キ外務省乃至滿鐵側ノ不便ハ大局上已ムヲ得サル処ナリ反之此ノ制度ヲ變更シテ外交機關タル外務省ニ警察權其他ノ行政權ヲ委任セシムルカ如キハ對滿政策根本方針ニ戻リ自ラ退嬰政策ニ依ラントスルモノニシテ前記國策ニ反スルモノナリ

二、仮リニ行政制度統一セラレタリトスルモ其機關ニ當ルモノニ其人宜敷ヲ得サレハ何等ノ効果ナク之ニ反シ現在ノ制度ト雖モ若シ各機關当局者ニシテ適材ヲ得其調和ヲ期スルコトヲ得ハ世上所謂三頭行政ノ弊害ナキノミナラス寧ロ之等各機關ノ融和ニ依リテ真ニ對滿政策遂行ノ実ヲ全ウスヘク之今日迄ノ經驗ニ徴スルモ明ナリ即チ要ハ人ノ問題ニシテ制度ノ缺陷ヲ云為ス可カラス

三、外務省ノ本来ノ職責ハ對滿支那當局トノ懸案交渉及奧地邦人ノ發展策ヲ講究ス可キニアリ自ラ好ンテ内地行政機關ノ行政圈内ノ事務ニ從事シ内政機關化スルカ如キハ

其本来ノ面目ニ反ス可キヲ以テ領事官タルモノハ宜敷眼ヲ大局ニ注キ附屬地行政ノ如キハ出來得ル限り關東庁滿鐵ヲシテ實行セシメハ可ナリ

以上ノ外尚種々ナル反對意見ハアル可キモ歸スル所前記三點ニ尽キ居ルヤニ認メラル而シテ之等反對理由ハ何レモ一応ノ理由ナキニ非スト雖モ右ハ何レモ單ナル理想論ニシテ實際上ノ體驗ヨリスル時ハ今日ノ制度ヲ以テ長ク満足ス可キモノニ非サルヲ覺リ得ルナリ今左ニ二三氣付ノ點ヲ述ヘン

現制度ニ對スル反對理由ノ諸點

第一、所謂現内地延長主義ヲ以テ對滿政策ノ根本方針ナリト云フハ実情ヲ知ラサルモノノ謬見ナリ現制度ハ關東庁ノ附屬地警察行政其他二三ノ行政權ヲ認ムト雖モ之單ニ附屬地ノミニ限ラレ居ルモノニシテ若シ附屬地施設ノミヲ内地ト同様ナラシメ附屬地外殊ニ北滿方面等ニ對シ何等顧ミスト云フナラハ之甚シク消極的ナル政策ト云フ可ク吾人ノ見解ヲ以テスレハ今後ノ滿洲經營ハ寧ロ附屬地外奧地ノ經營ヲ指スモノニシテ對滿政策ノ理想ハ滿洲全体ヲシテ漸次邦人活動ノ自由天地タラシムルコトニアリ

カ如キ現制度ニ於テハ言フ可クシテ行ナヒ得サル有様ナルカ世上動モスレハ之ヲ以テ直チニ領事官ノ無能呼ハワリヲ為スモノアルモ之餘リニ實際ヲ知ラサルモノノ言ナリ今參考ノ為現制度カ生スル弊害ノ二三ヲ挙ケンカ所謂現制度カ内地延長主義ヲ標榜シテ却テ其反對ノ結果ヲ生シツツアル所以ヲ推測スルニ足ルモノアラン

一、關東庁ハ附屬地内ニ對シ例ハ産業金融其他各般ノ經濟法令ヲ制定シテ附屬地内邦人ノ保護助長ニ從事シ居レルモ一步附屬地外ノ邦人ニ對シテハ殆ント省ミル処ナシ其結果附屬地外ノ邦人カ附屬地内ト同様恩典ニ浴シ得サル為往々ニシテ不平ヲ洩ラス事アリ最近金融組合條例無尽法令制定ノ如キ一例ニシテ之等法令ニハ多少其間ノ調和ヲ計ル可キ何等弁法ナキニシモアラスト雖モ到底満足ナル能ハス然ラハ附屬地外ニ對シ領事館側カ同様ノ施設ヲ施行シ得可キカト云フニ金ト人ト手不足ナル外務省トシテ何等為シ得サル有様ナリ仮リニ為シ得可シトスルモ同一經濟圈内ニ異ナリタル二個ノ機關ニ依リ別々ノ經濟施設ヲ為スカ如キハ夫自体甚タシキ奇現象ナリト云フ可シ

二、最近御大典奉祝ニ際シ政府ハ滿鉄附屬地ヲ内地ニ準シ同地域内在留邦人ニ対スル酒饌料ノ交付資格範圍ヲ全然内地並ニ取扱ヒタルニ反シ附屬地外ハ外国領土ナル故ヲ以テ他ノ外国領土在留邦人ト同様ニ取扱ヒ其結果兩者ノ間ニ資格ノ有無ニ付甚タシキ懸隔ヲ生シ偶々附屬地外ニ居住セルカ為右酒饌料ノ恩典ニ預リ得サル者ヲ多数生シタル実例アリ依テ已ムヲ得サル弁法トシテ之等ノ者ヲ便宜附屬地内ニ仮移住所ヲ設ケシメタルカ加キコトアリ即チ今回ノ取扱ヒハ結果ニ於テ附屬地内ヲ尊重シタルコトナリ一般在留民ノ腦裡ニモ附屬地内居住ノ明カニ得策ナルヲ印象付ケ動モスレハ警備其他ノ關係等ヨリ附屬地内ニ引籠ラントスル地方在留民ヲシテ一層其傾向ヲ強カラシムル結果トナリタル感アリ若シ夫レ附屬地ト附屬地外トカ相当遠隔ノ距離ニアリ或ハ又日常生活上全然別箇ニ取扱ヒ得可キ何等カノ區別存シ居ルニ於テハ斯カル相違ノ生スルモ又已ムヲ得サルモノナリト雖モ所謂行政權ノ存在セルト否トハ之カ居住者ノ社会的乃至經濟的生活方面ヨリセハ何等區別スヘキ標準ト認メ難キノミナラス寧ロ兩者

國際都市ニ対シ注意ス可キ点等ヲ警察官ニ於テ抱クモノ甚タ少ナク斯ノ如キハ畢竟植民地機關タル関東庁ヲシテ附屬地ニ於ケル警察權ヲ掌握セシムル為警察官養成方法ノ如キモ自然内地式トナリ加之関東庁ノ方針自体内地式ナルニヨルモノナル可ク例ハ禁制品取扱ヒニ関スル関東庁側ノ態度ハ同庁令ヲ以テ処分スル方針ナルカ故ニ支那人ニシテ附屬地内ニ禁制品ヲ所持スル者アル場合ハ直チニ之ヲ庁令ニ依リテ没収シ居リ其後支那人側ヨリ如何ナル理由ニ依リ返却方申出ツルモ已ニ庁令ニ依リ処分済ナリノ一点張りニテ返却シ来ラサルコトアリ右ハ内地警察取締ノ觀念ヨリセハ当然ノ処置ナルヘシト雖モ此種没収禁制品ハ本来ナラハ支那人側ニ返還シ支那人側ヲシテ犯人ノ処罰ヲ要求スヘキ筋合ナル可ク將又仮リニ没収シテ差支ナシトスルモ若シ支那人側ノ返却要求理由ニシテ相当ノ理由アリト認メ又ハ我方ヨリ返却スル方對支政策上得策トスル場合ニハ庁令ニ依リ処分後ナリト雖モ返却シ可然モノナルニ不拘内地式取締ヲ振り舞ハシテ遂ニ返却シ来ラス為ニ我方ヨリ支那人側ニ對スル要求關係ニ影響ヲ及ホスコト少カラス例ハ附屬地外ニ於テ日本人カ禁制品ヲ支那人

ヲ混然融和セシムルコト對策上得策ナルコト言フ俟タル所ナラン
即チ叙上ノ一二ノ実例ヲ以テスルモ之等ハ現制度ノ下ニ所謂人ノ和ヲ以テ償ヒ得ヘキ筋合ノモノニ非ス又内地延長主義ニ基ク現制度カ偶々反對ノ結果ヲ生シ居ルモノナルヲ知ルヲ得可シ

第二、附屬地警察權ハ関東庁ニ所屬シ居ル処右警察官ノ支那人ニ對スル態度ハ一言ニシテ云ヘハ内地人ニ對スルト同様ノ態度ナルヲ免カレス然ルニ附屬地ハ帝國政府ニ於テ行政權ヲ有スト雖モ之ヲ支那人又ハ外国人ノ念頭ヨリ觀ル時ハ帝國ノ領土ト見做シ居ラサルハ勿論其行政權ノ論拠ニ對シテモ時ニ疑念ヲ挿ム懼ナシトセス旁附屬地内居住ノ支那人外国人ニシテ我警察官ノ取扱ヒニ對シ不平不滿ヲ抱ク者往々アリ例ハ関東庁及滿鉄ニ於テ附屬地取締規則其他ニ関シ外支人ニ對スル何等ノ周知方法ヲモ講シ居ラス例ヘハ自動車取締規則ノ如キモ外国人ハ其取締規則ノ内容ヲ知ル方法モナク而モ突然規則違反ノ故ヲ以テ処罰セラレルニ對シ諍カラス不滿ヲ抱キ居ル実例アリ又支那人ニ對スル取締振ノ如キモ徒ラニ苛酷ニ流レ所謂

憲ニ依リ没収セラレタル場合当方ヨリ返還請求ヲナスモ支那人側ニテ前記関東庁側ノ遣口ヲ口実トシテ返還ニ応セサルコト多シ斯ル場合当方ハ不得止他ノ方法ニ依リ返還セシムル様措置シ居ルモ其間無用ニ支那人側ノ感情ヲ傷クル懼ナキニ非ス本件禁制品没収ノ措置ニ付テハ前記理由ヨリ関東庁側取扱ニ相当改正ヲ加フル要アリト認ムルモ同庁トシテハ附屬地取締ノ一方の方面ノミヨリ觀察シ居ル為之カ改正ノ如キモ容易ナラサルカ如シ更ニ又近來時局ノ變転ニ伴ヒ所謂本邦人浪人ノ滿洲方面ニ策動スル傾向アル処之カ取締方ニ関シ領事館側ニテ関東庁ト協力シ居ルモ出先警察官ノ領事館ニ對スル報告振リハ何トナク隔靴爬痒ノ感アリ其ノ結果取締上充分ノ效果ヲ挙げ難キ事多シ殊ニ事件ノ重大機微ナル場合ニ於テ一層然リトス又一方ニ於テハ之等ノ浪人取締上関東庁側ノ意向ト相違スル場合附屬地警察官トシテハ直屬關係ノ性質上自然関東庁側ノ意向ヲ尊重シ其結果領事館側ノ敏速徹底ナル取締要求ニ応スルニ十分ナラサル場合多シ
此外警察權カ関東庁ニ帰屬シ一方司法權カ領事官之ヲ管掌シ居ル關係上生スル一ツノ弊ハ司法警察權ト行政警察

権ノ区分困難ナル為兩者ノ中何レノ権限トシテ發動ス可キヤニ屢々疑ヲ生シ其間往々ニシテ積極消極ノ権限爭ヲ生スル事アリ

更ニ又奧地警察權ト附屬地警察權トノ關係ヲ見ルニ元來關東庁警察權ハ附屬地内ニ局限セラレ附屬地外ハ外務省管轄ニ屬スヘキモノナルモ實際上ハ附屬地接壤地警察官ハ其身分關東庁ニ屬シ只形式上外務省警察官ヲ兼任シ居ルニ不過然ルニ奧地警察官ハ一方ニ純然タル外務省警察官ヲ有シ居リ地方關東庁警察官ヲ配屬シ居ル等異系統ノ警察官存在スル為之ヲ統轄スルニ當リ各地領事館分館主任ニ於テ不尠不便ヲ感スルコトアリ右分館主任等ヨリ關東庁警察官撤退方ヲ要求シ來ル事往々アル有様ナリ

叙上ノ諸点ハ主トシテ現制度カ制度上當然生スル弊害ノ二三ヲ指摘シタルモノニシテ之等弊害ノ中ニハ或ハ所謂人ノ和ニ依リ解決シ得ル点ナキニシモ非ストハ雖偶々各機關主腦ノ協調アリトスルモ各末稍機關凡テニ對シ人ノ和ヲ得ハ解決ス可シト云フカ如キハ人間ヲ神化セントスルモノノ言ニシテ難キヲ強ヒムトスルモノナル可ク人ノ和ニ依リ凡テヲ解決セントスルハ恰モ人間ノ正直ニ頼リテ國家財政ノ

權威ヲ少カラシメタル事ハ過去往往見受ケル所ナリ即チ之等ノ点ヲ考慮スル時ハ滿洲ニ於ケル領事官ニ對シテハ内政的ニモ相當重キ地位ヲ与ヘ置クコト國際上頗ル必要ナリ

如上叙述スル所ハ現三頭政治ノ制度上齟齬弊害乃至不利益ノ一端ヲ述ヘタル迄ニシテ此外詳論スル時ハ更ニ領事官對關東庁又關東庁對滿鉄其他各種機關ノ併立ヨリ生スル幾多ノ缺陷ヲ挙ケ得可ク而シテ之カ是正ハ為政者タルモノ諸般ノ点ニ於テ慎重考慮ス可キモノアリト雖前記缺陷ヲ是正スル根本方策トシテハ先以テ關東庁ノ州外警察權ヲ外務省ニ移管スルニアリト思考ス然ルニ近來仄聞スル所ニ依レハ關東長官ハ前兒玉長官當時ヨリ現在滿鉄ノ所管事項タル地方行政事務ヲ關東庁ニテ一切掌握セント考ヘ最近現木下長官ハ愈々之レカ具体案ヲ政府當局ニ具申セリトノコトナルカ果シテ事實ナリトセハ右ハ前記缺陷ヲ一層増大セシムルノミナラス滿蒙ノ内地植民地化スル名目ニ藉ラレテ却テ其事實ヲ挙ケ得サル結果ヲ招來スル懼アリ固ヨリ滿蒙カ將來帝國ノ生存上緊密不可離ノ關係ニアリ從テ出來得可クンハ之ヲ純然タル植民地化シ度キハ何人モ異論ナキ所ナルカ此

出納ニ對スル會計検査院ノ廃止ヲ主張スルニ似タリ

第三、論者ハ又外務省本来ノ職責ハ對支那當局トノ懸案交渉乃至奧地發展策ノ攻究ニヨリテ附屬地内警察權問題其他各般ノ行政問題ノ如キハ之ヲ植民地機關タル關東庁其他ニ依嘱シ置キ自ラハ更ニ大局ニ着目ス可シト為スモノアリ此論タルヤ一応尤モノ論ニシテ事實現在ノ外務省職員ニテハ所謂附屬地内政問題等ニ関涉スル丈ケノ實力ナシ乍然之ヲ實際の見地ヨリ眺ムルニ沿線駐在總領事、領事等ニ對スル支那側ノ觀念ハ常ニ總領事領事等ノ内政的地位ノ如何ニ依リ左右セラルル事多シ例之總領事ト關東長官或ハ軍司令官トノ内政的勢力ノ輕重或ハ警察署長、地方事務所長ト領事トノ關係ノ如キハ直チニ支那側ニ響キ其結果ハ總領事領事等ノ對支交涉上ニモ影響スルコト少カラス如斯ハ一見些々タル問題ニ似タリト雖微ナル支那人ノ心裡ヲ利用スル上ニ於テ政府トシテハ大ニ考慮ス可キ点ナリ又例ヘハ領事官ハ警察權ヲ掌握セス關東長官之ヲ有シ領事トシテハ左シテ對内的勢力ヲ有セサル如キ感ヲ与ヘ又總領事カ關東庁事務官ヲ兼任スル如キ(今日ハナキモ)夫々面白カラサル印象ヲ与ヘ延ヒテ領事ノ

大方針實現ノ方法ト時期トニ付テハ十分考究ヲ要スルト共ニ所謂出來得ル限り名ヲ捨テテ実ヲ執ル方針ニ出ツルヲ要ス

惟フニ吾人ノ意見ヲ以テセハ之等過去幾多ノ前例ニ鑑ミ又前記三頭行政ヨリ生スル缺陷是正ノ見地ヨリセハ今後對滿政策ノ積極方針ハ所謂陽ニ消極方針ヲ標榜シ陰ニ積極政策ヲ講スル為飽ク迄外務省ヲシテ之ヲ講究實現セシムル事最モ策ノ得タルモノト認ム之レカ為ニハ先ツ前記州外警察權ヲ外務省ニ移スト同時ニ現在奉天總領事館ヲ少クモ現關東庁程度ニ拡張シ親任官級ノ總領事ヲ配置シ其下ニ部局ヲ設置シテ對外交渉ヲ始メ附屬地内外行政事務ヲ分掌セシメ滿洲一帶ノ警察權及關東軍司令官ニ對スル出兵請求權ヲ附与シ在滿日鮮人ノ統轄機關トシ以テ附屬地タルト奧地タルトニ区制ヲ設ケス均シク同一方針ノ許ニ在留帝國臣民ノ保護取締ヲ講セシムルコト頗ル必要ナリト認ム

而シテ右方針ノ第一着手タル州外附屬地警察權移管ノ為ニ所要ス可キ經費ハ現關東庁側ノ警察經費ヲ流用スルカ或ハ滿鉄会社ノ政府配當金ヲ増加スレハ支弁スルヲ得ヘシ尚州外警察權ヲ外務省ニ移管スル場合ニハ關東庁ノ権限ハ

事實上頗ル縮少セラルルヲ以テ其長官ヲ勅任級ニ改メ涉外
關係ニ於テハ奉天總領事ノ指揮監督ヲ受ケシムヘク滿鉄ノ
監督權モ亦當然奉天總領事ニ帰屬セシムヘシ

165 昭和4年3月27日

在奉天森島總領事代理より
田中外務大臣宛

中国最近の時局に対する奉軍の態度について

機密公第三一八号

(4月2日接受)

昭和四年三月二十七日

在奉天

總領事代理 森島 守人(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

支那時局ニ対スル奉軍ノ態度ニ関スル件

支那最近ノ時局ニ関シ張學良ハ馮玉祥ノ勢力増加ハ臆テ馮
玉祥系勢力ノ東北諸省ニ侵入ノ階梯タルヘキヲ恐レ且ツ易
職以來張學良對蔣介石ノ公私交渉ノ比較的融和ヲ保持シ来
レル關係モアリ過般蔣介石ヨリ軍費四百萬元歩銃二万挺
「タンク」二台小銃彈藥二千一万発其他ヲ要求シ来レルニ
對シ「タンク」二台ハ既ニ之ヲ送付シ其他軍費若干歩銃五

千挺重野砲八門迫撃砲三十門ノ追送ヲ承諾シタル情報モア
リ張學良ノ蔣介石援助ハ或程度迄実現シ居ル処他面山西派
ニ對シテハ同派カ馮玉祥ノ勢力増加ヲ恐レ居ル実情アルニ
察シ過般来山西派代表張維清、張仁等ノ帰還ニ際シ張學良
ヨリ代表トシテ講武堂堂教育長鮑文樾等ヲ派シ又同派ニ對
シ歩銃三千挺其他武器彈藥ノ供給ヲ約シタル事実アリ該現
品ハ平津不安ノ為メ途中他軍ニ横奪サルルヲ懸念シ未タ之
ヲ送致スルニ至ラサルカ如キモ張學良ノ山西派提携ノ進捗
シ居ルコトモ掩フヘカラサル実情ナリ

叙上ノ如ク張學良其将来ノ地位確保ノ為メ蔣介石及閻錫山
ニ結ビ馮玉祥ノ勢力増大ヲ抑制スルニ苦心ヲ払ヒツアル
モ時局ノ推移ニ依リテハ猶ホ一層ノ犠牲ヲ払フノ必要ニ迫
ラルルナキヲ保セス而シテ其犠牲ノ程度ニ依リテハ直接間
接東北四省ノ政情ニ反映ヲ来スヘキハ自然ノ成行キニシテ
将来共深甚ノ注意ヲ要スヘキモノアリ

東北四省ノ財政ハ連年ノ戦乱ニ依リ非常ノ窮乏ヲ来シ奉票
ノ発行ハ二十億元内外ニ達シ然モ兌換見返リ金銀貨ハ数百
萬元ニ過キサル情況ニシテ奉票ノ整理ハ昨年来ノ平和情態
ニ於テモ到底困難ナルハ勿論軍事内政等經常諸費收支ノ辻

之ヲ彌縫スルノ外ナキカ如シ

棲モ頗ル不安ノ情態ニアリ即チ吉林省ハ平時一ケ年数百万
元乃至一千万元ノ歳出剩餘金ヲ有シ東北四省中最モ富裕ノ
称アルモ張作相ノ消極的態度ハ之ヲ他省ニ融通スルモノニ
非ス黑龍江省ハ収支猶ホ甚シキ不足ヲ見ス熱河省ノ一般財
政ハ頗ル窘窮シ其ノ軍政費ハ常ニ不足ヲ生シ居ルモ阿片税
ノ收入ヲ以テセハ其不足補填モ甚シキ困難ニアラサルカ如
シ独リ奉天省ハ東北陸軍歩兵十五ケ旅、騎兵二ケ旅、砲兵
三団、工兵二団、其他航空、輜重ノ彪大ナル兵力ヲ擁シ其
經常軍費ハ歩兵一団一ケ年銀六十七萬元平均ヲ目安トシ以
上計五十六団ノ一ケ年經常費ハ銀三千七百萬餘元及兵工廠
ノ經常費一ケ年約二千万元其他東北边防司令長官ノ經費最
少一ケ年銀三百萬元、計銀六千万元ヲ要ス而シテ奉天省ノ
税賦統捐等一ケ年ノ經常收入ハ約二千二百萬元ニシテ其大
部分ハ行政、教育実業、交渉及徵稅諸費ニ充当シ軍費ニ流
用シ得ヘキモノハ僅々一千万元内外ニ過キス結局前頭軍事
軍政費ハ塩稅收入約二千五百萬元平奉鐵道其他ノ交通機關
收入一千五百萬元、一般政費餘剩一千万元計銀五千五百萬
元内外ヨリ支出セサルヲ得サル窮狀ニシテ一ケ年ノ收入不
足銀五百萬元ハ軍事費ノ滯リトナリ或ハ奉票ノ増発ニ依リ

奉天省ノ財政ハ叙上ノ如ク現在ノ兵力ヲ維持スルニ於テハ
少カラス不足ヲ来シ其彌縫モ亦容易ナラス万一政情不安ヲ
招ケハ軍隊ノ移動兵器彈藥ノ増発等夥シキ臨時費ノ支出ヲ
要シ其經理ハ益々困難ヲ来スヘキヲ以テ財政上ヨリ見ハ張
學良ハ自己ノ勢力範圍以外ニ兵力ノ使用ハ全ク不可能ニシ
テ将来馮玉祥軍ニ對シテハ蔣介石、閻錫山等馮玉祥反對側
ニ間接ノ援助ヲ行フ程度ヲ超ユヘカラサルモノノ如シ平津
一帯ニ駐屯スル軍隊ハ山西派ヲ除キ蔣介石軍、馮玉祥系軍
隊ト称シ居ルモ孰レモ其直系ニ非ス方振武軍ノ如キハ昨年
来熱河侵入ノ野心アリト称セラレ平津方面ノ政情ニ依リテ
ハ熱河ニ對シテ再ヒ攻勢ヲ採ルナキヲ保セス殊ニ張學良側
ノ警戒ヲ加ヘ居ルハ張宗昌等共和同盟派ノ活動ニシテ彼等
ハ山東ニ於ケル張宗昌ノ地盤確保ニ伴ヒ陳調元部下ニ屬シ
居ル孫傳芳系李寶章、鄭俊彦等ノ旧部及山西派ニ改編セラ
レタル張宗昌、褚玉璞等ノ旧部下等ヲ中心トスル平津奪回
運動ナリ同一派ノ活動ハ過般北平梅檀寺駐兵ノ解決後一般
ニ甚シキ警戒ヲ加ヘラレ一時停頓ヲ来シ居ルモ中支ノ動乱
ニ伴ヒ平津ニ於ケル各色軍ノ移動爭奪等軍心ノ動揺ヲ招ク

ニ乗シ再ヒ擡頭スヘキハ想像ニ難カラス其成否ハ多大ノ疑問ニ屬スヘキモ其推移如何ニ依リテハ奉軍中ノ于學忠、熱河ノ湯玉麟等ハ之ニ参加ノ可能性多キモノニシテ前途ハ逆睹スヘカラサルモノアリ

現在奉天ノ政情ハ格別ノ變調ヲ見ス張宗昌一派ハ山東ノ地盤確保ト平津一帶ノ攪亂乃至奪回ニ没頭シ又他ヲ顧ミルノ暇ナキ状態ニシテ東北四省ニハ未タ格別一派ノ活動ト見ルヘキモノナキカ如ク唯タ奉軍ニハ保定軍官學堂系及奉天講武學堂系ノ分派アリ保定系ニハ榮臻胡毓坤等勢力アリ講武學堂系ハ各旅団長等多數ノ同志ヲ擁スルモ其有力者ハ郭松齡カ同校々長タリシ當時ノ学生出身ニシテ郭松齡ニ傾倒シ今猶ホ之ヲ追慕シ張學良父子ニ對シテハ甚シキ憎惡心ヲ有ストノ定評アルモノニシテ彼等ハ張學良カ同校出身ノ同窓トシテ表面其傘下ニ加ハリ其權勢ヲ維持シ居ルモノナルニ對シ張學良ノ同窓及其校長以來ノ学生ハ近時著シク其緣故ヲ利用シ各自ノ立身ヲ希圖スル為メ先輩ヲ凌駕シ郭松齡關係者ノ不滿ヲ招キ居ル消息モアリ右ハ何レノ地ニモ通有ノ暗潮ニシテ深く介意スルノ要ナキニ似タルモ張學良ノ声望未タ重カラサル今日ニ於テハ必シモ輕視スルヲ許サス

目下奉軍系中實力ヲ有スルモノハ張作相、湯玉麟、萬福麟、張景惠、吳泰來、張海鵬、于芷山、于學忠、鄒作華等ニシテ于學忠、湯玉麟ノ態度ハ未タ格別ノ鋒銳ヲ出ササルモ必シモ張學良ヲ支持スルモノニ非サルハ前述ノ如ク張作相、張景惠ハ張學良ニ反抗スルコト之ヲ從來ノ公私關係及其性格ニ顧ミ万ナカルヘキモ張學良ト運命ヲ共ニスルモノトハ想像シ得ス萬福麟、吳泰來ハ其實力ニ於テ劣リ到底波瀾ヲ捲ク底ノ人物ニモ非ストノ定評アリ張海鵬、于芷山ハ其人物及部下軍隊共ニ旧式ニシテ實力ト声望ヲ缺クモ湯玉麟トハ最も深キ關係アリ湯玉麟ノ活動ヲ見ハ當然同人等モ之ニ策動スヘキモノト認メラル

鄒作華ハ吉林系軍官中最モ声望ト實力ヲ有シ且ツ吉林出身ノ青年改善等ハ多ク吉林ノ自主ヲ高潮シ奉天人タル張作相ニ反感アリテ鄒作華ノ吉林帰還ヲ熱望シ居ル内情アリ鄒作華モ亦頗ル野心アリトノ定評アリ張作相ノ同人等ニ對スル警戒ハ頗ル嚴密ニテ其全力ヲ用ヒテ之ニ當ルモノノ如ク且ツ張景惠亦之ヲ支援シ張學良ト雖モ鄒作華主動ノ波紋ハ必ス本人ニ及フヘキ情勢ヨリ張作相援助ニ傾ク可能性多キ為メ鄒作華モ亦自重シ居ル消息アリ其他ハ何レモ大同小異ニ

シテ勢力ノ推移ハ容易ニ見定メ得ス卒先發難者ノ出現セス各自重セルコトハ奉軍ノ現勢ナルカ如シ

奉軍ノ内情叙上ノ如ク張作霖ノ執政當時ニ比シ變化アリ張學良ノ地位ハ發難者タル人才ノ乏シキト財政其他地方官民ノ和平熱望ノ熾烈ナル消極的環境ニ依リテ維持セラレ居ルモノニシテ關外ノ問題ニ對シ例令馮玉祥ノ勢力増加ヲ極力阻止スル熱望アリトスルモ僅ニ蔣介石及閻錫山一派ニ財政及武器ノ援助ヲナスニ過キサルヘシト觀察サル

本信写送付先 在支公使

昭和4年3月28日 在チチハル清水領事より
田中外務大臣宛

黑龍江省政府の国民政府への対処状況について
本機密第七二号 (4月5日接受)

昭和四年三月二十八日

在齊々哈爾

領事 清水 八百一〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

南京政府ニ對スル当省政府ノ態度ニ關スル件

南北妥協後ニ於ケル当省政府ノ南京政府ニ對スル態度ヲ見ルニ当省政府ハ南京政府ニ對シ大体不離不即ノ態度ヲ持シ居レルモノノ如シ右ハ當省政府独自ノ意見ニ出テタルモノニアラスシテ總テ奉天ノ指揮ニ從ヒ若シクハ其態度ニ倣ヒツツアルモノト認メラル今當省政府ト南京政府間ノ關係ヲ示セハ左ノ如シ

一、中央政府法令

中央政府法令ハ省政府公報ニ掲載シツツアリ

二、中央政府ノ照会

中央政府ヨリ當省政府ニ向ツテ各種ノ照会アル由ナルモ多クハ其儘ニ捨置キ回答セズ唯奉天ヨリ注意アリタルモノニ對シテハ回答シ居ル由ナリ例ヘハ最近南京政府ヨリ奉天ヲ經テ黑龍江省ニ於ケル在留外國人數ノ調査報告方ヲ命ジ來レリ右ハ奉天ヨリ報告方中來レルヨリ當省政府ニ於テハ調査報告シタル由ナリ

三、省政府改組後ニ於ケル事務取扱振

南京政府ノ制度ニ倣ヒ本年二月省政府ノ組織ヲ改變シタルモ右ハ事實ニ於テハ名稱ヲ變更シ二三ノ局課ヲ撤廃、併合、増設シタル位ニ止マリ事務ノ處理振ニ付テハ殆ン

ト從前ト異ナルコトナシ

四、国民党支部

南京政府ニ於テハ当地ニモ国民党支部ヲ開設シタキ意嚮アルモノノ如ク当地ヨリ奉天ノ意嚮ヲ伺ヒタルニ其ノ開設ヲ許可シ来ラサリシ由ニテ省政府トシテハ当分ハ当地ニ国民党支部ノ設立ヲ許サル方針ナルモノノ如シ尤モ国民党ニ属スル人物二三名当地ニアリテ（右人物ハ哈爾濱方面ヨリ入込メルモノナリトモ謂ハレ又当地人ニシテ旧国民党員ナリシモノナリトモ謂ハレ此点明ナラス）内密ニ運動シ当地中学校以上ノ学生トモ聯絡ヲ取り排日運動ノ準備ヲ為シ居ル由ナリ（排日運動ニ関シテハ小官ハ時々省当局ノ注意ヲ促シ省政府側ニ於テハ若シ排日運動等現ハル場合ニハ充分取締ヲ為スヘキ旨言明シ居レリ）尚ホ萬主席ハ本月六日ヨリ十七日迄当地ニ開催セラレタル全省教育行政會議ニ於ケル訓示演談中此点ニ関シ近来国民党員ト称シテ当地方ニ往來スルモノアル趣ナル処当省政府トシテハ南京政府ノ紹介状ヲ有スルモノニ對シテハ相當待遇ヲ与フヘキモ紹介状ナキモノニ對シテハ特ニ便宜ヲ与ヘサル方針ナリ從テ今後国民党員

奉天票の下落状況と我方商工業者に対する影響について

公第三二九号

（4月5日接受）

昭和四年四月一日

在奉天

総領事代理 森島 守人〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

大額奉票発行ト共ニ其影響等ニ関スル件

本件ニ関シ別紙ノ通査報ス御査閱相成度

本信写送付先 在支公使 上海商務官

（別紙）

大額奉票発行ト其影響

二月末先物三千三百元現物三千元ヲ唱ヘタル奉票ハ三月初旬五十元百元ノ大額票発行ノ為暴落ヲ続ケ昨今ニ於テハ三千九百元台搦ミ四千元突破モ目睫ノ間ニ迫レル処之カ影響其他ニ関シ概説スレハ左ノ如シ

一、新票発行 官銀号ノ大額奉票発行ニ関シテハ已報ノ次第モアル処今回愈其発行ヲ見タルカ其発行総額ハ確数ヲ

ト称シテ省内各地ニ到ルモノアリテモ当省政府ノ紹介状ナキモノニ對シテハ何等便宜ヲ与フル必要ナシ云々ト注意シタル由ナリ

五、第三回国民大会ニ對スル当省代表

萬主席ハ第三回国民大会ニ向ケ當省代表トシテ曾テ當省議會議員タリシコトアル巴彥県人黃柱山ヲ派遣セントシ奉天ノ承認ヲ求メタルニ奉天ヨリ代表ヲ派遣スルニ及ハスト回答アリタルヨリ代表派遣ヲ中止セル由ナリ尚ホ最近黑龍江省代表トシテ第三回大会ニ列席シ居ル由新聞紙上ニ伝ヘラレ居ル單成儀、熊秉坤、劉健龍ノ三名ハ黑龍江省ヨリ派遣セラレタルモノニアラサルハ勿論当地方ニテハ其ノ如何ナル人物ナルヤ名前サヘ知ルモノナシ

右報告ス

本信写送附先 在支公使 奉天 哈爾濱 吉林総領事 滿

洲里 南京領事 閔東庁 齊々哈爾滿鉄公

所

167

昭和4年4月1日

在奉天森島総領事代理より
田中外務大臣宛

知リ難キモ別項所述並ニ諸情報ヲ綜合スレハ二十億ニ垂ントスルモノノ如キ処其發行事情ニ関シテハ

(イ)奉票暴落ノ結果在來ノ小額紙幣ニテハ收支計算ニ不便ナルコト

(ロ)大額紙幣ヲ發行シ奉票市価ノ暴落ヲ待チ現洋票ヲ發行シテ旧票ヲ回収スルコト

ノ二理由ヲ挙ケラルル処現洋票發行説ハ既報ノ通り客年來巷間頻リニ伝ヘラレ居リ或ハ一時ノ彌縫策トシテ其実現ヲ見ルナキヲ保シ難シト雖現洋票亦兌換準備ナキ不換紙幣ナルヲ以テ結局ハ奉票ト同一運命ニ陥ルヘキモノト觀ルヘク新票發行ニ関スル省政府側ノ佈告中ニ新紙幣五十元百元券ノ發行ヲ許シタルハ一ニ旧票ノ回収ヲ目的トスルモノニ付誤解ナキ様云々（三月四日遼寧省公報所載）ト宣佈シ居リ当局以外新票發行ニ賛スル者ナキハ別項ニ述フル所ノ如シ

二、新票發行ニ至レル事情 急遽新票發行ニ至レル一因ハ諸官衙軍隊等ノ給料支払用ニ充ツル外主トシテ特產賣占資金ニ充當スル目的ノ下ニ行ハレタルモノノ如ク即チ三月十五日引取ノ奥地買占特產物主トシテ大豆ハ開原八千

五百車公主嶺一千二百車計九千七百車ト称セラレ此價格約二千四百二十五万円（一車約二千五百円ト看做）此奉票換算九億二千五百萬元（金對奉票三千八百元替）ニシテ之カ決済資金トシテ三月初旬ヨリ同月十一日迄開公兩地ニ送致セラレタル奉票ハ奉天駅受付官銀号申告額ニ依レハ七億一千元ナルモ其後ノ發送モ繼續セラレタル趣ナレハ奧地仕向奉票ハ優ニ十億ニ達スルモノト想像セラ

三、總商会其他ノ反対 總商会正副會長等ハ三月十一日省長公署ニ翟主席ヲ往訪シ官銀号ノ大額票發行後紙価低落物価騰貴シ商民ニ多大ノ脅威ヲ与ヘタル事實ヲ述ヘ其發行停止ハ素ヨリ官銀号ノ現洋金票及穀類ノ購入禁止方ヲ請願シ且同号ノ態度ヲ非難シタル趣ニテ又漢字紙新亞日報ニ於テモ十四日附同紙ニ「何以維持奉票」ト題シ新紙幣發行ヲ難シタル記事ヲ掲載セリ

四、新票發行ト其影響 官銀号ノ新票濫發ノ結果紙価低落物価騰貴ヲ招来シ巡警ノ増俸運動小資本錢舖ノ倒産等統出シ就中輸入業者ノ如キハ休業届ヲ總商会ニ提出スルモノ日々数件ニ上ルト称セラレ是ヲ以テ商界各代表者ハ官

（欄外記入）

銀号側ノ出席ヲモ求メ近ク總商会内ニ大会ヲ開キ商民救済辦法ヲ商議シ其決議ニ基キ当局ニ對シ奉票根本的整理ノ請願ヲナス豫定ナリト云フ

因ニ邦商ハ現今ニ於テハ奉票ヲ以テ商取引ヲナスモノ殆ント無ク從ツテ直接ニ奉票下落ニ依ル影響ヲ被ルモノナシ

五、現洋票發行說 官銀号ハ新票發行ノ結果奉票暴落シタルヲ以テ豫テノ企画ノ通り近ク現洋票一億元ヲ發行シ已發奉票ノ大半ヲ回收スヘシトノ説伝ヘラルル処省城地方ニ在リテハ奉票ヲ輕視シ居リ差シタル効果ナカルヘク現ニ支商有力者間ニハ縱令準備金ナキ現洋票ヲ發行スルトモ間モナク旧奉票ト何等異ルナキ結果ヲ来スヘシト称シ居レリ

（欄外記入）

下落ノ場合ニ於ケル直接損害ハ常ニ大ナラサルモ間接的損害ハ実ニ甚大ナリ

168

昭和4年4月6日 在間島鈴木總領事より
田中外務大臣宛

水害を被った朝鮮人小作農に対する吉林省政府の救済令について

機密第三九三号

（4月12日接受）

昭和四年四月六日

在間島

總領事 鈴木 要太郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

支那側ノ小作鮮農救護方訓令ニ関スル件

（琿春頭道溝分署長報告）

本件ニ関シ吉林省政府主席委員張作相ハ三月二十五日附ヲ以テ延吉交渉員ヲ經由シ各県知事宛左記訳文要旨ノ訓令ヲ發シタル由ナルカ琿春県知事ハ更ニ之ヲ隸下所屬機關ニ轉令シタリト御参考迄

記

客年省内東南地方ハ未曾有ノ水災ニ因リ農作ノ凶収ハ一部華人及小作鮮農ヲ極度ノ疲弊ニ陥ラシメタリ省政府ハ曩ニ地方長官ニ命シテ此等貧農ノ救護方ヲ講セシムルノ外三万

余石ノ救済穀ヲ東南水害地方八県ニ配給スル等極力之カ救恤ノ手段ヲ尽シツ、アリ然ルニ地方視察員ノ報告ニ依レハ華人地主等ハ客年春夏兩季ニ於テ彼等小作鮮農ニ青田貸又ハ現金ノ高利貸ヲ為シ農作凶収ノ為メ回收ノ望ミナキニモ不拘債務返済ノ督促峻烈ヲ極メ甚シキハ其家具等ヲ沒收スルカ如キ事例乏シカラス彼等鮮農ハ此ノ不法暴虐ナル措置ニ堪ユルコト能ハス陸統トシテ露領其地ヘ流転シツ、アリト聞ク從來彼等鮮農ハ一般ニ農事知識ニ富ミ農業ノ改良生産ノ増殖等ニ就テハ華人ノ遙カニ遠ク及ハサルモノアリ一省産業ノ開發上當分鮮農ノ利用ヲ必要トスル今日彼等多數ノ転住ヲ見ルニ至ランカ忽チニ生産能力ヲ減退シテ耕地ノ荒廢ヲ招来スルニ至ルヘシ就テハ當該各県地方官ハ此ノ際華人地主等ノ没道義的行為ニ對シ取締ヲ嚴ニスルト共ニ一面彼等鮮農ヲ救護安住セシムルノ方法ヲ講シ以テ鮮農利用ノ途其宜シキヲ得セシムル様配慮セラレンコトヲ望ム

右訓令ノ趣旨ヲ遵奉シ各所屬機關ニ於テハ小作鮮農ノ慰撫救護上遺憾ナキヲ期セラルヘシ

本信写送付先 北平公使、奉天、吉林、哈爾濱各總領事、長春、安東各領事、通化主任

朝鮮軍参謀長、第十九師団参謀長、羅南憲兵隊長、間島派遣員、延吉連絡班
管下各分館主任、各署長、分署長

169 昭和4年4月18日

在吉林川越総領事より
田中外務大臣宛

吉林省政府の国民党員活動阻止について

機密公第二八一号

(4月27日接受)

昭和四年四月十八日

在吉林

総領事 川 越 茂〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉林省政府ノ国民党員活動阻止ニ関スル件

吉林省当局ハ旧臘易幟以來省長公署ニ党務籌備処ノ看板ヲ掲クルト共ニ黨員カ任意党務機關ヲ組織スルコトヲ禁止スル等黨員ノ活動阻止ニ努メ居ル次第ハ拙信既報ノ通ナルカ国民党員ハ其ノ後尚秘密裡ニ活動ヲ続ケ青年学生ニ対スル入党ノ慫慂、党義ノ宣伝、罷工煽動等ニ努メ最近更ニ青年学生ヲ糾合シテ大々的入党自由ノ運動ヲ起サント企テ居ル

付加について

奉 天 4月20日後発

本 省 4月20日後着

第二九九号

当地税捐局ハ十九日朝係員ヲ城内本邦商店ニ派シ爾今城内搬入貨物ハ日本商取扱ノモノト雖銷場税四分ノ納付ヲ要スルコトナリタルヲ以テ各辺門ニ於テ検査ヲ為スヘキ旨通告シ今二十日ヨリ之ヲ開始シタルニ付一昨年ノ例ニ依リ警察官ヲ現場ニ派遣シ強制通関ヲ為スト共ニ支那側ニ対シ嚴重抗議中ナリ尚支那側ハ銷場税不納貨物ノ城外搬出ニ付テハ一週間前ヨリ護照ノ発給ヲ停止セリ不取敢
在滿洲各領事ヘ転電セリ

171 昭和4年4月22日

在局子街田中副領事より
田中外務大臣宛

間島地方における中国官憲による教育権回収

運動について

公信第一二七号

(5月2日接受)

昭和四年四月二十二日

コト官憲側ノ知ル処トナリ張主席ハ不取敢公安局及憲兵ヲシテ嚴重警戒セシムルト共ニ目下時局不安定ノ折柄ニモアリ党人ノ活動ヲ弾圧スルニアラサレハ事件ノ発生免レ難シトシ這回出奉ノ際張學良等ト協議ノ結果「日支交渉進行ノ折柄在吉黨員ハ窃カニ排日運動ヲ計画シツツアリタルモ幸未然ニ之ヲ阻止シタルカ右党人ノ行動ハ日支交渉ニ重大ナル障礙ヲ与フルモノナルニ付不取敢各黨員ニ離吉ヲ命シ大局安定シ日支交渉完了シタル後省政府ニ於テ党務ヲ籌辦シ度」旨国民政府ニ申請シタル処国民政府ニ於テハ中央党部ト協議ノ結果時局柄不得已トテ之ヲ許可シタルヤニテ当地国民党員ニ対シ四月十六日以後経費ヲ支出セサル旨四月十四日中央ヨリ通達シ来リタル趣ナリ
右報告ス

本信写送付先 北平、奉天、哈爾濱、間島、長春、松岡副社長

170 昭和4年4月20日

在奉天森島総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

奉天税捐局による日本商取扱貨物への銷場税

在局子街

副領事 田中 作〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

昭和四年四月二十日付公領第一〇一号写送付

管下各分署長宛

件 名

一、支那側ノ教育権回収計画ニ関スル件

公領第一〇一号

昭和四年四月二十日

在局子街 副領事 田中 作

管下各分署長宛

支那側ノ教育権回収計画ニ関スル件

支那側ハ近時我方金融産業教育等諸施設ニ對抗シ又ハ妨害ヲ加エ又ハ邦人ノ居住營業ヲ彼等ノ私設商埠地内ニ限定セントスル計策ヲ樹テ地方民衆力ヲ利用シテ目的ヲ達セント企謀シ居ルヤノ情報頻到シツツアリ而シテ当地官憲ハ省政府ノ訓令ニ基キ目下各方面ニ渉リ之カ資料ヲ蒐集スル一方不平等条約廢棄宣伝ヲ行ヒ民間ニハ既ニ相当排日気分浸潤

シ居ルモノノ如ク就中教育権ノ回収ニ関シ当地教育局中心トナリ方法講究中ナリト伝エラレ其結果一方学生団ノ運動ヲモ促進シ地方鮮人補助書堂其他私立学校ニ対シ何等圧迫ヲ加エ学生ノ県立学校編入ヲ強要スルニ至ルコトナシトセス現ニ本月十九日延吉教育局ヨリ局員ヲ依蘭溝南陽村鮮人私立東明学校ニ派シ吉林省政府ノ命ニ依リ当地地方私立学校全部ヲ県立学校ニ改変スヘキ旨ヲ告ケ先ツ同校ヲ県立第三十三小学校ニ改ムヘシト命シタル事実アルニ付今後右形勢ニ留意シ此等鮮人教育機関ヲ保護シ其使命遂行ノ為メ充分善処セラルル様致度此段為念申進ス

172 昭和4年5月1日

在奉天森島総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

瀋陽城内搬入貨物への中国側課税に対する我が方抗議について

奉天 5月1日後発
本省 5月1日後着

第三一二号
往電第二九九号ニ関シ

173 昭和4年5月6日

在奉天森島総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

中国側官憲の日本商品取扱い並びに中国商に
対する銷場税徴収強要について

奉天 5月6日後発
本省 5月6日後着

第三一六号
往電第三一二号ニ関シ

今回支那側カ本邦商人ヨリ直接銷場税ヲ徴収スルノ計画ヲ建テタルハ一昨年專照單問題発生以来邦人取扱ノ商品ニ付テハ日本側態度強硬ナル為已ムヲ得本邦品取扱ノ支那商ヨリ徴税シ来レルモ支那商ノ脱税多キ為直接邦商ヨリ徴収セントスルニアルモノノ如ク前懸往電所報交渉員ノ提議ノ如キモ単ニ本邦人ヨリ徴税ヲ中止スルノ意ニ外ナラス税捐局側ニテモ支那商ノ徴収ヲ強要スルカ為ニハ所有手段ヲ辞セス最近ニ至リテハ内密方法ヲ代ヘ日本品取扱支那商ニ対スル圧迫手段ハ邦商ノ營業妨害ノ手段ニ移リ税捐局密偵ハ邦商ヨリ商品ヲ購入セル支那商ヲ途中ニ邀シテ商品ヲ没収シ又ハ邦商トノ取引關係アル支那商ノ帳簿ヲ兩三年前ニ溯

其ノ後財政庁側ハ我方態度ノ強硬ナルニ鑑ミ兩國当局間ノ交渉ノ解決アル迄搬入貨物ノ申告ヲ受クルニ止マリ實際徴税ノ意思ヲ有セスト弁解シ事実辺門通過物ノ申告ヲ求め入門票ヲ発給スルノミニテ納税ヲ要求セサル現状ニテ邦商側モ亦事毎ニ我警察官出動ノ煩ヲ避クル為多クハ右手続ニ依リ入門票ヲ受ケ無事通過シ居リ形勢緩和ノ状態ナル処他方交渉員ハ当方抗議ニ対シ例ニ依リ開放地ノ範圍問題ニ言及シ城内ハ開放地ト言ヒ得サルヲ以テ本件課税ハ不法ニ非スト主張シタル後兩國間通商条約ノ改訂モ遠カラサルニ付夫レ迄ハ城内搬入貨物ノ銷場税ハ記帳ノミニ止メ解決ヲ俟テ処理スルコトト致シタシトノ旨提議シ来リタルニ付我方ニ於テハ右ノ提議ニ言及セスシテ城内モ開放地ナリト解スルヲ以テ本件課税ハ容認シ得サル旨簡單ニ反駁シ置キタリ要スルニ今日ノ処城内搬入貨物ヲ申告シ入門票ヲ受クル程度ニ於テ落付キ居リ形勢悪化ノ徴ヲ認メス

往電第二九九号ト共ニ北平ヘ転電セリ
在滿洲各領事ヘ転電セリ

リテ調査シ

(2) 日本品購入ノ事実ヲ指摘シテ巨額ノ罰金ヲ科シ或ハ邦商店舗附近ニ密偵ヲ立テ支那商トノ取引ヲ牽制シ甚タシキニ至リテハ税捐局員自ラ銷場税納付ノ如何並ニ日本品ノ購入ヲ禁ストテ支那商ヲ威喝スルモノスラアリ為ニ支那商ハ邦商トノ取引ヲ見合セ城内方面ニ於ケル日本品ノ取引停頓シ一般ノ形勢一昨年春專照單問題當時ニ彷彿タルモノアリ当館ニ於テハ極力支那側ニ抗議シ其ノ反省ヲ求メツツアルモ問題ノ中心ハ開放地域ノ範圍及支那側妨害ノ直接対象カ支那商ナル点等ニ在ルカ解決容易ナラサルニ付一時ノ弁法トシテ邦商ヨリ支那商ニ売渡ス商品ニ付テハ邦商ヨリ税捐局ニ申告シ以テ支那商ヨリノ徴税ノ便ニ資スル方法ヲ取ルモ已ム無キヤニモ存セラルル処若シ右ニテモ解決困難ナレハ本件解決ニ資スルノ手段トシテ我方ニ於テモ警察官ヲ増派シ支那側密偵追払策ニ出ツルノ外無カルヘキヤニ思考セラル不取敢

在滿各領事ヘ適宜転報セリ

174 昭和4年5月8日 在奉天森島総領事代理より
田中 外務大臣宛

国民政府の遼寧省行政への干与状況について
公第四五三号 (5月14日接受)
昭和四年五月八日

在奉天

総領事代理 森島 守人〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

翟主席辭職説ニ関スル件

遼寧省政府翟主席ハ就任以來治績ノ見ルヘキモノナシトテ一部ヨリ無能視セラレ当然引責辭職ニ出ツルノ已ナキニ至ルヘシト觀測スル向アリタルカ翟主席カ本月四日湯崗子ニ旅行シタルニ對シ東北辺防司令長官公署軍令庁副官趙玉書ノ談ニ依レハ翟主席ハ銳意諸政ノ刷新ニ努メツツアリタルモ行政事宜ノ總テハ国民政府ニ呈報シ表決ヲ請ヒタル後始メテ施行セサルヘカラサル情況ニテ事毎ニ国民政府ノ干涉ヲ受ケ自己ノ意見ヲ貫徹スルコトヲ得ス殊ニ目下遼寧省各機關ノ首領ハ多クハ青年派ニシテ屢々意見ノ相違ヲ來スコトアリ尚政務委員會ノ議決ヲ經サレハ何事モ為シ能ハス各

県長ノ更迭サヘモ自由ニ為シ能ハサル情態ニテ昔日ニ於ケル省長ノ權能ナク各種政策ハ委員ニ於テ行ハレ主席トシテノ何等独裁ノ權利ナク全ク空位ヲ守ルニ過キササルヲ以テ翟主席ハ常ニ不滿ヲ漏シ居リタルカ本月四日静養ノタメト称シ湯崗子温泉ニ赴キタルハ其実辭職ヲ切望シ居ルモノニシテ目下高維嶽ニ於テ主席代理ヲ為シツツアルカ翟主席ノ辭職確定スルニ於テハ高維嶽或ハ王樹翰ノ就任ヲ見ルニ至ルヤモ難計云々ト

本信写送付先 在支公館 上海總領事 在滿各領事

175 昭和4年5月11日 在奉天林總領事より
田中 外務大臣宛

長春における蒙古王公会議について
公第四八二号 (5月22日接受)
昭和四年五月十一日

在奉天

総領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

蒙古王公会議情況ニ関スル件

(付議)

過般長春ニ於テ開催セラレタル蒙古王公会議ノ情況ニ関シ当地特務機關ニ於テ取纏メタルモノ別紙ノ通り何等御参考迄報告ス

本信写送付先 在支公使、上海 天津總領事

在滿各領事(分館ヲ含ム)

(別紙)

長春ニ於ケル蒙古王公会議ノ顛末

東部蒙古哲里木盟々長ハ三月中旬會議開催ノ目的ヲ以テ盟内王公ヲ長春ニ招致セシカ延着アリシ為メ同月二十五日ニ至リ漸ク第一回ノ正式會議ヲ開催シ爾後茶話会又ハ秘密会等十數回ノ会合ヲ行ヒ四月十九日ヲ以テ漸ク閉会ヲ告ケタルカ今回會議ノ重点ハ時勢ノ進運ニ伴フ蒙旗政治ノ改廃及放牧土地ノ解放等王公以下ノ死活問題ニアリシト之ニ加ヘテ近來漸次萌芽シ來レル青年者ノ新思想ト旧陋墨守ノ王公等ノ思想トハ本會議ヲ機トシテ大衝突ヲ起セシ為メ全會期ヲ通シテ頗ル緊張味ヲ見セ盟長以下ノ守旧派ハ反對派切崩シテフ現代式ノ手段ヲ弄セル等從來ノ呑氣會議ニ比シテハ稀ニ見ル波瀾ヲ生シ一ヶ月ニ近キ日時ヲ經テ漸ク兩派ノ妥協

トナリ兎モ角モ守旧派ニ七分ノ勝ヲ与ヘテ會議ヲ終了セリ其ノ概況左ノ如シ

一、場所及月日

会場 長春城内盟長ノ徵租局及吉林交涉局

月日 三月二十五日第一回正式會議爾來大茶話会ヲ開ク

コト五回四月十九日第二回正式會議ヲ開催シテ終

了

二、會議參列者

哲里木盟々長 (◎印旗長)

◎哲里木盟々長 齊默特色木丕勒(旧派首領)

管旗章京 才音吉雅圖

印務梅倫章京 胡圖理

印務紮蘭章京 旺鐵超克素榮

長春徵租局會辦 彭楚克

同 右 拉錫多爾濟

繙訳官 薩嘎爾嘉布

筆帖式章京 巴圖巴雅爾

承 啓 薩平阿

承啓官 格爾圖

秘書

◎達爾汗親王

協里輔国公

管理梅倫

梨樹公益地局知事

巡防統領

秘書長

◎博王旗代表協里

副管旗章京

慶成双益兩地局副局長

筆帖式

◎圖什業圖旗代表副協理

管旗協倫

筆帖式

同

幫辦哲盟々務因山具子

◎杜爾伯特旗扎薩克具勒

杜爾伯特旗管旗梅倫

署文案梅倫

吳湘

那木濟勒色楞(旧派)

松永偉魯布

紆克巴達拉呼

郝春山

劉震玉

趙承杰

額爾德呢畢勒格(旧派領袖)

多勒倫

崇阿

富全

善吉米特布(旧派領袖)

富勒琿

依克塔春

吉勒章阿

烏爾圖那蘇圖

色旺多爾濟(新派ニ近シ)

達蘭泰

馮文明

署書記長

隨員

◎扎賚特扎薩克郡王

管旗章京

管旗梅倫章京

差遣員

書記長

徵租分処主任

清理田賦局辦事員

◎郭爾羅斯後旗扎薩克輔王

管旗梅倫章京

筆帖式

同右

◎扎薩克圖旗扎薩克郡王

協理台吉

梅倫章京

繙訳梅倫

印務紮蘭

筆帖式

阿通漢、包煥文

巴圖嗎拉布丹

默吉特僧額(新派)

朝格佈彥

朝格佈彥

德木林扎木蘇

包悅亭

寶金山

王鳳亭

多爾吉帕勒(旧派)

托克塔穆勒

和希克圖

那木吉勒

巴雅思古郎

布彥陶克塔呼

布彥那邇

烏祥

依德爾巴拉

太平阿

同

同

通事

◎賓圖王旗代表梅倫

◎依克門扎薩克多羅貝勒

卓哩克圖親王

溫都爾親王

◎蘇鄂公旗扎薩克輔^(マ)旬公代理

右ノ外東三省ヨリ派遣セルモノ左ノ如シ

東北政務委員会及遼寧省政府派遣

蒙旗処々長 袁恩慶

吉林省政府派遣

黑龍江省政府派遣

同政府顧問 楊遇春

同政府參議 葉某

(1)、哲里木盟々長ノ演說要旨

第一日ノ正式會議ニ於テ盟長ノ演說セル処概ネ左ノ如シ
本日哲盟各旗ノ王公開議ニ際シ東北政務委員会ハ蒙旗処
袁処長並ニ吉林省政府楊顧問、黑龍江省政府葉參議ヲ派
遣セラレ遠路ノ処態々會議ニ参加サレ諸公ト一処ニ歡聚

シ高説ヲ拝聴シ得ルコトハ洵ニ欣幸ト存シマス惟フニ民
国建設以來兵乱相繼キ時局ハ紛糾シ殆ント寧境ナキ中ニ
於テ我カ哲盟ハ依然トシテ恒ノ如キ安堵ヲ保持シ得タル
ハ位置カ辺隅ニアルト一ツニハ又東北歴任ノ長官カ銳意
保護セラレツツアル賜ナリト深く感謝スル次第デアリマ
ス今ヤ統一成ヲ告ケテ三民主義ヲ實施サル之レ固ヨリ人
民ノ為メニ福利ヲ謀リ国家ノ為メニ富強ヲ図ラルルニア
ルコトハ蒙旗ノ智識淺陋ナリト雖大ニ会得シアル処デア
リマス然レトモ政体ヲ變遷スルコトハ蒙政ノ前途ニ關係
スルコト至大デアリマス何ントナレハ之ヲ内地ニ比シ蒙
辺ハ特殊ノ情況ニアレハ能ク内地ニ實施セラルル所ノ凡
ユル政治カ其ノ儘蒙地ニ實施シ之ヲ永久安泰ノ制度トナ
シ得ルヤ否ヤデアリマス想フニ今回ハ之カ改革並ニ応興
上ニ於ケル一切ノ問題ニ付詳細ナル討論ヲ遂ケ完全ナル
福国利蒙ヲ期シタイト思フノデアリマス殊ニ本問題ハ蒙
旗ノ消長ニ関スル重要問題ナレハ我カ蒙旗諸君カ蒙古ノ
宣言ヲ維持スヘク群情ヲ察シ根本的ニ意見ヲ交換センカ
為メ今回長春ニ哲盟各旗王公會議ヲ召集サレ浅学菲才ナ
ル自分カ盟長トシテ爰ニ集思広益ヲ求メ共ニ蒙政改善ノ

進行ヲ図ラントスルモノニアリマス何卒來賓各位ニ於テモ本目的ノ實現ニ對シ特別ノ指導ト不斷ノ啓蒙トヲ望ミマス終リニ袁処長、楊顧問、葉參議諸公ノ健康ヲ祝シマス

(2)、議題、特ニ議題トシテ掲ケス又前記盟長ノ演說ニモ露骨ニ之ヲ聲明セサリシモ目標ハ

(イ)、三民主義ヲ遵奉シ王旗政治ヲ改革スヘキヤ

(ロ)、張學良ノ蒙地解放策ニ對スル態度ノ決定等ニシテ本項(イ)ニ就キ二三王公ノ言ヲ聞クニ本問題ノ起レル動機ハ近來南京政府ヨリ屢々張學良ヲ通シ三民主義ノ遵奉ヲ促シ來レルニ對シ王公等側ハ其都度曖昧ナル回答ヲ与ヘ置キシカ最近亦々學良ヲ通シ強硬ニ詰問シ來レリ其概要ハ「中國已ニ統一セラレ東北各省到ル処青天白日旗ヲ掲クル今日ニ於テ独リ蒙古ノミ中央政府ヲ認メサルカ旗民ハ已ニ三民主義ヲ謳歌シ旗民代表者ハ中央服從ヲ誓ヒアリ然ルニ王公台吉ハ民意ヲ察セサルカ王公ノ称号ハ皇帝ノ存在ニ依リ纔メテ意義ヲ有ス中國已ニ共和政治十八年ニ及フ今ヤ王旗政治ハ時勢ニ逆行スルモノニシテ王公ノ称号ハ廃止スヘキモノナリ」ト云

ノ怪物ナリト罵倒シ參會者一同ニ大ナル衝動ヲ与ヘ且議場ノ空氣稍不穩ノ徵ヲ來セシ為當日ハ間モナク會議ヲ打ち切り二十七日更ニ茶話會ヲ開催セシカ此ノ日モ亦々扎賚特王ハ大局上及青年等ノ思想ヲ深く考察シ且時勢ノ潮流ヲ視ルトキハ此際我蒙古政治ニ大改革ヲ施スノ必要アリ從テ我等ハ王爵及札薩克ヲ捨ツルモ可ナリトノ意見ヲ述ヘ之ニ賛意ヲ表セル者ニ杜爾伯圖貝勒、扎薩克圖王並蘇鄂公ノ代表壽公等ノ三名アリシ為守旧派タル盟長以下ノ王公等多數者ニ大脅威ヲ与ヘ當日モ亦何等纏ル所ナク散會セリ

其後ニ於ケル茶話會ニ於テモ人民ノ請願及新旧派ノ爭論続出シ或ハ政治ノ改革ニ或ハ王公ノ攻撃ニ常ニ波瀾ヲ起シツアリシカ達爾罕王ノ如キハ頗ニ堪ヘスト為シ四月四日奉天ニ避難セリト云フ

(4)、新派ノ結束

所謂新派ト稱スル者ハ旗民中比較的見聞ニ富ミ且時勢ニ通スル青年ニシテ今回ノ會議ヲ機トシ蒙旗政治ノ改革ヲ期セントシ各旗ヨリ集リ來レル同志約五十名ニ達シ(彼等ノ大部ハ洋服ヲ着用シアリ)附屬地ノ旅館(大和「ホ

フニアリテ今ヤ一般結束シテ南京政府ニ對抗スルノ必要ニ迫ラレタルニ依ルモノニシテ(ロ)ハ昨午軍縮問題以來興安地方ノ屯墾開始セラレ鄭作華ノ部隊ハ已ニ索倫興安ニ派遣セラレアルカ該方面ハ少部分ヲ除ク外概シテ屯墾ニ適セス從テ鄭ハ扎薩克圖、蘇鄂公、扎賚圖ノ各旗一帯ヲ興安ナリト強ヒ並ニ屯墾ヲ實施シ鄭ノ勢力扶植セラレ且漸次牧地ノ開放ヲ要求セラルルモノナリト意思シアリ之レ近年支那側カ急激ニ蒙地ノ開放ヲ行ヘル為放牧地縮少セラレ蒙人ニ一種ノ不安ヲ与ヘ來レル反動的對策ト見ルヲ得ヘシ

(3)、新旧思想ノ正面衝突

哲盟內賓圖王旗中ニハ平素盟長等ノ專横ニ快カラサル者又ハ私憤ヲ抱ケル者アリ已ニ昨午來南京ニ赴キ政府當局者ニ面會セシ者アル等開會前ヨリ若干險惡ノ徵アリシカ果然今回第一回ノ正式會議ニ於テ別項齊盟長ノ演說後賓圖王代表ノ一人包豹臣ナル者王公政治ノ弊害ヲ罵リ且速ニ專制的旧制ヲ廢シ旗民ヲ平等ニ待遇シ參政權ヲ与ヘ以テ時勢ニ適應スル政治ヲ行ヒ旗民ノ文化ヲ開發スヘシト言辭過激ニ趨リ列席ノ王公ヲ目シテ封建ノ遺物時代遅レ

テル」ニ投宿セル者モアリ)ニ陣取り「平民會」ヲ組織シ別項附錄第一ノ如キ章程ヲ定メ會長ニハ南部郭爾羅斯旗民何逸巷ヲ又名譽會長ニハ扎賚特巴郡王(第二日ノ茶話會ニ於テ王爵放棄論ヲナセシ者別項參照)副會長ニハ賓圖王代表包豹臣(第一日正式會議ニ於テ王公政治打破ノ烽火ヲ掲ケタルモノ別項參照)乃蘇鄂公旗ノ壽公(第二日王爵放棄論ニ賛成セルモノ別項參照)ヲ上ケテ大ニ氣勢ヲ添ヘ就中急進派ハ本會議ニ於テ是非共守旧派ヲ倒サントシ前記担キ上ケタル連中ヲシテ會議ノ席上ニ於テ南部郭爾羅斯旗及達爾罕旗ノ財政公開ヲ迫リ以テ盟長及副盟長ノ不正ヲ發カシメ若シ之ニ応セサルトキハ會議ヲ決裂セシメント計畫セリ又過激ナル青年中ニハ我等青年ノ意思ヲ抑圧スルカ如キコトアラハ齊盟長ヲ血祭リニセント敦圉ク者モアリタリト云フ右不正ト稱スルハ齊盟長ハ教育振興交通完備法政改革等ノ經費トシテ吉林省ヨリ稅捐年額五、六十萬元ヲ交附セラレアルモ其使途全然不明ナルト亦達爾罕王ニモ此ノ種ノ事情伏在シアリト然レトモ之等新派ト雖モ単ニ内政ノ刷新ヲ叫ヒ文化ノ開發ヲ稱フルモノニシテ二、三少數ノ者ヲ除ク外ハ南京政

府ト合作セントスルモノニアラス所謂蒙人自蒙ノ精神ハ
新旧兩派共概ネ共通セル所ナリトス

(5)、兩派ノ暗中飛躍ト守旧派ノ勝利

旧派ハ正式會議ニ於テハ其主張ヲ發表スルノ機會ナカリ
シカ盟長以下ノ意見ハ蒙古ハ辺疆ニシテ人智淺ク今遽カ
ニ新政ヲ布キ且処世ニ長ケタル滿漢人ト競争セシムルハ
蒙人自滅ノ因ヲ為スモノトシ差当リ現状維持ヲ以テシ漸
進的ニ諸政ヲ改革セントスルニアリシカ事態右ノ如ク意
外ナル改革派ノ擡頭ニヨリ齊盟長達爾罕副盟長楊蒙務幫
辦常幫辦其他ノ旧派ハ聊カ狼狽ノ氣味ニテ爾後連日密議
ヲ凝ラシ或ハ各旗ヨリ意見書ヲ徵收シ又ハ時々茶話会ヲ
催シテ新派ノ感情ヲ和ケ進テ新派買収若ハ説得等大ニ切
崩シニ尽力シタル結果扎賚特及杜爾特ノ二名先ツ軟化シ
前説ヲ固執セサルコトトナリ其他ノ新派モ對外（南京政
府又ハ三省政府ニ対スルノ意）一致ノ名ニ眩惑セラレ又
教育事業其他社会施設ノ為メ相当ノ經費ヲ捻出スヘシト
ノ口実ヲ得テ漸次軟化シ旗民参政等ノ重要問題ハ後日ニ
保留シ兎モ角モ盟長ノ意見ヲ尊重シ王旗政治ハ尚現状ヲ
維持シ漸次改革ノ軌道ニ入ルノ意見ニ賛成スルコトトナ

地爵位等ノ改革ハ悔ヲ後ニ貽スノ懼レアリ從來ノ通り
実施シタシ

二、人民ノ生活ヲ保証スル為蒙民計会ヲ設ケタシ

三、蒙文ト中国文トヲ兼用スル学校ヲ設立シタシ

杜爾伯特旗意見

一、境ヲ越ヘテ蒙旗ヲ侵スモノヲ取締ルコト

二、税捐ノ回收ニ関スル件

扎賚特旗意見

一、民衆心裡ニ適合シ各旗ニ民性協進会設置ノ件

二、固有ノ土地ヲ開放セサル件

三、児童ノ多寡ニ応シ小学校ヲ設クル件

四、協理台吉以下官吏ノ越權橫暴ヲ防ク件

五、時局ニ対シテハ各旗同一行動ヲ採ルヘキ件

賓圖旗意見

本旗ハ會議ノ初頭ニ於テハ旧派ヲ手古摺ラシタレトモ
漸次軟化シ意見書モ概シテ穩健ナリ即チ蒙旗聯合会ヲ
組織シ地方ノ公意ヲ根拠トシテ地方自治法ヲ講シ又民
生協進会ヲ設ケテ旗民ノ生計ヲ保障シ經濟狀態ヲ改良
セント云フニアリ

レリ此ノ如クシテ一ヶ月ニ近キ日時ヲ經過シ（此間會議
ノ決裂ヲ想ハシメタルコト二、三回アリ）漸ク兩派ノ意
嚮纏マリ四月十六日最終ノ茶話会ヲ開キ全会ノ同意ニ依
リ四月十九日第二回ノ正式會議ヲ開催シ約二時間ニシテ
別項二種ノ盟長提出ニ依ル意見ヲ可決シ一同撮影ノ上本
會議ヲ了レリ該決議ハ之ヲ淨書シ代表ヲシテ張學良ニ提
出セシメ同意ヲ得タル上更ニ南京政府ニモ代表ヲ派遣シ
テ提出スル筈ナリ

(6)、各旗ノ意見書

盟長ノ要求ニ依リ提出セル各旗ノ意見書ハ其ノ全部ヲ知
ル能ハサルモ聞ク処ニ依レハ概シテ蒙古固有ノ土地ハ開
放セスト云フニアリ尚此ノ外教育其他若干ノ新政実施又
ハ改良意見ヲ加味セルモノアリシカ特ニ時勢ニ適応セル
改革意見ヲ提出セルモノナカリシト只賓圖旗ノ意見ノミ
稍異彩ヲ放テルヲ見受ク一、二、其ノ要点ヲ記シ参考ニ
供ス

溫都爾王意見

蒙古ノ歴史ヲ説キ蒙古優待ヲ高唱シテ後

一、南京政府ハ三民主義ヲ唱フルモ時局變転極リナシ土

(附録第二(省略)参照)

(7)、決議ノ内容

今回ノ會議ハ奉吉黑三省ノ各代表者監視ノ内ニ施行セル
モノニシテ盟長以下心アル者ハ露骨ナル言動ヲ避ケ其ノ
南京政府ニ対スル決議ノ如キハ極メテ消極的ニシテ文面
ニ表ハレタル用字モ円滑ナル辞令ヲ以テ裝飾シ蒙人ハ思
想幼稚ナルヲ以テ漸次新政ヲ布クヲ可トス又蒙旗ノ土地
及租税ハ人民生計ノ資源ナリ若シ之ヲ奪ハンカ蒙人ハ餓
死スルノ外ナシト嘆願的ニ記載シ三民主義ニ就テハ態ト
言及ヲ避ケタルカ如シ

然レトモ諸情報ヲ綜合スルトキハ彼等ノ真意ハ三民主義
ハ之レヲ蒙古化シテ遵奉スルハ可ナルモ蒙古ハ元來清朝
ノ蒙古ニシテ南京政府ノ蒙古ニアラス清朝無キ今日蒙古
ハ蒙人ヲ以テ自治スヘシト云フニアリ其ノ決心ハ相當鞏
固ニシテ彼等ハ秘密会ニ於テハ第三国ノ援助ヲ得ハ此ノ
際蒙古独立ヲ決行スヘシトノ意見多カリシト云フ

決議書左ノ如シ

決議書（訳文）其ノ一、

窃ニ以テミルニ国基底定シ訓政方サニ開ケ治ヲ望ムノ心五

族同切ナリ蒙古ハ僻處辺、強隣ニ接壤シ、安危榮、国本ニ關係ス是レ正ニ治道ヲ力求シ共ニ存榮ヲ期スル所ナリ查スルニ蒙人治蒙ハ歴來已ニ久シク蒙古盟旗ノ土地ト人民トハ開闢以來屹然トシテ自存ス政治系統ハ中央ノ屏藩タリ今次中樞改建セラレ蒙藏委員會ヲ設ケ蒙務ヲ專掌シテ分治ヲ示ス其民族主權ヲ尊重セルヲ見ルハ全ク之ヲ以テナリ其蒙旗ノ土地台吉壯丁各々之ヲ享受スルノ權ヲ有ス蒙人生計ノ源タル往時興盛ノ時代ニ於ケル既墾地ハ十中ノ八九ニ居リ餘ス所ハ悉ク沙漠不毛ノ地ナレハ蒙民ノ生計タル已ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアレハ速カニ極力之ヲ保障シ賣買ヲ禁止シ以テ民生ヲ重ンスヘキナリ時制ノ革新民權ノ提向ニ至リテハ必ス国体ニ適合シ違背ナキ樣遵行セン、於之本年三月敝盟長等發起人トナリ東蒙各旗領袖ヲ召集シ長春ニ蒞ミ現状ノ得失施策ノ取捨ヲ開會討論シ凡ソ蒙旗大地ノ管理民生ノ保健教育ノ振興交通ノ發展實業ノ倡導牧畜ノ改良及警察戸口工業衛生一切新政ノ諸大問題ヲ逐次審議シ地方ノ情形及人民ノ性質ニ就キ損益ヲ斟酌シ速ニ舉辦シ極力進行セン惟フニ蒙民ノ思想幼稚ナルヲ以テ内地ノ新政ニ對シテハ尚ホ隔膜多ケレハ順序のニ漸進シ正軌ニ入レ完璧ヲ期成セラレナ

科爾沁 右翼后旗扎薩克輔国公代表協理輔国公

壽明阿

一、土地ノ管理。蒙古ハ五大民族ノ一ニシテ經來レル処ノ政治ハ自ラ系統ヲナシ必ス自決自治ノ原則ニ基キ凡ユル各盟旗固有管理ノ土地人民權利ハ当然ニ其ノ旧ニ拠リ以テ人族自治ノ真諦ニ符スヘキコト

二、民生ノ保衛。蒙旗ノ土地及租稅ハ元來人民ノ公有ニ屬シ民生唯一ノ源淵タリ游牧干係ニ因ル未開墾地ハ一百年以來屢々之ヲ売却シ餘ス所ノ土地ハ全ク今ヤ蒙民農牧ノ用ニ足ラス而シテ蒙民ハ經濟的觀念ニ暗ク農牧ヲ除キテハ別ニ營生ノ方ナシ故ニ若シ其農牧ノ地ヲ奪ハンカ勢ヒ流離死亡ヲ免レス從テ国家カ民生ヲ注重スルノ義ニ戻ラシ況ンヤ地方ノ自治ハ法律土地人民ニ基クニ於テオヤ盟旗保管ノ土地ハ蒙民ニ於テ之ヲ享用シ得ルモ随意ニ強制処分ヲ行フコトヲ得ス以テ地方自治及保障民生ノ原則ニ合致セシムヘキコト

三、教育ノ振興。教育ハ立国ノ本タリ国ノ盛衰ハ全ク教育ノ良否ヲ以テ定衡トセラル蒙旗ノ民智ハ幼稚ニシテ人ト強ヲ争ヒ勝ヲ較スルコト能ハサルハ真ニ教育ノ缺乏ニ因

ハ党国ノ幸甚ニシテ蒙古ノ幸甚ナリ茲ニ共同議決ノ各条ヲ列記シ上申ス

国民政府主席

蔣

東北辺防軍司令官

張

中華民國十八年四月十九日

盟長郭爾羅斯前旗扎薩克親王 齊默特色木杰勒

副盟長科爾沁左翼中旗扎薩克達爾罕親王

那穆濟勒色楞

幫辦盟務溫都爾親王

陽倉札布

幫辦盟務固山貝子

烏爾圖那蘇圖

扎賚特旗扎薩克親王銜多羅郡王

巴特瑪拉布丹

科爾沁右翼前記扎薩克多羅郡王

巴雅斯朗朗

杜爾伯特扎薩克多羅貝勒

色旺多爾濟

郭爾羅斯後旗扎薩克輔国公

多爾吉帕勒木

科爾沁 右翼中旗扎薩克圖什業圖親王代表副協理

善吉米特布

科爾沁 左翼后旗扎薩克博多勒噶舌親王代表協理

額爾德呢畢勒格

科爾沁 左翼前旗代表梅倫

布彥滿都

ス故ニ民智ヲ啓發セントセハ必ス教育振興スヘシ而シテ教育ヲ振興セントセハ之ヲ二項ニ區別シテ進行スヘキコト

(1)、廣ク學校ヲ設クルコト從來蒙古ノ子弟ハ少數ノ私家敎誨ヲ受ク殆ント教育ノ言フヘキモノナシ何ンノ智識ノ謫陋ヲ怪マンヤ即チ游牧生活ヲ除ケル以外ハ毫モ知ル処ナシ正ニ各旗ヨリ款ヲ籌出シ廣ク學校ヲ設ケ一般蒙旗ノ子弟ヲシテ入校讀書セシムルコトヲ得セシメ教フルニ普通常識ヲ以テシ国民ノ中堅ヲ養成スヘク人物教育ヲ選査シテ勉學セシム

(2)、蒙旗教育。教育ハ方サニ萌芽ノ時代ニアリ學校ノ設立ハ勢ヒ之ヲ緩フスルコトヲ得ス正ニ幹員ヲ選ヒ欧米ニ分派シ査査ニ從事セシメ以テ借鏡ニ資シ各旗ノ優秀子弟ハ官費ヲ給シ国内外專門或ハ大学ニ送リテ肄業セシメ真材ヲ養成シテ国用トナスヘキコト

四、交通ノ便利。交通ノ不便、文明ノ進歩ヲ阻礙スルカ故ニ近世ノ新政ヲ談スル者ハ交通ノ便利ヲ以テ先務トセサルハナシ蒙地ノ交通ハ梗塞シ郵通ノ遲滯タル全ク地方不發達カ主要原因タリ速カニ各旗ノ統籌辦法ニ依リ左記ノ

各項ヲ逐次舉辦スヘキコト

(1)、汽船、汽車、名旗ノ江流ヲ利用シ通商スル地方ハ正ニ力ヲ量リテ之ヲ進行スヘキコト

(2)、公路。各旗ノ重要村鎮間ニ之ヲ修築スルコト

(3)、郵政電報。各旗ト各市鎮トノ間ニ之ヲ建設スルコト

(4)、電燈、電話、各旗ニ於ケル重要城間ニ之ヲ舉辦スルコト

以上各項カ果シテ實現セハ交通便利消息靈通ナランカ地方ノ發達日ヲ計ヘテ待ツヘキナリ

五、實業ノ提倡。民生ハ政治ヲ先決問題トナス然ルニ往時蒙旗民族ハ専ラ游牧ヲ以テ生計トナシ在草時代ニ於テハ固ヨリ治然処シ得タルモ今後人文日ニ進ミ單簡ノ生活ヲ以テハ万慾望ヲ満足シ難ク必ス實業ヲ講求シ生活ノ道ヲ図ラサルヘカラス查スルニ蒙旗ノ物産ハ牧畜牛革ヲ以テ大宗トナス外人ハ我カ原料ヲ購入シテ之ヲ製品トナシ一転移ノ間ニ於テ我カ資財ヲ坐シテ攫ミ去ラル誠ニ惜ムヘシ速ニ広ク資本ヲ集メ自ラ大規模ノ工廠ノ組織ヲ行ヒ心ヲ悉クシテ製造シ以テ需用ニ供シ一ツハ損害ヲ免レ更ニ民生ヲ徧ク真ニ一挙兩得タルナリ

ヘタルモノニシテ今回ノ決議文モ亦不遠慮且反抗の氣分ヲ表示シアリ即チ左ノ如シ

決議書 其ノ二、

(開墾制止ニ關スル聯盟決議書)

咨行ヲナス件、查スルニ敵盟カ政治ヲ解決スヘク會議ヲ召集シタルコトハ既知ノ事項ニ屬ス然ルニ開會以來各旗公署及人民代表ハ紛々トシテ生計維持ノ為メニ共同一致シ荒蕪地開墾制止ノ歎願狀ヲ提出シ來リ其ノ急狀タル卒讀ニ堪ヘサルモノアリ伏シテ念フ敵盟ノ蒙人カ元來居住セル各旗ノ土地ハ居ヲ奠メテヨリ已ニ數百年互ニ車輔共贊セル所今ヤ大局定マリ訓政正ニ開始セラレ萬事範典ヲ待チ勵精圖治共策進行ノ期ニ際シ猝カニ蒙旗生計ノ根幹タル荒蕪地ヲ一概ニ開墾シ去ラントス深駭何ソ堪ヘン數十萬民ノ托命ノ土地ヲ強制競売セラレンカ蒙民ハ一朝ニシテ無業ノ游民トナリ流離ノ巷ニ彷徨センノミ斯ノ如キハ畜ニ盟旗地主ノ權ヲ妨ケルノミナラス民生注意ノ原則ニ違背ス況ンヤ強隣環視シ危機ハ四伏ス正ニ團結聯合シテ隙ヲ防クヘキ秋ニ於テオヤ查スルニ興安開墾區域ハ扎賚特扎薩克圖鎮國公等旗原其ノ界内ニアラス拓展センカ為メ無理ニ旗權及蒙民ノ生計ヲ妨

六、牧畜ノ改良。查スルニ東蒙各旗ハ由來良馬ヲ産シ昔ハ舉ケテ朝用騎射ニ資シタリ其他牛羊蓄息ハ寰宇ニ冠絶シ正ニ積習ニ捉ハレ講求スルコトヲ知ラス故ニ芻牧絡ニ生産ノ銳減ヲ致シ漸ク衰落ノ狀ヲ呈セリ至急專門ノ人材ヲ延聘シ法ヲ設ケ畜種ヲ改良セハ教年以後ニハ畜產激増シ生計ハ饒裕ナラン是レ蒙旗ノ發展上ニ密接ノ關係ヲ具有ス

七、新政ヲ試辦スルコト。南北統一シ國基奠定シテヨリ屢々中央ノ命令ヲ奉シテ新政ヲ飾辦シタルニ蒙民ノ情殷ニ内心深ク潮流ニ順応セントシツツアルモ數千年深ク國ヲ鎖シタル民族ナレハ素ヨリ政治觀念ニ乏シ一旦ニ旧ヲ除キ新ニ更メ一大改革ヲ斷行センカ鹵莽滅裂ノ嫌アラシ換言スレハ美饌前ニ在リ豈能ク噎ノ為メニ食ヲ廢センヤ故ニ漸進主義ヲ以テ正軌ニ入レントス直ニ警察ヲ添編シ戸口ヲ精査シ工業ヲ提倡シ衛生ヲ講求スル等ノ諸大問題ハ自ラ勢ヒニ利導セラレ力ヲ竭シテ推行シ新政ハ次第ニ實施ヲ見ルニ至ルヘシ社会ノ順序、蒙旗改進ノ前途タル真ニ多望ナラン茲ニ共同決議ノ各条ヲ呈報ス詮議ヲ乞フ又興安地方開墾ニ就テハ最初ヨリ全会一致ヲ以テ反對ヲ稱

害スル何ソ然ク甚シキヤ司令長官カ該數旗ノ荒野ヲ開墾セントスルハ边疆發展ノ意ニ出ツ只土地狹窄ニシテ尚ホ蒙民生計ノ用ニ不足シアリ然ルヲ更ニ之ヲ開墾センカ蒙民等ハ其ノ庄迫ヲ受ケ地家ヲ脫離シ游民ト化センノミ查スルニ屯墾タル元美意ニ屬ス何ソ思ハシ夫カ边疆ノ禍根タラントハ故ニ古來歷朝ノ定國安邦、辺方ノ撫綏ハ悉ク親民ヲ以テ先トナシ多數人民ノ好マサル所ハ之ヲ捨テ仁德ヲ以テ治メ其ノ己カ意ヲ遂ケントシ威權ヲ以テ相庄迫セサリキ司令長官ハ深窓ノ中ニ生活ス何ソ能ク蒙地形成ノ多寡ヲ知ラン往時ノ蒙地ハ寬潤ニシテ反之人民ハ稀少ナリキ而シテ今ヤ之ニ反ス然ルヲ更ニ名利ヲ巧取セントセハ恰モ木ニ縁リテ魚ヲ求ムルカ如シ多言巧變ヲ以テ主義トナス何ソ能ク蒙民ノ風俗生計ヲ破壞シ去ルニアルヲ知ランヤ殊ニ扎薩克圖鎮國公ノ兩地ハ既ニ屢々大開墾ヲ試ミラレ其既墾面積ハ四五縣大ノ広サヲ視ル從テ餘ス所單ニ丘陵河川等ノ間ニ点在セル尤モ狹隘ナル荒地ニシテ是等ヲ全部開墾ニ附スルモ一県カ管理セル土地ニモ足ラス何ソ國家ノ大利益ヲ図ルコトヲ得ン而シテ該二旗トシテハ致命的打撃ヲ受ク亦不仁ナラスヤ開墾力辺陲ヲシテ一大發展ヲナサシメルモノナラハ我等ハ夙

ニ游牧ヲ実業ニ改メ幸福ナル方途ニ出テ平安威戴シ德化五
中ニ冠タリシナラン是レ禁止ヲ強請スル郭羅斯後旗、杜爾
伯特、達爾罕、圖什業圖ハ餘地ハ現ニ既ニ開墾ニ着手シ以
テ民福ヲ増進スルモ尚ホ之カ不足ヲ憂フ即チ地方ノ官吏ハ
蒙情ヲ悉サス蒙難ヲ体セス自己ヲ以テ地方ヲ治理ス何ノ盛
興保護カ之レアラシ故ニ巧言令色ハ徒ラニ聽聞ヲ聳動シ邀
功ノ具タルニ終ランノミ条文上ノ強制開墾辦法タル其ノ大
体ヲ顧ミス意ニ反セル官私行為タランノミ是レ制止スル者
ノ二ナリ

打通支線カ資博ノ二旗ヲ横貫シテヨリ沿線ノ荒地ハ投機分
子ノ乗スル所トナリ拓展ニ名ヲ藉リ鉄道ノ土地収用章程ニ
違背シツツアリ是レ制止スルモノノ三ナリ

以上各項ハ全ク貴長官カ国民保護ノ宗旨ニ違背ス或ハ旗權
ヲ妨ケ或ハ民産ヲ侵シ公私ノ怨泣タル今ヤ其ノ極ニ達シ蒙
民ハ生色ナカラントス之ヲ土地ヲ保存スルコトハ辺民ヲ
綏輯シ敵盟ヲシテ政治ニ從事シ建設ニ努力シ共ニ至治ノ途
ニ上ル所以ナレハ特ニ詮議セラレ如何ニ辦理スヘキカ指示
ヲ懇請ス右上申ス

東北辺防軍司令長官 張

編注「並」の箇所に「茲」との書き込みあり。

176 昭和4年5月13日 在吉林川越総領事より
田中外務大臣宛(電報)

吉林省政府の三民主義教育の充実化状況につ
いての報告

吉林 5月13日前発
本省 5月13日後着

第九号

奉天宛貴電合第二八二号ニ関シ

目下当地方中等学校ハ排日乃至排外思想ヲ鼓吹セル大学院
検定「新時代三民主義教科書」ヲ各小学校ハ同院検定「三
民主義課本」ヲ採用シ三民主義ノ解説ト排日排外思想ノ注
入ニ力メ居レルカ元来吉林省政府ハ二月一日省制度改正ノ
以前迄ハ三民主義関係書籍ノ発売ヲ嚴禁シ居タルカ改組後
解禁トナルヤ各書店ハ競フテ之ヲ発売シ一方国民党员タル
教育庁秘書肅文誠(王教育庁長ノ親戚ニシテ全省教育行政
權ヲ掌握ス)ハ右解禁ト同時ニ各学校校長ニ対シテ前記三
民主義教科書ノ採用ヲ強要シ之カ実行ヲ見ルニ至リタルモ

中華民國十八年四月十九日

(以下王公十二名署名シアリ)

按スルニ時勢ノ進運ハ今ヤ未開ノ蒙人ニ覺醒ノ刺戟ヲ与ヘ
ツツアリト雖彼等ハ睡夢未タ醒メス千歳一遇ノ重大転換ニ
際シ之ニ善処スル道ヲ講セス只世襲ノ榮爵ト資産ニ執着セ
ル王公等ハ依然トシテ時代錯誤ヲ繰リ返シ心アル者ヲシテ
焦慮セシメツツアルハ事実ナリトス

吾人ハ善隣蒙古ノ危機ニ際シ彼等中ノ先覺分子ヲ利用シ彼
等ニ一臂ノ力ヲ貸サハ多難ナル我對支政策ニ一転機ヲ投ス
ルノ可能性アルヲ信スルモノナリ

以上

(付箋) 梗概。

昭和四年三月二十五日乃至四月十九日長春ニ於テ「チ
ヨリム」盟王公会議開催セラレ國民政府統治ニ合一ス
ルノ可否並盟内開墾地開放(奉天側ヨリノ希望)ノ許
否ニ付討議シ會議中新派蒙人(青年)ヨリ蒙旗行政改
革ヲ要求シ相当波瀾アリタルモ外國國民政府及奉天ニ對
シテハ盟内結束シテ蒙人治蒙、蒙地不開放ヲ決議シ之
ノ旨國民政府及奉天ニ答申シタリ

ノナリトノコトナリ委細公信

支、上海へ転電シ奉天哈爾賓間島長春へ暗送セリ

177 昭和4年5月15日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

南北妥協により国民党氣風の浸潤、排日的空
氣醸成の形勢について

奉天 5月15日前発
本省 5月15日後着

第三二七号

貴電合第二八二号ニ関シ

國民政府ノ勢力北支ニ伸フルニ及ヒ当地一部ノ間ニ於
テモ三民主義ヲ遵奉シ内争ヲ熄メ民衆ヲ戦禍ヨリ免レシメ
ムトノ議唱導セラレタルカ客年末南北妥協成立スルヤ奉天
省教育會及奉天省城教職員聯合會等ハ率先シテ祝賀通電ヲ
発シ学校ヲシテ孫文ノ肖像及遺囑ヲ掲ケ毎朝之ニ礼拝ヲ為
サシメ時々国民党流ノ講演ヲモ為シタルカ二月中旬当地開
催ノ奉天全省教育會議ニ於テハ三民主義教育実施案ヲ可決
シ省政府委員會ノ認可ヲ經テ三月一日ヨリ中、小学校修身

課程トシテ毎週一回三民主義ノ講議ヲ課スルト共ニ校内ニハ排外的図面標語等ヲ掲ケ学生ニ対シ国恥觀念ノ注入及國民的覚醒ノ喚起ニ努メ更ニ省政府ハ最近国民政府教育部制定諸規定ヲ其ノ儘當該諸学校ニモ実施スル事トシ一般課程ハ漸次南京政府所定ノ教材ニ移リツツアリ又学校以外ノ各官衙軍隊等ニ於テハ孫文ノ肖像及遺像ヲ掲ケ會議等ノ場合孫文ノ肖像ニ対スル敬礼及遺囑奉誦等ハ南方ト同一ナルモ三民主義ノ講議等ハ未タ実施セサル模様ナリ要スルニ当地ニ於テハ国民党部ノ設置ナキ為三民主義宣伝及之ニ伴フ愛國心涵養運動等ハ南京ノ如ク熾烈ナラサルモ学生労働者等ノ青年ニシテ三民主義ニ関スル書籍ヲ購読スル者漸次増加ノ形勢ニアリ一般国民気風ノ浸潤排日的空氣ノ醸成ハ勢ヒ避ケ難キ処ナルヘシ委細公信

178 昭和4年5月15日

在ハルビン八木総領事より
田中外交大臣宛(電報)

ハルビン地方では排日教育を特に重視している
状況無き旨の報告

(1) 十五日張學良ノ本官ニ為セル時局談左ノ通

一、馮、蔣ノ關係最近著シク緊迫シ早勉衝突ヲ免レ難キ形勢ナルモ蔣ノ力果シテ馮ヲ撲滅シ得ルヤ否ヤ今俄ニ豫断シ得ス去リトテ馮亦蔣ヲ擊破スルコト困難ナルヘシ只問題ハ馮、蔣、閻ノ關係ニアリ若シ山西ヲ衝破セムカ熱河、河北ニ影響シ更ニ東三省ニ波及スルコト明カナリ自分トシテハ出来得ル限り戦争ヲ避ケムトスルモ叙上ノ場合ニ於テハ相当ノ対策ヲ講スル要アリ尚最近山西側ヨリ応援ヲ求メ来レルモ東三省トシテハ閻外ノ兵ヲ閻内ニ進メサル從來ヨリノ方針ヲ變更セス從テ積極的援助ヲ為シ得サル趣電報セルモ万一馮ノ山西進出實現スル時ハ前述ノ如ク其ノ影響重大ナレハ全然傍觀シ得サルヲ以テ極メテ積極的援助ヲ為ス考ニシテ現ニ閻内ニ在ル軍隊ヲ移動セシムルコトアルヘシ

二、唐生智ノ態度ハ一般ニ疑ハレ居ルモ現在窮地ニ在ル馮ニ加担スルモ酬ヒラルル処極メテ少ク寧ロ蔣ニ左袒シテ将来ノ利益ヲ受クル事賢明ナレハ唐ハ結局蔣派ニ左袒シ尽力スル事トナルヘシ右ノ通學良ハ暗ニ馮ノ進出ニ対シテハ極力之ヲ防止セムトスル色ヲ示シ蔣閻馮ノ三角關係

ハルビン 5月15日前発
本省 5月15日後着

第一〇八号

貴電合第二八二号ニ関シ

当地方学校ニアリテハ主ニ奉天政務委員會審査選定ニ係ル上海商務印書局、中華書局、世界書局出版教科書ヲ使用シ居リ教科書中ニハ三民主義ヲ教ヘ居ルモノアルモ別ニ排日教育ヲ目的トスルモノヲ認メス但シ五三、五四、五七、五九等ノ国辱記念日ニハ其ノ時期ニ応シ排日的講演ヲ為ス学校多シ
支、奉天、上海ヘ転電セリ

179 昭和4年5月16日

在奉天林総領事より
田中外交大臣宛(電報)

馮、蔣、閻との關係等に関する張學良の談話
について

奉天 発

本省 5月16日後着

第三二九号

ニ依リ之カ實現ヲ期セムトシ居レル模様ナルカ将来直接馮軍トノ紛糾關係ヲ惹起スルカ如キ事無キ様極メテ狡猾ナル態度ヲ採リ居ル様子ナリ尚前項応援軍ハ多分現在遼東ニ在ル于學忠軍ヲ進出セシメ其ノ後ニ現在北山城子一帶ニ在ル于芷山軍ヲ補充シ熱河湯玉麟軍ヨリモ一部ヲ移動スル計画ニ非サヤト観測セラル
上海ヨリ南京、漢口、廣東ヘ転電アリタシ
閻東長官ヘ転電セリ

180 昭和4年5月17日

在南京岡本領事より
田中外交大臣宛(電報)

張學良他七名を遼寧省党務指導委員に任命等
に関する国民党中央常務委員會議の決議事項
について

付記 昭和四年五月調

「東三省ニ於ケル国民党々部」

南京 発

本省 5月17日後着

第五三九号

十六日ノ中央常務會議ニ於ケル主ナル決議事項左ノ通

一、曩ニ任命セル遼寧省吉林熱河三省ノ党務指導委員並黑龍江哈爾濱二個所ノ党務特派員ハ今以テ当該地域ノ党務整理其ノ緒ニ就カサルニ依リ一律ニ之ヲ罷免シ改メテ(一)張學良等七名ヲ遼寧省党務指導委員ニ(二)張作相等九名ヲ熱河省党務指導委員ニ(三)萬福麟等七名ヲ黑龍江省党務指導委員ニ又(四)張冲等三名ヲ哈爾濱特派員ニ夫々任命シ(五)右党務ノ指導期間ハ六個月トシ(六)任命ノ日ヨリ二週間内ニ就任セサルモノハ免職ス

二、上海商人団体整理委員會ハ旧上海商民協會、上海總商會、閩北商會、南市商會ノ職權ヲ代行ス

委細公信

支、上海、奉天、吉林、哈爾濱、赤峰へ転電セリ

(付記)

東三省ニ於ケル国民党々部(昭和四年五月調)

一、東三省ノ政治組織變更ニ伴ヒ張學良、張作相、万福麟、翟文選、莫德惠、劉哲、張景惠ヲ始メトスル東三省領袖ハ総テ国民党ニ入党スルコトナレルカ但昨年度ノ

国民党入党総登記カ一先ツ打切リトナリタル後ナル為南京中央党部ニ於テハ蔣介石、譚延闓ヲ紹介者トシテ臨時特別辦法ニ依リ入党セシムルニ決シ其入党証書ハ方本仁攜帶來奉ノ上前記諸領袖ニ手交セリ、

一、然ルニ省党部組織ニ関シテハ客年十二月二十九日易幟ト同時ニ各省長公署ニ党務籌備処ノ看板ヲ掲ケタルモ張學良、張作相等ハ東三省ニ於テハ自己ノ都合好キ様党部ヲ組織スルヲ希望シ当初各省ニ於テ党部成立迄ハ各地任意ニ党名ヲ使用シ党務工作ニ従事スヘカラストノ訓令ヲ発シ黨員ノ活動阻止ニ努ムル一方張學良ハ東三省党務指導員トシテ何應鈞、何成濬、方本仁、周震麟、王用賓、沈鴻烈、黃一歐、張宗海及寧夢岩ノ九名ヲ推薦シ又党務員トシ奉天省議會議員十六名及吉黑兩省議會議員若干名ヲ其省ノ党務員ニ指定スヘキコト等ヲ中央党部ニ照会シタリ。

然ルニ中央党部ヨリハ何等指令ヲ發セサルノミナラス却テ錢公來、李仲剛、鮑文革、楊國璽、宋良驥、潘炳周、周儂夫等從來東三省ニ不滿ヲ抱キ南方ニ流寓シ居リタル東三省出身ノ国民党員ヲ派シ地方同志ト連絡ヲ取ラシメ

一、遼寧省

張學良 王君培 劉不同 彭志雲

馬 亮 張 鐸 趙連豐

二、吉林省

張心潔 王秉謙 張作相 王 城

張鼎任 顧料野 單成儀

三、熱河省

李元著 譚文彬 張啓明 于明洲

梁中權

四、黑龍江省

呂醒夫 王憲章 萬福麟 楊啓煥

田見龍 王秉鈞 劉存忠

五、哈爾濱省党務特派員

張 冲 韓聖波 張大同

(右人選中熱河省党務指導員ニ湯玉麟ノ含マレサルハ相当注意セラレツツアリ)

編

注 南京発昭和四年五月二十一日日本省着岡本在南京領事より田中外務大臣宛電報第五五二号によれば、「熱河省」

の前に「吉林省党務指導委員トシテ李元著等ヲ」との挿入ありたしとの訂正あり。

181 昭和4年5月20日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛（電報）

四行連合発行準備庫暫行章程について

奉天 5月20日後発
本省 5月20日後着

第三三八号

当地官銀号、辺業、中国、交通ノ四銀行ハ十四日附連名ヲ以テ聯合発行準備庫暫行章程ヲ發表シタルカ右ニ依レハ四銀行ハ市場ノ需要ニ応シ金融維持ノ為聯合発行準備庫ナルモノヲ組織シ正貨準備七割保証準備三割ヲ以テ現大洋兌換券ヲ発行シ無制限ニ兌換ニ応セムトスルモノニシテ省政府ノ認可ヲ得十七日より開業ノコトトナリ居レリ最近奉票ハ信用失墜シ一般市場ニハ多ク現大洋流通シ奉票流通ノ範圍局限セラレツアル一方官銀号ハ又現銀ノ蓄積ニ努メ昨年中二千万元ノ弗銀又ハ銀塊ヲ上海方面ヨリ輸入シ本年ニ入リテモ続々輸入ヲ見現在相当ノ現銀ヲ保有シ居ルカ如キヲ

在奉天

総領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

袁金鎧ノ時局談ニ関スル件

当地支那政界ノ有力者袁金鎧ノ満鉄公所員ニナセル時局談要領左記ノ通り何等御参考迄報告ス

左記

目下蔣介石ト馮玉祥トノ關係カ非常ニ切迫シ来ツタ様テアルカ之ニ付テ自分等ノ觀察スル所又仄聞スル所ニ拠レハ馮玉祥ハ独立カ主眼テアツテ其レカ為ニ各処ノ鉄橋ヲ破壊シ又隧道ヲ破壊シ防備ニノミ此レ努メテ居ル然シ蔣介石トシテハ統一ヲ紊ルモノトシテ討伐ヲ断行スルテアラウカ馮ハ出来ルタケ口実ヲ与ヘヌ為ニ自ラ境ヲ越ヘテ戦争ヲ開始スルコトハ遣ラナイテアラウト觀ラレル之ニ付テ当方トシテ如何ナル態度ヲ採ルヘキカニ就テ大体方針ハ決定シテ居ル、大元帥在世當時関内ニ出兵シ一時ハ山東、安徽、河南迄其勢力ヲ伸シ多大ノ犠牲ヲ払ツタノテアルカ其當時ニ於テハ張大元帥カ少クモ武力ヲ以テ天下ヲ統一シタイ飯シ全支ノ統一カ出来ヌニシテモ少クモ長江ヲ以テ南北ヲ二分ス

以テ今回ノ兌換制度ハ其ノ遣方如何ニ依リテハ相当効果ヲ挙げ得ヘキ筈ナルモ若シ再ヒ戦乱ニ依ル軍費請求ノコトモアラハ兌換制度モ維持困難トナルヘキノミナラス本兌換券ハ結局南京政府ノ中央銀行券ニ統一セラルヘキカ故ニ本制度ノ運命モ支那政情ヨリ独立シ難キ事情アリト謂フヘク又本件章程ハ奉票ノ回収整理ニ何等言及シ居ラサル処右奉票ノ暴落ヲ待チ最少限度ノ負担ヲ以テ整理ニ当ツル心底ナルヤニ察セラル現ニ本章程發表前四千九百元台ヲ唱ヘタル奉票ハ十八日ニハ五千二百元台ニ暴落セルカ右ハ東三省ノ出兵説ノ外右ニ起因スルニ非サヤトモ思考セラル委細公信北平、上海、関東庁ヘ転電シ、安東、牛莊、遼陽、鐵嶺、長春、吉林、哈爾濱ヘ暗送セリ

182 昭和4年5月21日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛

蔣介石・馮玉祥間關係と張學良の態度に関する

袁金鎧談話について

機密公第四九八号

（5月25日接受）

昭和四年五月二十一日

ル位ノ決心ノ下ニ仕組マレタ芝居ニ過キナカツタ、張學良ハ年コソ若イカ幾多辛酸モ嘗メ来ツタシ又野心モナイカラ無謀ナ挙ニハ出テマイ飽迄モ保境安民ノ大方針ニ立脚シテ進ムテアラウ又東三省トシテハ将来大イニ為スヘキコトカ多々アルノテアル、東三省ニ文化カ普及サレ民智カ開発サレレハ立派ナ大国テアツテ下手ナ野心ナト起ス必要ハナイ只万一南京政府カラ出兵テモ要求サレタ場合ニハ全然傍觀的態度モトレナイカラ積極的ノ援助ハシナイニシテモ申訳的ニハ多少援助セネハナルマイ幸ニシテ山海關、灤州一帯ニハ于學忠ノ軍隊カ居ルカラ新ニ当方カラ関内ニ兵ヲ送ラヌテモ充分間ニ合フコトテアル、其レモ決シテ戦争スルノテハナク京津地方ニ於ケル軍隊ノ移動ニ依テ其留守居ラスル位ノ所カ関ノ山テアラウ、況ンヤ軍費ヲ補助シ彈藥ヲ送ル様ナコトモ勿論今ノ所問題ニサレテ居ナイ

又最近翟省長カ辞表ヲ提出シタトノ説カ専ラテアルカ此問題ハ常蔭槐カ殺サレタ直後ニ南京政府カラ翟文選ヲシテ黑龍江省主席ニ任命シ奉天ハ總司令ノ兼任ニスルト云フ様ナ電報カ来タコトカアツタカ其當時自分及王樹翰其他二、三ノ仲間テハ翟文選ノ転任ハ兎モ角トシテ總司令カ主席ヲ兼

任スルト云フコトハ時代モ異ツテ居ルシ仕事モ非常ニ殖エテ来テ居ルカラ何ウシテモ專任者ヲ置クコトカ至当テアルト云フ様ナコトヲ述ヘタコトカアルカ問題ハ其レナリニナツテ今日ニ至ツタルテアル或ハ其当時ノ問題カ今頃世間ニ伝ツテ来タノテハナイカ云々

本信写送付先 在支公使、上海、哈爾賓、吉林、南京、濟南各総領事並領事

183 昭和4年5月21日 在吉林川越総領事より
田中外務大臣宛

吉林省政府の学生運動取締りに対する吉林省城学生の対応について

機密公第三五六号 (5月30日接受)

昭和四年五月二十一日

在吉林

総領事 川越 茂〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉林省城学生ノ省政府ニ対スル請願運動計画ニ関スル件

濫リニ之ニ干涉セサルコト六、吉、長、哈学界ノ聯合辦法ヲ籌定スルコトノ六項ヲ省政府当局ニ請願スルコトヲ決議スルコトヲ決議スルト共ニ長春各校トノ聯絡ハ同地第二師範学校哈爾賓トノ聯絡ハ同地工科大学ト夫々協議シ吉長哈三地方各学校ノ大同団結ヲ完成スルコトシタルカ学生等ハ更ニ一、官庁ノ干涉ヲ排シテ団結運動スルコト二、官吏ノ子弟等灰色分子ヲ排除シテ機密ノ漏洩ヲ防止スルコト三、高級小学生ニ対シ日本所設ノ文化侵略的性質ヲ有スル学校ニ入学セサル様勸導スルコト四、会員中愛國運動ノ為メ官庁ノ圧迫ニ依リ退学ヲ命セラレタル者アル時ハ一致団結シテ之ヲ援助スルコトノ四項ヲ決議シ即日実行ニ着手スルコトヲ申合セタル趣ナリ

右報告ス

本信写送附先 北平、奉天、哈爾賓、長春、間島

184 昭和4年5月22日 在鄭家屯大野領事館事務代理より
田中外務大臣宛

蒙古王公の国民政府政治制度導入に対する反発について

從來当地方ニ於ケル学生運動ノ主動者ハ城内公立法政専門学校ナリシモ近来同校長李綸三ノ取締嚴重ヲ極ムル為メ省立第一中学校之ニ代ツテ学生界ヲ牛耳ヲ握リ居レルカ南北統一後省政府当局ノ学生運動ニ対スル取締緩和セラルヘシトノ期待ハ全然裏切ラレ五七、五九紀念日ニ於ケル張作相主席取締ハ益々峻烈ヲ極メ寧口統一前ニモ優ルモノアルト共ニ学生運動ニ同情アリト認メラレタル新任教育庁長王莘林亦省政府ノ方針ニ迎合シテ圧迫的態度ニ出テ居ル為メ学生等ハ殆ント行動ノ自由ヲ奪ハレ居ル状態ナルカ而モ学生等ハ右官憲ノ圧迫ニ拘ラス大イニ運動ヲ起スヘク寄り寄り密議ヲ凝シツアル模様ナリシカ最近謀知スル処ニ依レハ省城学生及教職員ハ過日窃カニ某所ニ会合密議ノ結果長春及哈爾賓ニ於ケル中等以上ノ各校ト聯合シテ一、各校ノ学生会及吉林学生聯合会並教職員聯合会(客年解散ヲ命セラル)ノ回復ヲ許スコト二、学生ノ課外ノ正当ナル愛國運動ニ干涉セサルコト三、教育關係官庁カ故無ク学生ノ課外ノ自由行動ヲ制限セサルコト四、各校教職員ハ此後学生ト一致ノ態度ヲ取り以テ団結ヲ強固ニスルコト五、昨年決議シタル国貨提倡仇貨抵制ヲ能フ範圍内ニ於テ実行シ官庁ハ

機密公第二一三号 (5月29日接受)

昭和四年五月二十二日

在鄭家屯

領事館事務代理 大野 邦憲〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

蒙古王公會議後ニ於ケル同王公ノ動靜ニ関スル件

過般長春ニ於テ開催シタル蒙古王公會議ノ情況ニ関シテハ既ニ關係館長ヨリ御報告ノ次第モアル処其後ノ各王公ノ動靜ニ就キ聞知スル処ニ依レハ曩ニ會議ニ際シ国民政府ヨリ張學良ヲ通シ蒙古王公ナル名称ヲ廃止シ三民主義ニ基キ委員制度ヲ敷キ各王公ヲシテ委員ニ任スヘキ旨ノ提案ニ対シ其後各王公ハ更ニ意見ヲ聴取シタルニ賛成者トシテハ溫都爾王一人ナル為王ハ一般ヨリ売國奴トシテ排斥サレ一時身辺危険ニ陥リタリトモ伝ヘラル他ノ王公等ハ何レモ委員制度ニ対シ不満ヲ抱キ徒ニ国民政府ノ命ニ服従シ政体ヲ改革スルハ蒙旗ノ消長ニ関スル重要問題ナリトシテ輿論ヲ喚起シ居リタル処張學良ハ會議後ニ於ケル各王公ノ動靜ニ鑑ミル処アリ之カ懷柔策トシテ西藏ヨリ班禪活佛ヲ招聘シ極力緩和ニ努メ居リタルカ同活佛ハ最近帰省スル旨聞込ミタル

王公等ハ見送リヲ口実ノ下ニ連絡ヲ取り集合ノ上国民政府提案ニ係ル委員制度ニ極力反対ノ意ヲ表シ且ツ蒙古ハ從來通リノ政体ヲ継続スヘキ旨決議シタル上代表者ヲ南京ニ派遣シ右決議事項ヲ伝達スルコト、ナリタルカ若シ国民政府ニ於テ之ヲ肯セサル場合ハ各王旗ハ其ノ対応策トシテ独立運動ヲ企図セントシ鳩首熟議中ナリト云フ

右聞込ノ儘情報申進ス

本信写送付先 在支公使 奉天、哈爾濱總領事 長春、

齊々哈爾濱領事

185 昭和4年5月27日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛

遼寧省における三民主義教育の進捗状況につ

いて

機密公第五二〇号

昭和四年五月二十七日

在奉天

総領事 林 久治郎

外務大臣男爵 田中 義一殿

囑ヲ掲ケ毎朝之ニ礼拝ヲ行ハシムル等最モ早ク国民党の氣風ノ影響ヲ受ケタルカ其後二月中旬当地ニ於テ全省教育會議ノ開催アリ其ノ席上三民主義教育実施案ヲ可決シ省政府委員會ノ認可ヲ經テ三月一日ヨリ一律各中小學校ニ修身課程トシテ毎週一回三民主義ノ講義ヲ課スルト共ニ校内ニハ排外的の図面標語等ヲ揭示シ又各種ノ所謂國恥記念日ニ際シテハ特ニ排外的の訓授ヲ試ミ以テ一般學生ニ對シ國恥觀念ノ注入及國民の覺醒ノ喚起ニ努メツツアリ更ニ最近省政府ニ於テハ國民政府教育部ノ制定ニ係ル諸規則ヲ其儘當地方各學校ニモ實施スルコトトナリ一般課程ハ漸次南方政府所定ノ教材ニ移リツツアリ目下當地方各學校ニ於テ使用シツツアル教科書ハ何レモ大学院ノ檢定ニ係ル上海商務印書館出版『新時代教科書』及『小学黨化教材』上海世界書局出版『新主義課本』上海新國民圖書社出版『新中華三民主義課本』等ナル処此等教科書ハ必ス各卷ニ數章宛三民主義乃至不平等條約ノ撤廢、利權回收、帝國主義打倒等ノ排外的の思想鼓吹ノ教材ヲ巧ミニ按配編入シ排外運動ノ對象カ何レノ國ナリヤヲ暗示シ中ニハ頗ル露骨ナル辭句ヲ挿入シアルモノ尠カラス別紙乙号ハ目下當地方各學校ニ於テ最モ廣ク使

支那側ノ排日的教育実情調査ニ関スル件

本件ニ関シテハ不取敢往電第三二七号ヲ以テ所報ノ通り目下ノ処學校以外ノ各官衙軍隊方面ニ於テハ孫文ノ肖像及遺囑ヲ掲ゲ會議等ノ場合孫文ノ肖像ニ對スル敬礼及遺囑ノ奉読等ヲ行ヒ居ルモ三民主義ノ講義等ハ未タ實施シ居ラサル模様ニテ大体當地方ハ易幟以來日淺ク且ツ未タ国民党部ノ如キ組織の指導機關ノ設置ナキ關係上三民主義及之ニ伴フ愛國心涵養運動等ハ南方ニ於ケルカ如ク熾烈ナラサルモ近時一般學生労働者等ノ青年ニシテ三民主義乃至排外的の思想ヲ鼓吹セル書籍ヲ購読スルモノ漸次増加ノ傾向アリ別紙甲号所掲ノ書籍ハ最近最モ需要多キモノニシテ上海ニ本店ヲ有スル商務印書館、世界書局、大東書局等ノ各支店ハ何レモ競フテ此種新刊書籍ヲ発売シ居リ其売行頗ル良好ニシテ忽チ売切レトナル盛況ニテ斯ノ如キ一般青年間ニ於ケル此種書籍ノ購読熱ノ熾頭ヨリ延キテ早晚當地方ニ一般國民黨氣風ノ侵潤、排日的の空氣ノ醸生ヲ来スヘキハ避ケ難キ所ナルヘシト思料セラル他方教育界方面ノ実情ヲ觀ルモ客年末南北妥協成立スルヤ奉天教育會及奉天省城教職員聯合會等ハ卒先シテ祝賀通電ヲ發シ各學校ヲシテ孫文ノ肖像及遺

用セラレツツアル別紙丙号目録所掲(教科書ハ既ニ上海方面ヨリ送付済ノコトト思料セラルルモ為念別便ヲ以テ送附ス)上海商務印書館ノ出版ニ係ル『新時代教科書』ノ内容ヲ檢シ其内最モ露骨ナル排日的の教材ナリト認メラルル箇所ヲ摘示シタルモノナルカ或ハ日本ハ支那ノ藩屬國タル台灣、琉球、朝鮮ヲ奪取併吞シ其ノ統治ハ『武力政策』『愚民政策』等ヲ以テ土民ヲ酷遇シ其結果常ニ革命運動絶エストカ或ハ日本ハ數年前ノ大地震ニ依リ帝都一帯大損害ヲ蒙リ今ニ至ルモ恢復セストカ將又挿絵ニ特ニ大連灣又ハ南滿鐵路ト明記シ利權回收運動ノ對象カ日本ニアルコトヲ暗示シ其他旅大租借地、二十一ヶ條條約、五四運動等ノ解説ニ於テ故意ニ曲筆ヲ弄スル等一般國民ニ拔クヘカラサル排日思想ヲ鼓吹シ排日運動ノ助長ヲ煽動シ居ル点アリ斯ノ如キハ延テ日支國交ヲ阻害スルノ虞アルヲ以テ我方ニ於テハ此際支那中央政府ニ對シ嚴重抗議ノ上其ノ反省ヲ促スコト肝要ナルヘシト思料セラル

右報告申進ス

本信写送付先 在支公使 上海總領事

186 昭和4年5月31日

在奉天林總領事より
田中外交大臣宛(電報)

蔣・馮対立に關し東北四省の態度について

奉天 發

本省 5月31日前着

第三五二号

蔣馮ノ衝突ニ際シ兩者何レノ勝利ニ歸スルモ其ノ餘勢東北四省ニ波及シ四省ノ地位ニ不利ナル影響ヲ来スヘキハ推察ニ難カラサル処ニシテ張學良トシテモ馮進出ノ場合ニ処スルカ為既ニ相当ノ対策ヲ考慮シ居ルハ往電第三二九号(一)ノ通ノ処他方蔣ニ対シ此ノ際何等援助ヲ与ヘスシテ同人ノ勝利ニ歸センカ蔣トシテモ從前ノ如ク學良ニ好意ヲ示スコト無カルヘキヲ考慮シ表面中央政府ノ擁護ヲ表明シ武器供給等ノ要求ニ応シ居ルモ其ノ行フ処消極的ニ止マリ蔣側ヨリ数次ノ要求アルニ拘ラス未タ積極的軍事行動ヲ開始スルニ至ラス尤モ年少氣鋭ノ學良トシテハアホクハ地盤ヲ擴張セントノ野心無キニ非ス高紀毅、鄒作華等ノ少壯派亦積極的行動ヲ支持シ居ルカ如キモ張作相、萬福麟等旧派要人間ニハ保境安民ノ趣旨ノ下ニ時局ノ推移ヲ觀望スヘシトノ意

昭和四年六月五日

在奉天

總領事 林 久治郎

外務大臣 男爵 田中 義一殿

遼寧省聯合發行準備庫設立ニ關スル件

当地官銀号、中国、交通及辺業四銀行聯合ヲ以テ兌換券發行ノ次第ニ關シテハ往電第三三八号ヲ以テ報告ノ処右兌換券印刷未タ出来サル為メ差当リ辺業銀行兌換券面ニ四行聯合發行準備庫券ト加印ノ上發行シ現ニ右流通高約百萬元ニ上リ居ル趣ナルカ他方奉票ハ其後暴落ヲ続ケ客月二十七日最低六千元ヲ突破セントシタル為メ官憲ハ復又錢莊庄迫ノ挙ニ出テ一時五千六百元ニ戻シタルモ錢莊庄迫モ其効著シカラス漸次低落氣配ニ在リ本兌換券ノ増発ト共ニ奉票ハ益々低落スヘク其一般金融界ニ及ホス影響甚大ナルヘキモ兌換券發行ノ主要目的ニシテ奉票ノ整理ニ在リトセハ右現象ハ寧ロ好都合ナリト謂ハサルヘカラサルヘク目下成行注意中ナリ

御参考迄暫行章程訳文相添ヘ此段報告ス

本信写送付先 在支公使、上海 哈爾賓 吉林各總領事

二 滿蒙政況關係

見有力ニシテ而モ學良ノ内政的立場ハ之ヲ抑圧スルニ力足ラサルヲ以テ南方時局ニ大転回無キ限り東省ノ對南方針モ馮蔣何レカ一方ニ固着スルコト無カルヘシ從テ往電第三四七号孫傳芳起用ノ如キモ進テ蔣ヲ援助スト云フヨリモ寧ロ同人ノ力ヲ利用シ平津一帶ニ緩衝地帯ヲ設ケ蔣馮兩者ニ備ヘ以テ東北四省ノ地歩ヲ確立セントノ意嚮ニ出ツルカ如ク他方張宗昌ニ對シテモ往電第二八七号周大文ヲシテ帰途別府ニ立寄ラシメ張ニ對シ吉林省北部ニ於テ開墾事業ニ從事セシムルノ条件ヲ以テ歸滿ヲ促サシムル等東北四省攪亂ノ危険性アル諸分子ノ懷柔ニ努メツツアル実状ナリ

上海ヨリ南京、漢口ヘ転電アリタシ

支、天津、上海、濟南、青島ヘ転電シ、吉林、哈爾賓、長春、安東ヘ暗送セリ

187 昭和4年6月5日

在奉天林總領事より
田中外交大臣宛

奉天票の下落と四行連合發行準備庫による兌換券發行について

公第五四九号

安東 牛莊 遼陽 鐵嶺 長春各領事
關東庁

188 昭和4年6月6日

在奉天林總領事より
田中外交大臣宛(電報)

銷場税問題における日本側態度硬化に対する中国側の対応振りについて

奉天 6月6日後發

本省 6月6日後着

第三六〇号

往電第三一六号ニ關シ

銷場税問題ニ付當館ニ於テハ引続キ嚴重抗議中ナルモ支那側ハ自国民ニ對スル本件課税ハ内政問題ニシテ条約違反ニ非スト曲論シ庄迫ノ手ヲ弛メ邦商ノ取引一時殆ト杜絶シ之ニ對スル邦商側ノ態度モ取引ノ實際ヲ考慮シ硬軟二派ニ分レ容易ニ決セサリシカ結局硬派勝ヲ制シ警官ヲ派シ密偵追払ヒ実行方願出テ来レルニ付客月二十四日ヨリ邦店荷物ノ運搬ヲ開始セシメ密偵阻止セハ直ニ逮捕スルノ手配ヲ了シ実行ニ着手セル処支那側ハ我方態度ノ硬化ヲ察知シ又密偵

三名日本領事館ニ引然^(致カ)セラレタリトノ風評頻リニ伝ハレル等ノ關係モアリ爾來今日迄密偵ノ姿ヲ見ス本邦品取引ニ対スル妨礙斷絶シ取引漸次回復目下邦商ハ新規仕入レニ忙殺セラレツアリ

支、吉林、哈爾濱へ転電シ在滿洲各領事、赤峰へ暗送セリ

189 昭和4年6月9日 庵谷(忱)奉天商工会議所会頭より
有田(八郎)亜細亞局長宛

奉天票下落に対する奉天商工会議所の請願

奉商發第二七九号

昭和四年六月九日

奉天商工会議所

会頭 庵谷 忱(印)

外務省亜細亞局長 有田八郎殿

奉天票ノ暴落ニヨル対策トシテ銀券發行ニ関シ建議

奉天票ハ東三省唯一ノ資財ニシテ日滿貿易ニ対シ重大ノ關係ヲ有セリ然ルニ大正十二年第一奉直戰當時ヨリ次第ニ之ガ増發ヲ行ヒ軍費ニ充當シタルタメ遂ニ大正十五年ニ至リ金百円ニ対シ參百元四百元ト慘落相亞グヤ支那官憲ハ幾多

從來官銀号ノ農産物買占メハ総テ現銀調達ノタメニスル手段ニシテ其ノ都度奉票ヲ増發スルハ既ニ世間周知ノ事實ナリ而シテ今日ノ情勢ヲ以テセバ現在ノ百元券五拾元券ハ更ニ其ノ單位ヲ千元券五百元券トスルコト必然ナリ即チ之レヲ過去ノ事例ニ徴センカ昭和二年八月米國製ノ拾元券五元券ノ増發ヲ見タル當時世人ハ之レヲ稱シテ大票トナシタルニ早クモ二年ヲ出デズ其ノ單位ヲ百元券五拾元券トシタルニ見ルモ明カニシテ畢竟單位ノ増額ハ奉票価ノ下落ニ追隨シ更ニ其ノ發行額ヲ増加シ来ルコト必至ノ趨向タリ

此ノ間我商工業者ノ被ル損害トシテハ下落ノ都度一般支那側ノ購買力ヲ減ズル外常ニ取引ノ安定ヲ缺ケリ人往々ニシテ現在ノ邦商ハ華商ト取引ヲナスニ金又ハ現大洋ヲ以テスルタメ奉票下落ニヨリ損害ヲ被ルコトナシト稱スルモノアリ然レドモ延取引ノ行ハルル現状トシテハ縱ヘ華商ニ金或ハ現大洋ヲ以テ取引スルモ對手ノ華商ハ之レヲ一般需要者ニ奉票ヲ以テ販売スル以上奉票下落ニ伴フ支那人ノ損害ハ究極邦商ノ負担ニ帰スルコト明カナリ更ニ時々官銀号ニ於テ奉票ノ市場価格ヨリ通カニ有利ナル率ヲ以テ上海、天津、北京向ケヲ替ヲ自国民ニ限り取組ムタメ其ノ都度華商

ノ内訓ヲ發シ或ハ公定相場ヲ設ケテ之レヲ強要シ或ハ我金銀券ノ手持ヲ禁ジテ之レガ排斥ヲ行ヒ或ハ錢鈔業者ヲ殺戮シテ暴威ヲ逞シ或ハ奉天取引所ニ極度ノ圧迫ヲ加ヘテ先物取引ノ妨害ヲナスニ至レリ然レドモ當時単ニ我在住商工業者ノ憤怒ヲ招致シタルノミニ止マリ更ニ其ノ効ナク爾來年ト共ニ慘落ニ慘落ヲ以テシ今日ニ於テハ金百円ニ対シ実ニ六千元台ヲ上下シツツアリ

固ヨリ奉天票ノ發行額ハ極秘ニ附セラレアルタメ確實ナル數ヲ知ルコト能ハザルモ仄聞スルコロニヨレバ從來ヨリ發行シ来レル奉天票參拾億元本年三月一日ヨリ新タニ流通シタル百元券五拾元券ノ所謂大票ナルモノ約式拾億元ト稱セラレ更ニ最近ニ至リテハ五百元券流通ノ噂スラアリ斯クノ如ク多額ノ奉票ヲ増發スルニ至レル最近ノ一例ヲ示セバ旧正前張學良ヨリ官銀号ニ南方ヘ送金ノタメナリト稱シ三月十五日マデノ日限ヲ附シテ現大洋五百萬元ノ調達ヲ命ゼリ依ツテ同号ハ他ノ現銀調達ト合算シテ旧正七日以來開原ニ於テ大豆八千餘車「ハルピン」ニ於テ小麦粉約十八万袋海城、安東、蓋平ニテ柞蚕糸五拾万両ノ買占メヲ行ヒ之レヲ大票ニテ決済セリ

ハ之等ノ地方ト盛ンニ取引ヲナス結果外國品又ハ支那品ノ移入ヲ増大シツツアリ現ニ其ノ結果トシテ之レヲ奉天ノ現狀ニ示スニ大正十五年末大阪川口ヘノ出張員ハ八十三名神戸二十二名ナリシニ昭和二年末ニアリテハ前者三十五名後者十名トナリ爾來引続キ次第ニ其ノ數ヲ減ジツツアルニ拘ラズ上海並ニ天津等ヘノ出張員ハ之レト反對ニ漸増ノ狀態ニアリテ取引ノ殷盛ヲ表徴シ居レリ更ニ又近時奉天辺業銀行ノ如キハ上海、天津向ケヲ替ノ取組ミヲ懲慚シ自国民ニ限り上海申銀ヲ賣出シ之レガ準備金補充ノタメ大票ニヨリ鐵嶺、開原、長春等ニテ大豆ノ買占メヲ行ヒ之レヲ大連ニ於テ金票ニ換ヘ更ニ大阪ト連絡シテ上海申銀ヲ購入シツツアリ其ノ結果最近二ヶ月間ニ購入セル大豆ハ現大洋ニ換算シテ約五百萬元ノ巨額ニ達シ居レリ是亦明カニ上海、天津方面ヨリ外國品ノ移入ヲ盛ンナラシメツツアル一証左ニ屬セリ其他奉票ノ下落ニヨル工業方面ハ物価騰貴ノタメ賃金値上ゲニヨル爭議ヲ馴致シ多數ノ支那職工ヲ使用スレバスルホド常ニ影響甚大ナリ以上ノ如クニシテ将来仮リニ大正十五年當時ノ如キ支那官憲ノ圧迫ナシトスルモ奉票ノ下落ヲ見ル以上ハ啻ニ我在滿商工業者ノ被ル損害多大ナルノミ

ナラズ為メニ外国品等ノ移入ヲシテ増大ナラシムルコト明カナリ

頃者奉天票ノ暴落ニヨリ多大ノ損失ヲ被レル農民ハ金又ハ現大洋ヲ所持セムトスル傾向著シキヲ加ヘ来レリ又一般延取引ニモ漸次金又ハ現大洋建ヲ以テ一般取引ノ標準トナシ今ヤ中国、交通兩銀行ノ発行ニ係ル現大洋票ノ流通ヲ見ツツアリ殊ニ最近別紙^(省略)ノ如ク中国銀行東三省官銀号、交通銀行、辺業銀行ノ四行聯合シ現大洋紙幣ノ発行ヲ新聞紙上ニ広告セルノ状態ニシテ之レヲ以テ見ルモ既ニ民心ハ奉天票ヲ嫌忌シ如何ニ現大洋票ヲ歡迎シツアルカヲ窺知シ得ラルベシ

然レドモ之レニ対シ早クモ支那人間ニハ藥品ニ於テ何等異ナラザルニ水ヲ湯ニ代ヘ湯ヲ水ニ換ヘルノ愚ヲ演ジツツアルモノトノ冷評ヲ加ヘ居レリ即チ上記四銀行聯合ノ発行紙幣ハ奉票ニ代リテ之レヲ濫發シ聽テ第二ノ奉票トシテ經濟市場ヲ攪乱スルモノトナセリ依ツテ此際我國トシテハ

一、滿洲ノ既設金融機關ヲシテ現大洋引換ノ「ノート」

ヲ發行セシメ之レガ流通ヲ図ルコト

以上ノ方策ニヨルトキハ必ズヤ支那市場ニ歡迎セラレ特産

内務省警保局長殿

指定庁府県長官殿

吉林、哈爾濱各總領事殿

關東軍參謀長殿

關東憲兵隊長殿

關東州駐在海軍武官殿

滿鉄情報課長殿

在支各事務官殿

在京關東長官殿

管下各警察官署長殿(除奉天兩署長)

支那側ノ奉天票維持対策

奉天支那側当局ニ於テハ從來共奉天票維持問題ニ関シ金融維持会等ヲ組織シテ之カ対策ヲ講シ或時ハ錢鈔業者ヲ拘禁シ之ヲ銃殺スル等姑息ナル取締ヲナシ来リシモ元来非合法的の乱発ニ依ル奉票ハ到底人為ヲ以テ如何トモナス能ハス些タル時局ニヨル動搖ニモ常ニ變動甚シク漸次価値低落シ客月末以來遂ニ六千元ヲ割ルニ至リタル為メ当局ニ於テハ之カ暴落防止策ニ付種種惡辣ナル対策ヲ講シ居レルカ其狀況左ノ如シ

取引ハ勿論一般取引上ニ至大ノ便益ヲ与ヘ延テ奉票暴落ニ伴フ幾多ノ損失ヨリ免レ得ルコト必然ナリ世人或ハ支那側ガ今日ノ銀輸出禁止ヲ解クニアラザレバ現大洋ト同価ノ硬貨若クハ現大洋引換ノ銀券發行困難ナルカノ如ク称スルモノアリト雖モ現ニ正金銀行ノ銀券ハ之レヲ大連ニ於テ發行シ硬貨ノ引換ハ單リ大連ニ於テノミ応ズル現狀ト同一ニセバ必ズシモ支那側ノ銀解禁ヲ必要トセザルベシ
茲ニ閣下ノ御来奉ニ際シ弊所ハ議員会ノ決議ニヨリ此段及建議候也

190 昭和4年6月14日 藤岡關東庁警務局長より
吉田外務次官他宛

中国側官憲による奉天票價格維持策について

関機高發第一六九二八号

(6月19日接受)

昭和四年六月十四日

關東庁警務局長

拓務次官殿

内閣書記官長殿

外務次官殿

記

奉天当局ニ於テハ從來變動定マリナキ奉天票ニ付公定相場(現在金百円ニ対シ奉票四千元)ヲ制定シテ極力奉天票ノ暴落防止ニ努メ居タルモ其効ナク客月初旬頃既ニ五千元台ヲ突破スルニ至リ之カ対策上東三省官銀号、辺業銀行、中国、交通兩銀行ノ四行ヲシテ奉票整理ノ衝ニ当ラシムルコトトナリ屢々協議ノ結果右四行ニ於テ現大洋二千元ヲ準備シ其ノ準備庫ヲ大南門裡黑龍江官銀分号ニ置キ辺業銀行名義ヲ以テ現大洋票二千万元ヲ發行シテ奉票ヲ買収シ且現大洋ノ出境ヲ嚴禁スルト共ニ上海天津向為替ノ制限ヲ撤廃シ奉票ノ声価ヲ挙クルコトニ決定シ着々実行ニ努メツツアリシカ五月中旬頃ヨリ馮玉祥對蔣介石關係惡化シ再ヒ全支大動乱惹起、奉天軍閥内出動等ノ諸説伝ハルヤ奉票ハ益々崩落ノ步調ヲ辿リ二十五日ノ前場高価ノ如キハ五千七百元引五千六百八十元ニ慘落シ殆ト停止スル処ヲ知ラサル状態トナリタル処ヨリ省政府ハ屢々金融會議ヲ開催シテ奉票ノ引上策ヲ協議シ其結果奉票相場ノ崩落ハ奸商錢莊業者等ノ思惑空賣買ヲ為スニ基因スルモノナリトシテ各県当局ニ対シ之カ取締方ニ付左ノ如ク通電ヲ發シタリ

「奉票ノ暴落ハ既ニ其極ニ達シタルカ其原因ハ確實ニ奸商ノ投機的行爲ノ然ラシムル処ナルヲ以テ省城各錢莊ヲ査弁スルハ勿論當該県長ハ本令ヲ遵照シテ各錢莊ノ取締ヲナシ若シ投機的行爲アル場合ハ即時檢舉嚴罰シ罪状重キモノハ省政府ニ報告シテ指示ヲ受クヘシ」云々

斯クテ一面奉天城内各錢莊業者ニ對シテハ憲警ヲシテ帳簿ノ検査ヲ強制実行セシメ居タリシモ何等ノ効ナク本月五日後場取引ハ寄五千九百三十元高値六百三十五元引六千二百元ニ慘落シ種々ナル謠言伝リ尚崩落ノ兆アル処ヨリ本月六日午後二時ヨリ省政府主席翟文選ハ官銀号總弁外各銀行代表者交通委員會會長等ヲ召集シテ金融維持會議ヲ開催シ左記事項ヲ協議決定セリ

一、聯合準備庫現大洋票發行ヲ利用シ巨利ヲ貪ルヘク錢鈔業者等カ惡宣傳ヲナスモノナク嚴重ナル取締ヲ為スコト
二、最モ敏捷ナル維持弁法ハ營口ノ爐銀ヲ嚴重取締リ次ニ省城ノ各兩替店ノ投機者、仲買人ヲ逮捕シ更ニ附屬地内兩替店主人店員等ノ原籍地ニ於ケル財産ヲ沒收スヘク宣傳シ威嚇的手段ヲ弄スルコト

三、慘落原因ハ日本側通信新聞ノ時局宣伝ニ基因スルモノ

(欄外記入)三

敵査逮捕シ其ノ禍根ヲ斷ツ商民ハ当局ノ意ノアル処ヲ体シ自ラ談ヲ試ミルコト勿レ尚昨六日更ニ長官各省主席名ヲ以テ奉票ハ奉省ノ命脈ニシテ省内ニ於ケル取引ハ何レモ奉票ヲ使用シ居リ一部ノ奸商ハ之ヲ輕視シ敢テ空賣買ヲ為シ遂ニ奉票ハ五千元以上ニ暴落シタリ当局ハ之ニ對シ徹底のニ整理スヘク發行セル奉票ノ回收ヲ命シ已ニ發行高ノ五分ノ一ヲ回收セルカ回收奉票ハ官銀号ニ命シ小南關風雨台ノ紙幣燒燬爐ニ於テ燒燬ス尚引続キ官銀号ヲシテ奉票ヲ回收セシメ居リ回收完了モ近キニアリ聯合準備庫ヲシテ現大洋紙幣ヲ發行セシメタリト雖モ奉票ハ奉票トシテ存置流通セシメ現洋制度ニ改ムルモノニ非ラス云々」ト布告シ一般ニ警告スル処アリシモ如何セン益々種々ノ流言熾トナリ尋常ノ手段ヲ以テシテハ到底奉票ノ声価ヲ維持スル能ハサルニ至リタル処ヨリ当局ハ連日會議ヲ開催シテ善後策ヲ協議シ居タルカ七日正午ヨリ主席翟文選ハ白公安局長、陳憲兵司令、王交涉署長、張財政庁長、魯官銀号總弁、李市長其他各県長各銀行代表ヲ召集シテ金融維持會ヲ開催シ錢鈔業者ニ對スル積極の取締ヲナスヘク左記十二項ヲ實施スルコトニ決定セリ

多シ今ニシテ徹底的の維持策ヲ講セサレハ全ク日人ノ奸計ニ陥リ恢復困難ナレハ日本側ノ宣伝ヲ防止スルト同時ニ現大洋票公債券ノ發行ヲ為ス

四、東三省各地ニ流通スル朝鮮銀行紙幣ハ奉大洋ト何等異ナルナシ唯國ノ強弱ニ依リ差アルノミ由來鮮銀紙幣ハ信用アルモ日本内地ニハ絶對通用セス此間ノ事情ハ我國人知ラサルヲ以テ鮮銀紙幣ヲ金貨ノ如ク收受ス將來鮮銀ノ内容ヲ宣伝シ一般奉票ノ価値ヲ恢復ス

五、城内ニ日本側同様ノ錢鈔取引所ヲ設置シ附屬地内ニ於ケル華商ヲ召集シ日本取引所ヲ牽制ス

然ルニ翌六日ハ更ニ六千二百十五元ニ慘落シタルカ右ハ時局關係ノ惡材料ニ加ヘテ準備金ナキ四行聯合發行準備庫ノ現大洋票ヲ以テ奉票ヲ回收スヘシトノ説有力トナリタル為メ張學良、翟文選ハ前後二回ニ亘リ「財政庁長官銀号總弁等ハ最近奉票暴落シ物価騰貴ヲ招來シ奉省金融甚タシク紊亂セルヲ以テ之ヲ整理スヘク遼寧四行聯合發行準備庫ヲ設置シ豐富ナル準備金ヲ用意シ現大洋票ヲ發行シ信用ナキ外省紙幣ヲ省城ヨリ驅逐シ奉省金融ノ安固ヲ計リ一面現大洋ノ出境ヲ禁止シ且金融ヲ紊亂セル奸商ヲ軍警兩官署ヲシテ

(欄外記入二)(欄外記入一)

一、奉票ヲ以テ金融ノ本位トナス
二、官銀号ハ巨額ノ現洋金票ヲ準備シ兌換ノ用ニ供ス
三、惡感商人ヲ逮捕シ仲買人ヲ嚴重監視ス
四、小洋四十八元ヲ以テ現洋一元トナス
五、憲兵司令部、公安局ハ私服ヲ附屬地取引所ニ密派シ惡感商店ヲ調査ス

六、取引ハ奉票ヲ標準トシ金票現洋建貨物購入ノ時ハ支払勘定相場ヲトルヘシ

七、資本不足ノ錢鈔取引人ヲ調査シ其ノ營業ヲ禁止スヘシ
八、金票又ハ其ノ補助貨ヲ鈞錢ニ使用スルヲ禁ス

九、各錢鈔業者ノ現洋金票鈞上行ヲ調査ス

一〇、現洋ノ出境及商民ノ巨額ノ現洋手持ヲ禁止ス

一一、必要ナル場合ハ日本側ニ交渉シ取引所ヲ閉鎖セシム

一二、金融ヲ惑スカ如キ宣傳ヲ為ス仲買人ヲ逮捕ス

然シテ翌八日午前七時ヨリ各戸ニ巡警一名宛ヲ配置シ嚴重ナル監視ヲ為サシムルニ至リタル為メ各錢鈔業者ハ全ク先物取引不可能トナリ僅カニ電話以外ノ方法ヲ以テ邦人錢鈔業者ニ相場ヲ問合セ現物ノ交換ヲナスニ過キサリシ状態トナリ遂ニ約三分ノ一ハ休業スルニ至リ斯業者ハ大恐慌ヲ來

シ加フニ過般金融紊乱ノ罪ヲ以テ拘禁セシ城内義合永、世合義両支配人等ハ七日軍法課ニ廻サレ銃殺ニ決定シ近日中ニ執行セラルヘシ等々伝ヘラレ七日ハ遂ニ六千四百元ニ惨落シ居タルモ姑息ナル錢鈔業者庄迫ニ依リ八日ハ前場六千三十元ニ引返シタルカ当日午後ヨリ一般錢莊ニ対シ金票トノ現物交換ヲ禁止シタル為メ一種ノ金票排斥ノ觀ヲ呈シ敵重注意中ナルカ尚支那官憲ハ奉票相場立タサルノ故ヲ以テ休業ヲ命シ邦人錢舖ノ支那人店員等ノ外出ヲ待テ之ヲ拉致セントシテ各所ニ密偵ヲ配置シ九日小西關裡益和永錢莊ノ帳簿全部ヲ押収シ店員ヲ拘禁シタル事件アリ斯業家大恐慌ヲ来シ殆ト取引不可能トナリタルカ如斯姑息の取締ハ金融維持上何等ノ効ナク十日前場六千二百三十元後場六千三百元ニ惨落ノ状況ヲ呈シ公安局長等總出トナリテ不正錢莊ノ取締ヲナシ居レル為メ其ノ難ヲ懼レテ閉店スル者続出シ其ノ反面ニハ難ヲ避ケテ附屬地ニ転入スル者激増セル為メ支那側官憲ニ於テハ窃カニ附屬地ニ於ケル同業者ヲ内偵シ其ノ違反行為ノ摘発ニ努メ居レル為メ支那人同業者間ニ於テハ往年ノ如ク支那官憲ヨリ原籍地ノ財産没収、營業者ノ逮捕銃殺等免カレサルモノトシテ大ニ憂慮シ居レリ

〔欄外記入一〕
鮮銀券対策ハ始メテノコトナリ
〔欄外記入二〕
曾テハ奉票維持ノ為城内錢鈔取引所ヲ閉鎖セリ
〔欄外記入三〕
現大洋票ノ発行ハ奉票相場釣上策ナリ

191 昭和4年6月15日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

張學良の軍隊移動は蔣・閻に対する消極的援助の形式に過ぎないとの見方について

奉天 6月15日後発
本省 6月15日後着

第三七六号

張學良ハ去ル八日当地ヨリ鉄甲車隊(車外銃兵五百)錦州方面ヨリ砲兵一旅(砲五十四門)特殊砲隊一団(重機関銃十二迫撃砲十二門)ヲ山海關方面ニ輸送シタルカ情報ヲ綜

機密公第四一五号 (7月2日接受)

昭和四年六月二十四日

在吉林

總領事 川越 茂〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉林省城支那学生ノ救国会組織ニ関スル件

吉林省城支那学生等カ過般來学生聯合会並教職員聯合会復活方策謀中ナル次第ハ五月二十一日附拙信機密公第三五六号報告ノ通りナルカ最近謀知スル処ニ依レハ省城中等以上各校学生ハ六月二十二日江南農事試驗場ニ秘密会合シ省當局ニハ内密ニ救国会ヲ組織シ奉天東北大学ノ援助ヲ求ムルコトヲ決議シ救国会事務分掌ヲ左記ノ通り決定シタル趣ナリ

左記

法政専門學校	(外交)	省立第一中學校	(内政)
省立第一師範學校	(設備)	省立第五中學校	(秘書)
私立毓文中學校	(宣伝)	県立中學校	(庶務)
省立女子中學校	(會計)	省立女子師範學校	(電報)
同文商業學校	(音楽)	東林英文補習學校	(伝令)

合スルニ右ハ豫テ蔣閻等ヨリノ要請アリタル北津方面ノ警備引受ケノ為ニ過キスシテ寧口最近閻對馮ノ關係多少緩和セラレタルト蔣ノ地位亦少シク安定ノ傾向アルニ鑑ミ此ノ際多少ナリトモ中央及閻等ノ面子ヲ保持スルコト將來ノ利益ナリトシ極メテ消極的ニ援助ノ形式ヲ備ヘタルモノノ如シ
尚右軍隊ハ北津地方及石家莊方面ニ於テ山西軍ノ指揮下ニ置カルルモノナリト称セラルルモ未タ灤州以西ニ進出セル模様ナク過般熱河豐寧県ヨリ古北口、玉田豐潤県ヲ經テ入関セル鄭澤生ノ騎兵旅ト共ニ現ニ灤東五縣関内ニ分駐シ居ルカ如シ尚一説ニ依レハ右軍隊ハ万一回収困難ニ陥ルトモ格別損害トナラサル不良兵器ノミナリトノコトナリ不取敢上海ヨリ南京ヘ転電アリタシ
北京、天津、上海ニ転電セリ

192 昭和4年6月24日 在吉林川越總領事より
田中外務大臣宛

吉林省城中国人学生による救国会組織について

右報告ス

本信写送附先 北平、奉天、哈爾濱、間島、長春、局子

街

193 昭和4年6月29日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛

朝鮮人の雇用による水田経営を禁止する旨の

遼寧省農鉱庁長訓令について

公第六〇九号

(7月3日接受)

昭和四年六月二十九日

在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

水田耕作韓僑取締ニ関スル支那側訓令ノ件

遼寧省農鉱庁長ハ六月八日附ヲ以テ各水利局ニ対シ朝鮮人水田耕作ヲ使用シ紛擾ヲ惹起スルコトナキ様注意方訓令シ右訓令ハ六月十四日遼寧省政府公報ニモ掲載セラレタル処右ハ鮮人ヲ雇傭スルコトニ因リ紛擾ヲ惹起スヘカラサル旨訓令シタルモノト解セラルルモ又解釈ニ依リテハ鮮人ノ

雇傭ヲモ更正シタルモノトモ認メラレ其辞句頗ル曖昧ナルモ何等御参考迄

本信写送付先 朝鮮内務局長 鐵嶺領事

(別紙)

令各水利分局 廳長 劉 鶴 齡

查東省人民素以耕種早田爲業對於稻作類多未諳以致近年各處種稻者每有招雇韓僑情形滋生事端不一而足殊非提倡稻之本意現在本廳提倡種稻之唯一目的即在求國人自種倘因習慣上一時仍必雇用韓人亦須完全遵照中國法律及管理韓僑章辦理決不准因用韓人種稻而惹起糾紛此種意旨各局長當能深悉此後務望接按此意進行萬勿任不法韓人妄生事非重擾吾民也除分行外合令遵照此令

中華民國十八年六月八日

(右訳文)

東三省民ハ元來早耕作ヲ業トシ水稻作ニ付テハ多ク其要領ヲ知得セス而シテ近年各地ノ水稻者ハ在留朝鮮人ヲ雇用シ爲メニ種々ノ事端ヲ頻出シ実ニ種稻提倡ノ本意ニ反ス本庁

種稻提倡ノ唯一ノ目的ハ即チ國民ヲシテ自ラ之ヲ耕作セシムルニ在リ万一慣習上一時的鮮人雇傭ノ必要アル場合ト雖モ亦完全ニ支那ノ法律及管理韓僑章程辦法ニ從ハシム可ク決シテ鮮人ヲ雇傭シテ種稻スルコトニ因リ紛擾ヲ惹起セシムルコトヲ許サス之等ノ趣旨ハ各局長ニ於テ十分了知シ今後ハ切ニ本趣旨ニ從テ處理シ決シテ不法鮮人ヲシテ妄ニ事端ヲ醸サシメ中国人ヲ擾害セシムル勿レ云々

194 昭和4年7月4日

在吉林川越總領事より
幣原外務大臣宛

吉林省政府による国民党員逮捕について

機密公第四四一号

(7月11日接受)

昭和四年七月四日

在吉林

總領事 川越 茂〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吉林省政府ノ国民党員逮捕ニ関スル件

吉林省城公安局ハ六月九日元吉林新報社長王風普宅ニ於テ朱晶華等国民党員十名及毓文中学校ニ於テ同校学生八名ヲ

逮捕セルカ之カ情況ニ関シ諜知スル処ニ依レハ朱晶華等ハ

客年春以來国民党ノ命ヲ承ケテ当省城ニ入込ミ党務ノ進行ニ関シ大イニ活動シタル者ナルカ客臘易幟後吉林ニ省党部設置方省政府ニ請願シタル際(本年一月十日附拙信機密公第二八号参照)及吉林新報開設ノ際省政府ト意見合ハス爾來ソノ行動ヲ監視サレツツアリタルカソノ後省政府ハ中央

ニ対シ同人等ヲ召還シ別ニ東省党務ヲ管理スヘキ適任者ノ派遣方請願シタル処中央ニ於テ之ヲ許可シタル為朱等ハ多年ノ辛苦ノ報キラレサルヲ大イニ不滿トシ遂ニ省政府及中央ヲ非謗スルノ言動ヲ敢テスルニ至レルト共ニ毓文中学校学生八、九名モ之ニ雷同スルニ至レルカ之ヲ探知セル公安

局ハ直チニ赤化ノ嫌疑ヲ以テ之ヲ逮捕軍法処ニ押送セルモ取調ノ結果政治犯ナル為之ヲ高等法院檢察処ニ送致セリ同処ニ於テ取調ノ結果確証拳ラサル為東北最高分院ヲ經テ中央ニ措置振請訓シタル処同人等ハ党務ニ尽力シタルモノナルト共ニ毓文校学生ハ年少ノコトナレハ寛大ナル処置ヲトルヘキ旨回訓アリタル結果最近將來ヲ戒メテ之ヲ釈放シタル趣ナリ

右報告ス

本信写送附先 北平 奉天 哈爾濱 間島

195 昭和4年7月4日 在長春永井領事より
幣原外務大臣宛

朝鮮人の雇用による水田経営を禁止する旨の
吉林省農鉱庁長訓令について

公第二一〇号 (7月9日接受)

昭和四年七月四日

在長春

領事 永井 清〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

鮮農雇傭禁止ニ関スル件

当地長春農政府員ノ語ル処ニ依レハ今後水田ノ耕作ニ際シ
事件ノ發生ヲ防止シ且ツ農業利権ノ維持ヲ計ル為鮮農ノ雇
傭ヲ禁止シテ専ラ自国人ヲ使用スヘキ別紙訳文ノ通り吉林
省政府農鉱庁長ヨリ発令アリタル趣ナリ
右何等御参考迄ニ報告ス

(別紙)

訳文

水田耕作ハ近年來切ニ一般農民ニ提唱スル処ナルカ農民ハ
水田耕作ノ方法不熟不明ノ故ヲ以テ専ラ鮮人ヲ雇傭シ之レ
カ為種々ナル事端ヲ惹起スルハ決シテ永遠ノ計ニアラス現
今ニテハ我カ中国人ニシテ水田耕作ヲ會得スルモノ不尠サ
レハ殊更ニ鮮人ヲ雇傭スル必要ナク事端惹起ノ防止且ツ農
業利権維持ノ為メ今後ハ絶対ニ鮮人ヲ雇傭セス中国人ヲ使
用スル様若シ今後依然鮮人ヲ雇傭シ水田ヲ耕作スル者アレ
ハ必ス処罰スル旨公安局ニ命シ一般農家ヘ示達セシムヘシ
以上

196 昭和4年7月4日 在鉄嶺近藤領事より
田中外務大臣宛

日本側抗議により法庫県内小学校の排日唱歌

の禁令発布について

公信第二六八号 (7月9日接受)

昭和四年七月四日

在鐵嶺

領事 近藤 信一〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

法庫県ニ於ケル排日唱歌教授ニ関スル件

法庫県内各小学校ニ排日唱歌ヲ教授シツアルニ対シ嚴重
取締方交渉局長ヘ申入レ置キタル件ニ付テハ五月三十一日
付公信第二三九号報告ノ通りノ処其後法庫門駐在巡查ノ報
告ニ拠レハ当方抗議ニヨリ法庫県長李澤生ハ県教育局長ヲ
呼出シ警告スル処アリ局長ハ即時各小学校ニ対シ排日唱歌
禁令ヲ発シタルモノノ如ク翌二十七日以后一斉ニ停止セル
趣ニ付茲ニ報告ス

本信写送附先 北平、奉天、南京、上海、関東長官

197 昭和4年7月10日 在中国芳澤(謙吉)公使より
幣原外務大臣宛(電報)

張學良來平の目的について

北平

発

本省 7月10日後着

第七三四号

往電第七三〇号ニ関シ

張學良來平ノ目的ニ付テハ巷間種々ノ噂アルモ要スルニ閤

錫山、蔣介石ノ來平ヲ機會トシテ北方ノ政治問題殊ニ西北
善後処分並ニ滿洲党务等ノ諸問題ニ付協議ヲ為スニ在ルコ
トト察スルモ同時ニ滿洲ノ外交問題ニ付協議セムトスルニ
在ルハ學良カ沈瑞麟ヲ同行シ一方王正廷、周龍光等モ近ク
來平スルニ徴シ疑フノ餘地ナク又八日上海米國總領事「カ
ニンガム」同伴他用本使ヲ來訪セル米國公使モ學良ノ來平
ハ滿洲ノ外交問題ヲ主要ナル目的トスル旨聞込ミタリト内
話シタル事実ヨリ察スルモ外人間ニモ同様ノ觀測行ハレ居
ルモノノ如ク或ハ學良ハ蔣ニ対シ王正廷ノ來平ヲ促ス様電
報方ヲ依頼シタルモノナルヤモ測ラレス而シテ張學良ハ八
日大公報ノ記者トノ會見ニ於テ滿洲ニ於ケル露國ノ陰謀ヲ
説キタル後日本モ滿洲ニ於テ支那官憲ト問題ヲ起シ居ルカ
支那全国民ノ後援ヲ得テ支那ノ權利ヲ擁護スヘシ云々ト述
ヘタル旨報道セラル

奉天、南京、上海へ転電セリ

198 昭和4年7月13日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛

中国側利権回收熱に対応する上からも関東州

外警察権を外務省に統一する必要がある旨意

見具申

機密公第六四六号

(7月18日接受)

昭和四年七月十三日

在奉天

総領事 林 久治郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

關東州外警察権ノ外務省移管ニ関シ再稟請ノ件

支那ト列国トノ關係ハ最近支那ノ利權回収ニ關スル抱負ノ或程度ノ達成ニ連レテ愈々複雑トナリ且ツ困難ヲ増シツアルトコロ滿洲ニ於テ特殊權益ヲ有スル我國トノ關係ハ他ノ諸外国ニ比シ一層複雑且ツ困難ナルモノアリ現在支那人ノ心理ヲ以テスレハ關東州租借地及南滿鐵道及之ニ附随スル諸權利ヲ回収シ了ル迄ハ飽迄排日運動ヲ止メサルヤノ觀ヲ呈シ居リ帝國政府ニ於テハ之ニ對シ今ヨリ充分ナル対策ヲ講シ置クノ必要アルハ素ヨリノコトナルカ之ハ同時ニ出来ルタケ支那側ヨリ無用ノ反感ヲ買フコトヲ避ケ且ツ我出先諸機關ヲシテ能力ヲ挙げ不慮ノ禍災ヲ免レシムル為メ出来ルタケ制度等ノ改善ヲ施スノ要緊急ナルモノアリ

生ノ都度我警察官ノ処置力常ニ批難攻撃ノ的トナリ居リ此点ハ警察ノ移管ニ依リ当局警官ニヨリ多ク國際的訓練ヲ与ヘ支那側ノ反感ヲ或程度ニ緩和シ得ヘシ

一、奉天城内爆破事件ニ關スル件

本年二月下旬張宗昌關係本邦浪人連奉天城内爆破計画ニ當リ二月二十五日乾奉天警察署長ハ本件ニ關スル情報ヲ入手シタルニ不拘張宗昌乗出當時ニ於ケル關東庁側ノ態度ニ鑑ミ本件取扱ニ關シ先ツ以テ關東庁側ノ意向ヲ確カムルヲ必要ト思考シタルモノト見エ當館ニ右情報ヲモ通報スルコトナク表面他用ヲ稱シ内実ハ請訓ノタメ同日旅順ニ赴ケリ幸ヒ同日當館ニモ直接民間ヨリ同様ノ情報アリタルヲ以テ警察ニ敵命ノ上不穩計畫ヲ事前ニ防止シ得タル次第ナルカ若シ當館ニ於テ情報ヲ入手セサリセハ張宗昌ニ對スル關東庁側ノ取扱ニ照シ右計畫ハ關東庁側ノ默認ノ下ニ実行セラレタルヤモ計ラレス右ノ如キハ警察官ノ進退ニ關スル權限カ關東庁ニ所屬スル以上實際上免ル能ハサル所ナリ

一、私下武器密輸入ニ關スル件

本件ニ關シテハ六月十一日附谷課長宛森島領事ヨリ委細

本省ニ於テモ大体上述ト同様ノ見地ヨリ去ル大正十三年在滿行政機關統一ニ關スル内々ノ御詮議有之タルヤハ承知シ居ルトコロ其后ノ支那及滿洲ニ於ケル事態ノ推移ハ愈々益々諸機關統一ノ必要ヲ痛感セシムルモノアリ昨年本官当地着任后ハ一日トシテ其要ヲ感セサルコトナキ実状ナルヲ以テ客年十二月往電第七二三号ヲ以テ先ツ其趣旨大要ヲ電稟シ更ニ本年三月十八日附機密公第二八三号ヲ以テ關東州外警察権ヲ外務省ニ移管ノ件御詮議方及稟申置タル次第ナルカ其后支那ニ於ケル事態ノ推移ト南滿鐵道沿線ニ於ケル警察ノ実状トヲ見ルニ愈々在滿出先諸機關ヲ統一シ關東州外警察権ヲ外務省ニ移管シ滿鐵ヲモ外務省ノ監督下ニ置クノ必要切迫シ居ルモノト思考セラルルヲ以テ前記機密公第二八三号稟請ノ件比際取急キ御詮議相仰度前記公信発送后發生ノ州外警察権カ外務省ニ屬セサル為メ生スル不便不利ノ実例御参考迄二三左ノ通り添記此段稟請ス

記

一、移管ニ依リ對警察官批難ヲ緩和シ得

支那側ニ於テ排日宣伝材料トシテ使用シ居ル事件ハ勿論大部分誇張セラレ居リ事実ト遠サカリ居ルモ最近事件発

内報ニ及ヒタル通り本件ハ本邦利權屋カ支那側ヨリ内密入手セル官印盗用ノ護照ヲ引キアテニ關東庁ニ於テ多數ノ没収武器ヲ私下ケ奉天警察署長ノ了解ノ下ニ同警察署用品トシテ奉天ニ持込マントシタルモノニシテ之又州外警察権ノ關東庁ニ在ル結果ナリ

本信写送付先 在支公使

199 昭和4年7月20日

吉田外務次官より
小村拓務次官宛

滿鉄による北滿奧地進出邦商への援助状況に

關する八木總領事報告

通二普通第七一号

昭和四年七月二十日

外務次官 吉田 茂

拓務次官侯爵 小村 欣一殿

北滿奧地方面邦商進出ニ對スル滿鉄ノ援助ニ關スル件

本件ニ關シ今般在哈爾賓八木總領事ヨリ別紙写ノ通報告アリタルニ付為御參考右茲ニ送附ス

(別紙)

普通第五六一号

昭和四年七月八日

在哈爾濱

総領事 八木 元八

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

北滿奧地方面邦商進出ニ対スル滿鉄ノ援助ニ関スル件

北滿地方奧地方面ノ經濟的發展ハ住民ノ増加ニ伴フ農耕地ノ開墾ト相俟テ輓近著シキモノアルニ顧ミ滿鉄会社ニ於テハ邦商ノ奧地進出本邦商品ノ販路拡張ヲ促進センカ為在滿邦商中着実ニシテ信用アル者ヲ物色シ内密之ニ補助金ヲ交付シテ北滿奧地方面主要市邑ニ商店ヲ開設セシムルコトトナシ既ニ齊々哈爾及寧古塔ニ於テ之ヲ試ミタル処其成績頗ル良好ナルニ鑑ミ更ニ海拉爾、三姓及海倫ノ三地ニ於テモ店舗ヲ開設セシムルコトニ決定シタル所近ク海倫ニ於テ右店舗ヲ開クヘク依囑サレタル当地商人谷口益太郎カ当館ニ出頭シ語ル所ニヨレハ滿鉄側カ右ニ対スル補助条件及海倫地方ノ状況大要左ノ如シ

記

(一) 滿鉄ノ補助条件

イ、滿鉄ハ右店舗ノ家屋及造作代ヲ支弁ス

ロ、滿鉄ハ谷口ニ対シ毎年三千円ヲ支給シ海倫地方ノ調査ヲ為サシム

ハ、滿鉄ハ店舗開設後一ケ年ノ費用トシテ五千円ヲ又引

続キ二ケ年間各三千円ヲ補助支給ス

ニ、滿鉄ハ関稅費補助トシテ初年度五千円引続キ二ケ年間各七千円宛ヲ支給ス

(二) 谷口カ海倫ニ於テ借り入レタル家屋ハ店二十二坪、裏四十三坪ニシテ年額賃借料二千八百元三ケ年ノ契約ナリ

(三) 店舗開設ノ上ハ運轉資金二三万円ヲ融通シ約五万円ノ商品ヲ備ヘ置キ初年度ハ年額三十万円ヲ次年度ヨリハ五十万円位ノ売上ヲ得タキ希望ナルカ店員ハ専ラ支那人ニシテ約十七名ヲ使用シ谷口自身ハ月ニ二三回同地ニ赴キ監督ヲナス等ナリ

四 同地向キノ商品トシテ綿糸布ヲ大宗トシ砂糖、紙類之ニ次キ其他ニ硝子器雜貨等ニシテ夏向キ建築期ニハ亜鉛板ノ売行キ盛ナリ

(五) 海倫ハ目下人口約八万ヲ有シ本年ノ如キ新築中ノ家屋三万二三千坪(八千間)ニ及ヒ大工人夫等ノ賃金ヲ昂騰シ

居リ家賃ノ如キ昨年ニ比シ三割方騰貴セリト云フ

(六) 在哈邦商カ支那商ニ対シ劣勢ニ陥リ競争致シ難キノ原因ハ多々アルヘキモ支那商ノ多クハ奧地方面ニ支店ヲ有シ居ルノ關係上哈爾濱市場ニ於テ先物ヲ買付ケタル場合市価ノ下落ヲ見ルカ如キ際ニハ之ヲ直ニ奧地方面ノ支店ニ向ケテ売却キ市価ノ下落ニヨル損失ヲ地方ニ轉嫁スル等ノ方法ヲ講シ居ルモ邦商ハ哈爾濱ノ市価ニノミ左右セラレ右ノ如ク損失ヲ緩和スルノ途無キモ亦其原因ノ一タルヘク輓近奧地方面ノ異常ナル發展モ其直接利益ハ専ラ支那商ノ占ムル所トナリ邦商ハ何等均霑セサリシ所ナレハ滿鉄ノ援助ニヨリ漸次奧地方面ニ商店ヲ開設スルコトトナラハ右ノ如キ缺点ヲ多少ニテモ除去スルヲ得ヘキカ云々

右御参考迄報告ス

本信写送附先 在支公使 在奉天總領事 在齊々哈爾濱領事

200 昭和4年7月20日

藤岡関東庁警務局長より
吉田外務次官他宛

東北政務委員会による東北実業考察团组织について

関機高収第二〇六六八号ノ二

(7月25日接受)

昭和四年七月二十日

関東庁警務局長

拓務次官殿

内閣書記官長殿

外務次官殿

内務省警保局長殿

関東軍参謀長殿

関東憲兵隊長殿

關東州駐在海軍武官殿

滿鉄情報課長殿

在支各事務官殿

東北実業ノ開発計劃

東北政務委員会ニ於テハ本月十四日張學良委員長代理主席トナリ委員高維嶽以下出席ノ下ニ第四十次委員会ヲ開催シ

左記要項ヲ決定セリ

記

東北四省ハ尚礦産森林墾殖等ノ天然の富源ヲ多数有シ居ルニ拘ハラス交通ノ不便ナルト加フルニ土地荒漠ニシテ人煙稀ナル処ヨリ未タ開発ヲ見ス而シテ今ヤ東北ハ新政建設ノ際ナレハ就中実行方面ニ対シテモ応ニ之ヲ重要視シ以テ外人ノ侵略的經營ヲ免レサルヘカラス之ニハ東北実業考察團ヲ組織シテ四省各地ニ於ケル実業ノ現状及礦産森林等ノ所在地ヲ考察シ以テ開発ニ便シ而カモ喪失セラレタル利権挽回ニ資スヘシ

該団組織弁法下ノ如シ

一、遼吉黒熱四省々政府及礦庁技正技士並礦産農林商工上ノ専門的學術ヲ具備セル人材ヲ団員ニ任命ス

二、該団ヲ調査測量採驗研究ノ四部ニ分チ部毎ニ主任二名事務員四名ヲ置ク

三、經費三萬元

四、考查期間六ヶ月

五、考查帰來後即時最大規模ノ実業工廠ノ組織ニ着手シ官商合資ヲ以テ礦産森林及墾殖等ノ実業ヲ開発ス

201 昭和4年8月1日

在局子街田中副領事より
幣原外務大臣宛

間島地域における遼寧外交協進会の活動について

機密第二七〇号

(8月8日接受)

昭和四年八月一日

在局子街

副領事 田中 作〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

遼寧外交協進会宣伝文配布ニ関スル件

本件ニ関シ嘎呀河分署長ノ報告ニ拠レハ遼寧外交協進会ハ最近同地公安第二分局宛左記要旨ノ宣伝書ヲ送付シ来レリ

記

我等東三省人民ハ共同一致シ東三省ニ対スル中央政府ノ外交ヲ声援スルト共ニ会ノ実行スヘキ事項ヲ左ノ通り決議ス

一、東三省各界聯合ノ上全力ヲ尽シテ大運動ヲ敢行シ我外交ノ目的ヲ達成セシムヘク期スヘシ

二、張總司令北平又ハ天津滞在中ニ代表ヲ派遣シ露西亜ニ対スル武力對抗ト併セテ旅、大及南滿鐵道回収ニ付速ニ日本政府ニ交渉ヲ開始スヘク建言スヘシ

六、各地礦区森林墾殖地ニ通スル聯絡輕便鐵道ヲ建設シ專ラ礦物林木墾民等ノ運輸ヲ為ス

七、凡ソ各処ニ於ケル所有未発表ノ礦産森林ニ対シテハ此次考查ノ為該地ヲ經過セル時ハ必ス礦林ノ標本若干ヲ採取シ來リ試験ニ供スヘシ

八、凡ソ外人ニ依リ管内ニテ經營セラレタル礦産森林及其ノ他大実業ニ対シテハ均シク考查シ以テ利権挽回ノ研究材料タラシムヘシ

九、出發地点ハ先ツ東北四省内所有各鐵路沿線ヨリ考查ヲ始メ最後ニ更ニ徒步考查ヲ為ス

十、期ヲ分チ考查シ第一期ハ遼寧全省第二期ハ吉林全省第三期ハ黒龍江省各県第四期熱河全省トス每期ハ一ヶ月ヲ限リ其ノ他ノ二ヶ月ハ陸路徒步考查ノ期ニシテ期間満了スルモ考查ヲ終ラサル時ハ更ニ三ヶ月ヲ延期ス

十一、國民政府農礦部ヨリ礦政司長黎眷礦産化驗科長張鳳岐ノ派遣方ヲ請ヒ該団々長タラシムルコト

十二、該団出發後ハ所有国有礦産森林ハ即時商民ノ採掘出願ヲ停止ス

「以上」

三、民衆ヲ喚起シ張總司令及外交委員會ニ対シ中東線權益擁護並南滿洲租界回収実行ヲ促進スヘシ

四、日本政府ニ対シ柳原農場取消ヲ要求シ該土地ヲ回収シタル後賠償及謝罪ヲ要求スヘキコトヲ促スヘシ

五、日本政府ニ対シ中日親善ノ真実ナル方法ヲ講スヘク警告ヲ發スヘシ

六、常務委員會ヲ置キ宣伝文ヲ印刷シ東三省各界ニ宣伝シテ民衆ヲ喚起セシメ一面請願書ヲ作成シ各当局ニ陳情目的ヲ貫徹スヘシ

右参考迄報告ス

写送付先 奉天、間島

202 昭和4年8月13日

藤岡関東庁警務局長より
吉田外務次官他宛

中ソ紛争にともなう内蒙各王公の動搖抑止を

図るための蒙古王公会議開催について

関機高収第二三〇四九号ノ二

(8月19日接受)

昭和四年八月十三日

関東庁警務局長

拓務次官殿
内閣書記官長殿
外務次官殿
内務省警保局長殿
関東軍参謀長殿
関東憲兵隊長殿
關東州駐在海軍武官殿
滿鉄情報課長殿
在支各事務官殿

蒙古王公會議開催

在奉天蒙旗処長袁慶恩ノ建議ニ依リ露支紛糾問題ニ関連シ内蒙各王公等ノ親露及獨立運動ヲ防止スヘク奉天ニ蒙旗會議ト称シテ各蒙古王公ノ來奉召集シ慰撫懷柔ニ努ムルコトトナリタルカ其ノ中心人物ハ達爾罕王、袁慶恩ノ兩名ニシテ蒙古青年首領郭道甫ヲモ召集セリ既ニ着奉中ノ蒙古王公ハ内蒙圖什業圖親王、依克明安貝子代表郭爾羅斯、哲里木盟後旗賓圖親王、扎薩克多爾吉恒勤木王、郭爾羅斯後旗輔国公、扎賚特協里滿胡親王等十四名ナリ会期ハ八月一日ヨリ開始スル豫定ナリシモ各王公等不揃並ニ達爾罕王ノ都合

ノ一大障礙ナリ今回ノ會議ハ全ク張長官ノ對蒙赤誠ヲ宣示シ万一蒙民中ノ無智愚民等カ露人ノ奸策ニ陥リ或種ノ不穩行動ヲ起サハ全蒙ノ良民ニモ影響ス茲ニ諸君ヲ召集シ將來對各旗民ノ安生業業ヲ図ル為メ熟議ヲ擬ラシ万違算無キヲ期スルニアリ一兩日中達爾罕王ヨリ張長官ノ對策ニ付キ訓示アル筈ナリ云々
然シテ今回ノ召集ハ別ニ特別ノ議案アル筈ナク単ナル懷柔ニ過キサレハ御馳走政策ニ依リ旅費土産物ヲ給シ彼等ノ歛心ヲ購フニアル模様ナリ
「以上」

203 昭和4年8月22日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛

遼寧省党務指導委員への張學良政權首腦の就任について

機密公第七五五号

(8月28日接受)

昭和四年八月二十二日

在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

ニ依リ八月三日ヨリ奉天城内小西關小什字街蒙旗処ニ於テ會議ヲ開催シタルカ素モリ何等ノ具體的議題ナク一種ノ談話茶話会ニ過キス袁処長ハ開會ニ際シ大要左ノ如ク挨拶ヲナシタリ

南北統一後張長官ノ對蒙古改省及政治文化ノ振興策ニ付テハ既ニ御承知ノ通りニシテ機会アラハ親シク諸君ト接近シ意見ノ交換ヲ為スヘキ希望ヲ有シ居タルカ時局多事並ニ内政外交ノ隱患頻繁ニシテ蒙事ヲ顧ルコト自然ニ疎遠セリ諸君周知ノ如ク露支問題ハ愈々重大化シタリ從來赤露ノ共產宣伝滿蒙政策ハ日本ト同様常ニ侵略ヲ意味ス内蒙各盟旗王公各位ハ故大元帥、吳督軍時代ヨリ既ニ東三省政府ニ依附シ張長官執政以來内蒙領袖郭道事ト連絡離ルヘカラサル團結ヲ結ヒ奉蒙各民ハ一視同仁決シテ差別待遇ナシ現在蘇聯ノ對蒙陰謀ハ種々手段ヲ換ヘテ煽動シツツアルモ我カ張長官ハ從來ノ奉蒙關係ニ照シ絶對内蒙治安維持ニハ確信ヲ有セリ最近鄒作華屯墾司令ハ蒙地ノ荒原ヲ開拓スヘク数千万円ノ巨款ヲ投シ漸次内蒙ノ發展ヲ謀リ將來鐵道学校工廠耕作ノ奨励ヲ行フ豫定ナルモ之レ全蒙民ノ福利増進ヲ目的トスルモノナルカ端ナクモ露支問題發生セルコトハ内蒙開発

東北党務指導員更迭ニ関スル件

当地警察情報左記ノ通御参考迄送付ス

記

東北省ニ於ケル党務工作ハ今ニ何等進捗セサルニ依リ南京政府ニ於ハ此ノ際組党促進ノ為メ曩ニ東北ニ派遣シタル指導委員全部ヲ更迭セシムルコトニ決定シ更ニ東北党務指導委員トシテ左記新委員ヲ任命数日前南京当局ヨリ東北政務委員宛其ノ旨通電シ来リタリト謂フ

記

一、張學良 王君培 彭志雲 王樹常 康明震
李紹沆 徐 箴

(以上七名遼寧省党務指導委員)

二、張作相 韓介生 熙 治 林常盛 石丸齡
張心潔 顧耕野

(以上七名吉林省党務指導委員)

三、萬福麟 王憲章 田見龍 王秉鈞 孟傳大
呂醒夫 陶經武

(以上七名黑龍江省党務指導委員)

四、張景惠 張 冲 張大同 張翰 邢士廉

(以上五名哈爾賓黨務指導委員)

本信写送付先 上海 哈爾賓 吉林各総領事 齊々哈爾領事

204 昭和4年8月28日

在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

日中関係改善化のためにも在滿日本側行政の

統一が必要との意見具申

奉天 発

本省 8月28日後着

第五二九号(極秘)

日露戦役ヲ終リ明治四十年春滿鉄会社ヲ創設シテ以来茲ニ二十二年余其ノ間我カ帝国ノ滿洲ニ於ケル發展ハ一部国民ノ期待ニ副ハサリシモ之ハ公平ナル見地ヨリ見ルニ一年ト発達ノ度ヲ加ヘ相当ノ成績ヲ挙げタリト謂フヲ得ヘシ但シ近年支那国民ノ自覺ト利權回収不平等条約廃棄運動ノ益々盛ナルニ從ヒ是等ノ思潮ハ支那本部ヨリ東三省ニモ伝染シ後者ニ於テハ我國ニ憚リ表面具體的ノ排日行動ニ出ツルコト多カラスト雖内心ニハ日本ノ優越ナル地位ト利權

モノニ非ス去リトテ現在支那国民思想ノ傾向ヨリ見レハ向後對外運動盛ナルニ從ヒ我滿洲ニ於ケル權益ニ對スル回収運動益々勃興シ滿洲夫レ自身ニ於テモ支那官民ノ我方ニ對スル態度逐日横暴ナル状態ニ立至ルヘキハ想像ニ難カラス果シテ然ラハ之ニ對シテ我方トシテ如何ナル対策ニ出ツヘキヤ我對支方針トシテハ元ヨリ兩國親善ヲ持シ共存共榮ヲ目的トシ滿洲ニ於テハ彼我關係ノ深キ丈一層此ノ点ニ注意スルヲ要シ兩國国民ノ理解ト親善トニ努力スルノ必要アルモ之ヲ過去ノ歴史ニ徴スルニ滿洲ニ於ケル諸機關分立ノ為帝國政府ノ方針ハ遺憾ナラ常ニ徹底セス之カ為支那側ノ誤解ヲ招キ彼我ノ不和ヲ齎セル事鮮カラス從來政府ハ幾度カ此ノ点ニ注意シ出先諸機關ノ一致ヲ要望セルモ失敗ニ埒シ居レルカ將來支那国民思想ノ推移ト滿洲ニ於ケル日支關係トヲ考フルニ於テハ我方ニ於テハ此ノ際出来ル丈出先諸機關ノ統一ヲ計リ帝國ノ方針ハ共存共榮ヲ本義トシ極メテ公正ナルモノナル事ヲ徹底シ支那官民ニ示シ彼等ヲシテ横暴ナラシムル余地無カラシメ以テ兩國關係ヲ改善セシムルノ要切ナルヲ痛感ス依テ茲ニ速ニ在滿諸機關制度改正ノ實現セラレン事ヲ稟議ス

トニ對スル反感横溢シ暗ニ種々ノ方法ヲ以テ我邦人ノ經濟發展阻止ニ努メ日支兩國人ノ融和ト今後ノ我經濟勢力ノ伸張ヲ極メテ困難ナラシメツツアリ一昨年夏以來ノ張作霖楊宇霆等ノ使喚ニ係ル当地ニ於ケル露骨ナル排日運動ハ実ニ其一証ニシテ更ニ昨年ノ張作霖爆死及南北妥協阻止以來ハ我國ニ對スル反感ハ内訌的ニ拡大シ当地方ニ於ケル日支兩國ノ親善ヲ益々困難ナラシメツツアリ

之カ為邦人中ニハ滿蒙問題行詰レリト為スモノ或ハ南方勢力ノ北漸ヲ豫想シテ滿洲ニ於ケル我カ權益ノ將來ヲ悲觀シ結局ハ旗ヲ捲イテ退クニ至ルヘシ等觀測スルモノサヘ出ツルニ至レリ

卑見ヲ以テスルニ東三省ニ於ケル日支關係ノ將來ハ勿論樂觀スルヲ許サスト雖決シテ行詰レルモノニ非ス又一部論者ノ謂フ如ク悲觀スルヲ要セス

蓋シ滿洲ニ於ケル我權益ハ元他ノ諸國ノ租借地等ノ如ク侵略的動機ニ依リテ支那ヨリ搾取シタルモノニ非スシテ我自衛ノ為東洋ノ平和ノ為同時ニ支那保全ノ為露國ト戦ヒ多大ノ犠牲ヲ払ヒ露國ヨリ繼承セルモノニシテ断シテ普通ノ利權回収運動又ハ不公平等条約廃棄運動等ノ標的タラシメ得ル

205 昭和4年8月30日

在吉林川越総領事より
幣原外務大臣宛

中国側官憲による吉林省在住日本人の状況調

査要請について

機密公第五七八号

(9月9日接受)

昭和四年八月三十日

在吉林

総領事 川越 茂(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

支那側ノ在住本邦人状況調査ニ關スル件

最近省城公安局ハ当地在住本邦人ニ對シソノ土地家屋ノ權利關係、戸口、營業狀況等ニ就キ戸別調査ヲ開始シタルヲ以テ不取敢本邦人ニ對シテハ之カ調査ヲ拒絶セシムルト共ニ交渉署ニ對シ右中止方警告シ置キタル処今般交渉署ヨリ本件ハ國民政府ノ命令ニ基キ公安局ヲシテ各戸ニ付調査セシメタルモノナルカ當館ヨリ警告ノ次第モアリ右直接調査ハ中止セシムヘキニ付當館ニ於テ別紙調査表(十四種)ニ就キ取調回報アリ度旨非公式申出ノ次第アリ然ルニ右調査

項目中ニハ発表ヲ憚ルモノアルト共ニ元来本件ハ国民政府訓令ニ基クモノナルニ顧ミ独リ当地方ノミナラス各地共一律調査ヲ実施スルモノト認メラルルニ付他公館トノ関係モアリ之カ措置振豫メ御指示相仰置度此段報告旁稟請ス
本信写送附先 北平 奉天 哈爾賓 間島 長春

206 昭和4年9月4日 在間島岡田総領事より
幣原外務大臣宛

張学良の利権回収を目的とした在満日本人調査訓令について

機密第一〇四三号 (9月11日接受)

昭和四年九月四日

在間島

総領事 岡田 兼一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

支那側ノ日本ノ利権回収資料調査方訓令ニ関スル件

(銅佛寺分署長報告)

本件ニ関シ東北边防軍総司令張學良ハ国民政府ノ内訓ニ基キ日本ニ対スル不平等条約ノ撤廃並滿鉄其他ノ利権ヲ回収

本信写送付先 北平公使、奉天、吉林、哈爾賓各総領事、

長春、安東各領事、通化分館主任

朝鮮総督、咸南、咸北、平北各知事

朝鮮軍、第十九師団両参謀長、羅南憲兵隊

長

管内各分館主任各署長分署長

207 昭和4年9月9日 在ハルビン八木総領事より
幣原外務大臣宛

第十一回滿州商工会議所連合会決議事項について

普通第七二五号 (9月17日接受)

昭和四年九月九日

在哈爾賓

総領事 八木 元八〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

第十一回滿州商工会議所聯合会ニ関スル件

第十一回滿州商工会議所聯合会ハ本月四、五兩日当地ニ開催セラレタル処参加セル商工会議所及実業協會ハ安東、哈爾賓、鐵嶺、奉天、鞍山、長春、營口、撫順ノ九箇所ニシ

セムトシ八月十三日附ヲ以テ之カ資料調査方隸下機關ニ対シ訓令シタル由ナルカ其内容左記ノ如シト御参考迄

記

- 一、日本警察機關ノ所在箇所、人員、武器ノ員数並經費
- 二、日本人經營ノ会社製産品及同能力、投資額並設置箇所
- 三、日本人經營ノ各種商工業狀況個数箇所
- 四、各医療機關ノ状態、各商店ノ經營並資産
- 五、旅館業質屋、金貸業、料理屋、写真業ノ業務状態
- 六、各地ニ於ケル金融機關ノ設置員数、基金並貸借状況
- 七、日本人對鮮人ノ經營業ノ振興状态
- 八、日本側ノ施設諸学校ノ員数、箇所、生徒数及教育ノ主課目
- 九、各思想団体組織状态
- 一〇、各省内ニ於ケル日本ノ人口(日鮮人ノ區別)並ニ職業別
- 一一、鮮人ノ滿洲移住方針ニ関スル日本側ノ計画
- 一二、各種事業ニ対スル投資状态
- 一三、帰化鮮人、非帰化鮮人ニ対スル日本側ノ態度
- 一四、基地参考事項

テ議決事項要領左ノ通ナリ

- 一、南滿、東支聯絡及日滿聯絡輸送貨物ニ対スル運送責任日数規定ノ適用復活方ヲ哈爾賓商工会議所ニ於テ滿鉄側ト協議ノ上東支鉄道ニ要求スルコト(哈爾賓提出議案第三号)

一、日滿聯絡輸送貨物運賃ノ東支鉄道取得額ヲ現南滿、東支聯絡ニ依ル「タリフ」計算割合ト同様ニ低減シ尚同上東支鉄道取得額徴収方法ニ付テモ現行南滿、東支聯絡ニ拠ル規定ヲ準用スル様關係鉄道其他ニ要望スルコト(哈爾賓提出議案第四号)

一、輸入貨物ノ荷技被害防止策講究方運送当局並大連、安東、營口ノ各海關ニ要望スルコト(鐵嶺提出議案第五号)

一、奉天票暴落ノ対策トシテ銀券發行方建議ノ件ハ第七回聯合会ノ可決ニ係ル「滿洲金融制度並政策改善ニ関シ要請ノ件」ノ促進実現ニ関スル実行委員(大連奉天、安東)ニ一任シ奉天ニ於テ文案ヲ作り聯合会长ノ名ヲ以テ当局ニ要請スルコト(奉天提出議案第六号)

一、滿州ニ於ケル邦人商工業発達ノ為特ニ積極的助長政策

ヲ採用方ニ関シ哈爾賓、大連、奉天三會議所ニ於テ要請文ヲ起草シ当局ニ要望スルコト（哈爾賓提出議案第七号）

一、製鋼所ヲ滿州ニ建設ノ件ニ関シテハ現在新内閣及滿鉄新幹部ニ於テ反覆調査中ナルヲ以テ此際当局ニ請願スルコトハ之ヲ差控フルモ聯合会ハ滿州カ經濟のニハ我國ノ延長ト看做サルヘキモノナリトノ見解ヲ有スルヲ以テ製鋼所設置ニ関シ右ノ点ヲ政府ニ於テ充分考慮セラレムコトヲ希望ス（鞍山提出議案第二、但シ鞍山會議所ハ初メ製鋼所ヲ鞍山ニ設置方請願ノ提案ヲナス筈ナリシ処會議ノ空氣ニ鑑ミ右「鞍山」ヲ「滿州」ト改メタルモ會議ノ結果右ノ如キ決議ニ修正セラレタルモノナリ）

一、南滿東支聯絡及日滿聯絡貨物輸送ニ依ル免責事項「荷造不完全ニ因ル自他ノ損害ハ貨主ノ負担トス」ノ適用ニ関シ荷造完全ナル場合ト雖強イテ荷主ヲシテ荷造不完全ヲ認メシメ以テ責任ヲ免レムトスル鐵道側從來ノ取扱振ヲ改善セムコトヲ關係鐵道等ニ要望スルコト（哈爾賓提出追加議案）

尚在滿邦人ノ企業ヲ脅威スヘキ共產運動取締方ニ関シ当局

ルハ洵ニ痛恨ニ堪ヘザル所ナリ。

共產主義ガ我國體ニ背馳スルノミナラズ、我經濟組織ト根本ニ於テ相容レサルコト云フ迄モナシ、況ンヤ帝國ヲ背景トスル滿洲ノ特殊地域ニ在リテ此種運動ノ跳梁ヲ恣ニセシムルハ、在滿邦人ヲシテ對外的ニハ幾多ノ對外交渉案件ノ山積ニ懊惱セシムル外、更ニ對内的ニ於テ斯ル共產運動ハ我既設企業ニ脅威ヲ与フルノミナラズ、牽テ滿洲ニ於ケル我經濟組織惑乱ノ導火線トモナリ、即チ在滿邦人ハ腹背敵ヲ控フルノ窮狀ニ陥ルベシト信ズ、依ツテ滿洲ニ於ケル共產運動ガ邦人ノ企業ヲ脅威セントスルニ對シテハ徹底的彈圧ト其ノ根絶トヲ期スルガ為メ其ノ取締法規及ビ取締方法ニ就テ一層其ノ完璧ヲ期セラレ度様當局ニ建議セントスルモノナリ。

第三号議案

南滿、東支聯絡及日滿聯絡輸送貨物ニ對スル運送責任日數復活方ヲ關係鐵道其他ニ要望ノ件

理由

哈爾濱日本商工會議所提出

ニ建議ノ件（安東提出議案第一）
及滿州商工會議所聯合会規則改正ニ関スル件（奉天提出議案（第八号））ハ何レモ否決セラレタリ

右議案及理由書並委員附托トナリタル第四号第六号第二号各議案ニ関スル委員會報告相添ヘ此段報告ス

本信写送附先 在支公使 在奉天、上海各總領事
在長春、安東、鐵嶺、營口各領事

（別紙）

第十一回滿洲商工會議所聯合會議案

第一号議案

在滿邦人ノ企業ヲ脅威スベキ共產運動ノ取締方ニ
関シ當局ニ建議ノ件

安東商工會議所提出

理由

共產主義的傾向ガ列國ノ經濟界ヲ鳩毒スルヤ既ニ久シ、而シテ今ヤ南北滿洲ヲ通ジテ各般ノ企業ヲ脅威スルノミナラズ、其ノ經濟根基ヲ覆サントスル共產運動ガ陽ニ陰ニ各地ニ擡頭シ進ンデ在滿邦人ノ企業ニ波及セントスルアルヲ看

南滿、東支聯絡及日滿聯絡輸送貨物ニ對シテハ輸送責任日數ニ関スル規定存スレ共、該規定ハ歐洲戰爭當時東支鐵道ニ依ル輸送渋滞ノ為メ之ヲ適用セサルコト、ナリ以テ今日ニ迫ベリ、斯クノ如ク永年鐵道ガ輸送遲延ノ責任ヲ回避シツ、アルハ妥當ヲ缺クノミナラズ、荷主ノ苦痛トスル所ナルヲ以テ此際該規定ノ復活方ヲ關係鐵道其他ニ要望セントスルモノナリ。

第四号議案

日滿聯絡輸送貨物運賃ノ東支鐵道取得額ヲ現行南滿、東支聯絡ニ抛ルモノト同一率ニ改定シ尚同上東支鐵道取得額ノ留對邦貨換算徵收方法モ之ヲ現行南滿東支聯絡ニ抛ル規定ヲ準用スル様關係鐵道其他ニ要望ノ件

理由

哈爾濱日本商工會議所提出

東支鐵道運賃ハ一九二〇年十二月一般貨物ニ對シ「タリフ」二倍ノ金貨留ヲ收受スルコト、トナリ、其後一九二一年一月各品目別ニ其割合ヲ變更シ、最低ハ「タリフ」ト同

一額、最高ハ「タリフ」ノ二倍ニ夫々改定セラレ爾來南滿東支聯絡輸送ニ抛ル東支側取得額ハ之ニ抛リ算出サル、コト、トナリ居レルモ、日滿聯絡輸送ニ関シテハ今日ニ至ルモ依然「タリフ」二倍當時ニ協定サレタル運賃率ニ抛リ居ルヲ以テ高率ノ運賃ヲ徴セラル、モノ多シ、又現行ノ日滿聯絡ニ抛ル東支鉄道取得額支払方法ハ荷主ニ取り不利不便尠カラズ、殊ニ生果、野菜、鮮魚等ハ発駅ニ於テ東支鉄道取得額ヲ現払トシテ發送セントスルモ能ハズ、供託金ノ積立ヲ餘儀ナクサル、為メ荷主ノ蒙ル苦痛、損害大ナリ、仍テ日滿聯絡輸送運賃ノ東支取得額ヲ南滿東支聯絡輸送ニ抛ルモノト同一率ニ改定スルト共ニ其運賃支払方法モ亦南滿東支聯絡輸送ノ規定ヲ準用シ同一ノ取扱ヒヲ為ス様關係鉄道其他ニ要望セントスルモノナリ。

第五号議案

小口輸入雜貨ノ荷拔被害防止ニ對シ海關並ニ運送

当局者ニ要望ノ件

理由

鐵嶺商工会議所提出

(編注三) 小口輸入雜貨荷拔被害ハ、從來ヨリ屢々之ヲ發見スル処ニシテ、近時貨物發送者側ニ於テモ荷造方法ヲ考究シ其包裝ハ著シキ改良ヲ見、又運送当局者ニ於テモ相当ナル監督ヲ講セラレツ、アレ共、最近拔荷ノ手段ハ頗ル巧妙ヲ極メ之ガ為メ荷受ノ際ハ何等破損ノ跡ヲ認メズ、自家ニ於テ荷開キ後初メテ其被害ヲ發見スルニ至ルコト頻々タリ、之レガ損害ハ殆ド荷受人ノ負フ処トナリ、當業者ハ不測ノ損失ニ悩サレ苦衷トスル処甚大ナリ、依テ運送當局者並ニ大連、(編注四) 安東ノ兩海關ニ對シ荷役監督ヲ一層嚴ニスルト俱ニ、徹底的之レガ防止策ヲ講究セラレンコトヲ要望セントスルモノナリ。

第六号議案

奉天票暴落ニヨル對策トシテ銀券發行方建議ノ件

奉天商工会議所提出

理由

日滿貿易ニ重大ノ關係ヲ有スル奉天票ハ近時次第ニ暴落シ平価金百円ニ對シ百二、三十元ノ奉票ハ今ヤ七千元台ノ慘落ヲ見、然モ前途尚逆睹シ難キモノアリ、此ノ間我商工業

二 滿蒙政況關係

者ノ被ル損害トシテハ下落ノ都度一般支那側ノ購買力ヲ減殺シ取引ノ渋滞ヲ來ス外奉票下落ニ伴フ支那人ノ損害ハ延テ邦商ノ取引ニ影響ヲ及ボシ、其損失多大ナリ、更ニ官銀號ハ自國民ニ限り奉票ノ市場價格ヨリ遙ニ有利ナル率ヲ以テ上海、天津、北京向為替ヲ取組ミ、奉票ニ對スル差別的取扱ヒヲ行フ結果、華商ハ之等ノ地方ト盛ニ取引ヲ為シ、外國品又ハ支那品ノ移入ヲ増大シツ、アリ。其他奉票ノ下落ニヨル工業方面ハ物価騰貴ノタメ賃銀値上ゲニヨル爭議ヲ馴致シ多数ノ支那職工ヲ使用スルモノニアリテハ殊ニ影響甚大ナリ、一方支那側ニアリテモ奉天票ヲ嫌忌シ金又ハ現大洋票ヲ所持セントスル傾向著シキヲ加ヘ來レリ、又一般延取引ニモ漸次金又ハ現大洋建ヲ以テ一般取引ノ標準トナシ今ヤ辺業、中国、交通、三銀行ノ發行ニ係ル現大洋票ノ増大ヲ見ツ、アリ、從來支那官憲ハ奉票価ノ挽回策トシテ幾多ノ内訓ヲ發シ、或ハ公定相場ヲ設ケテ、市価以上ノ通用ヲ強制シ、或ハ我金銀券ノ手持ヲ禁シテ、之レガ排斥ヲ行ヒ、或ハ錢鈔業者ヲ殺戮シテ彼等ヲ恐怖セシメ、或ハ奉天取引所ノ取引人ニ對シテ極度ノ圧迫ヲ加ヘ先物取引ノ妨害ヲナス等種々ナル方策ニ出テタルモ、

更ニ其効ナキヲ覺リタルト、一方叙上ノ如ク既ニ支邦商民間ニ於テ奉天票ヲ嫌忌シ、現大洋票ヲ歡迎スルノ情勢ニアルト相俟ツテ茲ニ本年五月、中国銀行、東三省官銀號、交通銀行、辺業銀行ノ四行聯合シ、現大洋紙幣ノ發行ヲ行フニ至レリ、然レトモ歲出入ノ均衡ヲ無視シテ鐵道其他ノ事業ヲ乱興シ、極度ニ軍備ヲ擴張シテ国帑ヲ濫費スルノ結果、四行聯合ノ新紙幣モ亦聽テハ第二ノ奉票トシテ經濟市場ヲ攪乱スルモノト見ラル、依ツテ此ノ際我國トシテハ一、滿洲ノ既設金融機關ヲシテ現大洋引換ノ「ノート」ヲ發行セシメ之レガ流通ヲ図ルコト。

以上ノ方策ニヨルトキハ、必ズヤ支那市場ニ歡迎セラレ、特產取引ハ勿論一般取引上ニ至大ノ便宜ヲ与ヘ、延テ奉票暴落ニ伴フ幾多ノ損失ヨリ免レ得ルコト必然ナリトス。

第七号議案

滿洲ニ於ケル邦人商工業發達ノ為メ特ニ積極的助長政策ヲ採ラレンコトヲ我が關係当局ニ要望ノ件

哈爾濱日本商工会議所提出

理由

母国ト殖民地トハ必ズシモ其実情同シカラサルヲ以テ兩者

ニ対スル諸般ノ政策ハ自ラ其軌ヲ異ニスルコトアルベキハ、当然ノ帰結ナリ、而シテ殊ニ当滿洲ノ如キハ我が人口、食糧問題解決上重要ナル意義ヲ有シ随テ該地方ニ於ケル邦人経済勢力ノ消長ハ我国存立ノ上ヨリ見ルモ緊密ノ特殊關係ニ在ルハ何人ト雖モ肯定シ得ル所ナリ。

今滿洲ニ於ケル現状ヲ窺フニ其ノ国際競争市場タルノ色彩愈濃厚トナリ来リ、諸外国ノ活躍振リガ其豊富ナル資力及有力ナル施設ト相俟ツテ実ニ顯著ナルモノアルニ不拘邦人ノ一般的現状ハ漸ク萎微衰退ノ兆アリ、今日ニシテ之レガ振興策ヲ講スルニアラズンバ、遂ニ救フベカラザルノ危機ニ到達スベシ。

依ツテ滿洲ニ対スル我経済的ノ政策乃至施設ニ関シテハ、今後益々積極の方針ヲ執リ、以テ邦人ノ該方面ニ於ケル健全ナル活動ヲ扶掖助長サレンコトヲ我が關係当局ニ要望セントスルモノナリ。

第八号議案

滿洲商工会議所聯合会規則改正ニ関スル件

第十七条 常議員会ハ三會議所以上ノ代表者出席スルニア

ラザレバ開会スルコトヲ得ス

第十八条 本会ニ要スル經費ハ聯合各會議所ノ負担トス

但シ委員會出席旅費ハ出席會議所ノ負担トス

第十九条 本規則ニ定メザル事項ハ必要ニ応シ本会ノ決議ヲ以テ定ム

第九号議案

製鋼所ヲ滿洲ニ建設方当局ニ請願ノ件

鞍山実業協會提出

理由

鞍山経済研究会及鞍山実業協會「製鋼所建設ニ関スル声明書」内容ノ通り

鞍山実業協會提案

製鋼所を滿洲に建設方当局に請願の件

理由書

吾が邦に於ける鋼材の需要量は昭和三年度に於て貳百叁拾万噸なるが年一年其需要を増加して今後五拾年間の所要累計は専門家によつて貳億八千万噸と豫算せられて居りま

奉天商工会議所提出

理由

現行ノ聯合会規則ニヨルトキハ、緊急事ヲ処理シ得ラレザル缺陷ヲ有ス、從テ滿洲經濟界ニ共通セル緊急事項ニ対シ往々ニシテ各會議所ノ態度区々ニ亘リ一貫シタル定見ヲ示シ又ハ方策ヲ樹立シ能ハザルハ既往ノ実例ニ徴シテ明カナリ、依テ左記ノ如ク本規則ノ改正ヲ行ヒスル弊害ヲ除去セントス。

左記

第十三条 本会ニ常議員会ヲ設置ス

但シ常議員ハ五會議所トシ聯合会開催ノ都度之ヲ選任ス

第十四条 常議員会ハ左ノ事項ニ付之レヲ審議ス

一、緊急ヲ要スルモノト認メタル事項

但シ可決シタル事項ハ第六条ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ次ノ聯合会ニ報告スルモノトス

第十五条 常議員会ノ事務所ハ聯合会開催ノ都度之ヲ定ム

第十六条 常議員会ハ其事務所ニ於テ必要ト認メタルトキ

又ハ加盟団体ノ請求ニヨリ之ヲ開催ス

す。然るに吾が領土内に於ける鉄鉱石の埋蔵量は僅かに八千万噸と称せられて居るから国外よりの輸入は絶対的止むなきものであります。幸に吾が滿洲には東洋に於ける鉄鉱石埋蔵量の約六割即ち拾億噸の鉄鉱を蔵し鞍山式貧鉍処理法によりて有利に製鉄原料と為し得るのであります。故に帝国の鉄国策としては滿洲の鉄鉱を以て製鉄すべきものたる事は論ずる迄も無い事であります。

而して吾人が滿洲内の適地を選び製鋼所を設置せられん事を要請する所以のものは一は經濟原則に従ひ鉍石の原産地附近に於て製鉄する事が生産原価を縮むる上に於て最も有利なる事。二は滿蒙に於ける帝国の根本大策に副ふと共に吾が權益の確保伸展を計る上に於て有利適切なる事。三には日支共榮の実を示し惹ひては在滿同胞の經濟的進展に直接間接からざる福利を齎らすものと信ずるが為めに外ならないのであります。以上の觀念に就ては已に現要路の間に於ても充分に諒とせられ居る所であつて殆んど論議の余地を剩さぬ様であるから残る所は只だ採算上の問題に止まる。八月二十七日発東京特電として満日紙所載の仙石総裁談は明に此の両方面を説ひて居らるゝものである。即ち

「昭和製鋼所は充分調査を了した上採算確実の見込が付けば内地製鉄業者の反対など少しも構はずどし／＼仕事を進める積りだ。国内産業の保護に反する消費者の立場を考ふべきである。敷地は新義州に決定した如く伝へられて居るが生産費に大差なければ鞍山に定めても差支へないが今は言明は出来ない。」右の如く滿蒙開発の大策よりすれば滿洲——鞍山——

営利を主として採算上よりすれば帝国の領土中原鉱石所在地たる滿洲に一番近き距離に在る新義州と云ふ岐路に立つて居る事が判然するのであります。生産原価（直接費、作業費、間接費の合計）に於て著しく鞍山が有利である事は昭和製鋼所の算出に見て明かであります。即ち鞍山に於ける生産原価に大連、營口迄の陸運賃（兩地を平均したるもの）を加へたる金額（但し鋼の支那輸出税は含まず）が尚新義州の工場原価よりも金八円参拾錢低廉なりと計算されて居るのであります。斯くの如く生産費は著しく鞍山が低廉であるのであります。之れを半々に日支兩國に売捌く場合は優に一割以上の利廻りが計上せらるゝに反し製品四拾八万壹千兩の全部を日本へ仕向ける場合は其の利廻り四歩

察致しますと(二)の鞍山製鋼に対する支那輸出税金参拾錢と(四)の海運差額金七拾錢此合計金四円也の不利は生産費の差益金八円参拾錢の内より之れを支弁して尚且つ新義州に比し阪神港揚げ原価に於て金四円参拾錢の余裕を保持して居るのであります。

然るに只だ(三)の輸入税金拾円七拾錢と(四)の補助金六円此の合計金拾六円七拾錢内外の即ち日本に於ける保護政策に阻まるゝ結果俄然不利なる立場に立つことゝなるものであります。まして支那側から来る不利の原因は毫も存在しないのであります。詮じ来れば奇態な現象であるのであります。若し補助金及び輸入税に於て兩地同一条件ならば鞍山品は新義州品に對し反對に四円余有利となる次第であるから日本の市場に於て新義州品よりも安価に供給する事も出来て仙石總裁談の「消費者の立場を考へる」事にも合致するし且つ又製鋼所としての利廻も却つて有利となるのである。況んや何時にても有利に支那へ仕向け得る優勢なる立場に在るに於ておやです。目下現内閣が其の政策遂行上特に力を入れて設置した三大審議會の一つである関稅審議會は全然從來の例を破つて不当なる現行関稅の廢止又は引下に調査の

以下に止まると云ふ事である。然らば其の理由如何今製品全部を日本向けとする昭和製鋼所の採算に就き先づ新義州の利不利の点の大略を列記すれば

(一)新義州は生産費に於て金八円参拾錢不利なり。

(此の中には諸原料に対する支那輸出税を含む)

(二)新義州は製品に対する支那輸出税金参拾錢を要せざる利点あり。

(三)新義州は日本輸入税金拾円七拾錢（各種平均）免税の利点あり。

(四)新義州は製鉄補助金六円の交付を受ける利点あり。

(五)新義州は海運賃（大連、營口より阪神迄の平均運賃と多御島より阪神迄の海運賃）差額金七拾錢の利得あり。

此外新義州は工場用材、機械、器具一切に對し輸入免税なる故建設費に於て有利なれ共勞銀に於て鮮人勞銀は支那人に比し一割強高き見積なる故作業費に於て鞍山よりも嵩む計算なる故結局之れは相殺的に考へて可ならん。

右に依りて鋼製品を阪神港へ陸揚げしたる時の原価に於て鞍山は新義州よりも約金拾貳円余高率となる算盤である。

以上の如き表向きの計算であります。が鞍山に就て之れを考

方針を置いて居ると伝へられ鉄鋼業者の関稅引上運動は其の結果に於て印度銑を主としたる年額僅に貳千數百萬円のもの阻止するに止まり壹億四、五千萬円と云ふ大部分のものは依然輸入せられねばならぬから却つて国家経済上甚だしく不利を招くものとして識者の嗤笑を買つて居る状態であつて審議會の方針に影響ないものと見られて居るから或は鉄鋼に関する輸入税も緩和せらるゝ傾向に在りとの事であるから近き将来に於て鞍山鋼が日本市場に於て有利に展開しないとも限らない。尚先年安東提案の木関問題は本聯合会の決議を以て「滿洲の地たるや我が国と緊切不離の關係に在り経済的には我延長と見做さざるべからざる滿洲の木材を外国材と同視し関稅障壁を以て其の輸入を防遏するが如きは大陸發展の国是を阻害するものと被存候」との高き見地に立脚せる正当なる要請の結果形は異なるが其の実益を収め得たる事は滿蒙開發の爲め在滿同胞の均しく慶賀して措かざる所である。

今や帝国の生存上絶対輸入に俟たざるを得ざる鉄鋼に對し吾が帝国が緊切不離の關係に在る滿洲製の鉄鋼に関する限り朝鮮に對すると同様関稅障壁を撤廢し其の生産を奨励す

る必要ある事は其の生産原価の低廉なる点より見ても外国よりの老億六、七千万円の輸入を防止して国際貸借を平滑に導く便法としても将又満蒙を益潤し在満同胞経済進展上多大の福利を齎らす点から見ても正に緊吃重要な政策なりと認むるものであります。尚聯合会が先年満洲に於ける製鉄事業の振興を期することゝ決議されたのも右の見地に立脚したるものと信ずるのであります。

之れを要するに問題は日本の関税と製鉄奨励金であります。

苟も吾が国の鉄国策の上から見て又日本と満洲との関係より考察して之れ等内輪の事に属する問題は何とか考慮の方法が有りはせぬかと思はる。安東木関問題の如く適宜の弁法を見出し得らるるとすれば満蒙開発の上から見ても又生産費の上から見ても満洲に製鋼所を置く事が甚だ有意義であり又利益でもあるのでありますから茲に本案を提出し皆さんの御賛成を仰ぎ政府要路並びに関係当路の御考慮を促さんとするものであります。

追加議案第一号

支鉄道収得額ノ留対邦貨換算徴収方法モ之ヲ現行南滿東支聯絡ニ抛ル規定ヲ準用スル様關係鉄道其他ニ要望ノ件」ニ対スル決議

本案ハ議案及理由中ノ字句ヲ左ノ通り訂正ノ上之ヲ可決スルコト

イ、議案二行目「南滿東支聯絡ニ抛ル」ノ下「モノト同一率ニ改定シ」ヲ削リ「タリフ」計算割合ト同様ニ低減シ」ヲ挿入ス

ロ、議案三行目「東支鉄道収得額」ノ下「ノ留対邦貨換算」ヲ削除ス

ハ、理由書末尾ヨリ三行目「輸送ニ抛ル」ノ下「モノト同一率ニ改定」ヲ削リ「タリフ」計算割合ト同様ニ低減」ヲ挿入ス

昭和四年九月五日

委員長 高橋 貫一

委員会報告

第六号議案「奉天票暴落ニヨル対策トシテ銀券発行方建議ノ件」ニ対スル決議

南滿東支聯絡及日滿聯絡貨物輸送規定ニ抛ル免責事項「荷造不完全ニ因ル自他ノ損害ハ貨主ノ負担トス」ノ適用ニ関シテ關係鉄道其他ニ要望ノ件

哈爾濱日本商工会議所提出

(本案提出賛成者 大連 奉天 鐵嶺)

理由

南滿東支聯絡及日滿聯絡輸送貨物ニ関シテ、当該運送機關ハ其荷造完全ノ場合ト雖モ、荷主ヲシテ託送状ニ「荷造不完全」ナルコトヲ強テ認メシメ、此ニ基キ貨物引換証ニ免責事項、「荷造不完全ニ因リ生スル自他ノ損害ハ貨主ノ負担トス」ヲ記入スル場合多キ為メ事実上荷造不完全ニ基因セザル損害ニ対シテモ、荷主ハ運送機關ニ対シ、其責任ヲ問フ能ハザルノ不合理ナル結果ヲ招来ス。

仍テ斯ル弊害ヲ除去スル様運送機關タル關係鉄道其他ニ要望セントスルモノナリ。

委員会報告

第四号議案「日滿聯絡輸送貨物運賃ノ東支鉄道収得額ヲ現行南滿東支聯絡ニ抛ルモノト同一率ニ改定シ尚同上東

第七回滿洲商業會議所聯合会可決ニ係ル「滿洲金融制度並ニ政策改善ニ関シ要請ノ件」ノ促進實現ニ関シテ滿洲商工会議所聯合会ハ屢政府当局ニ要請セルモ之ガ實現ヲ見ズシテ今日ニ及ベリ、依テ此際首題第六号議案記載ノ実情其他新事例ヲ列記シ速ニ第七回聯合会ニ於ケル前記決議事項ノ審議並ニ實現ヲ図ラレンコトヲ此際更ニ当局ニ要請スルコトニシ首題議案ノ処理方ヲ「滿洲金融制度並ニ政策改善ニ関シテ要請ノ件」ニ關スル実行委員大連、奉天、安東ノ各商工会議所ニ一任シ奉天ニ於テ文案ヲ作り大連、安東ニ諮リ本聯合会长ノ名ヲ以テ当局ニ要請スルコト

第七号議案「滿洲ニ於ケル邦人商工業發達ノ為メ特ニ積極的助長政策ヲ採ラレンコトヲ我が關係当局ニ要望ノ件」ニ対スル決議

本議案ハ之ヲ可決ス

但シ字句改正ノ要アルヲ以テ要請文起草委員ニ哈爾濱、大連、奉天三商工会議所ヲ選任シ之ニ起草及実行ヲ一任スルコト

第二号議案「製鋼所ヲ滿洲ニ建設方当局ニ請願ノ件」ニ対スル決議

本件ニ関シテハ滿鉄会社ノ方針決定直後内閣更迭シ新政府并ニ滿鉄新幹部ニ於テ更ニ反覆調査中ナルヲ以テ此際當局ニ請願スルハ妥当ヲ缺クモノト認メ運動ケ間數コトハ差控ヘルコト、スルモ本聯合会ハ滿洲ノ地タルヤ我国ト緊切不離ノ關係ニアリ經濟的ニハ我が延長ト見做スベキモノトノ見解ヲ有スルヲ以テ製鋼所設置ニ就テモ亦此点政府当局ノ甚深ナル考慮ヲ希望スルモノナリ

昭和四年九月五日

委員長 權田 親吉

編注一 「モノト同一率ニ改正」の箇所に「タリフ計算割合

ト同様ニ低減」との書き込み訂正あり。

編注二

編注三 「小口輸入雜貨」の箇所に「輸入貨物」との書き込み訂正あり。

編注四 「安東」の後に「營口」との書き込みあり。

208

昭和4年9月10日 在長春永井領事より
幣原外務大臣宛

国民政府による在中朝鮮人教育の中國化政策

リシカ今回南京政府ヨリ在滿鮮人ノ中国官費生募集ノ命ヲ受ケ之カ募集官トシテ出張ノ途ニ上リタルモノナリ

一、南京政府教育庁ニ於テハ數年來在中鮮人教育（滿鉄附屬地ヲ除ク）問題ニ就テハ研究ヲ重ネツツアル次第ニシテ之カ同政府ノ方針トシテハ在中鮮人教育ノ總テヲ中國化セシムヘキ計画ニテ最近既ニ各省政府ニ對シ之ニ對スル法令ヲ發布シタル趣ナリ是ハ從來在中鮮人ニシテ各地ニ小規模ノ教育機關設備シアリト雖モ其ノ方針一律ナラス各所各様ノ状態ニアリ殊ニ中国ノ教育ヲ受クルコトヲ回避スル傾向著シク其ノ多クハ日本ノ德意ニ依リ学科目ノ如キモ日本ノ小学校ニ於テ用フルモノト同様ナル教科書ヲ採用シ居ルモノノ如ク在中帰化鮮人ト雖モ中ニハ表面親支ヲ標榜シ親日スルモノ多ク延テハ日本ノ中国侵略ニ先驅者トナリ国内ノ攪乱ヲ企図スルコトナキニ非ラサル実情ニアリ故ニ南京政府ハ此ノ際之等總テノ弊害ヲ阻止スル或ル政策トシテ先ツ鮮人ヲ支那学校ノ官費生ニ採用シ純然タル中国ノ教育ヲ受ケシメ之等ヲシテ専ラ在中ノ鮮人教育其他總テノ指導者タラシメ以テ所謂親支鮮人ヲ養成シ一面日本ヨリ離脱セシメ排日熱ヲ鼓吹セント欲ス

について

機密公第二七八号

昭和四年九月十日

在長春

領事 永井 清〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

国民政府ノ官費鮮人学生募集ニ関スル件

客月二十一日国民政府教育部備聘員ト称スル朝鮮人李天手ナル者奉天方面ヨリ吉林ニ向フ途中当地朝鮮人居留民會長金東晩方ニ立寄り当館管内ニ於ケル朝鮮人ノ一般狀況ヲ聴取シタル其際同人ハ目下国民政府教育部ニ勤務シ居リ在滿鮮人ノ支那官費生募集ノ為來滿シタルモノナリトテ大要左記ノ通り内話シタル趣ナリ
右報告ス

記

自分ハ五年前日本京都某中学校ヲ卒業シ北平ニ至リタル際支那人有力者ノ紹介ヲ得テ支那学校ノ官費生トシテ奉天東北大学ニ入学シ本年卒業スルト同時ニ南京政府ノ教育部ニ勤務スルコトトナリ特ニ在滿鮮人教育問題ニ付キ研究中ナ

スルニ在リ

一、現在中国ニ鮮人官費生トシテ修学中ノモノハ十二名ニシテ何レモ成績良好ナルカ毎年二十名限度ニ於テ鮮人官費生ヲ募集シ卒業後ニハ直ニ官職ニ就カシメ之ヲ利用シ以テ中国ノ利權ヲ得ントスルモノナリ

一、然ルニ目下鮮人ノ立場トシテハ鮮内地ニ於テ相当ナル學業ヲ終ヘタリト雖モ進展ノ途乏シク從テ思想運動ニ從事スル上ニ於テモ鮮内ニテハ種々ナル支障ヲ來シ殆ント失敗ニ歸シ徒ニ自暴自棄ニ陥ルモノ著キ現狀ニアリ然ラハ在中鮮人ハ四囲ノ環境ヨリ察シ寧ロ中国ノ教育ヲ受ケ彼等中国人ノ援助ノ下ニ歩調ヲ共ニシテ進メハ中国ヲ土台トシテ鮮人總テノ運動ヲナスニ容易ナラント思料セラ

ル（時ニ支那ヲ利用シ將來朝鮮ノ復興ヲ企図スル意味ナルカ如シト）依テ今回吉林ニ至リ在滿思想団体ノ首領等

トモ会见ノ上彼等ノ意見モ聴取シ官費生募集ニ着手スル豫定ナリ云々尚官費生トシテノ資格其他ハ

一、中等学校卒業程度ノモノニシテ品行方正ナルハ勿論年齡ハ別段制限ナキモ可成十七才以上三十才以下ノモノナルヲ要ス

一、学費其他總テノ費用ハ政府ノ負担ニシテ学校及学科目ノ如キハ入学志願者ノ随意トス

一、入学志願者ハ官費生募集官ニ先ツ志願書及履歷書ヲ添ヘ申立テハ一応南京政府ニ報告シ政府ニテハ更ニ各所管官所ニ命シ身元調査ヲ為シタル上採用ス

一、住所ハ中国ニ有スルモノニシテ成可ク中国ニ帰化シタル鮮人タルコト

一、在学中ニ日本官憲ト密通ノ疑アリト認ムル時ハ直ニ退学処分ニ附シ相当処罰ス

本信写送附先 在支公使、在奉天、吉林、哈爾濱、上海各

総領事、在南京領事

編注 「居リ」の後に「今回」との書き込み訂正あり

~~~~~

209 昭和4年9月12日 中谷関東庁警務局長心得より  
吉田外務次官他宛

遼寧商工總會の国貨奨励運動について

関機高収第二六四六三号ノ二 (9月17日接受)

昭和四年九月十二日

催シ本件ニ付キ協議シタル処盧副会長及董事蘇上達(上海商務印書館經理)等外多数ノ者ハ国貨提唱スルニハ勢ヒ外貨ヲ抵制スルカ上策ニシテ外貨殊ニ日貨ハ最近商標意匠等中国品ニ模造シ中国人ヲ胡魔化シ判別困難ナルヲ以テ国貨調査委員会ヲ設ケテ其ノ判別ヲ明瞭ナラシメ商工会員ニ令シテ外貨ノ取扱ヒヲ停止セシメ尚ホ一般民衆ニ対シテハ国貨提唱運動ヲ起シテ注意ヲ喚起シ日常小児ヲ利用シテ国貨販売行商ヲ行ハシメ農民商民学界ヲ團結シテ国貨提唱会ニ加入セシメ徹底的ニ日貨排斥ヲナスヘキコトヲ目論見タルカ穩健派等ハ国貨提唱外貨排斥ハ我々中国人トシテ当然賛成ナルモ現在国貨製造状況ヲ見ルニ其ノ種類少ナク殊ニ品質不良ニシテ価格モ割合安価ナラス本運動ヲ起サントスレハ先ツ国産品製造工場ヲ設立シ商工業ヲ勃興セシメ積極的ニ排貨ヲ行ヒ消極的ノ排貨運動ハ対外的ニ面白カラストテ反対スル処トナリ遂ニ軟硬兩派ニ分レ激論ノ結果軟派タル積極行動反對奏功シタルモ硬派ハ今尚初志ヲ貫徹セントテ種々宣伝ヲ行ヒ国貨提唱ノ運動ヲ起シ城内四平街ニ国貨公司ヲ設立スヘク宣伝シ居ルモ未タ具体化シタル模様ヲ認メス然レ共城内外ノ学校ハ本春ノ三民主義實施後救国ハ排貨

関東庁警務局長心得

拓務次官殿

内閣書記官長殿

外務次官殿

内務省警保局長殿

指定庁府県長官殿

関東軍参謀長殿

関東憲兵隊長殿

關東州駐在海軍武官殿

滿鉄情報課長殿

在支各事務官殿

中国国貨提唱運動

遼寧商工總會ニ於テハ曩キニ国民外交協會ヲ附設シテ排日運動ヲ行ヒ更ニ中露国交断絶スルヤ直ニ東北民衆抗俄会ナルモノヲ組織シ客月三十一日防俄第一軍長王樹常ノ赴哈ヲ盛ニスル為メ各学校各分会員ヲ符集メ對露示威運動ヲ開催シテ大ニ氣勢ヲ揚ケタルカ第二次工作トシテハ防俄軍ニ對シテ慰問袋ヲ調製贈与スルコトニ決定シ第三次工作トシテ国産提唱外貨排斥ヲ計画シ過般商工總會内ニ董事会ヲ開

ニアリトノ觀念ヲ有シ店先ニ来リ最初何国品ナルヤヲ質シ国貨ナリト答フレハ之ヲ購入スルモ日本品或ハ外国品ナリト答フレハ購入セスシテ其儘立去リ販売品ハ国貨ナリト云ヒ殊ニ日本文字記入シ居ルモノハ何国品ナルヤ知ラスト称シテ販売シ居ルニソウカト答ヘテ購入シ居ルヲ以テ値段ノ高下品質ノ良否ヲ問ハサル実情ニアリ然シテ商人ハ殆ト全部日本品ヲ取扱フ關係上内地製造元ニ對シ日本製ナル文字ヲ削除セシメ且何々洋行トアルモノヲ何々公司ト改称スル様電報スル等周到ノ注意ヲ払ヒ居レリ

現在当省城ニ於ケル雜貨及紙類ハ日本品カ大半ヲ占メ外国品ノ如キハ極メテ微々タルモノニシテ数フルニ足ラス殊ニ中国国貨ハ又外国品ノ比ニアラスシテ日本品ノ百分ノ一ニモ相当スル極メテ少量ナルモノナリ其ノ品種ハ書籍、筆墨、靴下、運動具、石鹼、「クリーム」等アルカ日本品ニ比シ品質劣リ商民等ハ日本品ノ取扱ヒニ慣レ中国品ノ取扱ヒヲ喜ハサルモノ多ク商民ニシテ真ニ排貨ノ意アルモノ殆トナク要スルニ商民ハ利益ヲ主トシ居レル為メ売行不良ナルモノハ到底取扱フヲ得サルモノナリ

「以上」

210 昭和4年9月13日 吉田外務次官より  
太田閣東長官宛

在満日本人警察官および憲兵の中国人に対する  
態度改善方要請

亜一機密第三一三三三

昭和四年九月十三日

外務次官 吉田 茂

閣東長官 太田 政弘殿

満鉄列車内ニ於ケル憲兵ノ支那人等ニ対スル取締振ノ件  
本件ニ関シ今般阿部陸軍次官ニ対シ別紙九月十三日附亜一  
機密第三六四号公信写ノ通申入遣タル処本件憲兵ノ取締振  
ニ関スル注意ハ閣東庁警察官ニモ充分了解徹底セシメ置度  
ニ就テハ右可然御取計相成度依命此段申進ス

(別紙)

亜一機密第三六四号

昭和四年九月十三日

外務次官 吉田 茂

陸軍次官 阿部 信行殿

満鉄列車内ニ於ケル憲兵ノ支那人等ニ対スル取締  
振ノ件

目下来朝中ノ支那人張繼幣原外務大臣ト会見ノ際満洲ニ  
於ケル日支人間ノ関係ニモ談及シタルカ其節同氏今回満洲  
旅行中同氏ノ乗込ミ居レル満鉄列車内ニ一日本憲兵乗車シ  
来リ同氏ノ傍ニ擦レ次ニ腰掛ケ片腕ニテ同氏ヲ懷キ抱ヘル  
如キ姿勢ヲ取リツツ同氏ノ身分、行先、目的等ヲ尋ネタル  
カ相当ノ身分地位有ル支那人ニ対シ時ニ支那領土内ニ於テ  
斯ル取扱ヲ為スハ甚タ心得兼ヌル次第ナル旨述タルニ付大  
臣ヨリ右ハ職務執行者カ職務ニ熱心ノ餘リ素樸ナル方法ニ  
出テタルモノト思考セラルル処元來憲兵警察官等カ取締並  
保護ノ必要上往来ノ外国人ニ対シ注意ヲ為スコトハ何レノ  
国ニモ例アリ只遣リ方ニ巧拙ノ差異アルノミニテ右満鉄車  
内ノ例ハ偶々其ノ遣リ口素樸ニ過キタルモノカト想像ス孰  
レニスルモ全ク惡意ナキコトニ付誤解ナキヲ望ム旨応酬シ  
置キタルカ本件ノ如キハ單リ憲兵ノミナラス一般警察官ニ  
於テモ從來有勝ノ事ニテ苦情ヲ耳ニスルコト一再ナラサル  
次第ナルカ畢竟憲兵若ハ警察官吏ノ職務執行ニ熱心ナル餘  
リニ出ツルモノト察セラルル処此種ノ訊問方法ハ其ノ目的

朝鮮警務局長殿

支那側ノ対日商租契約其ノ他調査ノ件

ノ上ヨリ云フモ果シテ幾干ノ実効ヲ収メ得ルヤ疑問ナルノ  
ミナラス外国人ノ対日感情上極メテ面白カラサルモノアル  
ヘキハ想像ニ難カラサルトコロナルニ付先憲兵若ハ警察  
官吏ヲシテ不必要ニ支那人其他外人ノ反感ヲ挑発スル如キ  
遣口ヲ避ケ何等カ別種ノ方法ニ出テシムル様致度右ハ夙ニ  
出先当局ニ於テモ注意セラレアル所ト思考スルモ右張繼所  
言ノ次第モアリ此際一層右趣旨ヲ直接訊問等ニ当ル憲兵ニ  
了解徹底セシムル様出先当局ノ注意喚起方可然御取計相煩  
度依命此段申進ス

211 昭和4年9月14日 中谷閣東庁警務局長心得より  
吉田外務次官他宛

中国側官憲による日本人関係土地商租状況調

査方電命について

関機高収第二六七九一号ノ二 (9月19日接受)

昭和四年九月十四日

関東庁警務局長心得

拓務次官殿

外務次官殿

記

一、県名村名

国民政府ハ近時東支外国人関係事項調査スルト共ニ利権回  
収ノ叫高調シツアルカ更ニ本月十一日東北边防司令長官  
張學良ニ対シ日本人関係ノ商租契約等ニ付左記要項ノ調査  
方電命アリ直ニ調査方翟遼寧省主席ニ下命シタル由ナルカ  
アラヌカ最近遼寧省下開原県後施家堡居住鮮人ヨリノ情報  
ニ依レハ開原県慶雲堡第五区官所ニ於テハ後施家堡地主二  
十二名ノ代表トシテ同地屯村長ヲ呼出シ南京中央政府ノ訓  
令ニ基ク遼寧省政府ノ命令ナリト称シ明年度ヨリ管内鮮農  
ニ対スル土地貸与ハ之ヲ絶對ニ禁止ス若シ違反スルトキハ  
嚴罰ニ処スヘキ旨ヲ極秘裡ニ嚴達セル趣キハ為同地居住鮮  
農四十戸二百餘名アルモ生活ヲ奪ハルモノトシテ不安ニ  
駭ラレツツアリト謂フカ今後支那官民ノ間漸ク擡頭シツツ  
アル排日熱ト利権回收熱ハ在満鮮農ノ上ニ耕地問題ヲ中心  
トシテ来ル圧迫ハ相当深刻ナルモノアルヘク相当対策ヲ講  
スルノ必要アリト思料セラレ成行注意中ナルモ御参考迄



- 一、省城ノ場所
- 一、租約ノ田地歩数
- 一、租約ノ家屋数
- 一、地主ノ姓名原籍職業
- 一、家主ノ姓名原籍職業
- 一、租約ノ日本人姓名原籍職業
- 一、租約ノ年月日
- 一、租約ノ種類（年租月租別）家賃地代額
- 一、租約前官署ニ届出アルヤ否
- 一、租約者日鮮人ニ我カ国民妨礙事件ナキヤ否ヤ訟訴事件ノ有無
- 一、租借日鮮人ノ營業種別
- 一、土地租借日鮮人ノ主ナル耕作物
- 一、日鮮人家屋居据リ又ハ土地ノ強制占有有無及買収ノ有無
- 一、最長租借年限ト最短租借年限
- 一、日鮮人ノ借家後ノ改造ノ状況
- 一、租約ノ際ノ紹介者

以上

限り法院ニ於テ法ニ照シ之ヲ処分シ得ル外濫ニ逮捕処分スヘカラス各軍政機関ニ於テ党務工作人員ノ反動不法行為ヲ発見シタル場合ハ性質ニ依リ法院又ハ上級党部ヲシテ之ヲ検挙セシメ又緊急処分ヲ要スル場合ハ当該地ノ党部ト合同之ヲ処分シ直接処分スヘカラス各軍政機関ニ通令方訓令アリタル趣ナリ

尚又当省ニ於テモ南方勢力ノ浸潤ト共ニ省党部出現ノ傾向日一日ト濃厚ノ度ヲ加ヘツツアルニ付当省首脳者ハ之カ設立ニ先立チ当省各方面ニ於テ豫メ国民党義ヲ研究シ置クノ必要ヲ認メタルモノカ当地民報ノ報スル処ニテハ最近萬福麟ハ省政府内ニ党義研究会ヲ組織シ省政府委員等共ニ毎週一、二回三民主義及其他一切ノ党綱ヲ研究討論シ漸次副司令部各庁公安監理処保甲總弁公処及各県各設治局等ニモ之ニ倣ヒ同様ノ研究会ヲ組織セシムルコトニ決定セリト謂フ

右何等御参考迄報告ス

本信写送附先 在支公使 奉天 哈爾賓各総領事 滿洲里

領事

212 昭和4年9月24日 在チチハル清水領事より  
幣原外務大臣宛

国民政府による黒龍江省における国民党党務  
工作人員の逮捕禁令について

本機密第二五七号

昭和四年九月二十四日

在齊々哈爾

領事 清水 八百一

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

党務工作人員ノ逮捕禁令並省政府党義研究会ノ組織ニ関スル件

南京政府ヨリ派遣セル江省党務指導委員ニ於テ目下省党部ノ設立方準備中ナル次第ハ本月二十日本機密第二五五号往信報告ノ通ナルカ当地民報ノ報スル処ニヨレハ最近国民政府ヨリ東北政務委員會ヲ通シ從來各地ノ軍政機関ニ於テ往々党務工作人員ヲ逮捕シ甚シキハ之ヲ銃殺ニ処シタルモノアル処此ノ種行動ハ党務ノ進行上妨害アルノミナラス人權保障命令ニモ違背スルモノナルニ付今後ハ刑事被疑者ニ

213 昭和4年9月25日 在ハルビン八木総領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中国官憲による付属地外在留邦人の調査について

ハルビン 9月25日後発  
本 省 9月25日後着

第五八四号

北平発合第九三二号電報ニ関シ

当地附屬地外在留邦人ニ対シ權利財産關係其ノ他各般ノ事項ニ亘リ先程調査ヲ初メタルニ付回答ヲ避ケシメ居レル処邦人以外ニテハ商埠地ニ在ル二個ノ独逸人商会カ此ノ種調査ヲ受ケ独逸領事ノ注意ニ依リ回答ヲ拒絶シタル事実アルモ英米人等ニハ未タ及ハサル模様ナリ本件調査ハ全国的ニシテ当地ニテハ外人ノミナラス支那人所有ノ企業、工場、商店等ニモ及ヘルヨリ見テ其ノ目的ハ課税ノ為ノミナラス内国工業保護及将来ニ於ケル經濟發展ノ準備調査ナルヤニモ察セラル尚漢口ヨリ新任ノ英国領事館員ノ談ニ依レハ去ル七月同地ニ於テ本件ノ如キ調査ヲ領事館ニ依頼シ来レルカ同館ニテハ商人ノ財産關係ハ公表ノ書類ニ依リ調査シ得

ヘシトノ理由ヲ以テ回答ヲ拒絶シタル趣ナリ目下尙取調中ナルモ不取敢支ヘ転電セリ

214 昭和4年9月(29)日

在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

関東長官が張學良に対し東三省の独立を使囀

した旨の周龍光談話について

上海 発  
本省 9月29日後着

第一一六三号

上村領事二十九日来滬シ種々報告スル所アリタルカ其ノ内ニ周龍光ヨリ同領事ニ対シ極メテ信スヘキ方面ヨリノ報告ニ依レハ関東庁長官(軍司令官ト混同シ居ル様ニモ見ヘタリ)ハ張學良ニ対シ今ヤ東三省ノ独立ヲ企図スヘキ時ナリトノ意ヲ通シタル趣ナルカ更ニ二、三ノ日本人ハ馮玉祥及閻錫山ヲ訪問シ其ノ蹶起ヲ勸説シタリトノ情報モアリ近ク佐分利公使來寧セラレ兩國ノ外交愈々敦厚ヲ加ヘムトスル際此ノ種幣原大臣ノ御方針トハ正反對ノ言動アルハ誠ニ遺

憾ナリ最近滿洲ニ於ケル軍部カ動モスレハ外交ニ迄手ヲ延ハストノ風評ヲ耳ニシ居ル次第モアリ右ノ趣一応本省ニ報告アリタキ旨述ヘタルコトアリ上村ヨリハ其ノ都度然ルヘク応酬シ其ノ誤解ヲ解クニ力メ居リタル趣ナルカ此ノ種ノ風説ハ当地ニ於テモ屢々耳ニスル所ニシテ新聞等ノ宣伝材料ニモ供セラルル虞アルニ依リ何等御参考迄申進ス支、南京、奉天ニ転電セリ

215 昭和4年9月(30)日

在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

関東長官東三省独立使囀に関する周龍光談話  
の信憑性について

奉天 発  
本省 9月30日後着

第六〇〇号

本官発上海宛電報第五九号

大臣宛貴電第一一六三号ニ関シ

過般関東長官張學良ト交驩ノ際ハ本官モ同席シタル処周龍光談ノ如キ突飛ナル議論ハ勿論其ノ他一切政治問題ニ触レ

大臣、支ヘ転電セリ

216 昭和4年9月(30)日

在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

軍司令部に対し中国での日本側言動につき注  
意の必要ある旨の転達方報告

奉天 発  
本省 9月30日後着

第六〇三号

往電第六〇〇号ハ上海発閣下宛第一一六三号ト共ニ其ノ大要ヲ当地特務機関ヲ通シテ軍司令部ヘ転達シ支那側ニ於テハ当地方ニ於ケル日支間ノ出来事ヲ事毎ニ悪用セントシツツアルヲ以テ特ニ注意ノ必要アル旨ヲ附加ヘ置キタリ支、上海、南京ヘ転電セリ

217 昭和4年10月3日

在吉林川越総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

中国官憲による在留邦人状況調査の目的について

タル談話ナク其ノ前関東軍司令官及守備隊司令官張學良訪問ノ際モ時局柄特ニ意ヲ用ヒテ政治上ノ談話ヲ避ケタル趣ナリ然ル処兩三日前陶尙銘カ当館來訪ノ際語ル処ニ依レハ先般鈴木某町野前顧問ノ紹介狀ヲ携ヘテ本邦ヨリ來奉シ王家楨ノ斡旋ニテ直接張學良ニ会见シ支那ハ南北兩分スルニ非サレハ統一不可能ニシテ右ハ日本有力政治家ノ一致セル意見ナルノミナラス世界各国ノ輿論ナレハ奉天側ハ今後此ノ方針ニテ進行セラルコト得策ナルヘク本件ハ町野前顧問ノ近來ノ持論ニシテ張作霖モ町野ノ献策ニ基キ最近迄南方ニ對抗シタル事情アルヲ以テ張學良ニ於テモ此ノ趣旨ヲ体シ町野ヲ再ヒ起用セラレテハ如何ト露骨ニ勸告シタル処學良ハ満面怒氣ヲ含ミ座ヲ蹴テ退キタル後斯ル浪人ト對談スルコトハ不愉快ニ付爾今日本人ノ來訪者ハ全部総領事ノ紹介ヲ希望スト語リタル事実アル趣ニテ思フニ周龍光ノ上村ニ対スル話ハ之ヲ混同シタルモノト察セラルルニ付右ニ御含ミノ上然ルヘク応酬相成タク尙当方面ニハ此ノ種ノ浪人多ク其ノ言動ニ関シ一々取締ヲ加フルコトハ不可能ノ事情アルモ我方文武官憲側トシテハ断シテ斯ル誤解ヲ醸ス虞アル言動ナキ様現ニ充分注意シ居レリ

吉林 10月3日後発  
本省 10月4日前着

第三七号

支那側ノ在留本邦人状況調査ノ目的等ニ関シ内査スル処ニ依レハ

(一)本件調査ハ領事裁判権回収ノ準備行為ニシテ外交部ヨリ国民政府ニ対シ「在留外国人状況特ニ在留日本人ニ関シテハ詳細正確ナル調査ヲナサシメ其ノ結果ニ依リ根本的対外国人方策ヲ講シテ将来外国人ヲシテ藉口ノ餘地無カラシメ以テ領事裁判権回収ニ備ヘ度キ」旨申請シ右ニ基キ地方官憲ニ本件調査方訓令シタルモノナリ

(二)一般在留外国人ニ対シテモ同様調査ヲ行ヒ居レリ

(三)当地ニハ外国領事駐在セス

支、奉天、南京ニ転電シ哈爾賓、間島、長春へ暗送セリ

218 昭和4年10月8日 大連商工会議所より  
外務大臣官房宛

大連商工会議所による満洲視察中の拓務大臣宛の陳情書送付について

開陳シ閣下ノ御賢慮ニ訴ヘントスルモノテアリマス

一、緊縮政策ト満洲ノ特殊事情

現内閣ハ組閣当時十大政綱ヲ発表サレタノテアリマスカ就中財界立直シニ関スル準備トシテ公私経済緊縮ノ大方針ヲ定メ強ク之ヲ提唱シソノ実行ヲ期セラレテ居ルノテアリマス、是レ我カ国ノ現状ニ鑑ミ国民生活ノ無駄ト冗費ヲ警メ前途ニ横ハル金輸出解禁対策上寔ニ止ムヲ得サルコトト存シマス、然レ共満洲ニハ特殊ノ事情アリ之ヲ内地ト同様ニ見做スコトノ出来ナイコトハ満洲ニ於ケル鉄道守備隊ノ経費ヲ削減サレナカツタ点ヨリ見テ既ニ政府ニ於テモ御認めニナツテ居ルコト、ハ存シマスカ尚一言申上ケテ置キタイト思フノテアリマス、満洲ノ地ハ我カ法域外テアリマシテ列国ノ競争地帯タルコトハ御承知ノ通りテアリマス、從テ聊カノ立後レカアツテモ其ノ回復ニハ中々容易テナイノテアリマス此点ハ特ニ御注意ヲ願ヒマシテ凡ソ我カ対満政策ノ遂行ニ関スル事項ハ内地ノ諸事業繰延ヘト同一ノ御取扱ヒノナイ様ニ御願ヒ致シタイト思フノテアリマス、ソコテ満洲財界ノ消長ニ重大関係アル満鉄会社ノ事業ノ如キモ採算ノ許ス限り大ニ積極的ナランコトヲ切望シテ止マナイ次

大発第八四六号

昭和四年十月八日

(10月14日接受)

大連商工会議所

外務大臣官房御中

陳情書写送附ノ件

拝啓陳者今回拓務大臣朝鮮視察ノ途次来連相成候ニ付昨日別紙ノ通り陳情罷在候ニ就テハ貴省関係当局ノ供御高覧願意御採納相成候様切望致候条可然御取計被成下度御依頼申上候

拝具

(別紙)

陳情書

大連商工会議所

拓務大臣閣下、閣下今回御親任早々特ニ満洲ノ実情ヲ視察サル、コトハ吾人ノ衷心ヨリ感激スル所テアリマス、拓務省ノ設置ハ本会議所多年ノ主張テアリマシテ閣下カ初代ノ專任拓務大臣トシテ来滿下サツタコトハ吾人在滿商工業者ノ甚タ欣快スル所タルト同時ニ此機会ニ於テ平素ノ所見ヲ

第テアリマス、又関東庁豫算ニ於テモ本年度実行豫算ニ於テ屯百万円ヲ削減サレタノテアリマスカ其結果ハ關東州内ノ租税ヲ以テ州外鉄道附屬地ノ經費ヲ「カバー」シナケレハナラヌト云フ訳テアリマス、大連商工業者ハ別ニ述フルカ如ク財界不況以来負担ノ加重ニ苦ミ税制ノ整理ト負担ノ均衡ニ就テ幾度カ陳情請願ニ及ンテ居ルノテアリマス、斯カル場合右ノ如キ現象ヲ見ルカ如キハ甚タ遺憾ニ堪ヘナイノテアリマス

二、貿易振興ト商權ノ確保

南北満洲ニ於ケル最近ノ貿易額ハ十一億二千万円ニ達シ内北滿一割四分、南滿八割六分ニ当リ輸出カ六割輸入カ四割テ輸出超過テアリマスサウシテ大連ハ南滿ニ於ケル七割ヲ占メ上海ト相對シテ支那ニ於ケル南北二大貿易港タラントスル形勢ニアルノテアリマス此ノ南滿ニ於ケル貿易額中日本トノ関係ハ五割二分テアリマス、此ノ五割二分ト云フ数字ハ日本ノ対支貿易ノ四割ニ当ルノテアリマス、而シテ其輸入貿易即チ日本ヨリ見タル対滿輸出貿易ハ如何カト申シマスレハ全輸入額ノ約三分ノ一ヲ占メ残り三分ノ一カ支那品他ノ三分ノ一カ日本以外ノ外国品ト云フ割合テ日本ノ

對滿輸出貿易ハ概シテ劣勢テハナイノテアリマス、然ハ日滿貿易ノ前途ニ就テハ之ヲ自然ノ推移ニ放任シテ差支カナイカト申シマスレハ必スシモサウテナイノテアリマス、滿洲即チ東三省ノ面積ハ我カ国ノ一倍半テアリマスカ人口ハ二千六百万人テ我カ国ノ三割ニ過キナイノテアリマス、北滿丈ケテモ尚三千万人ヲ容ル、餘地カアルノテアリマスカ輓近支那人ノ滿洲ニ移住スルモノハ多キハ一ケ年百万ヲ超ヘ世界ニ其類例ノナイ現象ヲ呈シテ居ルノテアリマス之等移住者ト離滿者トヲ差引キタル残留者ハ最近五ケ年ニ於テ實ニ百五十万人ニ達シ從來ノ出稼トハ全然其趣ヲ異ニスルニ至ツタノテアリマス、ソコテ滿洲ノ前途ヲ達觀シマスレハ遠カラサル將來ニ於テ人口五千万六千万トイフ數ニ達スルコトハ必スシモ架空ノ言テハナイト存シマス、或ハ滿蒙西伯利亞ニ於ケル將來ノ人口ヲ豫想シテ二億ト計算シテ居ル人モアルノテアリマス、其畧ニ於テ我カ国ト接壤地帯ニアル之等一帯ハ我カ生産品ノ一大販銷地域テアラネハナラヌノテアリマス、夫レニハ今日ヨリ貿易進展ノ策ヲ講シ商榷ヲ確保シ置クコトカ大ニ必要テアリマス前陳ノ如ク滿洲輸入貿易ニ於テ日本品ハ優勢ノ地位ニアルノテアリマスカ

ヲ引受ケ與ル、モノナク自然金融不便ノ為メ売捌困難ニ陥ルノテアリマス幸ニ關東庁ニ於テ此ノ輸出補償制度ヲ実行セラル、ナレハ此ノ不便ヲ除去スルコトカ出来経費ノ大ナラサルニ反シ邦品ノ販路開拓上至大ノ利便アルモノト信スルモノテアリマス

### 三、幣制金融ノ改善ト財界ノ立直

滿洲ハ不換紙幣ノ本場テアリマシテ奉天票ヲ首メトシ吉林官帖アリ黑龍江官帖アリ哈爾濱大洋票アリ其發行高ハ何十億トイフ莫大ノ額ニ及フノテアリマスカ之ヲ金相場ニ換算シテ尚一億円以上トナルノテアリマス、ソウシテ之等不換紙幣ヲ發行スル機關ハ奉天ニ於ケル東三省官銀号、吉林永衡官銀錢号及ヒ齊々哈爾濱本店ヲ有スル広信公司テアリマス、之等ハ何レモ官營テアリマシテ其業務ハ独リ銀行業ニ止ラス質業、釀造業、油房業、製粉業、製織業、雜旁商、錢莊、印刷業、電燈業、木材業、船舶業、皮商、石炭商、採金業ト云フカ如ク苟モ利益ノ存スル所殆ト手ヲ染メナイモノハナク恰モ日本銀行カ三井ノ仕事ヲ兼營スルト云フ様ナ訳テ商品テ儲カラナケレハ紙幣發行高ヲ伸縮シテ相場テ牽制スルト云フ訳テアリマスカラ一般商工業者ノ追隨ヲ許

夫レハ全体ノ上ヨリ見タル概勢テアリマシテ個々ノ品物ニ就テ檢討スル時ハ必スシモ全部カソウイフ訳テハナイノテアリマス、最モ外国ヨリ多クヲ仰テ居ルモノハ日本ニ生産サレサルモノ或ハ出来ナイモノカ多イノテアリマス、天然資源ノ關係上日本ニ出来ナイモノハ如何トモ為ス能ハナイノテアリマス又生産サレサルモノハ今後工業ノ発達ヲ待ツノ外ハナイノテアリマスカラ比較的劣勢ノ地位ニアル広イ意味ニ於ケル雜旁ニ力ヲ到スコトハ差当リ對滿輸出貿易ヲ増進セシムル所以カト存セラルルノテアリマス、此ノ意味ニ於テ先年滿洲ニハ滿鐵会社ノ援助ノ許ニ滿洲輸入組合ナルモノ組織サレ日尚浅ク未タ充分ノ成績ヲ見ルノ域ニ達シテハ居ラナイノテアリマスカ將來益々改善ヲ加ヘ内地當業者トモ相提携協力シテ所期ノ目的ヲ達スル様ニ努メナケレハナラヌモノト考ヘテ居リマス、其他一般貿易増進策トシテハ輸出補償制度ノ実施テアリマス此制度ニ就テハ先年關東州及滿鉄附屬地生産品ト共ニ本邦商品ノ販路拡大ノ為メ実施方ヲ請願シタノテアリマスカ今日迄其實現ヲ見ナイノヲ甚タ遺憾トシテ居ルノテアリマス奧地ニ販路ヲ開拓セン

サナイノテアリマス、就中輓近特ニ著シイノハ特産買占メテアリマシテ不換紙幣ヲ以テ大豆ヲ買占メ大連ニ搬出シテ我カ金銀券ニ交換スルノテアリマス、素々不換紙幣ヲ以テ買ヒ集メルノテアリマスカラ自然相場ハ産地商トナリ油房業ヤ輸出業カ不引合トナルコトカ多イノミナラス買占メノ數量モ大連ニ到着スル過半ニ及ヒ相場ヲ左右スルコト殆ト自由自在テ他商人ハ拱手傍觀ノ外ハナイト云フ有様テアリマス、ソウシテ紙幣ハ皆不換紙幣ナルヲ以テ其價格ハ年々増發ト共ニ下落シ日支人共ニ其ノ禍ヲ受クルノ甚タ大ナルモノカアルノテアリマス、此ノ幣制ノ紊亂ハ支那ノコトテアリマシテ日本カ直接如何トモ為シ能ハナイコトハ勿論テアリマスカ之ヲ對岸ノ火災視スルニ於テハ滿蒙ノ開發モ國勢ノ伸張モ遅々トシテ進マス聽テハ其類焼ヲ免レナイコトハ極メテ明カナルコトテアリマスカラ政府ニ於テモ之カ根本的改善策ニ就テ常ニ留意サレ機ヲ見テ指導誘ノ態度ニ出テラレンコトヲ切望シテ止マナイノテアリマス

以上ハ支那側ノ幣制ニ関スル事項テアリマスカ日本側ノ金融ニ於テモ亦大ニ改善ヲ加ヘナケレハナラヌ点カアルノテアリマス、滿洲商工会議所聯合會ハ曩ニ滿洲財界ノ立直シ

(文字文)

ト金融ノ改善方ヲ金融制度調査会ニ附議サレンコトヲ要請シタノテアリマス、爾來内閣更迭等ノ事情モアリマシタカ調査会ノ遅々トシテ進行シナイノハ頗ル遺憾トスル所テアリマス、聯合会ノ要請シマシタ滿洲財界ノ立直シトハ其痛腫ト見ラレテ居ル鮮銀、東拓ノ固定貨ノ整理ヲ意味シ、金融ノ改善トハ(一)金融機關ニ統制アラシムルコト(二)不動産金融ノ改善(三)通旁政策ノ確立ヲ指スノテアリマス、滿洲ニ於ケル主ナル金融機關ハ其本店ヲ内地朝鮮ニ有スル關係上前記諸問題ヲ解決セントスルニハ特殊銀行、会社整理問題トモ関連シ素々不可分ノ間柄ニアルモノト考ヘマシテ金融制度調査会ニ附議サレンコトヲ要請シタ次第テアリマス、我カ国力滿蒙ノ開發ニ從事シ国民ヲシテ經濟のニ發展セシメントスルニ当リ或ハ爲替上ノ知識缺乏ニヨル不利、或ハ雜然タル各種通貨ノ比價變動ニ對スル損失或ハ年中行事ノ觀アル支那ノ政變動亂ニ依ル不時ノ災害等何レモ我カ經濟的伸力ヲ阻止スルコト大ナルモノカアルノテアリマス、セメテハ自國ノ金融機關位ハ之ヲ整備スルニアラサレハ國民ノ發展ハ困難ト謂ハナケレハナラスノテアリマス、殊ニ不動産金融ノ改善ト通貨即チ金銀ニ關スル問題ニ就テ御考慮ヲ

種々ナル關係カアルト思フノテアリマスカ就中母國ニ缺乏スル食料、原料ヲ滿洲ヨリ供給スルト云フコトハ重要ナル事柄テアリマス、元來滿洲ノ資源ヲ開發シテ日本ニ供給スルコトハ日本ノ存立上必要ノ事テアルトシテ所謂滿蒙ノ開發ハ百年ノ大計ニシテ焦眉ノ急務ナリト絶叫サル、所以テアリマスカ其食料原料ハ如何ナル経路ヲ辿リテ供給スルカト申シマスレハ大体ニ於テ關東州ヲ經テ大連ヨリ積出ス外途ハナイト思フノテアリマス、是ニ於テ關東州ノ關稅制度ヲ適當ニ改善スルト云フコトハ独リ關東州ノ問題タルノミナラス我カ國ノ問題テアルノテアリマス又其原料ハ半製品トシテ供給スル場合其半製工場ハ何レノ場所ニ之ヲ求ムルカ、或ハ又滿洲ニハ是非起サナケレハナラヌ獨特ノ工業カアルノテアリマス其工場ハ何レノ地ニ之ヲ設クルヤト云フ問題ニ達着スル時ハ關東州カ海港ヲ控ヘ物資ノ集散ニ便ニシテ且ツ特惠關稅ノ便法カアルノテ關東州ハ滿洲ニ於ケル工業地帶トシテ瞩目サレテ居ルノテアリマス、更ニ又我カ國カ關東州ヲ租借シタル所以ノモノハ所謂大陸發展ノ要地トシテ根基ニ於ケル定石ニ當ルモノト思考サレノテアリマス此ノ定石ヲ生カスカ殺スカト云フコトハ全局面ノ勝敗

煩シタイノハ滿洲ニ於ケル事業經營ニハ種々不利ノ点カアリマシテ多クノ利益ヲ享クルコトハ甚タ困難テアリマス現ニ滿洲ニ於ケル滿鐵以外ノ主ナル会社百二十社内外ノ成績ヲ見マスルニ大正十四年ヲ不況ノ極點トシテ爾來其利益率ハ昭和元年三分四厘、同二年四分一厘、同三年五分六厘テアリマス然ルニ東拓ノ事業資金カ最低一割トイフカ如キ金利ヲ以テシテハ採算困難ナルコトハ何人モ容易ク首肯サレル所テアロウト存シマス、故ニ長期且ツ低利ノ事業資金融通ノ途ヲ講スルコトハ滿蒙開拓上極メテ緊急ヲ要スルコト、存シマス、又金銀ノ問題ニシマシタ所テ現在正金、鮮銀ニヨリテ發行サレテ居ル金銀券ヲ統制アル中樞機關ニ統一シマスレハ從來ノ如キ情弊モ起ラス又其運用ニ關スル調節モ能クナルモノト考ヘマス、然シナカラ金銀何レヲ以テ進ムカ或ハ現状ヲ以テ妥當トスルカ是等ハ吾カ國民ノ滿蒙發展ニ重大ナル關係アルヲ以テ滿洲幣制調査会ヲ組織シ其ノ利害得失ヲ徹底的ニ研究シ以テ滿洲ニ對スル通貨政策ヲ根本的ニ確立スル要カアルト信スルノテアリマス

#### 四、關稅問題ト工業ノ振興

日本ト滿洲トノ政治的關係ハ暫ク措キ經濟的方面ニ於テ

ニ關スル問題トナルノテアリマシテ今日ヨリ産業發展ノ素地ヲ作り置クノ必要カアルノテアリマス、從來關東州ハ日本及支那ノ兩面ニ關稅ノ障壁ヲ設ケラレ工業經營上頗ル困難テアツタノテアリマスカ大正十四年日本ニ對シテハ特惠關稅ノ途開ケ未タ不充分トハ申シナカラ日本ニ缺乏セル物資ヲ供給スル半面州内工業ノ振作ニ寄与シタコトハ尠ナクナイノテアリマス、唯御承知ノ通り關東州ハ原料地帶テナイノテアリマシテ工場ヲ建設シマシテモ多クハ其原料ヲ他ヨリ輸入シナケレハナラヌ關係ニアルノテアリマス從テ此ノ特惠關稅制度ヲ一歩進メ原則主義ヲ採用サレテ原料稅ヲ以テ日本ニ輸入スルコトカ出來ルナレハ其効果ハ一層顯著ナルモノカアルト信スルノテアリマス、又現行關東州關稅規則ハ明治四十年五月所謂暫行トシテ日支間ニ締結サレ當事者双方ハ本協約実行上生スルコトアルヘキ不便ヲ除ク為メ必要アル毎ニ速ニ修正ヲ提議スヘキコトヲ約セルモノニ基キ制定サレタモノテアツテ爾來二十有余年關東州ノ事情ハ大ニ變化シ今日ニ於テハ半ニ通商貿易ヲナスニ止ラス工業投資將ニ八千万円ニ達シ一ケ年ノ生産額一億三千万円ヲ超ヘテ居ルノテアリマス、從テ貿易ノ發達ヲ主眼トセ

ル本協定ハ工業ノ保護助長ヲ閑却セルノミナラス新ニ發生スル事項ト相待テ今日ノ実情ニ適セス所謂実行上生スル不利不便カ甚タ多イノテ當業者ノ苦痛ハ勿論延イテ大連ノ發展ヲ阻害シ日滿經濟關係ニ及ホス影響モ亦尠ナクナイモノト思フノテアリマス、依テ政府ハ關東州ノ關稅制度ヲ日支兩國ノ為メ最モ有利ナル様改善サル、コトニ深甚ノ考慮ヲ払ハレンコトヲ切望シテ止マナイ次第デアリマス、關東州ニ於ケル工業ノ振興策ハ素ヨリ關稅改善ノミテハナイノテアリマス前キニ述ヘタル企業資金ニ對スル金利ト動力費ノ低下ノ如キ少クトモ此ノ關稅制度ノ改善ト併セ行ハレナケレハ自由港設置ノ趣旨ニ副ハナイヤニ思考サレルノデアリマス

#### 五、税制ノ整理ト負担ノ均衡

滿洲ハ沃野千里物資豐富ニシテ勞力亦低廉ナリト稱セラレ一見經濟的發展甚タ易々タルモノアルカ如キモ決シテソウテナイノデアリマス、其經濟界ノ中枢ヲナス農産物ハ大豆、高粱ヲ首メトシテ二千万噸ノ收穫ヲ見ルノデアリマスカ多ク代用品ニシテ且ツ世界各地ニ時ヲ異ニシテ生産サル、競争品カアリ其貿易ヲ営ムモノハ巨大ノ資金ヲ要スル

ケル租税体系ヲ見ルニ其中枢ヲナスモノハ法人所得税地地方税及地租ハ其兩翼ヲナシ配スルニ煙草税、酒税、取引所税、塩税等ヲ以テシテ居ルノデアリマス之ヲ收入ノ点ヨリ見マスレハ法人所得税首位ヲ占メ地方税中營業税之ニ亜キ兩者ヲ合シテ總收入ノ七割ヲ占メテ居ルノデアリマス殊ニ營業税ハ所謂応能課税ノ原則ニ反シ売上金額資本金額ノ如キ外形標準ニヨリテ課税サレ内地ニ於テハ既ニ數年前収益税ニ改メラレタルニ不拘關東州ニ在リテハ依然収益ノ有無多少ヲ顧ミラレナイノデアリマス、其他税制不備ノ為メ負担ニ甚シサ<sup>(キ)</sup>不公平ヲ生シ産業ノ発達ヲ阻害スルコト頗ル大デアリマス依テ政府ニ於テハ速ニ關東州ニ於ケル税制ノ整理ヲ断行シテ負担ヲ均衡ナラシメテ載キタイノデアリマス

#### 六、滿蒙開發ト滿鉄配当金

滿鉄会社ハ從來民間持株ニ一割政府持株ニ對シテ四分四厘ノ配当ヲナシ居ツタノデアリマスカ本年突如在滿邦人多年ノ希望ニ反逆シテ民間持株ニ一割一分政府持株ニ對シテ五分三厘ノ所謂増配ヲナシタノデアリマス、然モ新定款ハ政府持株ノ配当カ年四分三厘ヲ超過シタル時ハ其ノ超ヘタル割合ヲ限度トシテ民間持株ニ對シ年二分ヲ超ヘサル範圍内

ニ反シ利益ヲ見ルコトハ洵ニ少ナイノデアリマス、輸入貿易ニ於テモ亦薄利多売品多ク輸出同様大資本ヲ要スルニ反シ利益頗ル少キノミナラス一度商機ヲ逸センカ損失スル額ハ常ニ大キイノデアリマス、滿洲ノ貿易ニ從事スルモノハ何レモ内地ノ大会社デアツテ小資本家ノ手ヲ出シ得ナイノハ即チ是カ為メデアリマス、鉱山ニ於テモ石炭ヲ別トシテ鞍山ノ鉄同様多クハ貧乏鉱デアリマス小売商ハ生活程度ノ低キ支那人ヲ相手ニ競争シナケレハナラヌノデアリマス企業方面ニ於テモ亦氣候ノ關係上工場設備ニ比較的多クノ資金ヲ費シ金利勞力費高ク勞銀ハ低廉ナルカ如キモ熟練職工ヲ得ルコト困難デアツテ自ラ養成シナケレハナラヌト云フ苦痛カアルノデアリマス加フルニ滿洲ニハ為替トイフ厄介ナモノカアリ金銀比価ノ變更ニヨリテ損失スルコトモアリ又支那ノ政變動亂ニヨリテ災禍ヲ蒙ルコトモ少ナクナイノテ之等事情ト生活程度ノ低イ支那人ノ間ニ介在シテ邦人カ經濟的ニ發展スルコトハ頗ル至難デアアルノデアリマス、ソコテ政治ハ出来ル丈ケ簡明ニシテ一厘タリトモ負担ヲ輕クスルト云フコトト衡平ニスルト云フコトカ經濟的ニ發展スル第一義デアラネハナラヌノデアリマス、然ルニ關東州ニ於

ニテ配当ヲ増加スルヲ得ルコト、ナツテ居リマスルカラ民間株主ノ希望ニ對シ政府ノ賛成ヲ得ハ尙民間一割二分政府持株六分三厘迄増配シ得ルコト、ナルノデアリマス、滿鉄会社ハ特殊使命ヲ帶ヒテ滿蒙開發ノ衝ニ當リ政府ニ代リ鐵道沿線附屬地ノ行政ヲ行フ為メニ年額約一千九百萬元ヲ支出シテ居ルノデアリマス之ヲ現在ノ出資払込金二億一千七百十五万六千円ニ對スル配当金一千百六十万円で合計シマスレハ実ニ三千六十万円で昇リ出資金額ニ對スル割合ハ年一割四分ニ當リ此ノ外法人所得税トシテ約二百万円ヲ課セラレテ居ルノデアリマス元來滿洲ハ國ヲ賭シテ戰ツタ結果カチ得タル所謂特殊地域デアツテ其ノ開發ハ我カ國百年ノ大計ト稱セラレテ居ルノデアリマス、其滿洲カラシテ政府カ斯ク多額ノ配当金ヲ徴スルヨリモ寧ロ其開發ヲ進メル方カ國家ノタメ妥當デアルト云フ見地カラ政府配当金中大正九年末増資ノ際政府ノ引受出資カ事實社債ノ肩替リトナリ居ル為メニ要スル利子約六百万円ヲ控除シタル殘額ハ之ヲ滿洲開發ノ資金トシテ投シテ貰ヒタイト云フノカ在滿邦人多年ノ切望デアアルノデアリマス、然ルニ之ヲ為ササルノミカ却テ夫レ以上ノ金額ヲ増配サル、ニ至ツタノハ滿洲在

住民トシテ突然自失転々啞然タルヲ得ナイノテアリマス、更ニ又民間持株ニ対シテ亦モ一割以上モ配当スル要ハナイヤニ思考サレルノテアリマス、世界各国何レノ植民地会社ニ於テモ多クハ無配当、配当ヲナス所テアリマシテ四分乃至六分ニ止リ満鉄ノ如ク一割以上ノ配当ヲナス例ハ一トシテ見当ラナイノテアリマス、斯ク言フ時ハ満洲在住民ノ他力主義ヲ嘲罵サル、カモ知レマセンカ満洲ト云フ所ハ前キニ述フルカ如ク国民ノ発展ニ困難ナル事情カ多アルノテアリマス、在住民ニ依頼心ノ多イト云フノハ独リ在住民ノ責ノミテハナイノテアリマス、満洲ノ経済組織ト経済状態カラシテ境遇の自然的ニ斯クアラシムルノテアリマス、其辺ノ事情ニ就テハ篤ト御視察アランコトヲ特ニ希望スルノテアリマス、ソコテ吾々ハ満鉄会社ノ増配ヲ甚タ遺憾トスルノミナラス政府持株ニ対スル配当中前記社債利子ヲ控除シタル残額ハ之ヲ満蒙開発資金ニ充当サル、様特ニ政府ニ於テ深厚ナル考慮ヲ払ハレンコトヲ切望シテ止マナイ次第テアリマス

以上

ル報道ノ出所ハ出来得ル限り究明シ置クコト必要ト思考スルニ就テハ貴官ニ於テモ外交部ニ対シ之カ突止メ方非公式ニ申入ラレ結果回電相成度  
北平、上海、奉天へ転電セリ

220 昭和4年10月19日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

東三省独立勧告情報に關し出所調査方中国側に要請について

南京 発  
本省 10月19日前着

第一〇七九号

貴電第一五一号ニ関シ(関東長官満洲独立勧告ニ関スル件)

本件ニ関シテハ佐分利公使王部長ト会谈ノ際直接王ニ話シタル処王ハ右情報ノ出所ヲ調査スヘキ旨答ヘタル趣ナリシカ十七日江華本本官ヲ来訪ノ際王ハ右情報ハ直接蔣介石ヨリ聞キタルモノナル事ヲ思出シ早速蔣介石ノ許ニ照会シタルカ未タ何等返事無キニ依リ蔣ト会见ノ節直接尋ヌル事ト

219 昭和4年10月11日 幣原外務大臣より  
在南京上村領事宛(電報)

関東長官東三省独立勧告情報に關し汪駐日公使と会谈について

本省 10月11日後8時発

第一五一号

客月二十八日汪支那公使本大臣ヲ来訪上海来电第一一六三号周龍光談中関東長官勧告云々ト同様ノ事ヲ述ヘ本国政府ヨリ右ハ事重大ニ付日本政府ニ可然申入ルヘキ旨来訓アリタルニ対シ同公使ヨリ不取敢スル事実ハ現内閣ノ下ニ於テハ有リ得サル所ト思考ス就テハ右事実ノ証拠ヲ承知シ度旨稟申シ置キタル旨内話シタルニ付本大臣ハ勧告云々ノ如キ固ヨリ夢想タニ為シ得サル所ナル旨ヲ断言スルト共ニ何人カ無稽ノ流言ヲ伝ヘ日支間ヲ離間セムトスルモノアルヤニモ感セラルルニ付自分ノ最モ興味ヲ覚ユルハ右報道ノ出所如何ニ在リト応酬セルコトアリ

越ヘテ本月九日同公使他用ヲ以テ来訪シタルヲ以テ本大臣ヨリ前記上海来电及奉天来电第六〇〇号ニ付可然読聞カセタル上本件報道ノ出所取調方ヲ求メ置タルカ此種無責任ナ

シ居ル旨内話セリ為念  
支、上海、奉天へ転電セリ

221 昭和4年10月19日 在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

関東長官東三省独立勧告情報の出所について

上海 発  
本省 10月19日後着

第一二一五号

南京宛貴電第一五一号ニ関シ

佐分利公使ヨリ

十五日日本官王正廷ニ面会ノ際之ニ言及シテ斯ル根拠ナキ無稽ノ報道ヲ為スハ或ハ何等カ為ニスル所アル者ノ仕業トモ思ハルニ依リ之ヲ防ク為ニモ其ノ source ヲ知リ度キ次第ナリト述ヘタル処王部長ハ右ハ充分信頼スヘキ方面ノ報告ナルカ尚確カナルコトヲ取調ヘ中ナリト述ヘタリ

尚江華本カ重光ニ語ル所ニ依レハ右ハ直接蔣介石ニ来リタル報道ナル由ナリ

南京ニ転電セリ

222 昭和4年10月20日

中谷関東庁警務局長心得より  
吉田外務次官他宛

関内政局への対応に関する張學良、袁金鎧、  
談国桓の三者会議について

関機高収第二九六〇四号ノ二

(10月25日接受)

昭和四年十月二十日

関東庁警務局長心得

拓務次官殿  
内閣書記官長殿  
外務次官殿  
内務省警保局長殿  
指定庁府県長官殿  
吉林哈爾濱各総領事殿  
関東軍参謀長殿  
関東憲兵隊長殿  
關東州駐在海軍武官殿  
満鉄情報課長殿  
在支各事務官殿

在京関東長官殿

張學良ノ対南方秘密會議

十月十日ノ双十節ヲ期シ各地武將等蹶起シ聯名反蔣通電ヲ  
発シ全支挙ケテ再動乱ノ萌アリ巷間伝ヘラルルカ如キ馮閻  
張ノ關係モ何レノ程度ノモノナルヤ疑問視セララルル処ナリ  
シカ最近山西代表楊周兩代表ノ奉天訪問ト謂ヒ本月八日同  
代表等ノ退奉ニ際シテ張學良カ王樹翰ヲ同行セシメタル点  
ト謂ヒ馮閻間ニ一脈ノ默契アルモノノ如ク張學良ノ地位ハ  
對露対日問題ニ加フルニ叙上ノ対内問題アリ最難局ニ立テ  
ル状態ニシテ其ノ態度如何ハ直接彼ノ運命ヲ決スル重大問  
題ナル為メ是カ対策ニ腐心シツツアル折柄蔣介石ヨリハ本  
月十二日午后九時張學良宛電報ニテ中央ニ武器ノ補助ヲ為  
シテ馮閻討伐ニ便スヘキ旨要求シ来リタル為メ翌十三日  
午前八時特ニ袁金鎧、談國桓ノ兩名ヲ招キテ秘密會議ヲ開  
キタルカ學良ノ意見ハ既ニ南方各地ニ於テ倒蔣運動熾烈ニ  
シテ馮閻ノ如キ夙ニ反蔣ノ計画アリ又南京政府総テノ要職  
ハ何レモ蔣介石ノ親戚知己ニ依リテ維持セラレ国事ハ実ニ  
不公平ニ処理セラレツツアル状態ナルヲ以テ馮閻ト三角同  
盟ヲ結ヒ共同出兵シテ蔣ヲ倒シ新政府ヲ樹立セントノ意嚮

ルニ対シ山東陳調元ハ連年ノ兵禍ニ遇ヒ再ヒ起ツ能力無ク  
殊ニ内治外交ノ複雑ナル昨今蔣馮間ニ自ラ政治的ニ解決ス  
ヘキモノナリト返電シ唐生智モ亦略同様ノ意思表示ヲ為シ  
タルカ張學良ハ之ニ反シ中央ニ背叛スルモノハ断乎タル処  
置ヲ必要トス然レトモ遼寧省ハ東鉄問題勃発ノ為メ北滿ニ  
出兵中ナルヲ以テ此際関内出兵ハ困難ナリト返電ヲ為シタ  
ル趣ニシテ張學良ハ茲当分日和見の態度ヲ持續スルモノト  
認メラルルモ京奉線ノ奪取ヲ図リ東北ノ咽喉ヲ扼セントス  
ル意嚮アルモノノ如ク高紀毅局長ニ内部ノ改組方ヲ内命シ  
同局長ハ直ニ改組ニ着手シ表面上天津ニ総局ヲ置クモ奉天  
ニ於ケル事務所ヲ拡張スヘク計画アリト謂フ

223 昭和4年10月29日

在吉林石射総領事より  
幣原外務大臣宛

国民政府内務部特派東北各省政治視察員の視  
察目的について

機密公第六九九号

昭和四年十月二十九日

(11月6日接受)

在吉林

ヲ述ヘタルカ袁金鎧ハ極力之ヲ阻止シ各地武將等拳ツテ反  
蔣運動ニ起ツモ東北ハ之ニ加担スヘカラス馮閻ノ東三省ト  
ノ聯名勧誘ハ決シテ其ノ誠意ニ出ツルモノニ非スシテ老獪  
ナル彼等ノ真意ハ一時的ノモノニシテ将来ニ於テハ東北ヲ  
モ侵略セムトスル野心アルヤモ測リ難ク東北ハ目下對露問  
題ノ紛糾アリ故ニ此際保境安民ニ立脚シテ決シテ馮閻蔣ノ  
争ニ偏倚スヘキニ非ラスト力説シタル結果張學良モ漸ク其  
ノ勧告ヲ容レタル模様ナルカ尚之カ根本對策論究スルノ必  
要アリトシ更ニ東北四省主席ヲ招集シ重要會議ヲ開催スヘ  
ク計画シ同日張作相、萬福麟、湯玉麟、張景惠ニ打電シ本  
月二十日迄ニ來奉スヘキ命令ヲ発セリ一面楊子文秘書ヲシ  
テ蔣介石宛内乱ノ罪魁タル逆馮ハ始メ吳佩孚ヨリ離叛シ次  
テ革命軍ヨリ脱出今日又復全国ノ乱萌ニ導ク吾人ハ斯ル叛  
賊ト共存スルヲ得ス茲ニ討馮ノ通電ヲ中外紙上ニ掲載セシ  
メ貴兄ハ極力叛逆者ノ删除根本策ヲ講シ革命ノ完成ヲ期セ  
ラルヘントノ打電方起草セシメ亦駐京代表危道豐宛反蔣連  
動ニ對スル何成濬、唐生智、商震等ノ態度ヲ調査復命方ヲ  
命シタリ尚曩ニ蔣介石ハ反蔣通電ニ接スルヤ旗幟闡明ナラ  
サル各軍閥首領ニ對シ馮ノ罪狀ヲ掲ケ討馮ノ決意ヲ促シタ



總領事 石射 猪太郎〔印〕  
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

国民政府政治視察員来吉ニ関スル件

国民政府内務部特派東北各省政治視察員陳希豪及同秘書徐兆蓀、李和濤ノ三名ハ奉天經由十月二十五日来吉目下当地滞在中ニシテ同一行ハ二十七日省政府民政庁視察ヲ手始めニ爾来引続キ財政、農礦、建設、教育各庁及其地ノ各機關ヲ視察中ナルカソノ任務ニ関シ洩ス処ニ依レハ表面東北各省ノ内政視察ト称スルモ其実中央ノ政情ヲ宣布シ以テ東北各省ト中央トノ精神的結合ヲ図ルヲ主要目的トナスモノニシテ当地方ニ於テ最モ注意ヲ要スル点ハ省政府各機關ト民衆諸団体トノ融合狀況及中央ニ対スル感情如何ヲ精細視察スルコトナリ関内各省ニ於ケル反動派蜂起ノ原因ハ各軍閥ノ擁兵跋扈ト地方民衆ノ中央輕視ニ存スルモノニシテ此際東北各省ノ態度ハ中央政界ニ甚大ナル影響ヲ及ホスヘキヲ以テ蔣主席ハ特ニ今回同人等ヲ派遣シテ東北各省政治機關首領ト親シク接触シ中央ノ政情ヲ諒解セシメテ中央服從ノ念ヲ深カラシメントスルモノナル由ナリ尚同一行ノ視察事項ハ当省ニ於ケル(一)金融狀況(二)実業振興狀況(三)警察狀況(四)

在上海 重光總領事各宛  
在南京 上村領事

(別紙)

拜啓陳者過般支那側ニ伝ヘラレタル太田関東長官ノ張學良ニ対スル滿洲獨立勸告ノ虚報ニ関シテハ九月末貴官宛在上海総領事宛電報ノ通り鈴木某ノ所言カ太田長官ノ夫レト誤伝セラレタルモノナルヤニ推察セラルル処当方ニ於テハ此種虚報ハ其ノ出所経路ヲ出来得ル限り究明シ置度意向ニテ曩ニ幣原大臣ヨリ在京汪公使ニ対シ取調方ヲ求メラルルト共ニ在南京領事ニモ訓電セラレタル次第並之ニ対スル支那側ノ説明ハ当時關係電報ノ転電ニ依リ御承知ノ通りニ有之候処其ノ後当方ニ於テハ何等の確ナル報道入手ノ運ニ至ラス候ニ付テハ此際貴官ニ於テモ一応陶尙銘王家楨其他然ル可キ方面ニ就キ本件真相殊ニ蔣介石ニ対シ本件情報ヲ供給シタリトモ想像セラルル経路等御探查ノ上鈴木ノ身許(鈴木トハ豫備陸軍少将鈴木一馬ニアラサルカ)並貴地ニ於ケル其ノ動靜ト併セテ御報告煩度尚又右鈴木ノ例ニモ鑑ミ貴地ニ於ケル此種邦人ノ行

行政狀況(五)自治狀況(六)人口(七)教育狀況(八)各機關ノ施設及職員ノ執務振(九)官民ノ感情及民生ノ現況等十數項ニ亘ル由ニテ十一月一日頃当地発哈爾賓ニ赴ク豫定ナリト云フ  
右報告ス  
本信写送附先 北平 奉天 哈爾賓 間島 長春

224 昭和4年10月30日

有田亜細亜局長より  
在中国堀内公使館参事官  
在上海重光總領事  
在南京上村領事 宛

東三省獨立勸告虚報の出所に關シ在奉天林總領事に調査方要請

機密

拜啓陳者過般ノ太田関東長官ヨリ張學良ニ対スル滿洲獨立勸告ノ虚報ニ関シ本官ヨリ在奉天林總領事宛別紙書面写ノ通照会シ置タル次第有之候ニ就キ右御参考迄貴覽ニ供シ候

昭和四年十月三十日

有田外務省亜細亜局長

在北平 堀内参事官

動ハ特ニ御注視ノ上隨時狀況報告方御配意相成度此段併而得貴意候  
敬具  
昭和四年十月三十日

有田外務省亜細亜局長

在奉天

林 總領事殿

225 昭和4年10月31日

在チチハル清水領事より  
幣原外務大臣宛

中国側官憲の在留邦人狀況調査に關する堀内代理公使宛報告について

本機密第三〇〇号

(11月6日接受)

昭和四年十月三十一日

在齊々哈爾

領事 清水 八百一〔印〕  
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

堀内代理公使宛十月三十一日附公領機密第六二号  
左記件名公信写送附ス

件名 支那側ノ在留邦人狀況調査ニ関スル件

公領機密第六二号

昭和四年十月三十一日

在齊々哈爾

領事 清水 八百一

在支那

代理公使 堀内 謙介殿

支那側ノ在留邦人状況調査ニ関スル件

本件ニ関シ客月十九日発奉天総領事宛電第五三二号ヲ以テ御来訓ノ次第敬承依テ管内各地ノ在留邦人ニ対シ支那側ノ此ノ種調査ハ体良ク之ヲ断リ其状況逐次当館ニ報告スル様示達シ置タルカ当地ヲ除ク各地ニ於テハ未タ之カ調査ヲ開始セサルモノノ如ク其後何等ノ報告ニ接セス当地ニ於テハ数日前公安局巡警当館及在留民中二、三ノ者（全在留民ニアラス）ヲ歴訪シ当館ニハ別紙甲号附属書「外国在華各団体資産及土地調査表」ヲ在留民中ノ普通居住者ヘハ乙号附属書「黑龍江省会公安局戸口登記冊甲種」ヲ又店舗ヲ構ヘ居ル者ヘハ丙号附属書「黑龍江省会公安局戸口登記冊乙種」ヲ夫々配付シ所要事項ノ記入方要求セルモ邦人側ニ於テハ何レモ体好ク之ヲ拒絶セリ其際支那側ニテハ強テ記入

関機高収第三一二六一号ノ二

昭和四年十一月五日

（11月11日接受）

関東庁警務局長

拓 務 次 官 殿

内 閣 書 記 官 長 殿

外 務 次 官 殿

内 務 省 警 保 局 長 殿

指 定 庁 府 県 長 官 殿

在 吉 林 哈 爾 濱 各 総 領 事 殿

関 東 軍 参 謀 長 殿

関 東 憲 兵 隊 長 殿

關 東 州 在 勤 海 軍 武 官 殿

滿 鉄 情 報 課 長 殿

在 支 各 事 務 官 殿

在 京 関 東 長 官 殿

奉天ニ於ケル排日貨ノ状況

奉天商工会長金哲忱ハ就任以来国貨奨励外貨抵制ニ意ヲ用ヒ同会内ニ之カ宣伝部ヲ設ケテ種々ナル宣伝ヲナシ又ハ調査員ヲシテ各商店ヲ調査セシメ国貨ノ販売ヲナシ以テ範ヲ

ヲ要求スルカ如キ態度ナカリシカ戸口調査ニ付テハ前記戸口登記冊甲乙両号種共其簡章第十条ニハ本件登記冊ハ外国居留民ノ戸口登記ニハ之ヲ適用セサル旨規定シアル点等ヨリ見ルニ外国人ニ関シテハ強テ之カ調査ヲ為サントスル意図ナキモノニアラスヤトモ見受ケラル

本件調査ノ目的及其ノ他ハ調査ノ上追報可致モ別紙相添右不取敢報告ス

追テ当省政府ニ於テハ本年三月南京政府ノ命令ニヨリ当省在留各外人総数ヲ調査報告セリ（本年三月二十八日附本官発外務大臣宛本機密第七二号往信中（ニ）参照）其際当地交渉署科長ヨリ本官ニ対シ口頭ヲ以テ当省内在留邦人数ヲ尋ネタルニ付概数ヲ話シ置キタルコトアリ右御参考迄申添フ

本信写送付先 外務大臣 奉天 哈爾濱各総領事 滿洲里

領事

226 昭和4年11月5日

中谷関東庁警務局長心得より  
吉田外務次官他宛

瀋陽における排日貨の状況について

一般商民ニ示シテ愛国思想ノ普及ニ努メツアルカ為メ近來支那官民ノ外貨ヲ排斥シ国貨ヲ愛用セントスルモノ著シク激増シ官公衛会社等ハ素ヨリ一般商民ニ至ル迄心アルモノハ総テ国産品ヲ購入スル状態ニシテ彼等ハ物品購入ニ際シ先ツ国貨ナリヤ外貨ナリヤヲ質シ国貨ナルコトヲ確メタル上購入スルコトカ一般ノ習慣ノ如クナリ來レルカ

右ニ関シ商工総会事務員ノ語ル処ニ依レハ日本商人ハ繰テ支那向商品ニ対シ日本製ナルコトヲ感知セシメサル為メ「マーク」ヲ支那式トナシ恰モ支那製ノ如ク装ヒ居レル為一見判別スルヲ得サルノミナラス支那商ノ陳列セル大多数ノ商品ハ日本品之ヲ占メ居ル状態ナルニ彼等ハ日本品ト氣付カス之ヲ購入シ居ル有様ニテ彼等ノ行動ハ常ニ言行一致セス何カ為ノ宣伝ナルヤ判断ニ苦シミ全ク売名行為ト見ルノ外ナシ如何ニ国貨使用ヲ奨励スルトモ社会ノ進歩ト支那人智識ノ進歩トハ一致セス徒ラニ生活程度ノ向上ノミ進歩シツツアル現況ナレハ到底外貨ニ劣ル国貨ノミニ満足スルヲ得サル有様ナルヲ以テ自然粗悪ナル国貨ヲ求メスシテ優良品ヲ他国ニ求ムルノ外ナキ状態ナレハ斯ノ如キ誤レル宣伝ヲナスヨリモ人智ノ啓発努ムルコトカ尤モ急務ナリ人智

発達セハ宣伝ニ俟ツ迄モナク自然優良ナル国貨ヲ産出スル  
ニ至リ聽テハ外貨ヲ駆逐シ得ルモノニシテ要ハ国民ノ自覚  
ニシテ彼等ノ宣伝ノ効ヲ奏スルハ尙前途遼遠ナリ云々  
以上

227 昭和4年11月6日

在奉天林総領事より  
有田亜細亜局長宛（書翰）

関東長官東三省独立勸告虚報の出所に関する  
報告

拝啓陳者客月三十日附貴信御申越ニ関シ本日森岡領事ヲシ  
テ本件ニ関係アル王家楨ヲ私宅ニ訪問セシメ詳細ノ事情並  
ニ南京側ニ誤伝セラレタル経路等質問為致候処王ハ先般福  
島県々會議員鈴木周次郎ナル者町野前顧問ノ紹介状ヲ携ヘ  
テ來奉シ早速余ヲ訪問シテ張學良ニ会见方斡旋ヲ求メタル  
ト同時ニ支那ハ南北両分独立ニ非サレハ統治不可能ニテ右  
ハ日本有力者ノ定論ナルノミナラス世界各国ノ輿論ナリト  
ノ奇論ヲ真面目ニ切り出シタルヲ以テ翌日學良ニ会见セシ  
メタル際成ルヘク斯ル議論ヲナサシメサル様夫トナク執リ  
成サントシタルモ鈴木ハ寒暄ノ挨拶ヲ終ルヤ直ニ又同様ノ

話ヲ持出シ支那ノ統治ハ南北対立ヲ必要トシ現ニ近ク必ス  
右ノ如キ事態ニ到ルヘキ形勢ニ在リト信セラルル処貴見如  
何ト尋ネタルヲ以テ學良ハ右ハ町野個人ノ意見ヲ伝達スル  
意味合ナリヤ將又貴殿一個ノ御意見ナリヤト反問セルニ對  
シ鈴木ハ右ハ日本有力者全体ノ意見並ニ世界ノ輿論ナリト  
答ヘ暫ク之ニ関聯シテ愚論ヲ陳ヘタル為學良ハ頗ル怪訝ノ  
色アリ依テ余ハ氣転ヲ利カシ學良ニ耳打シテ退席ヲ願ヒタ  
ルカ當時同行セル前滿鉄囑託江藤豊治モ極メテ当惑シタル  
模様ニテ本件ハ近來ノ珍談トシテ當時官界ノ話題ニ上リタ  
ルモノノ如ク其後転々流布セラルル内ニ無責任ナル連中カ  
一浪人ノ談話トシテハ興味少シトナシ偶之ト前後シテ來奉  
セル太田関東長官ニ結ヒ付ケ遂ニ南京方面ニ誤伝セラルル  
ニ至リタルモノカト察セラル固ヨリ學良トシテハ公私共ニ  
蔣介石ニ對シ斯ル馬鹿ラシキ報告ヲナシタルコト無ク假ニ  
報告セリトセハ此様ノ間違ハ起ラサリシ次第ニテ要スルニ  
誤伝ノ経路ニ関シテハ右憶測以外ニハ全然不明且取調モ不  
可能ナリト語リタル趣ニ有之尚鈴木滯奉中王家楨主催トナ  
リ鈴木ヲ主賓トシテ当館々員及在留民数名ヲ招宴シタルカ  
席上鈴木ハ当館々員ニ對シ余ハ民政党系県會議員ニシテ次

回ノ総選挙ニハ郷里福島県ヨリ代議士ニ立候補ノ志望ヲ有  
シ右選挙演説材料蒐集ノ為來滿セル次第ナル処民政党院外  
団少壯派ハ現内閣ノ對支外交方針ニ満足セス少クトモ滿洲  
ニ関スル限り徹底的強硬ナル主張ヲ有ス云々ト漏ラシタル  
趣ナルカ今日ニ至リテハ張學良モ鈴木カ微々タル一個人ニ  
過キスシテ其議論ニ對シ何等神經ヲ悩マス価値ナキコトヲ  
充分承知セル模様ナルモ當時ハ現内閣組閣直後ノコトニモ  
アリ種々邪推ヲ抱キ居リタルモノノ如クニ疑ハルル節モ有  
之候尙今後共此種邦人ノ言動ハ注視報告可致此段回答得貴  
意候

昭和四年十一月六日

在奉天

林 総領事

外務省 有田亜細亜局長殿

追テ本信写参考ノ為メ在支公使、在上海総領事並  
在南京領事ヘ送付致置候条為念申添候

228 昭和4年11月7日

在チチハル清水領事より  
幣原外務大臣宛

中国側官憲の在留邦人状況調査に關し追報

本機密第三〇八号

（11月13日接受）

昭和四年十一月七日

在齊々哈爾

領事 清水 八百一（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

佐分利公使宛十一月六日附公領機密第六四号

左記件名公信写送附ス

件名 支那側ノ在留邦人状況調査ニ関シ追報ノ件

公領機密第六四号

昭和四年十一月六日

在齊々哈爾

領事 清水 八百一

在支那

特命全權公使 佐分利 貞男殿

支那側ノ在留邦人状況調査ニ関シ追報ノ件

本件ニ関シテハ客月三十一日附公領機密第六二号往信ヲ以  
テ及報告置タルカ其後当地公安局員再ヒ当館ヲ來訪シ前記

往信甲号附属書「外國在華各團體資産及土地調査表」並  
別紙<sup>(省略)</sup>「外人在華開設商店及棧房調査表」ニ夫々所要事項記  
入方再応募セルモ之亦体良ク拒絶シ置ケリ  
右何等御参考迄別紙相添ヘ追報ス

本信写送附先 外務大臣 奉天 哈爾賓各総領事 滿洲里  
領事

229 昭和4年11月7日 中谷関東庁警務局長心得より  
吉田外務次官他宛

国民外交協会の国貨奨励日貨排斥に関する決  
議について

関機高収第三一六三七号ノ二 (11月13日接受)

昭和四年十一月七日

関東庁警務局長心得

拓務次官殿  
内閣書記官長殿  
外務次官殿  
内務省警保局長殿  
指定庁府県長官殿

関東軍参謀長殿  
関東憲兵隊長殿  
關東州駐在海軍武官殿  
滿鉄情報課長殿  
在京関東長官殿

外交協会ノ排日貨會議

国民外交協会ニ於テハ本月四日午後六時幹部ヲ召集シ近来  
排日貨国貨提唱ノ結果日本品カ支那又ハ西洋ノ商標ヲ以テ  
売込マレツツアリ是ハ支那ノ商標權ヲ侵スモノナリトノ見  
知ヨリ対策講究シタル模様ナルカ結局左ノ諸項ヲ決議シタ  
リト

一、各商店ニ通知シ国貨購入ノ時ハ製造元製造者ノ姓名及  
官署ノ許可ノ有無等ヲ詳細調査シ商品ノ真相ヲ明カニシ  
置クコト  
二、本会ヨリ秘密ニ人ヲ各商店ニ派シ調査シ偽国貨ヲ販売  
スルモノアリタル時ハ是ヲ糾正スルト共ニ罰金ヲ課シ他  
商ノ戒ト為ス  
三、我カ国職工カ日本人ト結托シ国貨ヲ偽造スルモノヲ調  
査シ官署ニ商標侵害トシテ摘発スヘシ

四、各工場及商店カ専売特許權ヲ得タル後日本人ト共謀シ

日本人ニ權利ヲ貸与シテ国貨品ヲ偽造シタル時ハ同シク  
官署ニ摘発シテ処罰スヘシ

五、省政府ニ申請シ各省ニ照会シ偽造国貨ヲ発見シタル時  
ハ直ニ没収処罰セシム

六、官署及本会ヲ論セス若シ偽造国貨ヲ発見シタル時ハ其  
ノ数量仕入地仕向地製造処取扱商店及經營者ノ姓名住所  
双方ノ利益輸送者ノ姓名等ヲ詳細調査シ本会発行ノ東北  
商工日報ニ掲載シ日本人ノ不道德行為ヲ暴露スヘシ

以上

230 昭和4年11月9日 在吉林石射総領事より  
幣原外務大臣宛

吉林省交渉員の許可がない土地家屋の貸与売  
却を禁止する旨の国民政府訓令について

機密公第七三二号 (11月21日接受)

昭和四年十一月九日

在吉林  
総領事 石射 猪太郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

外国人ニ土地家屋ノ貸与売却禁止ニ関スル吉林省  
政府ノ密令ニ関スル件

本件ニ関シ諜知スル処ニ依レハ吉林省政府ハ最近国民政府  
ヨリ「近來中国国有民有土地家屋ヲ外人ニ貸与又ハ売却ス  
ル者統出シ居ルニ鑑ミ之カ禁止辦法ヲ講究シテ嚴重取締ヲ  
加フル要アリ就テハ今後ハ其ノ国有タルト民有タルトヲ問  
ハス一切ノ土地家屋ハ当該省交渉員ノ許可ヲ得テ契約ヲ締  
結スルニアラスンハ一切無効トシ若シ規定ニ從ハス外人ニ  
貸与又ハ売却シタルコト当該管轄長官ニ発見セラレ又ハ其  
ノ事実ヲ告発セラレタル者ハ嚴重之ヲ処罰スルコトトシ  
度」旨ノ訓令ニ接シタルヲ以テ十一月二日附ヲ以テ別紙ノ  
通り吉林交渉特派員吉林、濱江、延吉三市政籌備処長及各  
県長ニ対シ右ニ辦理方密令シタル趣ナリ

右密令原訳両文添附此段報告ス

本信写送附先 北平、奉天、間島、哈爾賓、長春、局子  
街、南京、上海、関東長官、

(別紙)

吉林省政府密令 訳文

吉林交涉特派員  
三籌備処処長 ニ令ス  
各 県 県 長

国民政府第二九七号訓令ニ依レハ「中国国有民有土地家屋ハ關係極メテ重要ニシテ密カニ外人ニ貸与又ハ売却スルヲ許ササル件ニ関シ近來中国国有民有土地家屋ヲ外人ニ貸与又ハ売却スル者続出シツツアルハ誠ニ不都合ニシテ若シ完全ナル禁止辦法ヲ籌画スルニアラスンハ以テ将来ヲ戒ムルニ足ラス今後ハ国有タルト民有タルトニ論ナク土地家屋ハ当該省交渉員ノ許可ヲ經テ契約シタルモノニアラサレハ有効ナルモノトセス若シ規定ニ從ハス外人ニ貸与又ハ売却シタルコト当該管轄長官ニ発見セラレ又ハ其ノ事實ヲ告発セラレタル者ハ嚴重之ヲ処罰シ断シテ仮借セス各該省政府ハ右ニ遵守辦理シ結果報告スヘシ」トノコトナルニ付各県縣長ヨリ所屬公安局ニ転令セシムルト共ニ吉林交渉員及長春、濱江、延吉等ノ市政籌備処処長ニ遵守辦理方訓令シタルニ付貴交渉員（貴処長、貴県長）ハ右ニ遵守辦理ノ上隨時報告スヘシ

員  
令仰該處長遵照辦理隨時具報勿延切切此令  
縣長

中華民國十八年十一月二日

吉林省政府主席張作相

231 昭和4年11月19日 幣原外務大臣より  
在奉天林総領事宛（電報）

在滿日本人警察官の中国人に対する態度改善  
方に関し訓令

第一七三号

本省 11月19日 発

本月十六日関東長官ノ来訪ヲ求メ（警務局長同席）滿洲ニ関スル事柄ニ付種々打合タル際本大臣ヨリ同長官ニ対シ近來長春事件鐵嶺事件等ノ發生ニ顧ミ陸軍大臣ニ於テハ滿洲軍首脳部ヲ東京ニ召致シ其心得方ニ関シ訓示スルトコロアリタル趣ヲ告ケタル後我在滿警察官ノ外人殊ニ支那人取扱ニ付テモ種々ノ苦情ヲ耳ニシ相当ノ地位ニアル支那人ニシテ自ラ不当不遜ノ取扱ヲ受ケタリトテ本大臣ニ愁訴スル者

民国十八年十一月二日

吉林省政府主席 張 作相

（右原文）

吉林省政府密令

吉林交涉特派員  
三籌備處處長  
各 縣 縣 長

爲通令事案奉  
國民政府第二九七號令開查中國國有民有土地房產關係至爲重要不准私自租售外人辦法一案查中國國有民有土地房產近來租售外人情事層欠疊出殊屬非是若不統籌禁止辦法實不足以儆將來嗣後無論國有民有土地房產非經呈請各該省交涉員批准簽立契約不爲有效倘敢不遵定章轉行租售外人此一經該管長官查覺或經人舉發證實此定將該租售人從重懲辦決不寬貸爲此通令各該省政府遵照切實辦理具報此令等因奉此除令各縣縣長轉飭所屬公安局查照辦理吉林交涉員及長春濱江延吉等處市政籌備處處長外合亟

サヘ之レアルコトヲ語り其態度ノ改善ニツキ此際余程眞面目ニ且深刻ニ考察スルニアラサレハ日支ノ感情ヲ益々險惡ナラシメ引イテ滿洲ニ於ケル我カ特殊ノ地位ニサヘ累ヲ及ホス虞アリ深く戒心ヲ要スヘク右ニツキテハ居留民ノ態度モ去ルコトナカラ出先陸軍並ニ我警察官ニ於テ其気分ヲ變ヘ範ヲ一般ニ示スノ覺悟アルヲ必要トスヘキ旨述タルニ長官ハ至極尤モニシテ其点ニ関シテハ曩ニ滿鉄沿線各地巡視ノ際自分自身並ニ警務局長ヨリモ管下警察官ニ對シ篤ト戒飭シ國際警察ノ機微ニツキ充分説シ置キタルニ付長年ノ慣行ノコトトテ或ハ急ニハ其效果ヲ期待シ得ストスルモ相當改善サルヘキヲ信スル趣ナリシヲ以テ本大臣ハ此上共改善ニ銳意サレ度旨希望シ置キタリ就テハ貴官ニ於テモ右御含督ニ付一段ト御留意ノ上必要ニ応シ関東庁トモ聯絡ヲ取其效果ノ實現ニツキ御努力相成様致度  
本大臣ノ訓令トシテ安東、遼陽、牛莊、鐵嶺、長春ニ転電シ其他ノ在滿各領事館及分館ニ暗送アリ度  
北平、南京、上海ニ暗送セリ

232 昭和4年11月20日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中東鐵道紛争による奉天票増発と現大洋票の  
流通状況について

奉天 11月20日後発  
本省 11月20日後着

第六九六号

(一)<sup>1)</sup> 奉天軍ノ北滿出兵費ニ付テハ固ヨリ正確ナル数字ヲ明カ  
ニ知リ得サルモ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ一ヶ月約二百万  
元ヲ要シ既ニ八百萬元ヲ費消シ居ル模様ニシテ国民政府  
ハ今日迄僅ニ三百萬元ヲ補給シタルニ過キス且ツ前年来  
奉票ノ濫発ニ依リ僅ニ軍政費ノ支払ニ応シ居タル奉天省  
ノ財政カ右北滿ノ出兵ニ依リ益々窮乏ヲ加ヘ居ルニ拘ラ  
ス奉票カ昨今七千百元ノ相場ニ安定シ居ルハ從來官銀号  
カ特産ノ買占ニ使用セル奉票カ流通性ヲ失ヒ特産ノ買占  
ハ殆ト大部分現銀若ハ現大洋票ヲ要スル実情ニ陥リシヲ  
以テ官銀号ハ奉票増発ノ機会ヲ得ス又軍隊官吏ノ給与モ  
奉票現銀折半ニ改メラレタル結果ニシテ今後奉票ノ増発  
ニ依ル軍政費ノ補給及買占特産物ノ売却ニ依ル現銀受入

意ヲ惹キ居ルモ其ノ影響ハ未タ当地我取引所ノ現大洋票  
相場ニハ著シキ反映ナシ  
支、上海、南京へ転電セリ

233 昭和4年12月12日 幣原外務大臣より  
在奉天森島總領事代理宛

滿洲取引所整理問題の経緯および整理方法に  
関する報告方要請

通二機密二六四号

昭和四年十二月十二日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

在奉天

總領事代理 森島 守人殿

滿洲取引所善後策ニ関スル件

本件ニ関シ本年八月十二日附機密公第七一九号貴信ヲ以テ  
御報告ノ次第アリタル処本件滿洲取引所合併整理問題其ノ  
後ノ成行並右ニ対スル貴方措置振等御報告相成度シ尚右問  
題ニ關聯シ同取引所整理案認可ノ条件タル増資実現困難ナ  
ルニ於テハ本年二月一日附機密公第一二七号貴信御稟申ノ

機能ハ頗ル薄弱トナリ省財政ノ切抜ハ頗ル困難ヲ来スヘ  
シ

(二) 省政府ハ一般官吏ノ給与ヲ三割引シ又諸税ノ增收ヲ計リ  
居ル外金融整理公債二千万元ノ発行ヲ企テ既ニ国民政府  
ノ承認ヲ得タルハ既報ノ通ナル処地方民ノ反対熾烈ニシ  
テ其ノ成否モ疑ハレ居ル実情ニシテ省財政ニ与フル効果  
未定ナリ

(三)<sup>2)</sup> 官銀号ハ約四十億萬元内外ノ奉票ヲ発行シ居ル見込ナル  
ニ対シ其ノ外国銀行預金ハ約銀一千五百萬元ニシテ主ト  
シテ同銀号ノ上海方面トノ為替資金ニ使用シ居ル如クニ  
シテ未タ政費ニ流通シ居ル模様ナク官銀号ニ於テハ現大  
洋票発行高五百萬元其ノ準備銀三百五十萬元保証準備銀  
百五十萬元ヲ別ニ保有スト称スルモ其ノ内容明カナラス  
其ノ他中国交通兩銀行ノ現大洋票発行高ハ五百萬元ナル  
モ兩銀行ハ其ノ性質上多額ノ政府融通ヲ為ササルヘク其  
ノ間政府筋ト深キ關係アル辺業銀行カ最近着々現大洋票  
ヲ発行シ其ノ額約二千万元ト称セラレ居リ結局省政府ト  
シテハ官銀号及辺業銀行ノ両兌換券ノ増発ニ依リ軍政費  
ヲ支弁シ居ルニアラスヤト疑ハレ内外商民ノ非常ナル注

次第モアリ此際解散ノ方針ヲ以テ進ム方適當ナルヤニ思料  
セラルル処右ニ対スル貴見モ承知致度ニ付右併セテ御回報  
相成様致度シ

234 昭和4年12月21日 幣原外務大臣より  
在奉天森島總領事代理宛（電報）

林奉天總領事の上京目的の機密保持方訓令

付記 十二月奉天總領事起案

「滿洲ニ於ケル行政機關ノ統一ニ関スル件」

本省 12月21日後5時45分発

第一八八号

貴地方面ヨリ当地星野桂吾ニ対シ林總領事ハ目下滿洲四頭  
政治統一ノ為極東行政長官ヲ設ケ親任トシ奉天總領事ヲシ  
テ之ヲ兼ネシムル案ヲ提ケテ上京中ナル旨電報越セル趣聞  
込ノ次第アルニ付本件ニ関スル機密保持方此上共御注意相  
成度為念

（付記）

滿洲ニ於ケル行政機關ノ統一ニ関スル件

## 一、在滿行政機關統一ノ必要

東三省ニ於ケル日支兩國ノ關係ヲ見ルニ過去並ニ現在ニ於ケル政治的經濟的ノ關係支那本部ニ於ケルト大ニ異ルモノアルカ為表面具體的排日運動ニ出ツルコト少ナシト雖近年支那國民ノ自覺並ニ之ニ伴フ利權回收、不平等條約撤廢運動ノ益々盛ナルニ從ヒ此等ノ主張ハ漸次支那本部ヨリ東三省ニモ蔓延シ來リ支那一般官民ノ内心ニ於テ日本ノ優越ナル地位ト利權トニ對スル反感横溢シ居ルヲ認メサルヲ得ス此間ニ於テ我方出先陸軍、警察官及一般居留民ノ對支態度ヲ見ルニ支那ノ新風潮ニ考慮ヲ払フコト少ク今尚依然トシテ高圧的態度ヲ脱セス無用ニ支那官民ノ感触ヲ刺戟シ却テ之等ヲ馳リテ暗々裡ニ邦人ノ經濟的發展阻止ノ方途ニ出テシムルコト多ク徒ニ排日の風潮ヲ激發スルノ懸念少カラス。固ヨリ滿洲ニ於ケル我權益ハ諸外國ノ租借地等ノ如ク侵略的動機ニ依リ支那ヨリ搾取シタルモノニ非スシテ我國ノ自衛ノ為東洋ノ平和ノ為將又支那保全ノ為ニ露國ト干戈ヲ交ヘ多大ノ犠牲ヲ払ヒテ同國ヨリ繼承シタルモノナルヲ以テ所謂利權回收運動又ハ不平等條約廢棄運動等ノ目標トシテハ筋違ヒノ感ナ

推移ニ鑑ミ一日モ速ニ外政統一ノ為出先諸機關ノ統一ヲ實現シ日支共存共榮ヲ本義トスル帝國政府ノ公正ナル方針ヲ支那官民ニ徹底セシメ以テ利權回收運動ノ結果滿洲ニ於ケル我特殊ノ地位ニ関シテスラ累ヲ及ホス虞アル事態ヲ未然ニ防止スルコト緊要ナリト信ス

## 二、現行制度ノ缺陷

我カ在滿行政機關カ多種多樣ナルハ他ノ地方ニ例ヲ見サル所ニシテ關東州ニ對シテハ關東長官アリ關東州外滿鐵附屬地ハ租借地ニハ非ルモ事實上關東州ト殆ント同様ニ取扱ハルル結果附屬地ニ對シテハ關東長官ニ於テ警察其他ノ行政權ヲ行使スル而已ナラス鐵道線路警護ノ為必要アル時ハ關東軍司令官ニ對シ兵力ノ使用ヲ請求スル權利ヲ有ス。而シテ我カ滿洲發展ノ根幹ヲナセル南滿鐵道ニ對シテハ拓務大臣監督權ヲ有シ会社ハ附屬地ニ於テ土木、教育衛生、警備等ニ関スル一定範圍ノ行政ヲ行ヒ附屬地外及滿洲奧地ニ於ケル事項ハ帝國領事之ヲ管轄ス又在滿鮮人ニ對スル施設ハ保護取締ハ外務省ニ撫育助成ハ朝鮮總督府ニ分屬ス

滿洲ニ於ケル右ノ如キ複雑ナル行政機關ノ競合力帝國外

キニ非スト雖現在支那國民思潮ノ傾向ヨリ觀察スレハ今後對外硬運動ノ熾烈トナルニ從ヒ我滿洲ニ於ケル既得ノ權益ニ對シテモ利權回收運動ノ擡頭ヲ見對日態度日ヲ追フテ險惡ノ情態ニ立チ到ルヘキコト推察ニ難カラス。

右ノ如キ雰囲気ノ中ニ在シ我國トシテ執ルヘキ方針ヲ考察スルニ固ヨリ日支親善、共存共榮ヲ基調トシ彼我國ノ經濟的發展ヲ期スルコトヲ以テ根本ト為スヘク之カ為ニハ支那官民ノ反感ヲ融和シ兩國國民相互ノ理解ト親善トノ増進ニ努力スルヲ肝要トスル処之ヲ過去ノ歷史ニ徵スルニ滿洲ニ於ケル政府諸機關分立ノ結果外政ノ統一ニ缺陷アルニ止マラス國際關係事項ニ熟達セサル出先陸軍又ハ警察ノ思慮ナキ措置ヨリ動モスレハ帝國政府ノ方針ニ背反スルカ如キ結果ヲ招致シ帝國政府ノ公正ナル方針モ支那官民ニ徹底セサリシ憾少カラス歷代ノ政府ハ此点ニ鑑ミ出先諸機關ノ一致ヲ要望セルモ単ニ人ノ和ニヨリ各機關ノ協調ヲ計ルニ意ヲ用キタルニ止マリ制度其自体ニ存スル根本的ノ缺陷ヲ除去スルノ途ニ出テサリシ為日露戰爭後今日ニ至ル迄未タ在滿諸機關ノ完全ナル統一ヲ見ルニ至ラサル次第ナルカ今ヤ支那國民思想ノ急激ナル

政ノ統一ヲ妨ケ國策ノ一貫セル遂行ヲ阻止スルコト多キハ前述シタル所ニシテ現行制度ノ缺陷トシテ挙クヘキ諸点少カラス

(一) 支那人ノ國民的自覺高マリ利權回收熱熾烈ナラントスル時ニ當リ殊ニ益々世界列國ノ注意力滿蒙一帶ニ集中シ居ル現下ノ事態ニ於テ滿洲ニ於ケル帝國ノ行政執行ニ當リテハ支那並歐米ニ對スル外交關係ニ十分ナル考察ヲ用フヘキハ言ヲ俟タス然ルニ内政機關ト系統ヲ一ニシ動モスレハ國際外交關係ヲ輕視シ又ハ知悉セサルノ傾アル關東州ニ對シ關東州外ニ於ケル行政權ヲ賦与シ殊ニ州外行政ノ主要機關タル警察權ヲ關東長官ノ管理下ニ置クカ為ニ外交上必要ノ注意ヲ缺キ外交政策ノ統一ヲ害スルノ虞渺カラスシテ最近ニ於テモ之カ事例ニ乏シカラス最近ニ於ケル主ナルモノヲ列挙スレハ左ノ如シ

- (イ) 昨年六月四日張作霖座車爆炸事件發生ノ際當館ニ於テハ某方面画策ノ所為タルヘシト疑ハルル節一二アリシヲ以テ假令外部ニ對シテハ事件ノ内容ヲ秘密ニ附スルトスルモ事件ノ内容ヲ仔細ニ調査シ置ク

コト将来ニ於ケル外交並内政關係上緊要ナリト認めタルヲ以テ奉天警察並ニ領事館警察ニ嚴重ニ命令シ事實ノ探查ニ當ラシメタルモ警察官ノ活動充分ナルヲ得ス事件發生直後ニ完全ナル調査報告ヲナスヲ得サリシ次第ナルカ爾後警察側ノ内密ニ館員其他ニ漏ス処ニ依レハ事件發生直後ニ於テモ警察側ニ於テハ相当根拠アル証拠材料並ニ資料ヲ蒐集シ居リタルニ拘ラス領事館ニ対シ故ラニ之カ提示ヲ差控ヘタルコト疑ヒヲ容レス。

右ハ関東庁側ニ於テハ事件ノ背後ニ某方面アルモノト信シ某方面ト関東庁トノ紛争ヲ来スヘキコトヲ懸念シ事件ノ直後其ノ内容ニ立入ルコトヲ避クヘキ旨警察側ニ内命シアリタル結果ニ依ルモノニシテ若シカカル内命ナカリシニ於テハ事件直後ニ於テ其真相ヲ明カニスルヲ得政府トシテ対内対外両方面ニ亘リ一層有利ニ事件ノ処理ヲナシ得タリシコト推察ニ難カラス

(四) 前述列車爆破事件ノ直後本官ハ警察署長ニ対シ浪人連ノ陰謀計画ニ対シ嚴重取締ヲ勵行スヘキ旨ヲ命シ

記事掲載禁止ヲ解除シタリ、其結果本邦新聞紙上ニ諸種ノ報道ヲ見ルニ至レルハ勿論日本側新聞ノ記事ハ直ニ支那側新聞通信ニ反映シ支那側新聞紙上幾多ノ論議ヲ招キ延テ鉄道交渉ノ進捗ニ対シ少ナカラサル悪影響ヲ与ヘタリ。元来新聞掲載禁止ニ付テハ領事館ニ於テモ勿論之カ権限ヲ有スルモ邦字新聞通信ハ殆ント總テ領事館ノ管轄区域タル附属地ニ存在スル關係上新聞掲載禁止処分ヲ行フニ當リテハ其都度関東庁側ノ発令ニ俟タサルヲ得サル事態ナル処関東庁側ニ於テハ外交問題ニ関シ比較的利益ヲ感セサル為外交上ノ必要ニ基ク禁止処分ハ之ヲ輕視スルノ傾キアリ、右鉄道交渉ニ関スル新聞記事ノ解禁ノ如キ此点ニ起因スルモノト認めラル

(三) 本年夏対支武器輸入禁止協定廃止セラルルヤ当地方ニ於テハ之ヲ機會トシテ武器ノ密輸入ヲ企ツルモノアルヤノ聞込ミアリタルヲ以テ当館ニ於テハ嚴重ニカ取締ニ留意シ居タル処五月下旬当地方ニ於ケル利権家連カ支那側公安局ニ納付ノ名義ヲ以テ拳銃千七百三十挺彈丸二百万発ヲ当地ニ輸送セントノ計画ヲ

タルニ不拘関東庁並警察ノ態度前述(イ)ノ如クナリシヲ以テ警察ノ取締徹底セス遂ニ六月十日夜商埠地日本居留民會附近家屋ニ対スル爆彈投下事件發生シタルカ爾後諸般ノ情報ヲ綜合スルニ列車爆破事件直後警務局長ハ浪人連ノ取締ヨリ某方面關係ヲ摘發セムコトヲ懸念シ管下ノ警察署長ニ対シ浪人連取締ニ手加減ヲ用フヘキ旨内命シタルコト確實ニシテ警察側ニ於テハ事件直後爆彈投下者其ノ他ノ關係者ニ付住所姓名ニ至ル迄確實ナル資料ヲ有シ居タルニ不拘之ヲ当館ニ提出セサリシハ右局長ノ内命ニ基クモノト思料セラル

(イ) 昨年秋滿鉄ニ於テ支那側ト吉会線交渉ヲ開始スルヤ当館ニ於テハ新聞通信等ニ依リ諸種ノ揣摩憶測ニ基ク記事、交渉ノ内容ニ立入リタル記事報道流布セララルニ於テハ交渉ノ進捗ニ対シ不利ナル影響アルヘキヲ考慮シ滿鉄側當事者トモ協議ノ上関東庁ニ依頼シ管下新聞ニ対シ鉄道交渉ニ関スル新聞記事掲載禁止ノ措置ニ出テタルニ十月ニ入ルヤ関東庁ハ滿鉄ニモ領事館ニモ事前何等打合ス処ナク独断ニテ右新聞

以テ関東庁沒收ノ武器払下方運動ノ結果同庁側ノ諒解ヲ得近ク奉天ヘ運搬ノ手筈整ヒ居ル旨民間側ヨリ内報アリタルヲ以テ警察其他關係方面ニ付嚴重調査シタル結果右計画ハ関東庁警務局カ木下長官ノ同郷ノ友人タル前々代議士津末某ノ為ニ同人カ支那側公安局下級官吏ヨリ約一万元ノ賄賂ヲ以テ取得セル偽護照ヲ引当ニ関東庁ノ沒收武器拳銃千七百三十挺彈丸二百万発ヲ安価ニ払下ケ津末某ニ於テ当地方民間各方面ニ分割売却スルモノナルコト明トナリタルヲ以テ当館ヨリ関東庁側ニ嚴重交渉ノ結果本件払下契約ヲ解除セシメタリ

当館ニ於テ関東庁ト折衝ノ結果明白ニセル処ニ依レハ本件ハ同庁ノ首腦者並ニ奉天警察署長カ内密ニ計画シタル処ニシテ元来支那側發給ノ護照ニ付テハ其正否ヲ明白ニスルカ為ニ領事館ノ認証ヲ得ルコト從來ヨリノ慣例ニシテ武器ノ輸入等ニ関シテハ常ニ関東庁外事課ヲ經由シ關係領事館ニ協議スルコトナリ居レルニ不拘本件ニ関シテハ事項ノ性質上全然從來ノ慣例ヲ破リ領事館ハ素ヨリ外事課ニ対シテモ全



然事件ヲ秘シ奉天警察署使用品トシテ奉天警察署ニ運搬ノ上津末某ニ交附スルノ計画ナリシコト判明セリ  
右ノ如キハ全ク領事館カ武器ノ汽車輸送並ニ附屬地ノ警察行政ニ付直接ノ權限ヲ有シ居ラサル結果ニ基クモノトス

(イ) 本年二月張宗昌山東乗出ノ報アルヤ帝國政府ハ其伝統の方針タル嚴正中立ノ政策ニ基キ出先各機關ニ對シ右ノ旨ヲ訓令スルトトモニ關東庁ニ對シテハ特ニ關東州ヲシテ支那政客ノ政治的策動ノ根拠地タラシメサル様厳格ナル訓令ヲ与ヘタルニモ拘ラス  
右政府ノ方針ハ必シモ關東庁側ニ徹底シ居ラサリシカ如ク長官上京不在中關東庁ハ張宗昌ノ乘リ出ラ公々然默認シタルニ止マラス其ノ後張宗昌側ノ軍需品ヲ積載セル本邦船舶大連ヲ出帆セントスルニ當リテハ之レヲ阻止シ得ヘキ充分ノ時日アリタルニモ不拘公然之カ出帆ヲ許可シタル事アリタルカ右關東庁側ノ措置ハ内外各方面ニ對シ帝國政府ノ立場ニ多大ノ疑念ト不信トヲ与フルノ結果ヲ招致セリ

ニ對シテハ法規上疑問ノ餘地アルモ從來ノ慣例ニ依ル(領事館側ノ処分ト同時ニ關東庁側ニ於テ關東州在留禁止処分ヲ行フニ非レハ在留禁止処分モ實際上効力ヲ有スルコトナシ然ルニ此点ニ關スル領事館並ニ關東庁ノ關係ヲ見ルニ領事館トシテハ在留禁止処分ト同時ニ關東庁ニ對シ關東州在留禁止処分ノ実行ヲ要求シ得ルニ止マリ關東庁側ニ於テハ領事館ノ要求ニ對シテハ可成之ニ応スヘキコトニ取極メラレ居ルニ止マリ領事館ノ要求ニ応スヘキ義務ナキ実情ニシテ而モ關東庁側ニ於テハ從來關東州並ニ附屬地ノ行政ヲ以テ内地行政ノ延長ト見做スノ傾多ク外交上ノ利害得失ヲ考慮スルコト比較的少ナキ結果在留禁止処分ニ關シテモ主トシテ内政的見地ニ基キ人權蹂躪ノ非議ヲ招クノ虞アル点ニ鑑ミ從來共過去処分ノ發令ニ躊躇スルノミナラス浪人ノ取締ニ就テモ領事館ノ如ク其必要ヲ痛感スルコト少ナク從テ領事館側トシテハ平素ヨリ浪人ノ取締ニ就キ警察ヲ嚴重督励中ナルニモ不拘警察官ノ身分關係カ關東庁ニ所屬スル關係等ヨリ警察ニ對シ十分ナル活動ヲ期待シ得サ

(イ) 本年二月張宗昌關係本邦浪人等ノ奉天城内爆破計画アルヤ奉天警察署長(兼領事館警察署長)ハ之カ情報ニ接シ居タルニモ不拘前述張宗昌ニ對スル關東庁ノ遣口ヲ考慮シタル為ナルニヤ之カ取締檢挙等ニ關シテハ豫メ關東庁側ノ意向ヲ伺フノ必要アリトシ領事館ニ對シ何等通報スルコトナク他用ニ藉口シ旅順ニ赴キタリ幸ニ領事館ニ於テモ民間ヨリ右情報ヲ入手シタルヲ以テ署長不在中ニ關係者一味ヲ檢挙シ本件計画ヲ防止スルヲ得タルモ右民間側ヨリノ情報ナカリセハ出先機關ニ於テ右計画進捗ノ事實ヲ知リ乍ラ之レヲ防止スルヲ得ス外交上憂慮スヘキ結果ヲ招致シタルヘキコト推察ニ難カラス

(ロ) 滿洲一帯ニ亘リ時局動搖ノ際本邦浪人ノ策動甚タシク為メニ帝國政府ノ方針ニ累ヲ及ホスコト多キハ(ロ)ノ事例ニ依リ明白ニシテ之等浪人取締ノ為ニハ内地ニ於テ彼等ノ渡支ヲ豫メ阻止スル方法ナキ以上在留禁止処分ヲ断行スルノ外取締ノ便法ナシ然ルニ領事館ノ命令ニ依ル在留禁止ハ關東州並ニ浪人連策動ノ主タル根拠地タル附屬地ニ對シ効力ナキ為(附屬地

ルカ如キ実情ニアリ

(イ) 滿鉄ニ依ル支那ノ軍隊武器及軍需品ノ輸送ハ以前外務大臣ノ許可ヲ要スル規定ナリシモ大正十三年伊集院長官時代ニ一々外務大臣ニ請訓スルノ煩ヲ避クルノ意味ヲ以テ關東長官ノ許可ヲ求ムルコトニ改正シ實際上ノ取扱トシテハ便宜上重要ナル關係アル場合ヲ除キ殆ント總テ州外事務官限リノ取扱ニヨリ之レヲ許可シ来リシ処本年七月中旬關東長官ハ豫メ何等外務省側ノ意見ヲ徵スルコトナク從來ノ取扱内規ヲ改正シ武装シタル軍隊ノ輸送並ニ附屬地通過ハ例ヘ一人ノ場合ニ於テモ一々關東長官ノ許可ヲ求ムヘキコトニ改正セリ右改正ハ主トシテ附屬地ノ秩序維持ヲ念トシタルモノナルヘキモ對支關係上ヨリ見ルニ無用ノ煩雜ト不便トヲ来シ而モ現地ノ実情ニ照シ適用不可能ナル條項多キ為關東庁ニ於テハ當館ノ注意ニ基キ關係方面ニ對シ非公式ニ通牒ヲ發シ本件規則ノ根本的改正實現迄新規内訓ノ適用ヲ見合セ居ル次第ナリ今夏露支時局逼迫ノ折帝國政府ハ事態未タ戰爭狀態ニアルモノト認ムルヲ得サルヲ以テ支那軍隊

ノ滿鉄輸送ハ従前ノ通り取計ヒ然ルヘキ旨訓令セラレタルニ不拘長春ニ於テハ右長官内訓ノ結果支那兵ノ附屬地通過ヲ全然阻止シ支那側ニ對シ日本カ露西亞ヲ援助スルモノナリトノ印象ヲ与ヘタリ

右ノ如キハ全然外交上ノ考慮ヲ用ヒス内地延長ノ觀念ノ下ニ附屬地行政ヲ行ヒ居ル適例ト云フヲ得ヘシ  
(7) 關東庁警察官ハ純然タル内地式教育ヲ受ケ素ヨリ實際的訓練不充分ナルカ故ニ複雑ナル国交ノ關係又ハ諸國民ノ習性等ニ對スル考慮ヲ之ニ期待スルヲ得ス近年附屬地ノ發展ニ伴ヒ支那人増加ノ傾向ニアル処關東庁警察官ノ支那人ニ對スル態度ハ徒ニ高圧のニシテ日支国交ニ對スル影響如何ヲ考慮スルコト少キ為支那人中我警察官ノ取締リニ對シ不平不滿ヲ抱クモノ尠ナカラス延テ日支両國民間ノ感情ノ疎隔ヲ誘致スルコト少シトセス

(二) 滿鉄附屬地ニ於テハ滿鉄会社カ一定範圍ノ行政權ヲ行使シ關東長官之レヲ監督シ居ル処元來附屬地ハ純然タル帝國ノ領土ニ非サルノミナラス其ノ内部ニハ多數ノ支那人及外国人居住シ居リ右地域内ニ於ケル行政權ノ

キモノト云フヘシ

(四) 在滿行政機關ニ關スル現行制度ノ根本的缺陷ノ一ハ内政機關ノ系統ニ屬スル關東庁カ州外行政權ヲ有シ州外警察官カ關東長官ノ下ニ屬スル事ニシテ他ハ奉天總領事ノ地位權限カ關東長官ニ比シテ劣レル事はナリ關東長官ハ附屬地行政監督權ノ外鐵道線路ノ警備ニ關シ出兵請求權ヲ有スルカ故ニ東三省官憲ニ對スル關係ニ於テハ奉天總領事ニ比シ遙カニ重要ナル地位ニ在リ而シテ外務大臣ハ之ニ對シ單ニ涉外事項ニ關シテノミ監督權ヲ有スルニ止マルカ故ニ時局重大ノ際ニ於ケル關東長官ノ措置言行ハ往々ニシテ東三省當局ヲシテ帝國對支政策ノ不統一ヲ感知セシメ延テ我カ對支政策ノ遂行上ニ不利ヲ致セルノ弊アリ尙支那側ノ駐在領事官ニ對スル觀念ハ其ノ内政的地位如何ニヨリ左右セラルル事多ク例ヘハ奉天總領事ト關東長官又ハ軍司令官ノ内政上ノ輕重ハ直ニ支那側ニ反響シ其結果總領事ノ對支交涉ニモ影響スル処アルヲ免レス又右ニ關聯シ附屬地ノ行政カ對支外交機關タル奉天總領事ノ管轄ニ屬スルト旅大租借地行政長官ノ下ニ於テ全然租借地ノ延長タル

行使ハ涉外事項ニ關係多キヲ以テ之レカ施行ニ當リテハ内地行政ノ觀念以外對外的關係ヲ考慮スルノ必要アルニ不拘外交機關ニ非サル滿鉄並關東庁ニ於テハ此点ニ對シ十分ノ考慮ヲ用フルコト少キカ如ク各地租界内ニ於テハ諸般ノ規則(自動車取締規則、公費賦課ノ方法等)ニ付キテハ之カ周知ノ方法ヲ採リ居ルニ不拘滿鉄附屬地ニ於テハ日本人ヲ標準トスルカ為全然此事ナク為ニ涉外事項ニ支障ヲ來スコト尠カラス

(三) 關東庁ノ滿鉄附屬地ニ對スル行政ハ所謂内地延長主義ニシテ附屬地ノ施設ヲ内地ト同様ナラシムルコトヲ理想トスルモノナルヲ以テ例ヘハ産業、金融其他各般ノ事項ニ付附屬地内邦人ノ保護ニ力ヲ注ギ居レル処附屬地外ノ邦人ニ對シテハ其ノ地域カ經濟上、社会生活上附屬地ト區別スヘキ理由ナキ場合ニ於テ何等右様ノ施設ヲ行フコトナキカ故ニ自然邦人ヲシテ附屬地ニ膠着セシメ其ノ結果附屬地外滿洲内地ニ對スル邦人ノ發展ヲ阻害スルニ至レリ斯ノ如キハ滿洲ニ於ケル邦人ノ經濟的發展カ附屬地ノ内外ハ素ヨリ奧地及北滿ニ及フヘキ事ヲ基調トスル我カ對滿政策ノ理想ニ遠カル事甚シ

觀アルトハ支那官民ニ与フル心理的効果ニ於テ著シキ差異アリ、將來國權回復熱ノ旺盛ナラントスルニ當リ右モ亦考慮ニ入ルルノ価値アリト思考セラル

(四) 此ノ外附屬地ノ警察權カ關東庁ニ歸屬シ一方司法權ハ領事官之ヲ管掌シ居レル關係上司法警察權ト行政警察權トノ區別困難ナル為兩者ノ間積極消極ノ權限爭ヒヲ生シ又奧地ニハ純然タル外務省警察官ト同時ニ關東庁警察官ヲ配置シ居レル場合アリ之カ統轄ニ不便尠カラス

(六) 在滿鮮人ニ關シテハ支那側ニ對スル複雑ナル關係ヲ機宜ニ處理スルヲ要スル外他方移住鮮人ノ生活ノ安定ヲ得セシムルカ為撫育助長並保護取締ノ施設ヲ併セテ行フコト肝要ナリ、而シテ實際的問題トシテハ撫育助長ト保護取締トハ之ヲ截然區別シテ處理スルコト困難ナルニ不拘從來外務省ハ單ニ在外鮮人ノ保護取締ニ從事スルニ止リ之カ撫育助長ハ専ラ朝鮮總督府ノ管掌ニ屬シ從テ之カ豫算モ總督府豫算ニ計上セラレ居ル次第ナルカ現在ノ如ク撫育助長ト雖領事館ニ於テ實際上管掌シ居ル狀態ニ於テハ寧ロ外務省及朝鮮總督府ノ對立ヲ

廃止シ之ヲ外務省ニ統一シ事務ノ渋滞、失費ノ増加ヲ除キ對鮮人政策ノ一貫セル遂行ヲ期スル事ヲ要ス

三、現行制度改正案

以上ニヨリ大体滿洲ニ於ケル行政機關分立ニ由來スル弊害並現行制度ノ缺陷ヲ明カニシタル処之カ是正ノ根本的方策ハ(一)關東長官及奉天總領事ノ地位職權ニ關スル改正並(二)關東州外警察官ノ外務省移管ニ在リテ此趣旨ニ基キ現行制度ハ之ヲ左ノ如ク改正スルヲ必要トス

第一、關東庁及南滿洲鐵道株式會社ト外務省トノ關係

(一)關東長官ノ權限ヲ關東州内ノ管轄ニ限定スルコト

關東長官ハ涉外事項ニ關シテハ現状ノ如ク外務大臣ノ指揮監督ノ下ニ置クコト

(二)關東長官ノ有スル權限中ヨリ關東州外鐵道線路及鐵道附屬地ノ警務上ノ取締權、南滿洲鐵道株式會社ノ業務(鐵道業務及附屬地ノ行政ヲ含ム)ノ監督權及鐵道線路警備ノ為ノ出兵權ハ之ヲ奉天總領事ニ移スコト

(三)奉天總領事ノ職務中南滿洲鐵道株式會社ノ業務ノ監督ニ就テハ拓務事項ニ關シテハ拓務大臣、鐵道事項

ニ關シテハ鐵道大臣ノ指揮監督ヲ受ク

(四)關東庁ノ組織ハ之ヲ適當ニ縮少シ長官ハ勅任官ヲ以テ之ニ當ツルコト

(五)附屬地内ニ於ケル警務並附屬地内ニ於テ滿鉄ノ行フ土木、衛生、教育ニ關スル行政ハ奉天總領事統轄ノ下ニ沿線各領事官ヲシテ之ヲ監督セシムルコト

(六)特定事項ニ付テハ奉天總領事ヲシテ南北滿洲駐在ノ各領事ヲ指揮監督スルヲ得セシムルコト

(七)奉天總領事館ニ涉外、警察、内務、司法、産業及鮮人關係各事務ヲ主管スヘキ奏任ノ領事ヲ置キ其ノ上ニ事務總長ノ職ヲ設ケ勅任ノ外交官又ハ領事官ヲ以テ之ニ充テ奉天總領事ヲ補佐セシムルコト

(八)關東州及附屬地ノ郵便電信事務ハ通信省ニ之ヲ移管スルコト

(九)關東庁高等法院及地方法院ハ之ヲ司法省ニ移管スルコト

## 第二、朝鮮總督府ト外務省トノ關係

(一)在滿鮮人ニ對スル施設ハ外務省ニ於テ之ヲ主管スルコト

(二)朝鮮總督府歳出臨時部ノ對在滿鮮人施設費ヲ外務省ニ移管ノ上之ヲ外務省在外鮮人保護取締費ト合併スルコト

(三)教育衛生其ノ他鮮人關係ノ特殊技術者ノ養成及採用ニ付テハ朝鮮總督府ト連絡ヲ取り特別任用ノ途ヲ開クコト

(四)之レカ為外務省ニ必要ナル機關ヲ設クルコト

235 昭和4年12月23日 中谷關東庁警務局長心得より  
吉田外務次官宛

鐵嶺における中国側の邦商への銷場税支払い  
要請に対する日本側の対応について

關機高収第三五九八三号ノ二

昭和四年十二月二十三日

關東庁警務局長心得

外務次官殿

鐵嶺ニ於ケル銷場税徴収問題

鐵嶺税捐局長楊冠生ハ遼寧省政府财政厅ノ訓令ニ依リ邦商ノ支那街ニ搬入スル貨物ニ對シ奉天同様邦商ヨリ直接銷場

税ヲ納入セシメントスル意嚮アリ豫テ種々画策中ナリシカ

本月十二日同城内居住各邦人ニ對シ自今城内搬入ノ貨物ニ就テハ取引相手方タル支商ノ代払ノ意味ニ於テ從價四分ノ銷場税ヲ直接納入セラレ度シト懇請シタル模様ニシテ東洋綿花出張所ノ如キハ支那街ニ倉庫ヲ有シ(他ハ悉ク附屬地ニ倉庫ヲ有ス)他ノ一般邦商ト其ノ趣ヲ異ニスル關係上入

荷品全部ニ付前記ノ銷場税ヲ納入セラレ度シト申込ミ來リタル為東洋綿花ハ右ノ如キ要求ハ條約上何等根拠ナク之ニ服スルノ義務ナキコト勿論ニシテ仮ニ其ノ要求ヲ認容ストスルモ入荷品ノ全部カ支那街ニ売捌カル可キモノニアラス同地附屬地或ハ沿線各地ニ輸送スルモノ多數アルニ不拘入荷品ノ全部ニ銷場税ヲ課スルカ如キハ甚タ不当ナリ仮ニ又全部之ヲ支那街ニ売捌クモノト仮定スルモ何時取引セラルルヤ不定ナル多數ノ商品ニ對シ入荷ト同時ニ全部税金ノ代払ヲナスコトハ金利上ヨリ到底堪ヘ難キ処ナルヲ以テ右ノ事情ヲ説明シ体ヨク之ヲ拒絶シタルニ楊税局長ハ更ニ次ノ四項即チ

一、入荷ノ際税捐局ニ通告スルコト

二、倉庫内ノ貨物ヲ附屬地ニ搬出スル際ニハ税局ヨリ証明

書ヲ発給スルコト

三、城内方面ニ売却ク際ハ其ノ都度報告スルコト

四、税局員ヲ派シ税局ノ帳簿ト倉庫内ノ現品ヲ対照シ現品不足ノ際ハ脱税ト見做シ課税スルコト

ヲ容認セラレ度シト要求シタルカ按スルニ右ハ脱税防止ヲ主眼トスル要求ナルコト勿論ナルヘキモ邦商ノ倉庫ヲ臨検セントスルカ如キハ全ク邦商ヲ侮辱セルモノト謂フ可ク東洋棉花ノ如キ固ヨリ斯ル不法ノ要求ヲ容認スル筈ナク其ノ倉庫ヲ附屬地ニ在ルモノト同様ニ見做シ他ノ城内居住邦商同様ニ改ムルニ於テハ当方ニ於テモ尚協商ノ餘地ナキニアラスト主張セルモ遂ニ折合ヲ見ル能ハサリシ模様ナリ尚右ニ関シ一般邦商ノ意嚮ハ支那街搬入ノ貨物ニ対シ邦商ヨリ納税スルハ条約上何等根拠ナキ処ナルモ支商ノ代払ノ意味ニ於テ之ヲ認容スルコト實質的ニ何等痛痒アルニ非ス飽クマテ条約ヲ盾ニ其ノ要求ヲ拒絶スルニ於テハ此後種々ナル事由ノ下ニ迫害ヲ蒙ルコト必然ニシテ対支貿易ノ円滑ヲ害シ遂ニハ邦商活動ノ餘地ナキニ至ル可ク之決シテ策ノ得タルモノニ非ストナシ其後更ニ邦商一同ハ税捐局長ト会见商議セル模様ナルモ解決スルニ至ラス特ニ東洋棉花ニ於テハ

此後更ニ折衝ヲ重ナル筈ナルモ結局東洋棉花モ倉庫ノ附屬地移転ヲ為シ奉天ノ実例ニ鑑ミ条約ヲ離レ情誼的ニ之ヲ容認セントスル意嚮アリト謂フ

以上

236 昭和4年12月27日

在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛

満洲取引所整理問題に關しては解散の方向で

対処すべき旨意見具申

機密公第一〇八三号

(昭和5年1月8日接受)

昭和四年十二月二十七日

在奉天

總領事代理 森島 守人〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

満洲取引所善後策ニ関スル件

本件ニ関シ本月十二日附通二機密第二六四号貴信御訓達ノ趣敬承委曲別紙ニ付御了知相成度

(別紙)

満洲取引所ノ現況並善後策(四、一二、一七現在)

一、資産状態

二、営業状態

三、増資問題經過大要

四、善後策

一、資産状態 別紙諸勘定明細表ニ示スカ如ク会社純資産

ト目シ得ヘキハ地所及建物十一万七千円(時価七、八万

円?)及有価証券一万六千七百餘円(営業保証金代用証

券額面二万円ノ時価見積)計十三万三千七百餘円ナルモ

新会社トノ合併不能ノ際ハ同社ヨリノ仮受金五万一千餘

円ノ返還ヲ要スル外缺算金四万餘円アルヲ以テ差引四万

二千七百餘円(土地建物時価見積額ニ引直シ合計一万円

内外)ヲ餘スノミニシテ整理勘定ハ過去一ケ年間に於テ

二割強ノ回収ヲ見タルモ内切捨取立アリ良好ノ回収成績

ト称スヘカラス全額回収迄ニハ尚ホ相当ノ年月ヲ要スヘ

キノミナラス次項ニ述フルカ如ク営業状態ノ不況ヨリ推

シ資産状態益不良トナルヘキハ見易キ処トス

二、営業状態 全ク休業状態ナルコト次表ノ示ス処ノ如シ

(一)証券部(出来高及収入手数料)

自昭和三年十二月 出来高二三、六四〇株

至昭和四年五月 売買手数料二九二円五六

自昭和四年六月 出来高一七、五二〇株

至昭和四年十一月 売買手数料二一円七六

(二)米穀部、新ニ正米市場ヲ設置スルノ計画進捗中ニテ在来ノ期米市場ハ一時休止中ノ為出来高ナシ

尚新会社トノ合併即行ヲ豫断シ本年六月以降囑託及事務員三名ノ増員ヲナセシ為人件費ノ増加ヲ来シ収入月額約四百円(家賃収入ヲ主トス)ニ対シ支出約二千円ヲ要スル現状ナリ

三、増資問題經過大要 曩ニ東京ニ於テ設立サレタル資本

金百万円(払込二十五万円)ノ満洲商品商券株式会社ト

ノ合併ハ当会社ノ資本金ヲ五十万円(払込二十五万円)

ニ減資シタル後前記ノ会社ニ合併スル豫定ノ下ニ両者間

ニ於テ商議中新会社側ヨリ同社株式ニ対シ年八分ノ利益

配当優先権附与ノ条件ヲ提示シ当会社ハ事情止ムヲ得ス

之ニ承認ヲ締結シ去ル七月三十日臨時株主總會ヲ開催株

主ニ諮リタル処異論出テタル為之ヲ繼續会ニ移スコトト

ナリ翌八月十四日及同三十日ノ繼續会ニ於テハ当会社株

主ノ不利益ヲ考慮シ前記優先配当率ノ低減方並延増資

一、露国ノ政治及經濟組織ハ他国ニ比シ特殊ナルト隣邦露国ノ事態ハ必然的ニ我國ニ影響ヲ及ホスヘキトニ鑑ミ同国諸般ノ情報殊ニ政治、財政、經濟ニ関スル情報ハ申ス迄モナキトナカラ成ル可ク詳細頻繁且系統的ニ報告セラルル様致度殊ニ第三「インターナショナル」ノ諸外国ニ対スル策動並此等諸国ノ対策ニ付テハ貴任国駐劄ノ使臣トモ連絡ヲ執リ終始觀察報告セラレ度露国共產大学等ニ於テ教育ヲ受ケツツアル本邦人ノ状況ニ付テモ注意ヲ加ヘラルル様致度シ將又露国ノ支那ニ対スル政策施設ニ付テハ不断ノ注意ヲ払ヒ殊ニ支那側ノ東支鉄道回収運動ニ対スル露国政府ノ態度ニ付テハ十分注意ヲ加ヘ隨時

237

昭和4年5月31日

田中外務大臣より  
在ソ連田中(都吉)大使宛

当面の対ソ政策上注意すべき諸点について

本省 5月31日 発

(編註)  
号

### 三 中ソ紛争と不戦条約関係

(当会社ノ現在資本百万円払込二十五万円ヲ其儘トシ新会社ヲ合併スルノ意)ノ要望アリタルモ斯克テハ当初資本増減ノ総領事館ノ命令条項ニ抵触スルコトナルヲ以テ当会社ノ資本ハ現在ノ儘トシ新会社ヲ資本金五十万円払込十二万五千円ニ減資シ利益配当優先権附与ノ件ハ年八分ヲ四分トシ若シ新会社ノ承認ヲ得難キ場合ハ年五分トシ其ノ決定ハ重役ニ一任スルコトニ決議セリ然ルニ新会社ニ於テハ容易ニ当会社ノ要求ヲ容レヌ両者間種々折衝今日ニ至レルモノナル処当会社理事者ノ申出ニ依レハ増減問題モ餘リニ延引セルヲ以テ株主ノ利益保全上一日モ速ニ前記交渉ノ進捗ヲ期スル為昨年一月初旬当会社ヨリ理事者ヲ東京ニ派シ協議セシムルコトセルモ若シ不幸ニシテ交渉纏マラサル場合ハ止ムヲ得ス解散等適當ノ措置ニ出ツヘキ趣ナリ

四、善後策 当会社ノ善後措置ニ関シテハ本年二月已ニ方針ヲ決定シタル処ナルモ其後当会社所期ノ目的達成モ相当ノ目安立チ次テ当会社ニ合併セラルヘキ新会社モ設立ヲ見引続キ両社ノ合併協議ニ入りタル等ノ事実ニ顧ミ当会社ノ目的達成ヲ期待シ今日ニ至レルモノナル処最近ノ情勢ヨリ推セハ前記ノ事実ハ寧ロ逆行ノ状況ニアルカ如ク看取セラルルニ至レリ

事情叙上ノ如ク此儘会社ヲ存続セシムルハ株主ノ利益ヲ益減殺シ会社自体モ之ヲ維持スヘカラサル状態ニ陥ルヘキヲ以テ前記会社理事者ノ申出ノ通少ク共明年一月下旬迄ニ任意解散ヲ実行セサルニ於テハ当館トシテハ会社資産ノ減少並營業ノ不能ヲ理由トシ營業許可ノ取消ヲナス所存ナリ(以上)

(付箋二)

報告セラレ度シ

二、通商条約ノ締結ハ露国側ニ於テ最モ希望スル所ナラムモ日露間漁業問題ノ懸案解決セズ且共產党事件ノ始末モ未ダ終結セサル今日トシテハ之ガ締結ノ具体的商議ヲ開始スルハ時機適當ナラズト認メララルニ付若シ先方ニ於テ強イテ希望スル場合ニハ先ツ我方トシテハ条約問題ノ具体的商議ニ先チ日露間通商関係ノ増進ヲ計ル趣旨ニ於テ例ヘハ本邦ノ対「ソ」貿易ノ片貿易ナルノ弊ヲ矯正スル為本邦ノ對露輸出商品ニ対スル一定量ノ購売最小限度ヲ設定スルコト及購売方法ノ簡易化其ノ他ノ方法ヲ講スルコトニ関シ通商条約締結ノ下準備トシテ露国側ノ意嚮ヲ問糾シ意見ノ交換ヲ行ハレ差支ナシ

三、露国ノ赤化宣伝ニ付テハ政府ニ於テ夙ニ注意ヲ加ヘ来リタル所ナルカ殊ニ日本共產党事件ト露国トノ関係如何ニ付テハ深甚ノ関心ヲ以テ該事件審理ノ成行ヲ注視シツツアリ該事件ハ目下尚豫審中ニ属シ確定的報告ニハ接シ